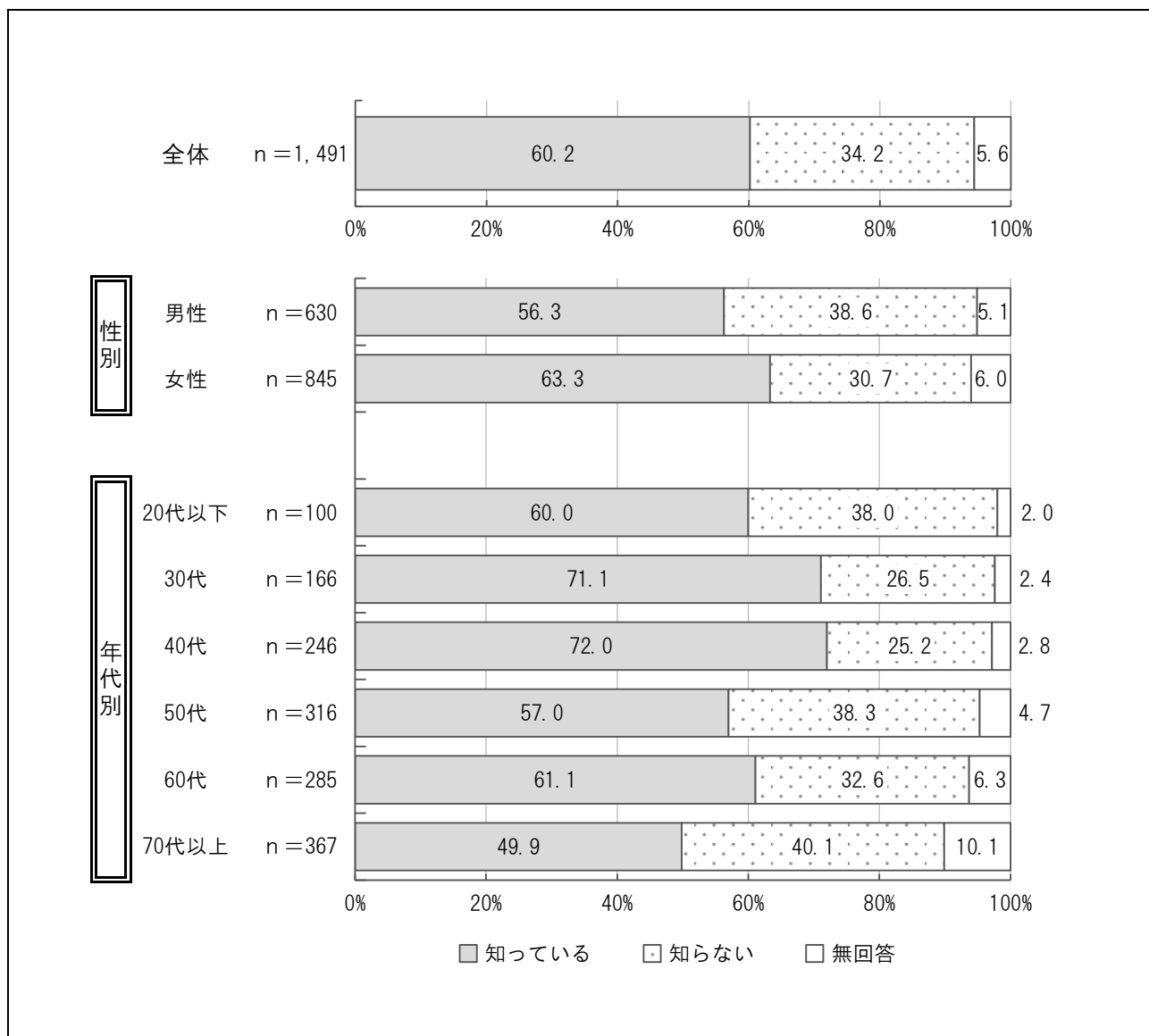


## (1) ブランドメッセージの認知度

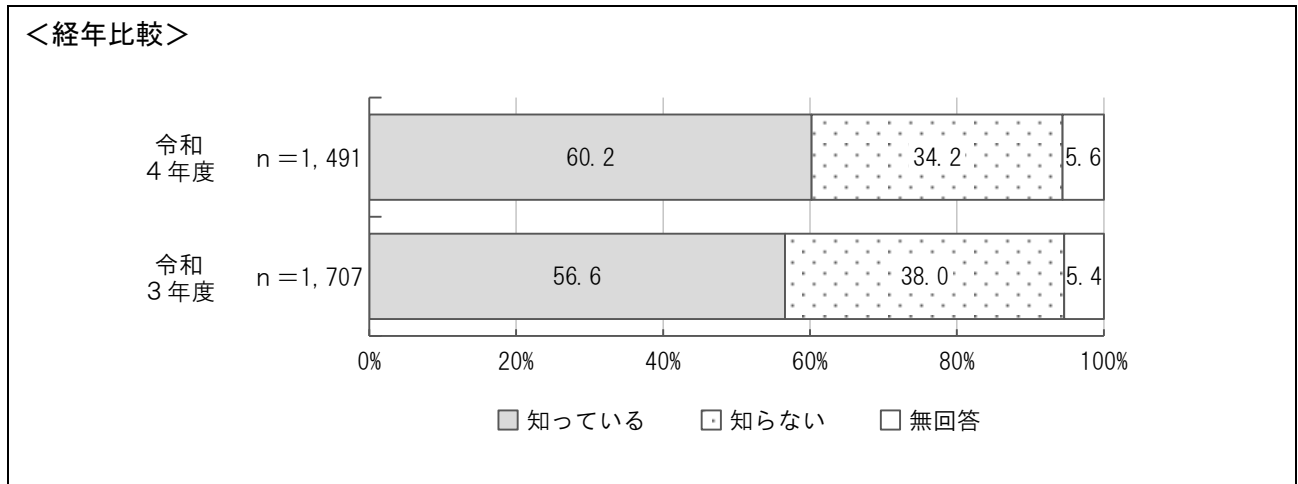
問1 富士市ブランドメッセージ「いただきへの、はじまり 富士市」を知っていますか。



富士市ブランドメッセージの認知度は、「知っている」が60.2%、「知らない」が34.2%となっている。

性別で見ると、男性において「知らない」が38.6%と女性より多くなっている。

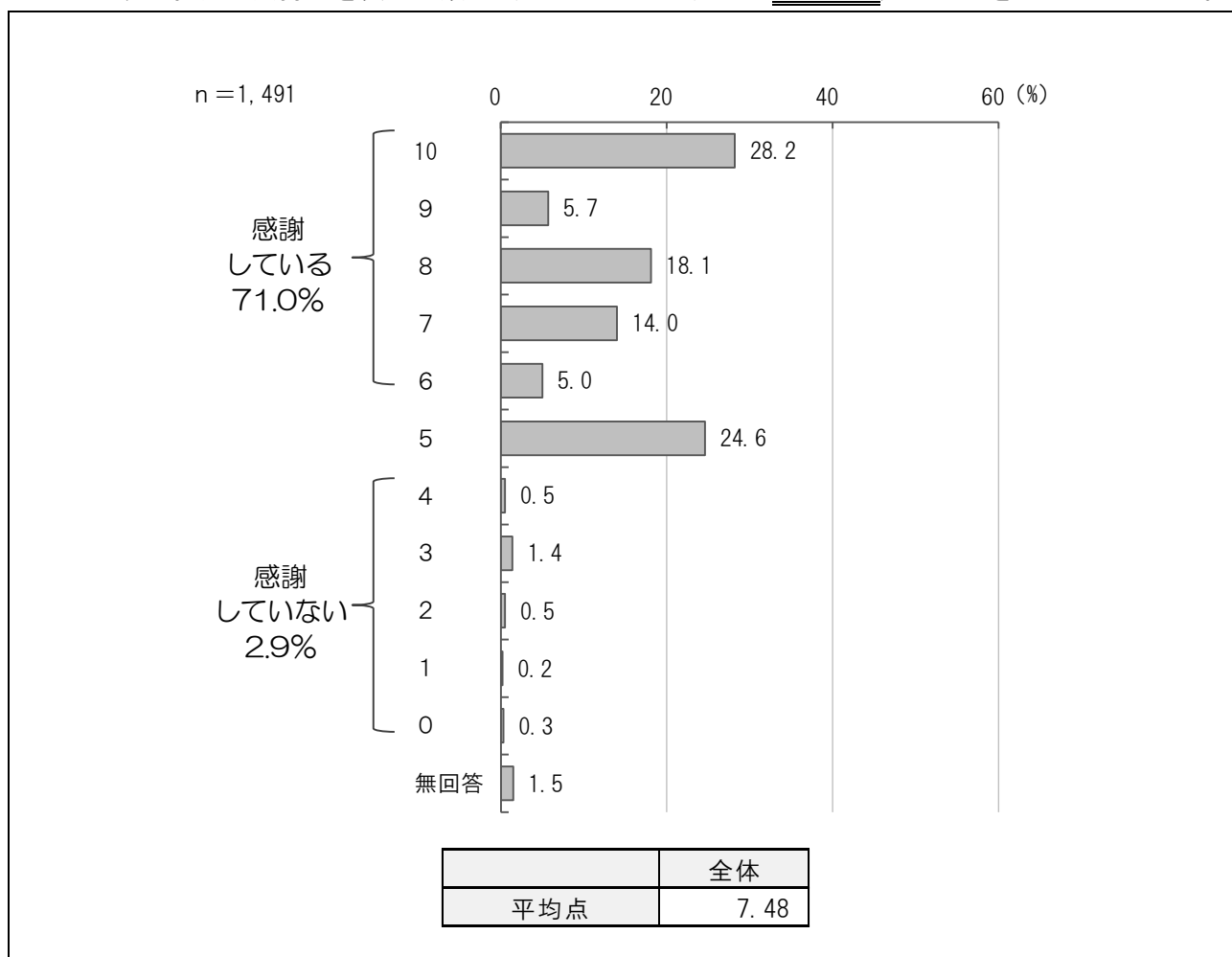
年代別では、30代と40代において「知っている」が多く、7割を超えている。70代以上においては「知っている」が49.9%とほかの年代と比べて少なくなっている。



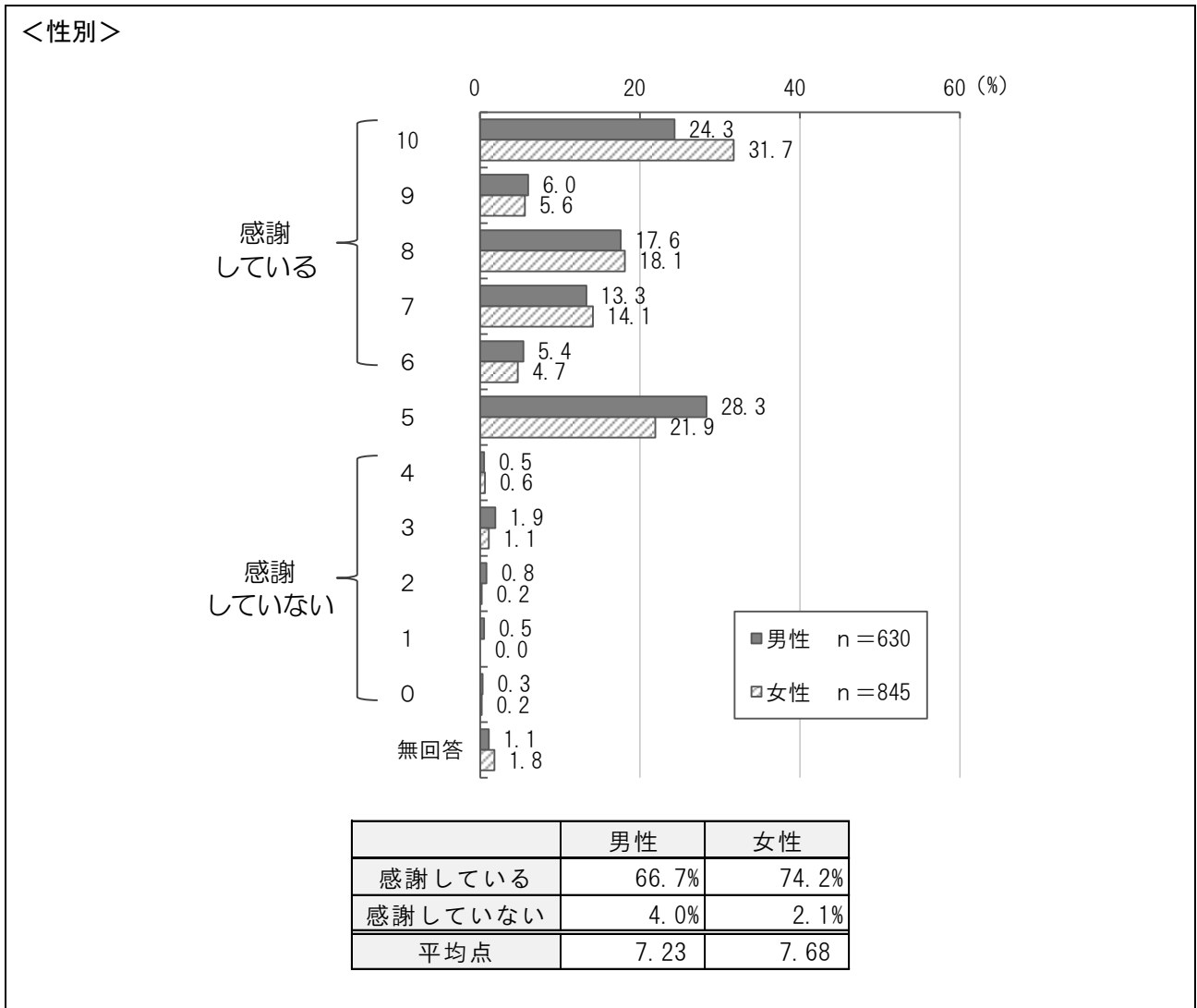
令和3年度の調査結果と比較すると、「知っている」が3.6ポイント増加し、「知らない」が3.8ポイント減少した。

## (2) 地域のために活動している人への感謝度 (10点評価)

問2 あなたは、地域(まち)のために活動している人に対し、どの程度の気持ちで感謝していますか。次の気持ちを表した数字(10から0まで)から1つだけ選んで○をつけてください。



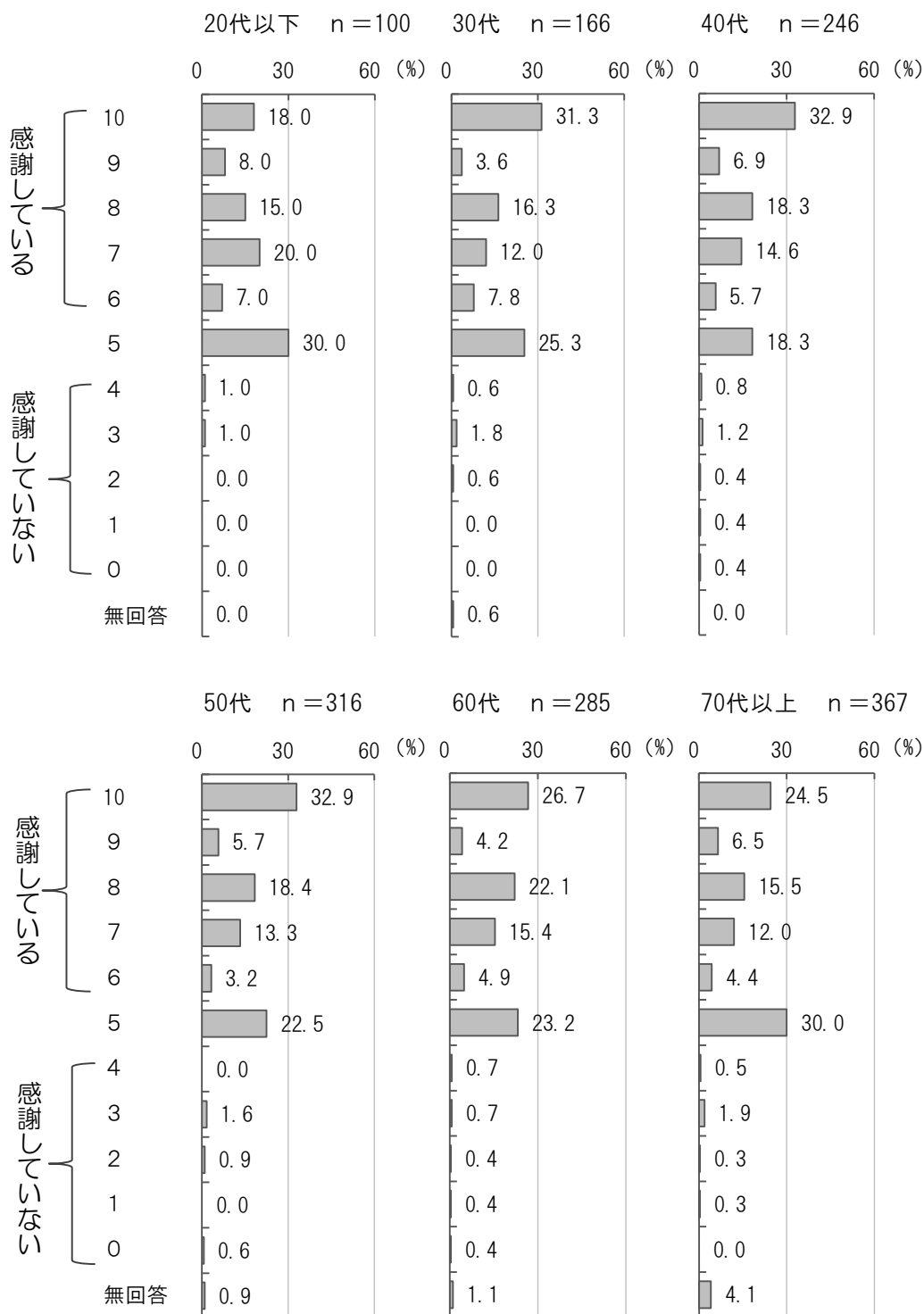
地域のために活動している人への感謝度は、「10」が28.2%と最も多く、次いで「5」が24.6%、「8」が18.1%となっている。また、『感謝している』（「10」～「6」の合計）は71.0%、『感謝していない』（「4」～「0」の合計）は2.9%で、平均点は7.48となっている。



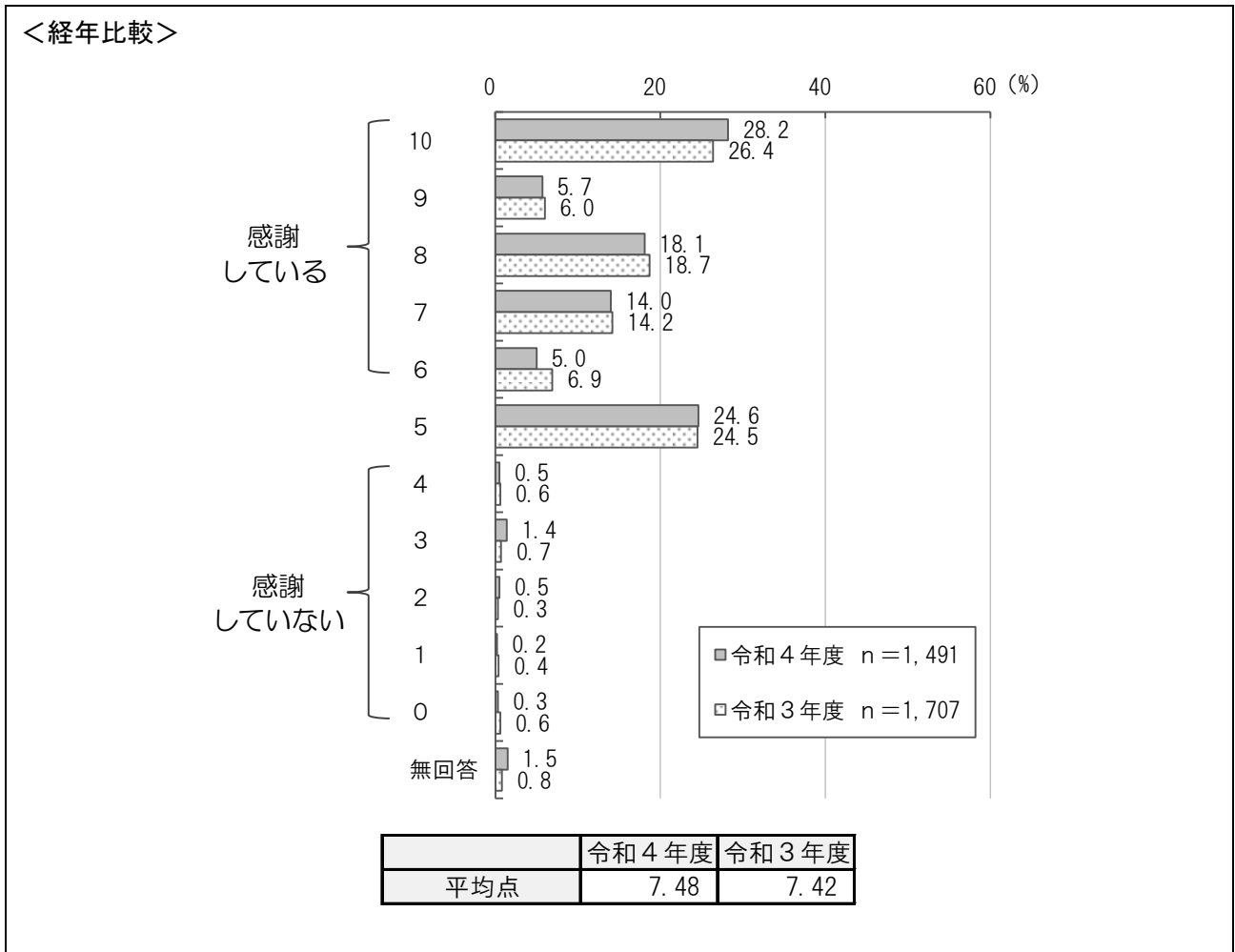
性別で見ると、男性においては「5」が28.3%と女性より多くなっている。女性においては「10」が31.7%と男性より多くなっている。また、『感謝している』は女性において74.2%と多くなっている。平均点は、男性において7.23、女性においては7.68となっている。

年代別では、20代以下において「10」が18.0%とほかの年代と比べて少なくなっている。また、『感謝している』は40代において78.5%と多く、70代以上においては62.9%と少なくなっている。平均点は、40代において7.74と最も高くなっている。

<年代別>



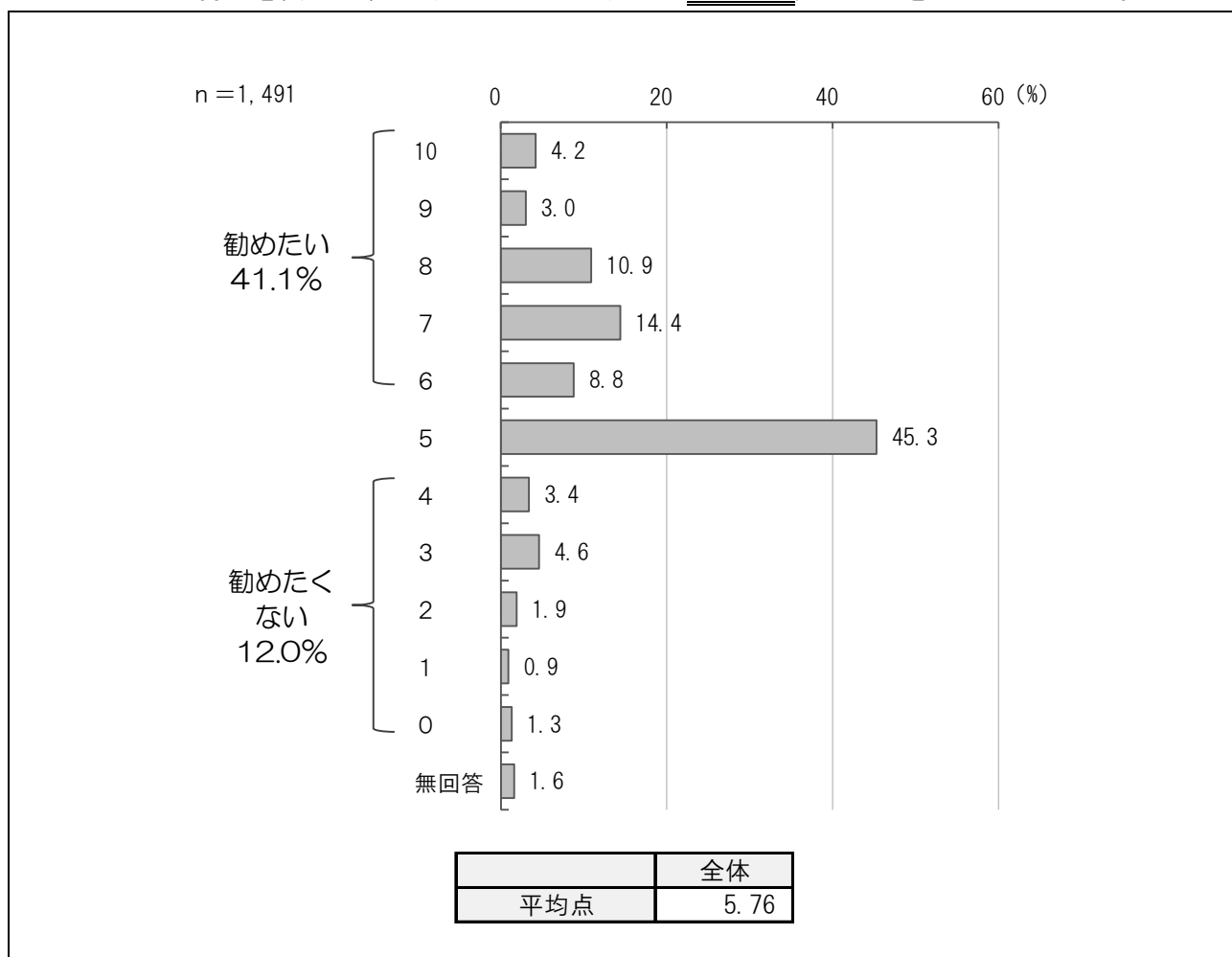
	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
感謝している	68.0%	71.1%	78.5%	73.4%	73.3%	62.9%
感謝していない	2.0%	3.0%	3.3%	3.2%	2.5%	3.0%
平均点	7.11	7.47	7.74	7.65	7.49	7.27



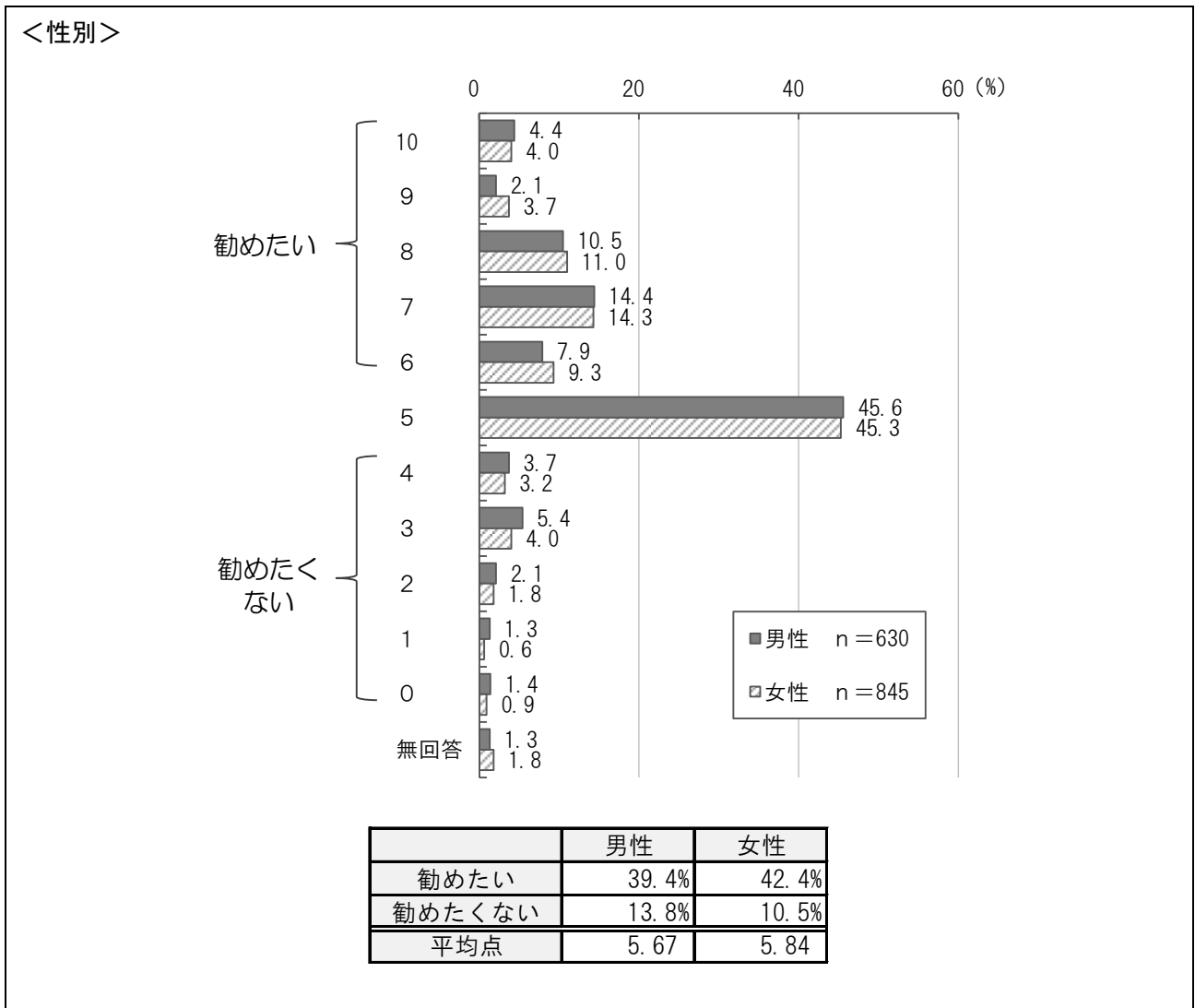
令和 3 年度の調査結果と比較すると、大きな差異は見られない。

## (3) 地域の魅力の推奨度 (10点評価)

問3 あなたは、地域(まち)の魅力を、どの程度の気持ちで友人にお勧めしたいと思いますか。  
次の気持ちを表した数字(10から0まで)から1つだけ選んで○をつけてください。



地域の魅力の推奨度は、「5」が45.3%と最も多く、次いで「7」が14.4%、「8」が10.9%となっている。また、『勧めたい』(「10」～「6」の合計)は41.1%、『勧めたくない』(「4」～「0」の合計)は12.0%で、平均点は5.76となっている。

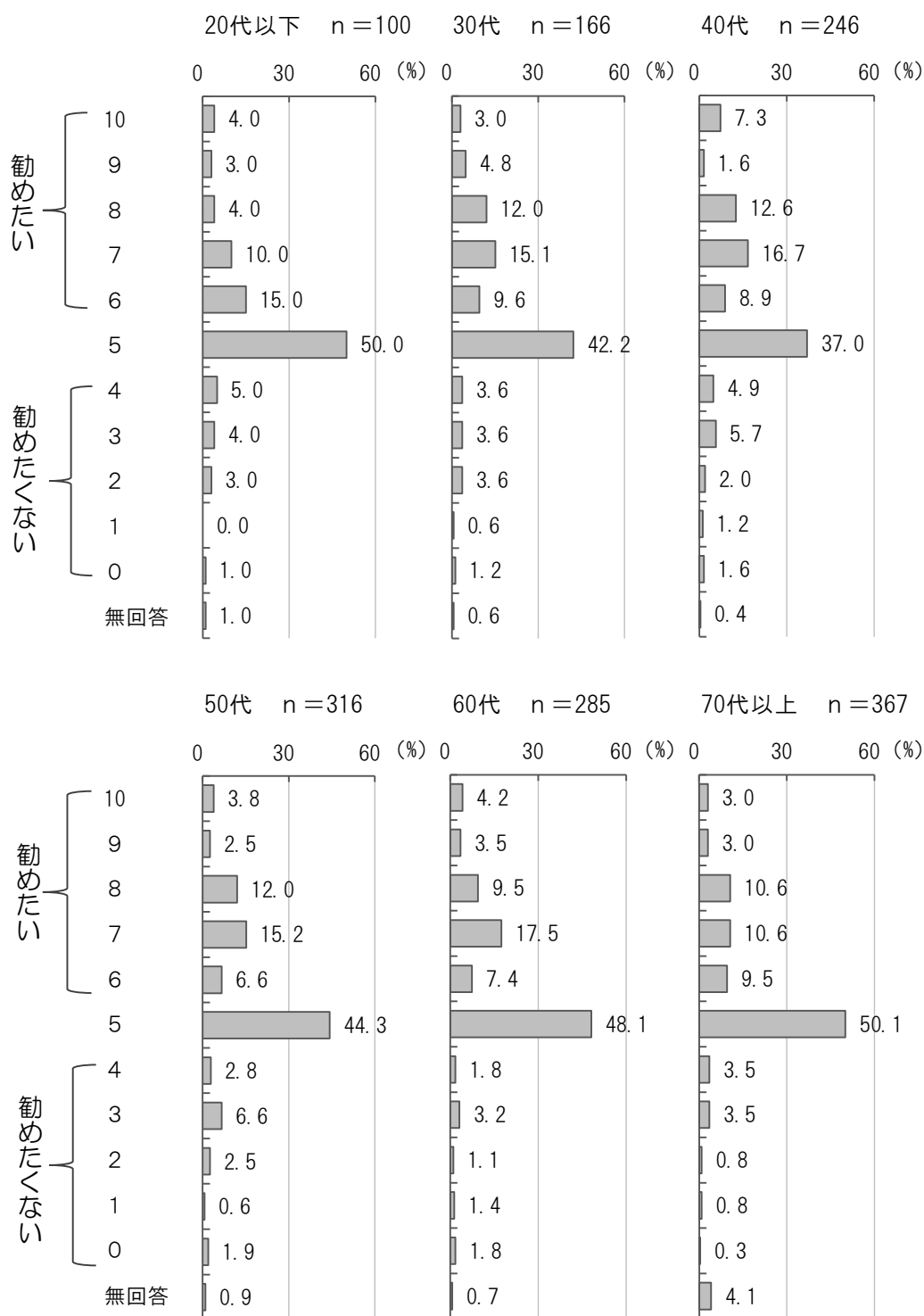


性別で見ると、大きな差異は見られない。平均点は、男性において 5.67、女性においては 5.84 となっている。

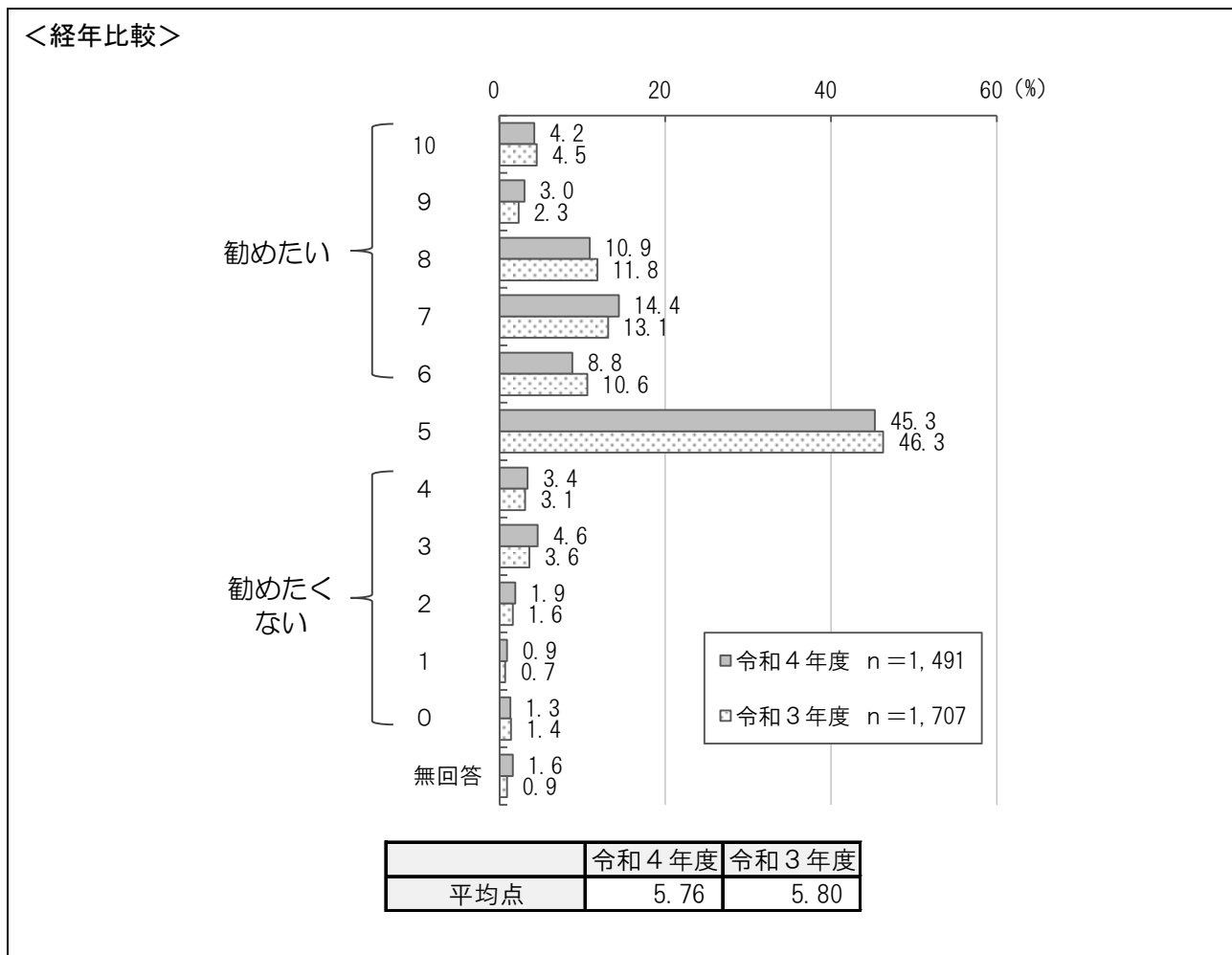
年代別では、20 代以下において「6」が 15.0%とほかの年代と比べて多く、「8」が 4.0%と少なくなっている。40 代においては「5」が 37.0%と少なくなっている。平均点は、40 代において 5.88 と最も高くなっている。



<年代別>



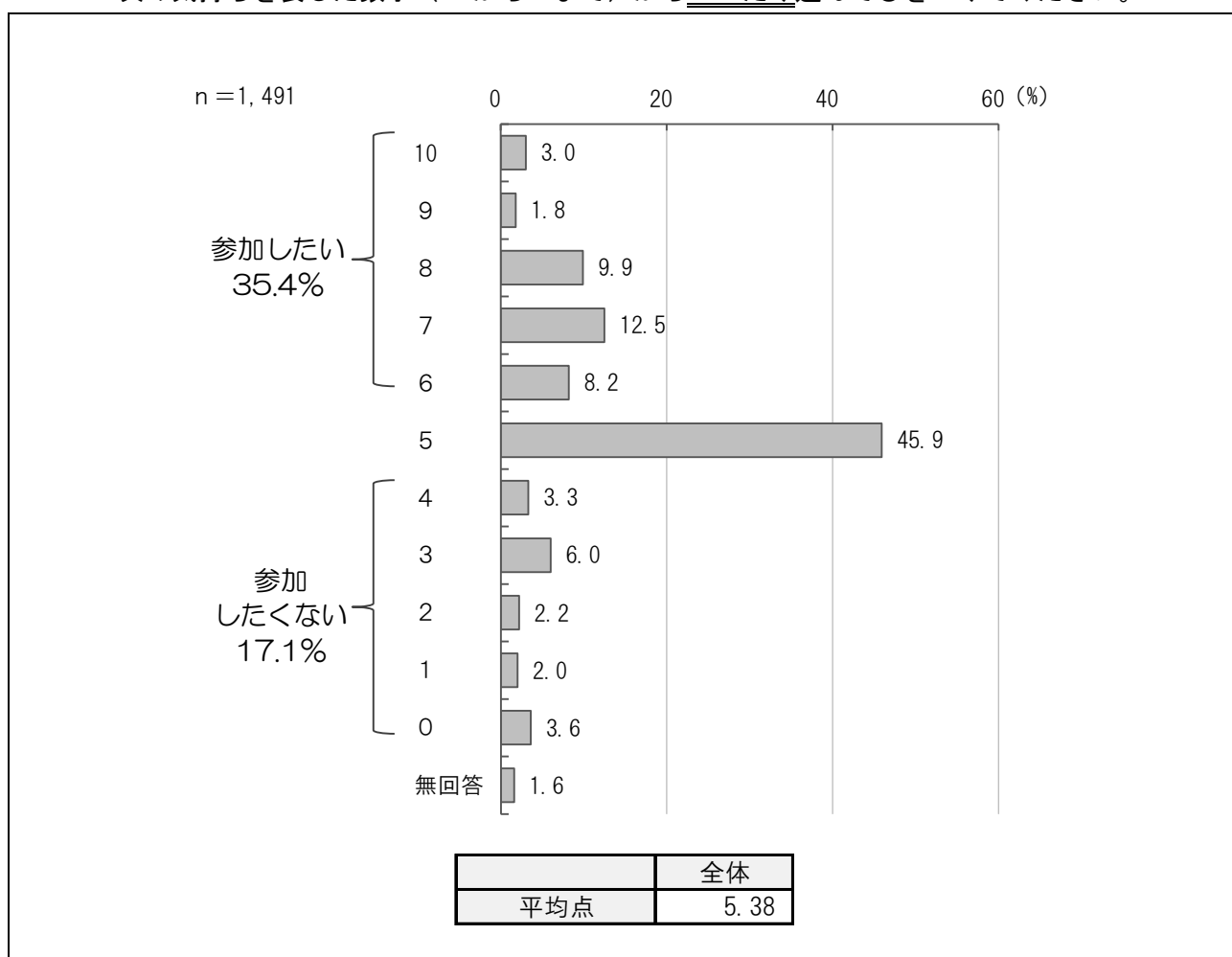
	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
勧めたい	36.0%	44.6%	47.2%	40.2%	42.1%	36.8%
勧めたくない	13.0%	12.7%	15.4%	14.6%	9.1%	9.0%
平均点	5.53	5.81	5.88	5.67	5.81	5.75



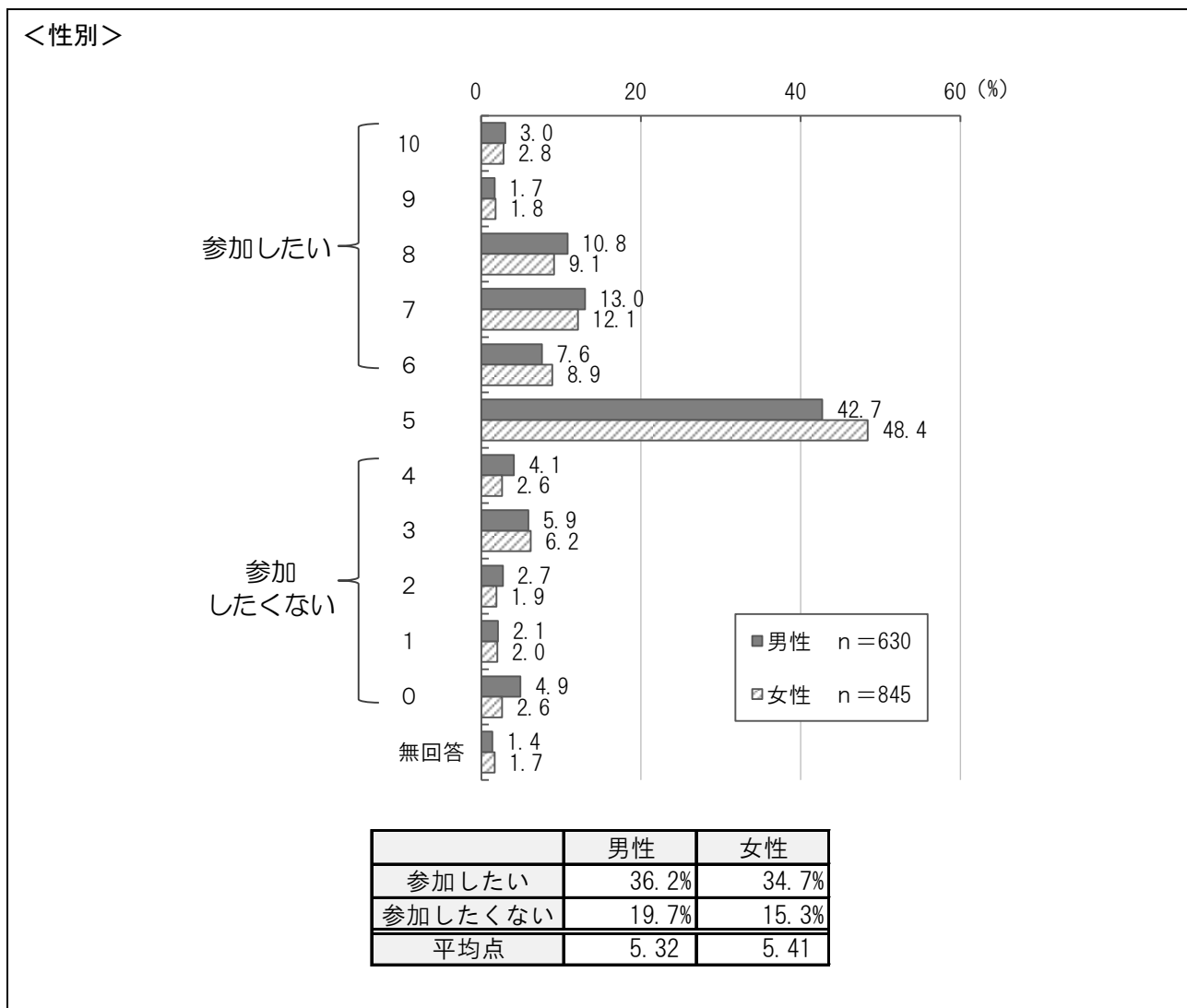
令和3年度の調査結果と比較すると、大きな差異は見られない。

## (4) 地域活動の参加意向 (10点評価)

問4 あなたは、地域(まち)をよくする活動に、どの程度の気持ちで参加したいと思いますか。  
次の気持ちを表した数字(10から0まで)から1つだけ選んで○をつけてください。



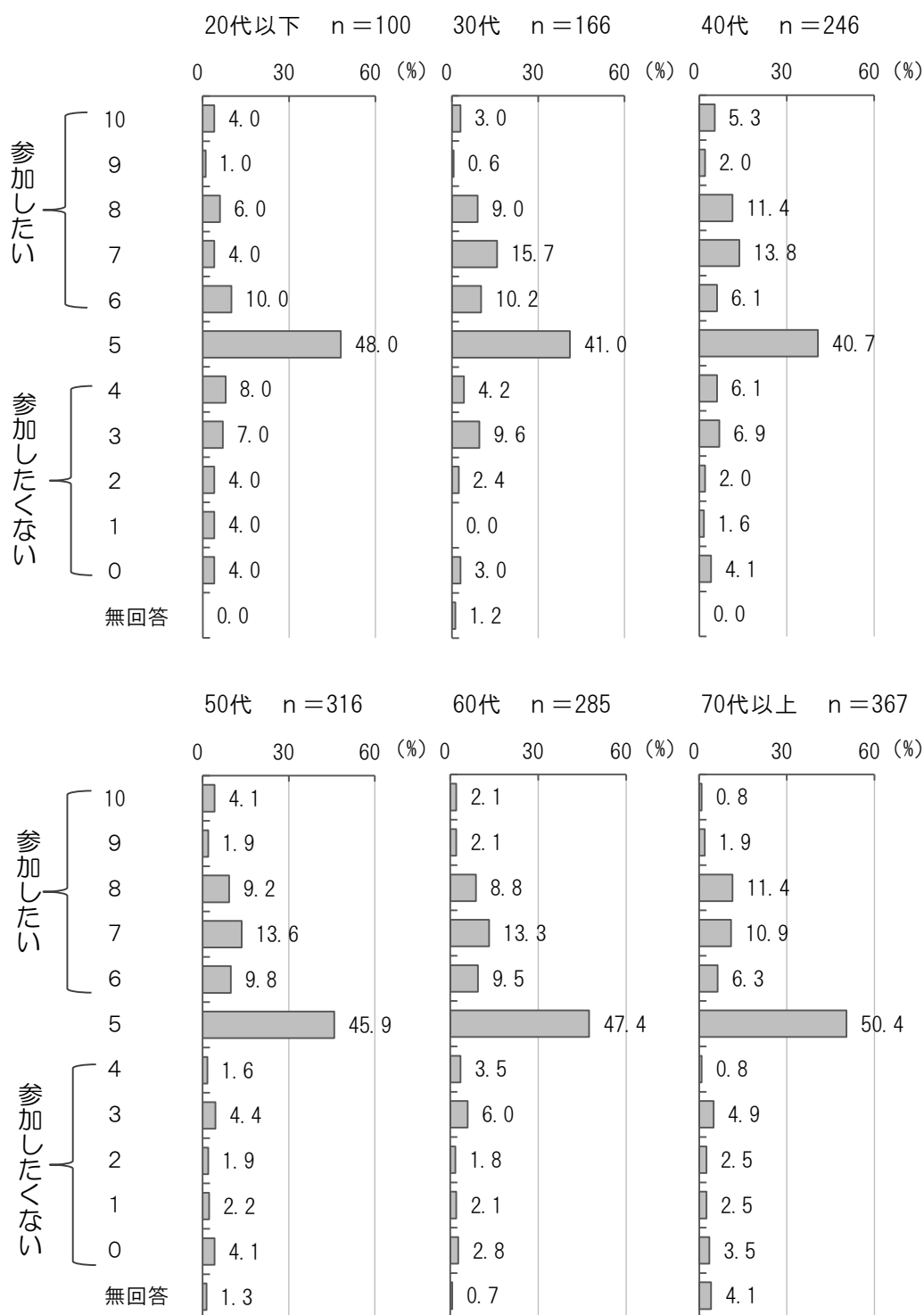
地域活動の参加意向は、「5」が45.9%と最も多く、次いで「7」が12.5%、「8」が9.9%となっている。また、『参加したい』(「10」～「6」の合計)は35.4%、『参加したくない』(「4」～「0」の合計)は17.1%で、平均点は5.38となっている。



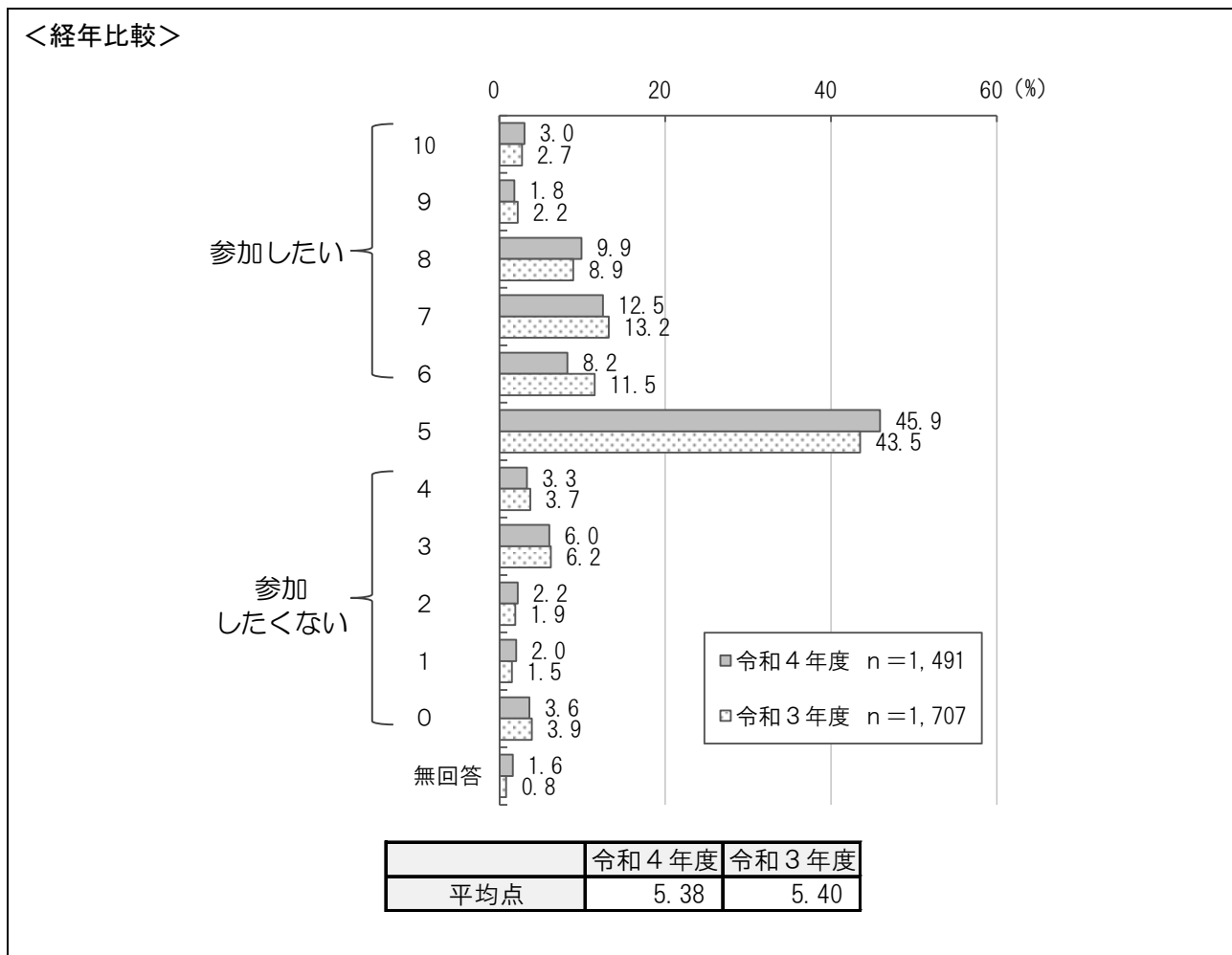
性別で見ると、女性において「5」が48.4%と男性より多くなっている。平均点は、男性において5.32、女性においては5.41となっている。

年代別では、20代以下において「7」が4.0%とほかの年代と比べて少なくなっている。また、『参加したくない』は20代以下において27.0%と多くなっている。平均点は、40代において5.50と最も高くなっている。

<年代別>



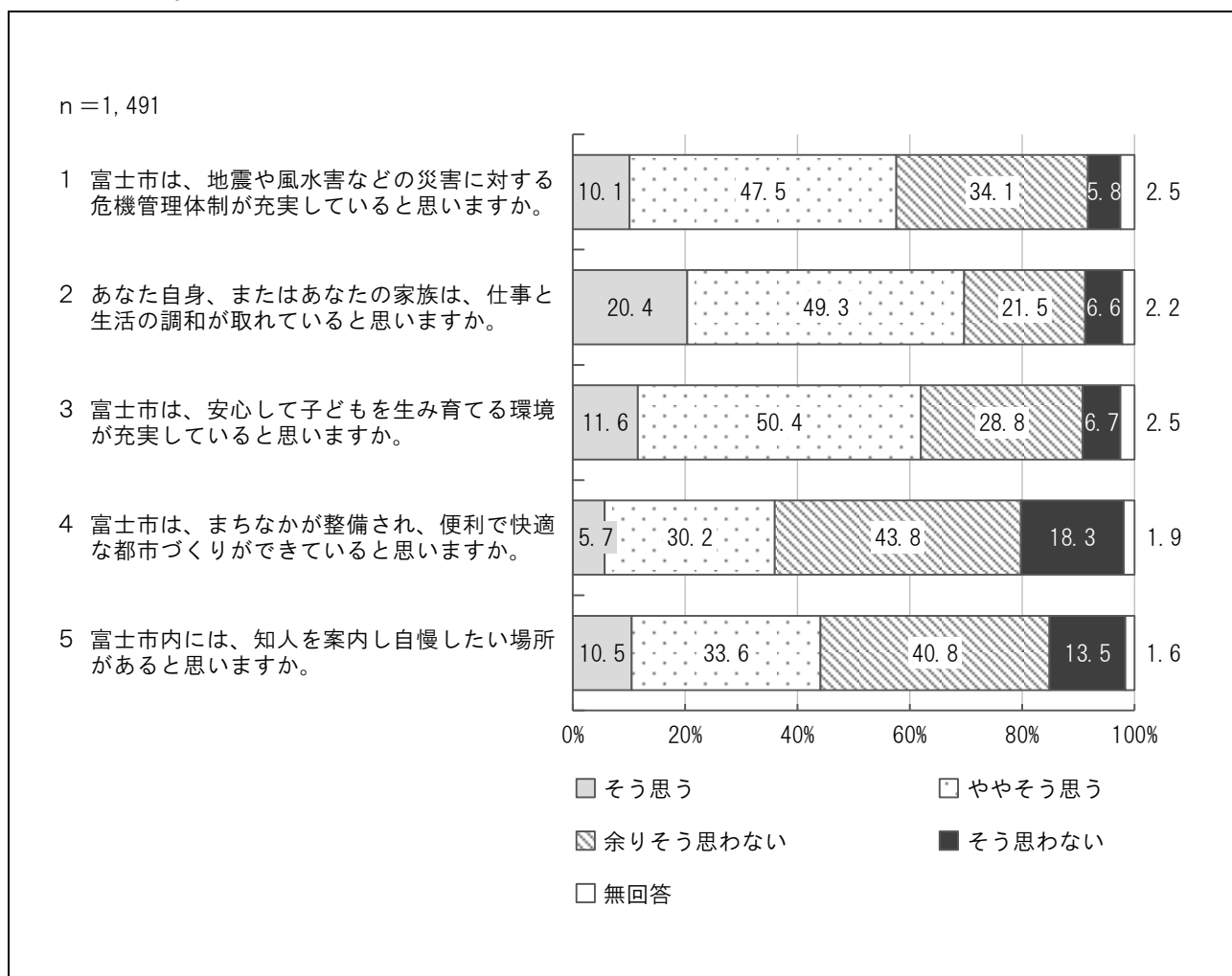
	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
参加したい	25.0%	38.6%	38.6%	38.6%	35.8%	31.3%
参加したくない	27.0%	19.3%	20.7%	14.2%	16.1%	14.2%
平均点	4.90	5.41	5.50	5.48	5.39	5.30



令和 3 年度の調査結果と比較すると、大きな差異は見られない。

## (5) 「第2期富士市まち・ひと・しごと創生総合戦略」各戦略の満足度

問5 次の各項目の満足度について、あなたの気持ちに近いものを1つずつ選んで○をつけてください。

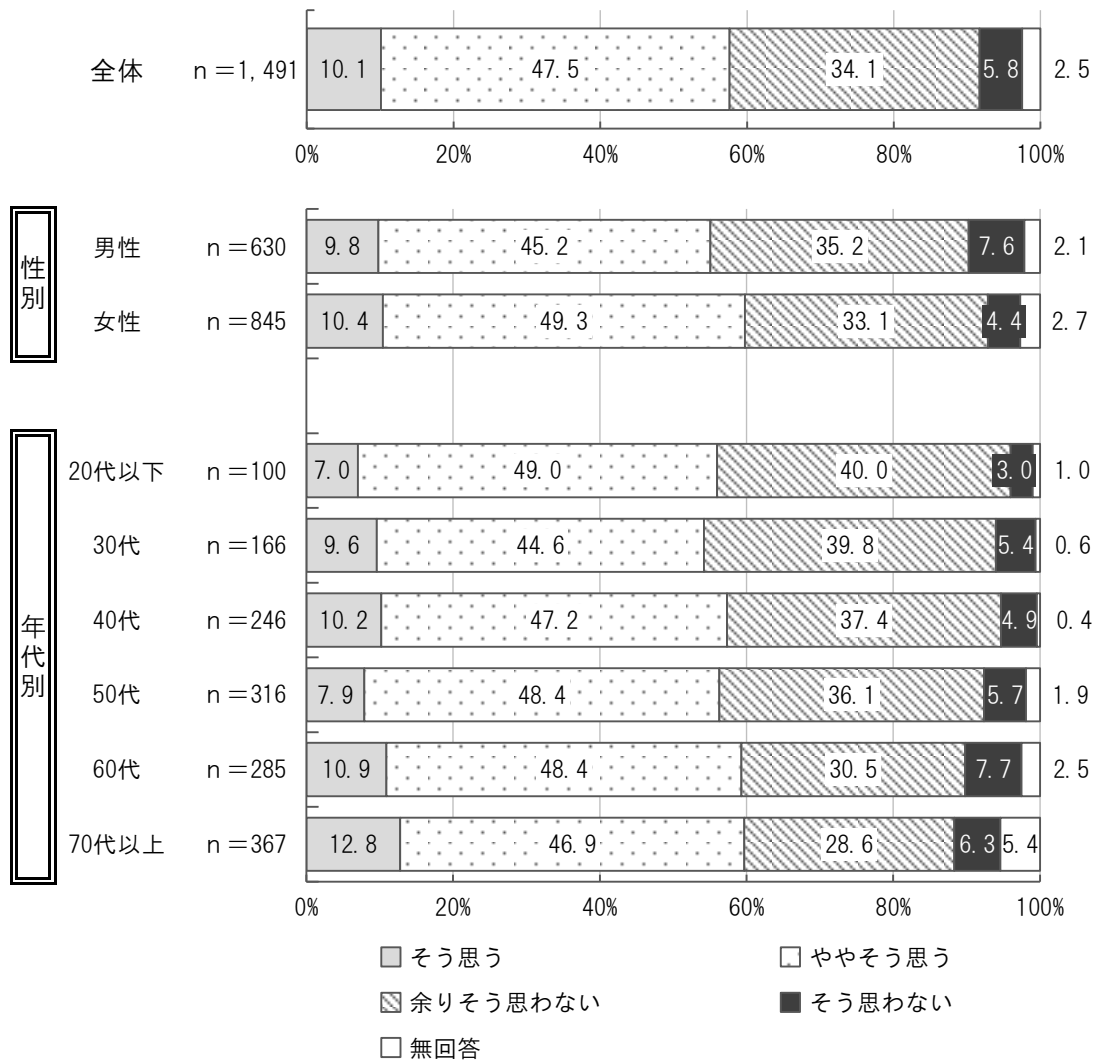


「第2期富士市まち・ひと・しごと創生総合戦略」各戦略の満足度において、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）が多い項目は、「2 あなた自身、またはあなたの家族は、仕事と生活の調和が取れていると思いますか。」（69.7%）、「3 富士市は、安心して子どもを生み育てる環境が充実していると思いますか。」（62.0%）、「1 富士市は、地震や風水害などの災害に対する危機管理体制が充実していると思いますか。」（57.6%）の順になっている。

一方、『そう思わない』（「余りそう思わない」＋「そう思わない」）が多い項目は、「4 富士市は、まちなかが整備され、便利で快適な都市づくりができていると思いますか。」（62.1%）、「5 富士市内には、知人を案内し自慢したい場所があると思いますか。」（54.3%）の順になっている。

※次ページ以降は、『そう思う』は「そう思う」と「ややそう思う」、『そう思わない』は「余りそう思わない」と「そう思わない」を合わせたもの。

1 富士市は、地震や風水害などの災害に対する危機管理体制が充実していると思いますか。



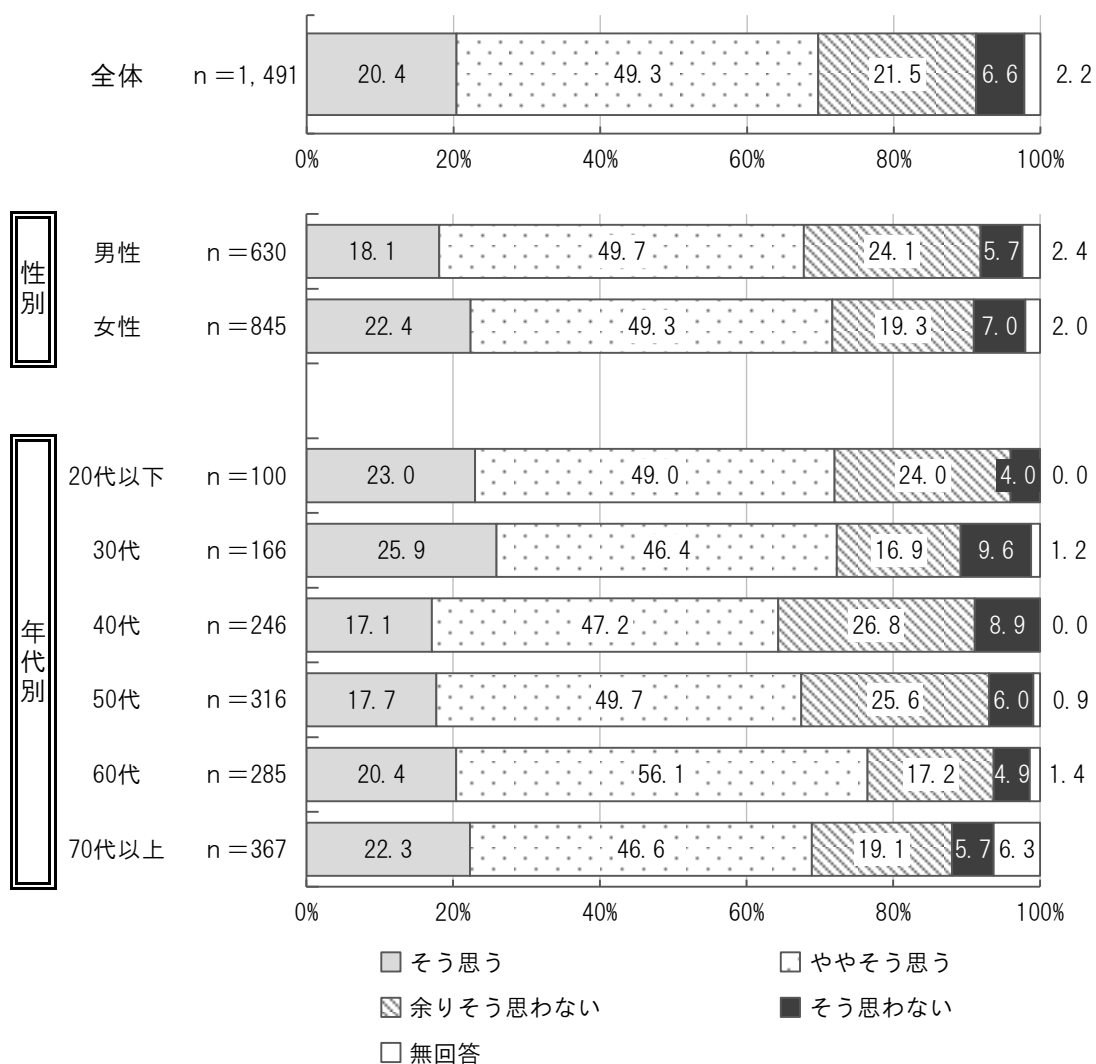
「富士市は、地震や風水害などの災害に対する危機管理体制が充実していると思いますか」という問いについては、『そう思う』が 57.6%、『そう思わない』が 39.9%となっている。

性別で見ると、『そう思わない』は男性において 42.9%と女性の 37.5%と比べて多くなっている。

年代別では、大きな差異は見られない。



## 2 あなた自身、またはあなたの家族は、仕事と生活の調和が取れていると思いますか。

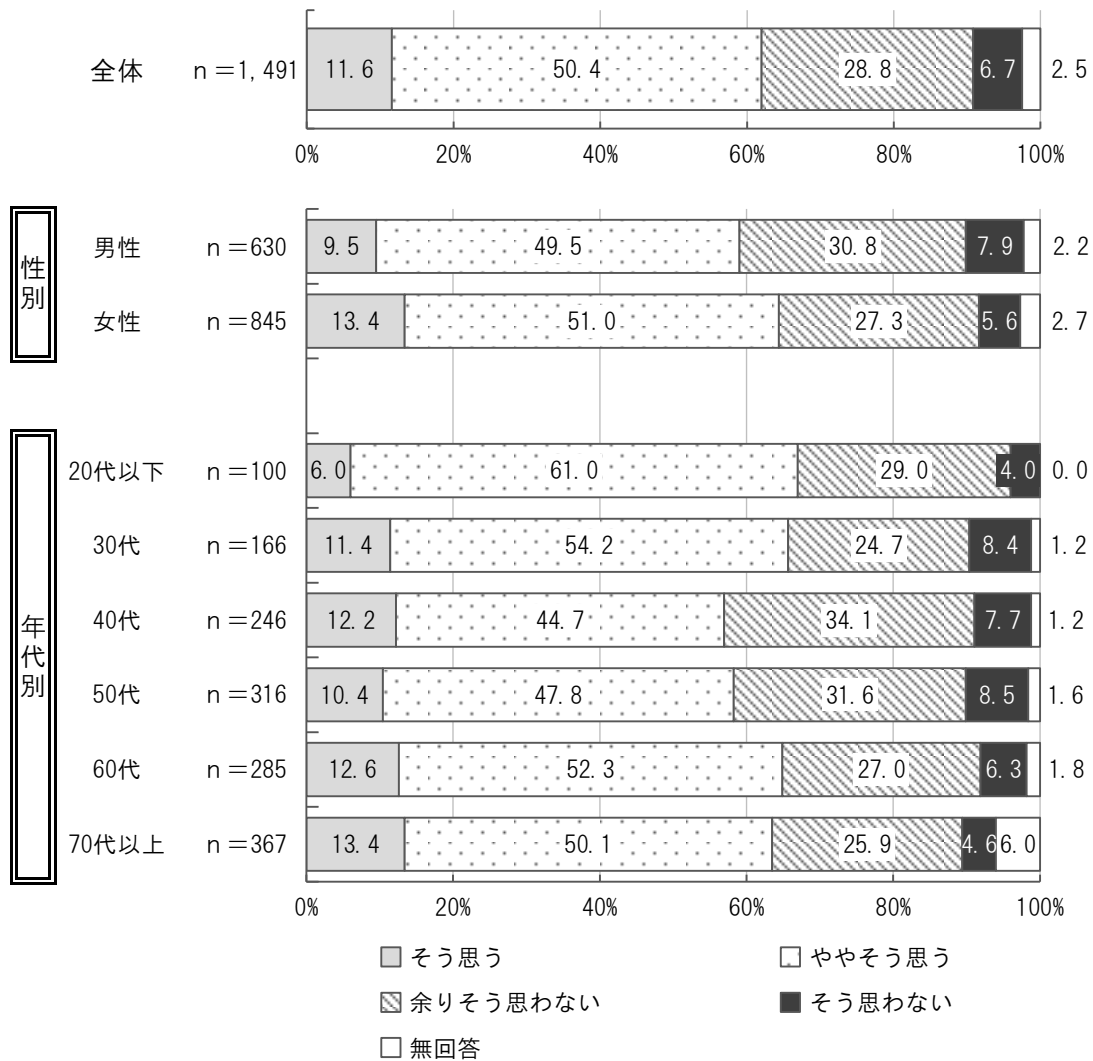


「あなた自身、またはあなたの家族は、仕事と生活の調和が取れていると思いますか」という問いについては、『そう思う』が69.7%、『そう思わない』が28.1%となっている。

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年代別では、60代において「ややそう思う」が56.1%とほかの年代と比べて多くなっている。

3 富士市は、安心して子どもを産み育てる環境が充実していると思いますか。

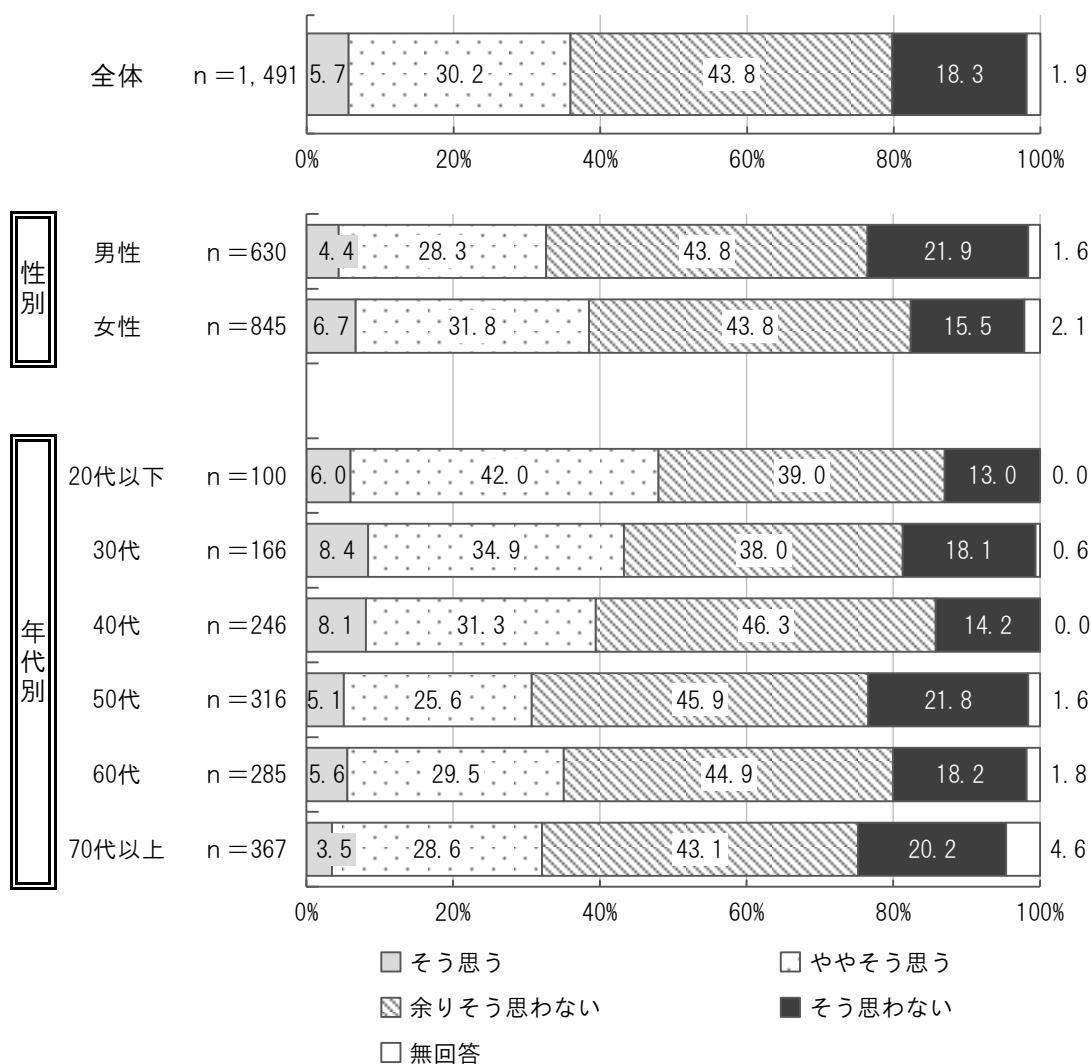


「富士市は、安心して子どもを産み育てる環境が充実していると思いますか」という問いについては、『そう思う』が62.0%、『そう思わない』が35.5%となっている。

性別で見ると、『そう思わない』は男性において38.7%と女性の32.9%と比べて多くなっている。

年代別では、20代以下において「ややそう思う」が61.0%とほかの年代と比べて多くなっている。

## 4 富士市は、まちなかが整備され、便利で快適な都市づくりができていると思いますか。

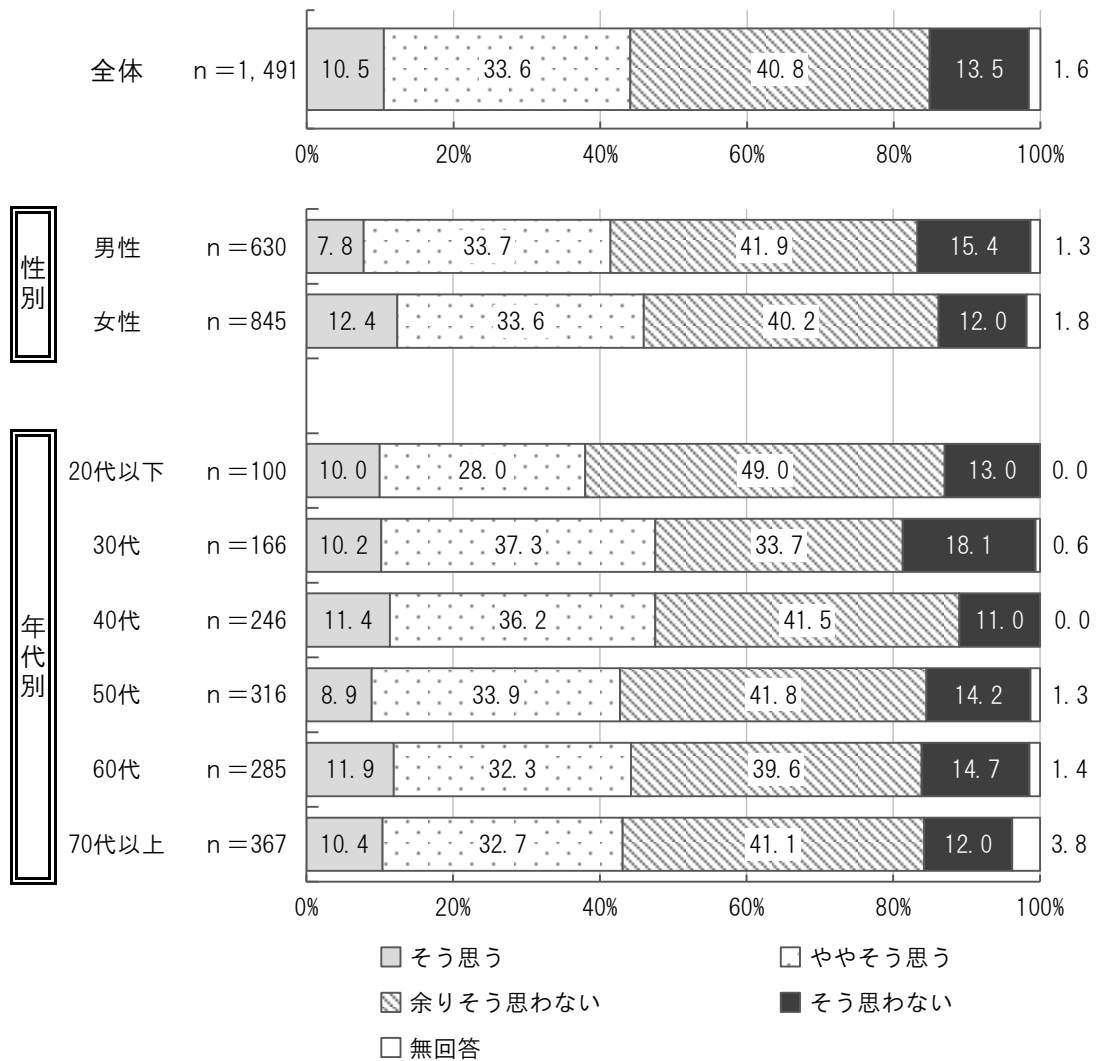


「富士市は、まちなかが整備され、便利で快適な都市づくりができていると思いますか」という問いについては、『そう思う』が35.9%、『そう思わない』が62.1%となっている。

性別で見ると、男性において『そう思わない』が65.7%と女性の59.3%と比べて多くなっている。

年代別では、20代以下において「ややそう思う」が42.0%とほかの年代と比べて多くなっている。また、『そう思わない』は50代において67.7%、70代以上において63.2%と多くなっている。

5 富士市内には、知人を案内し自慢したい場所があると思いますか。



「富士市内には、知人を案内し自慢したい場所があると思いますか」という問いについては、『そう思う』が44.1%、『そう思わない』が54.3%となっている。

性別で見ると、『そう思わない』は男性において57.3%と多くなっている。

年代別では、20代以下において「余りそう思わない」が49.0%とほかの年代と比べて多くなっている。30代においては「余りそう思わない」が33.7%と少なくなっている。また、『そう思わない』は20代以下において62.0%と多くなっている。

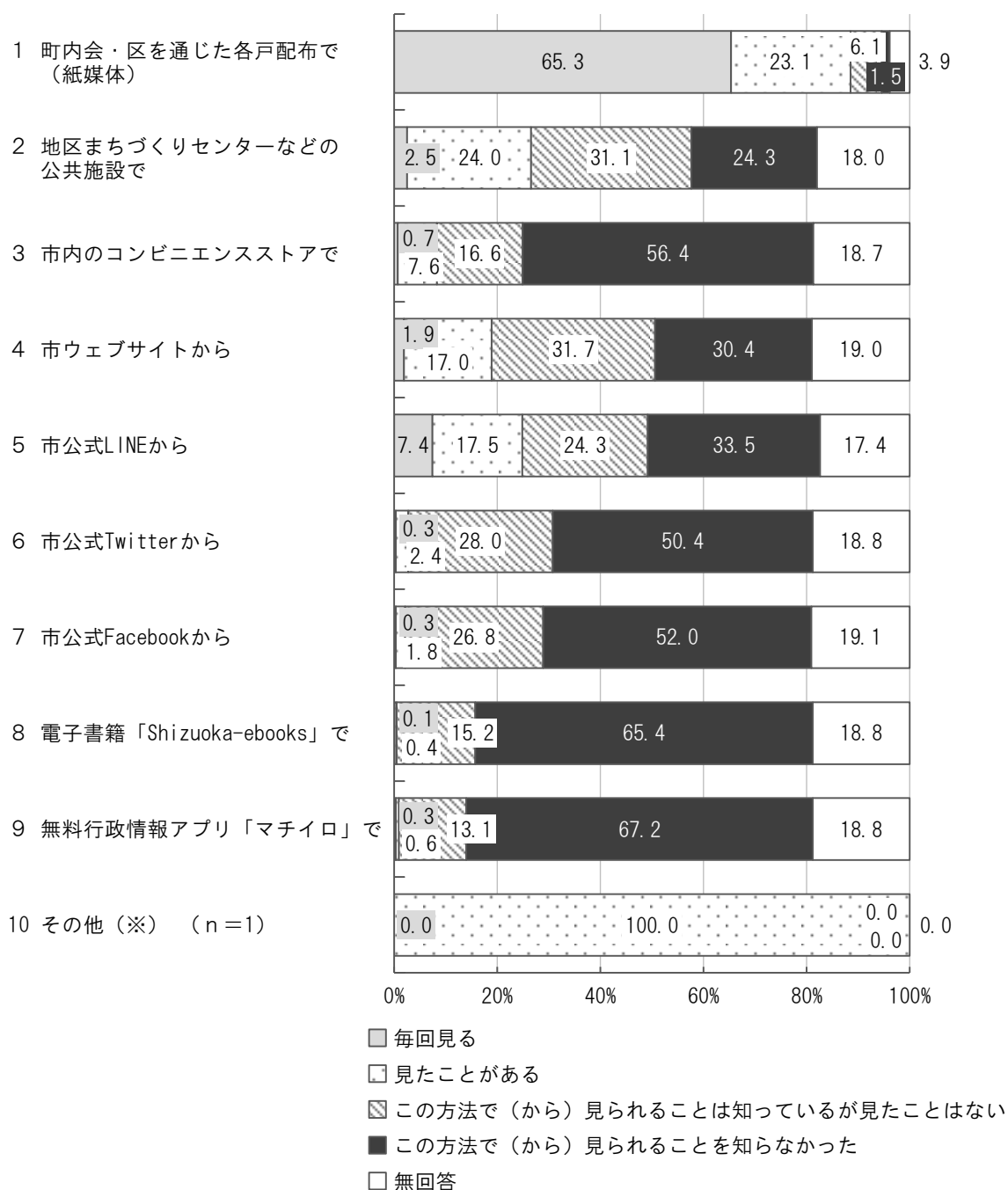
## ■富士市の広報全般について

## 「広報ふじ」について

## (1) 「広報ふじ」の閲覧状況

問6 「広報ふじ」はどのような方法で目に（手に）していますか。それぞれの項目において近いものを1つずつ選んで○をつけてください。

n = 1,491



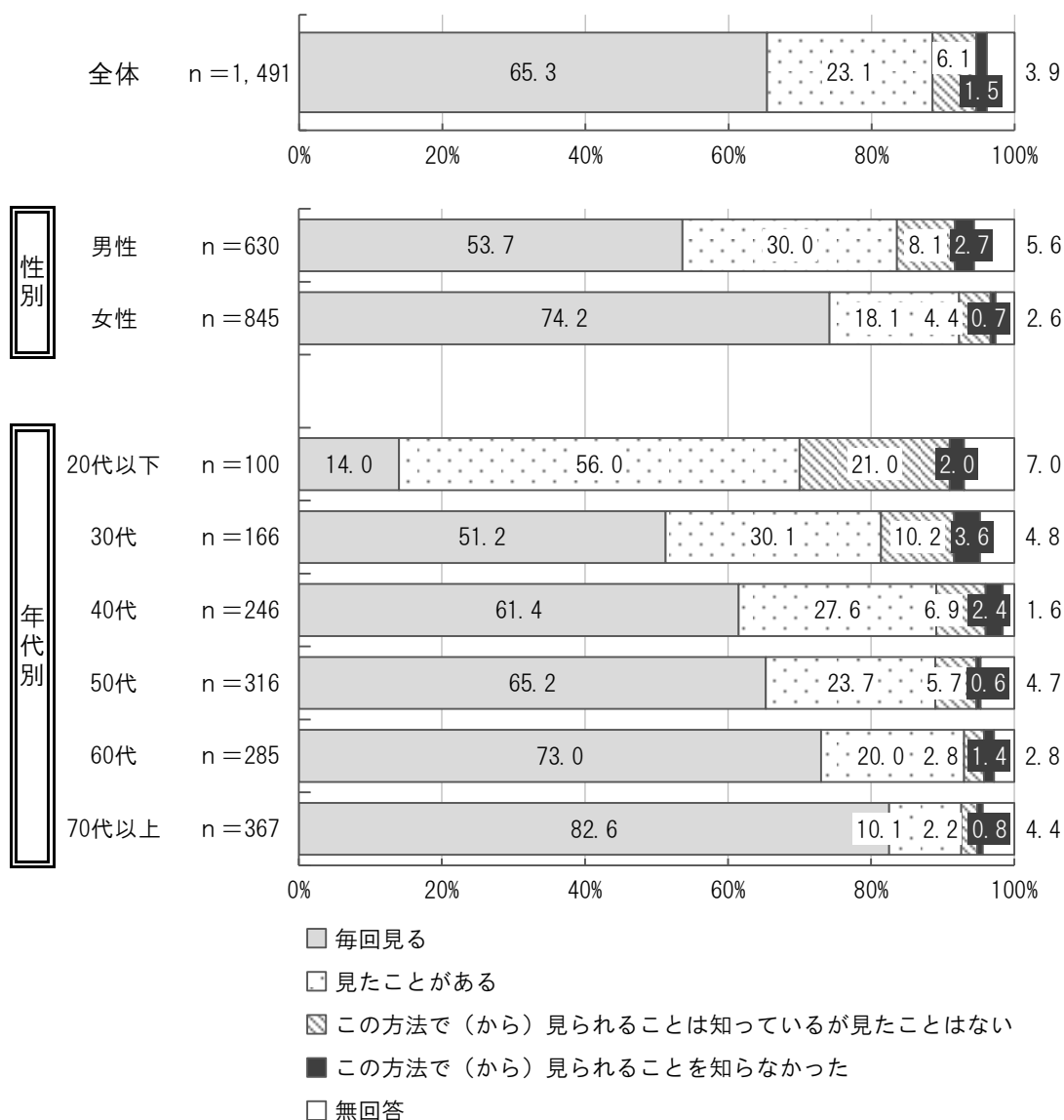
※10 その他は、カッコ内に具体的な記入のある人のみで集計した。

「広報ふじ」の閲覧状況において、「毎回見る」が多い方法は、「1 町内会・区を通じた各戸配布で（紙媒体）」（65.3%）、「5 市公式LINE から」（7.4%）、「2 地区まちづくりセンターなどの公共施設で」（2.5%）の順になっている。

一方、「この方法で（から）見られることは知っているが見たことはない」が多い方法は、「4 市ウェブサイトから」（31.7%）、「2 地区まちづくりセンターなどの公共施設で」（31.1%）、「6 市公式 Twitter から」（28.0%）の順になっている。

また、「この方法で（から）見られることを知らなかった」が多い方法は、「9 無料行政情報アプリ『マチイロ』で」（67.2%）、「8 電子書籍『Shizuoka-ebooks』で」（65.4%）、「3 市内のコンビニエンスストアで」（56.4%）の順になっている。

## 1 町内会・区を通じた各戸配布で（紙媒体）

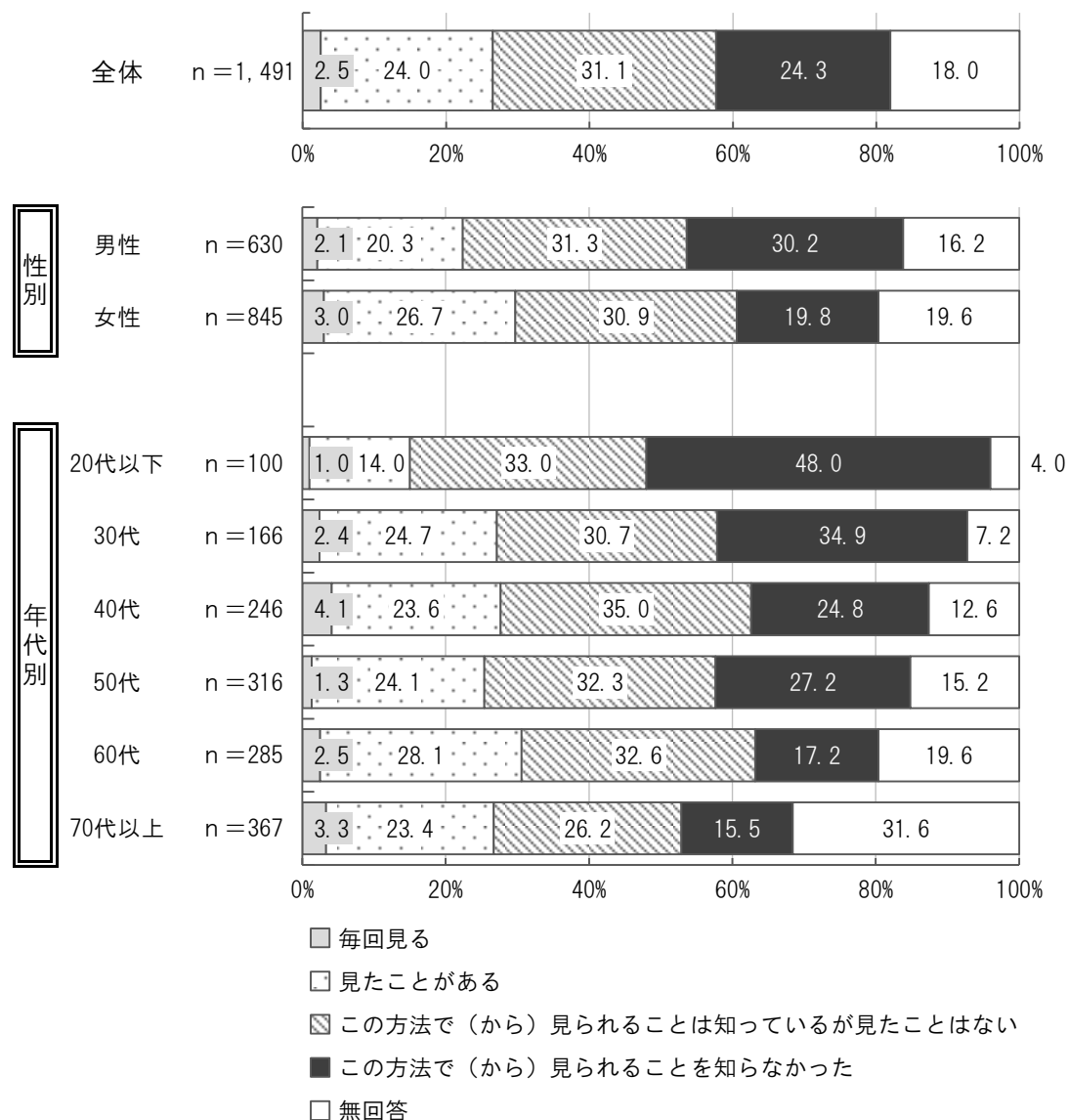


「町内会・区を通じた各戸配布で（紙媒体）」の閲覧状況は、「毎回見る」が65.3%、「見たことがある」が23.1%、「この方法で（から）見られることは知っているが見たことはない」が6.1%となっている。

性別で見ると、女性において「毎回見る」が74.2%と多く、男性の53.7%との差が大きくなっている。また、「この方法で（から）見られることは知っているが見たことはない」は男性において8.1%と、女性の4.4%の2倍近くになっている。

年代別では、20代以下においてほかの年代と比べ「毎回見る」は少なく、「見たことがある」「この方法で（から）見られることは知っているが見たことはない」が多くなっている。また、年代が上がるごとに「毎回見る」が多くなっており、70代以上において82.6%となっている。「この方法で（から）見られることは知っているが見たことはない」は年代が下がるにつれ多くなっており、20代以下において21.0%と多くなっている。

## 2 地区まちづくりセンターなどの公共施設で



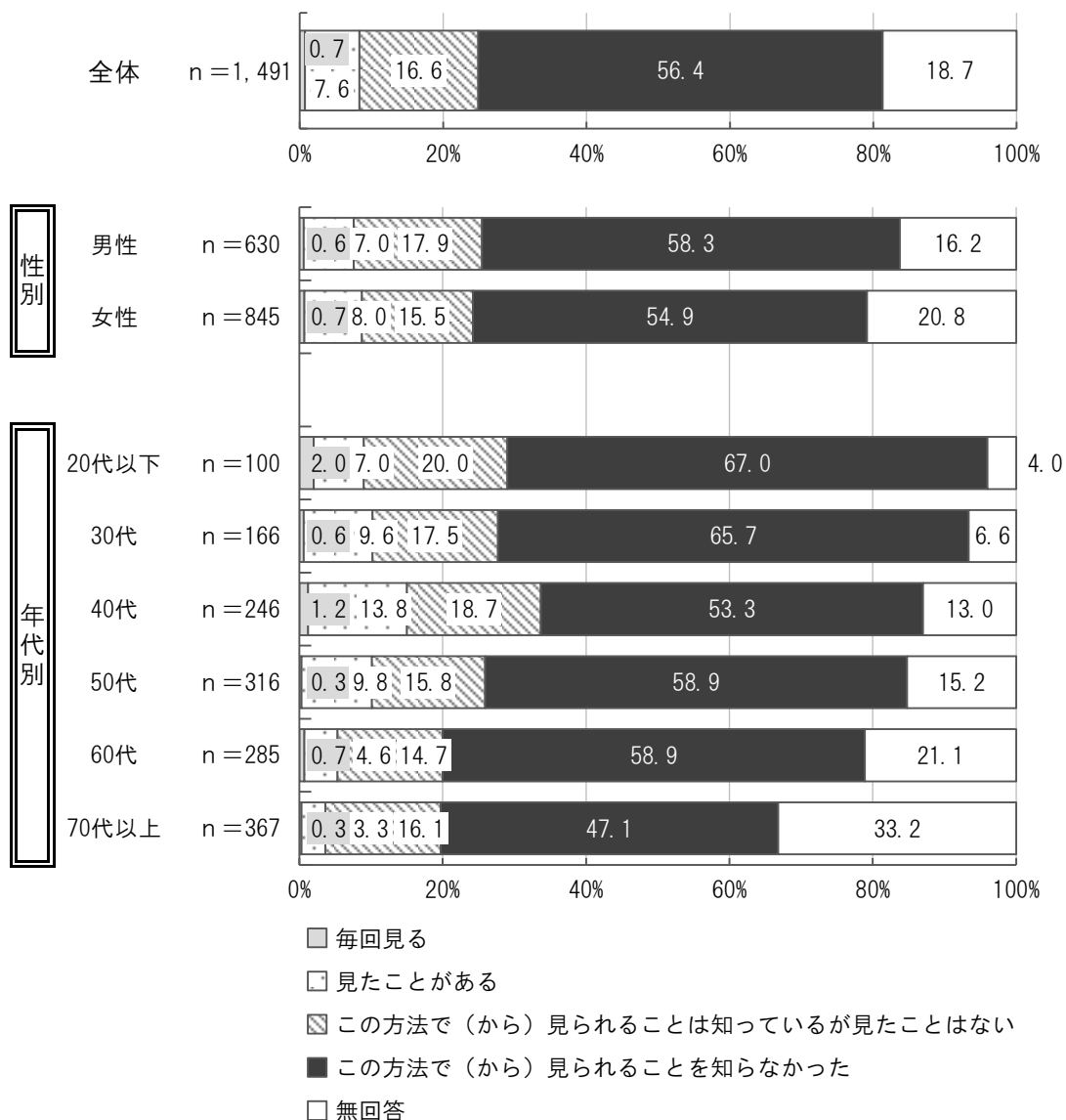
「地区まちづくりセンターなどの公共施設で」の閲覧状況は、「毎回見る」が 2.5%、「見たことがある」が 24.0%、「この方法で（から）見られることは知っているが見たことはない」が 31.1% となっている。

性別で見ると、男性において「この方法で（から）見られることを知らなかった」が 30.2%と女性の約 1.5 倍と多くなっている。女性においては「見たことがある」が 26.7%と男性より多くなっている。

年代別では、20 代以下において「この方法で（から）見られることを知らなかった」が 48.0%と約半数を占めほかの年代と比べて多く、「見たことがある」はほかの年代より少なく、14.0%となっている。また、「この方法で（から）見られることを知らなかった」は 20 代以下だけでなく、30 代においても最も多く、40 代～60 代では「この方法で（から）見られることは知っているが見たことはない」がそれぞれの年代の中で最も多くなっている。70 代以上において無回答が多くなっている。



## 3 市内のコンビニエンスストアで

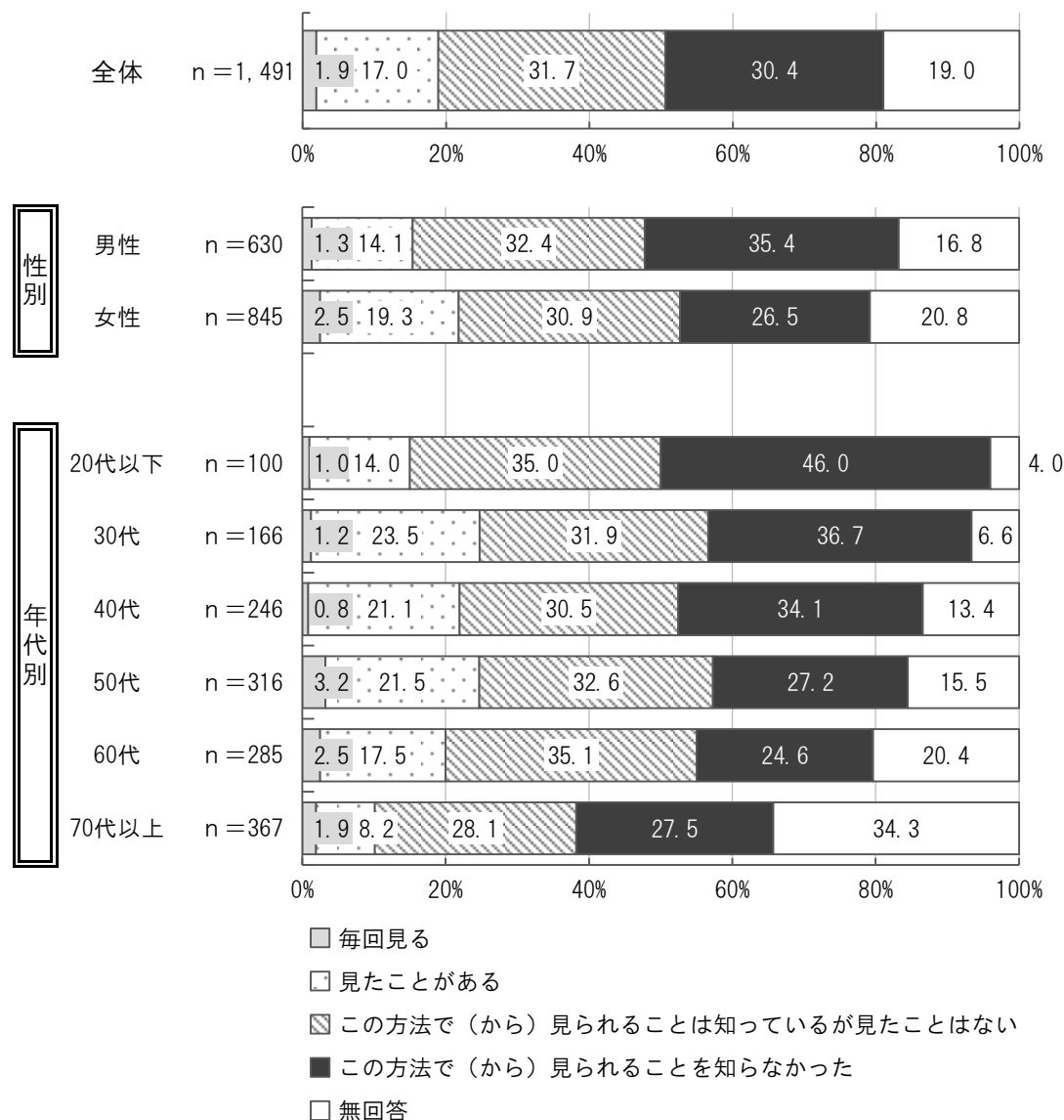


「市内のコンビニエンスストアで」の閲覧状況は、「毎回見る」が0.7%、「見たことがある」が7.6%、「この方法で（から）見られることを知らなかった」が56.4%となっている。

性別では、大きな差異は見られない。

年代別では、どの年代でも「この方法で（から）見られることを知らなかった」が最も多く、20代以下は67.0%、次いで30代が65.7%となっている。70代以上において無回答が多くなっている。

#### 4 市ウェブサイトから

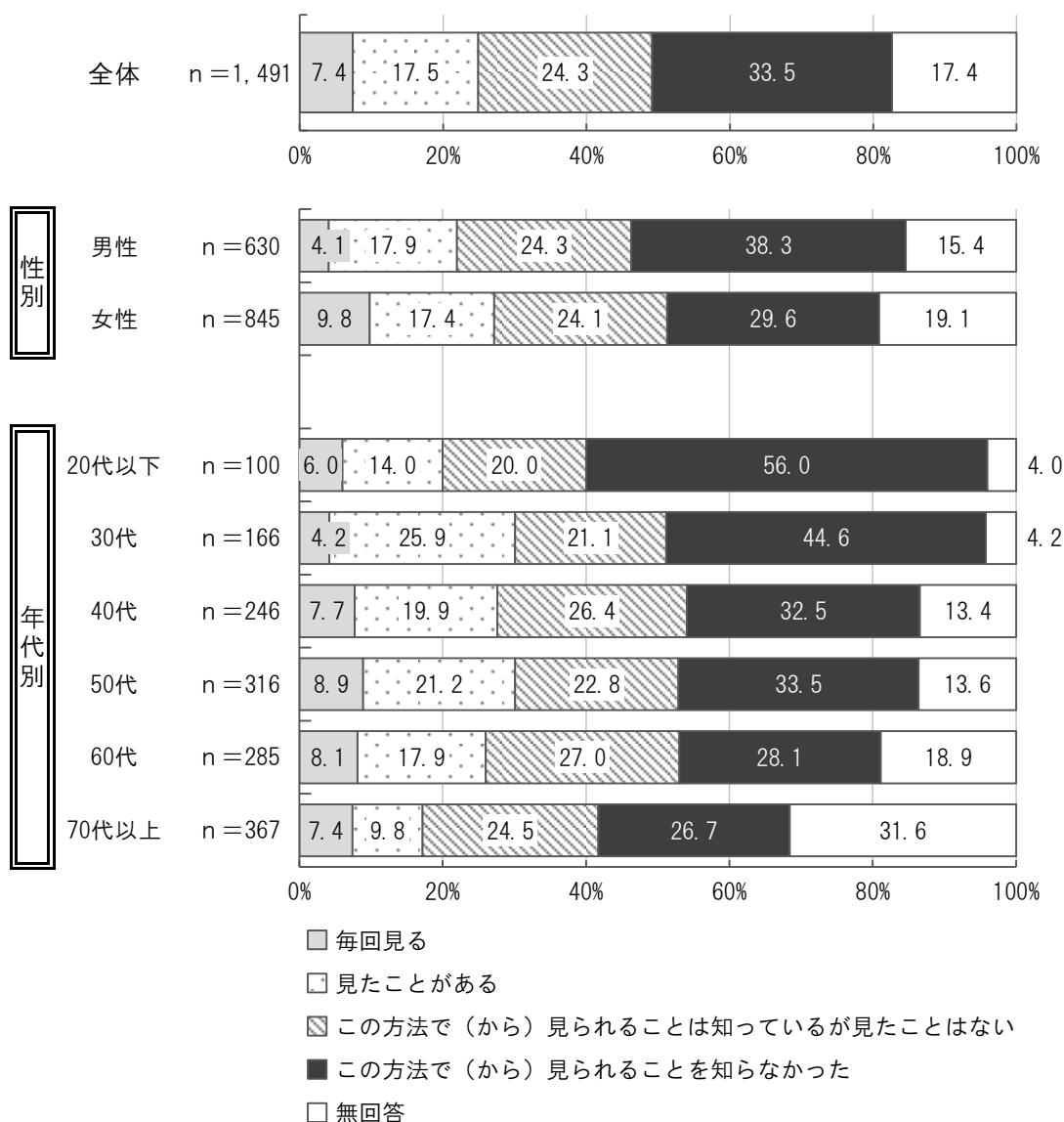


「市ウェブサイトから」の閲覧状況は、「この方法で（から）見られることは知っているが見たことはない」が31.7%、「この方法で（から）見られることを知らなかった」が30.4%となっている。

性別で見ると、男性において「この方法で（から）見られることを知らなかった」が35.4%と最も多く、女性より多くなっている。女性においては最も多いのは「この方法で（から）見られることは知っているが見たことはない」で30.9%となっている。

年代別では、20代以下において「この方法で（から）見られることを知らなかった」が46.0%とほかの年代と比べて多くなっている。50代・60代・70代以上は「この方法で（から）見られることを知らなかった」より「この方法で（から）見られることは知っているが見たことはない」の方が多いが、20代以下・30代・40代は「この方法で（から）見られることを知らなかった」の方が多くなっている。70代以上において無回答が多くなっている。

## 5 市公式LINEから

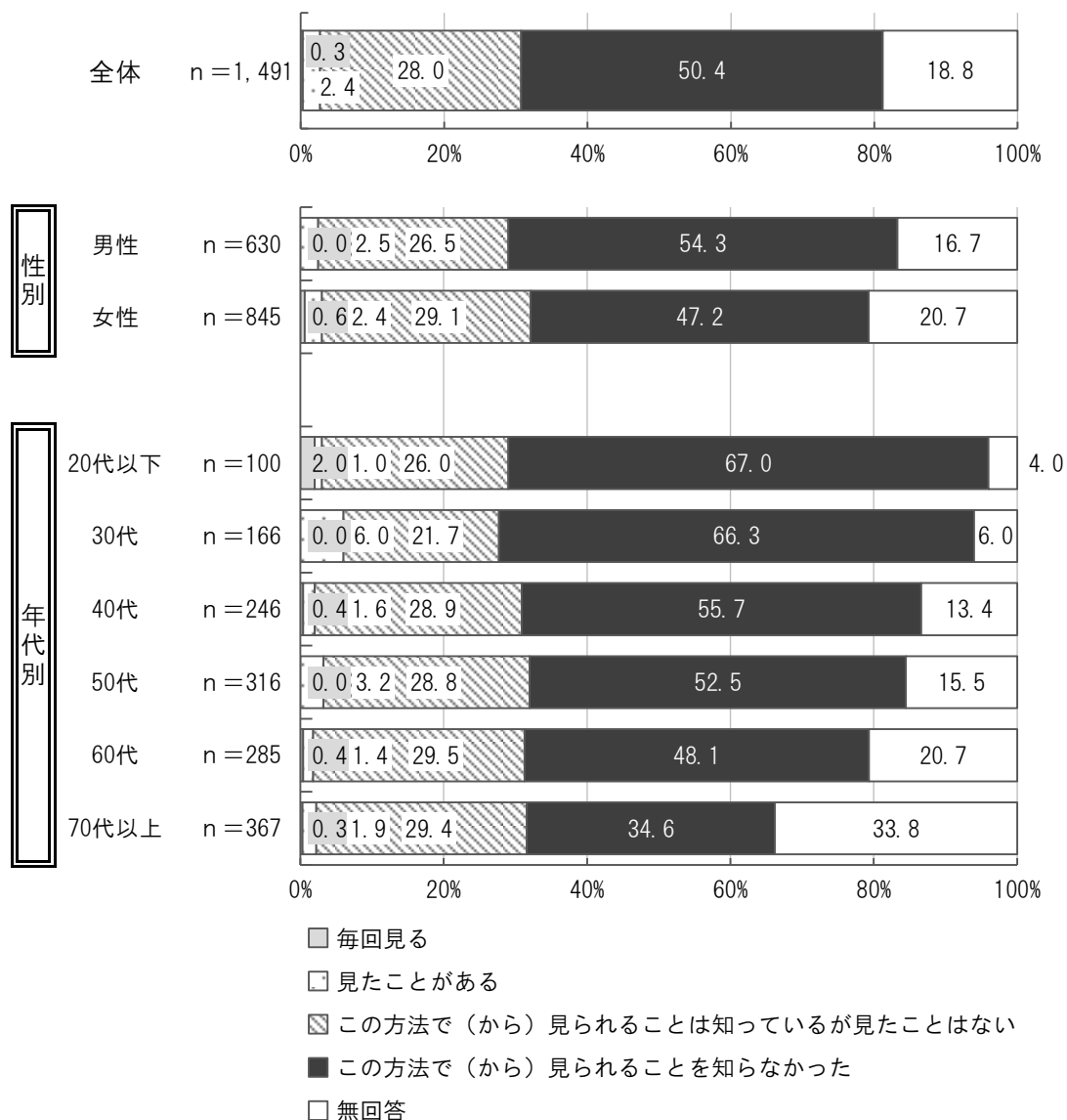


「市公式LINEから」の閲覧状況は、「この方法で（から）見られることを知らなかった」が最も多く33.5%、次いで「この方法で（から）見られることは知っているが見たことはない」が24.3%、「見たことがある」が17.5%となっている。

性別で見ると、どちらも「この方法で（から）見られることを知らなかった」が最も多く、男性が38.3%と女性より多くなっている。女性においては「毎回見る」は9.8%と男性の約2倍になっている。

年代別では、「この方法で（から）見られることを知らなかった」は各年代で最も多く、最も多いのは20代以下の56.0%で半数を超えており、年代が下がるにつれ多くなっている。また、30代では「見たことがある」が25.9%とほかの年代と比べて多くなっている。70代以上において無回答が多くなっている。

6 市公式 Twitter から

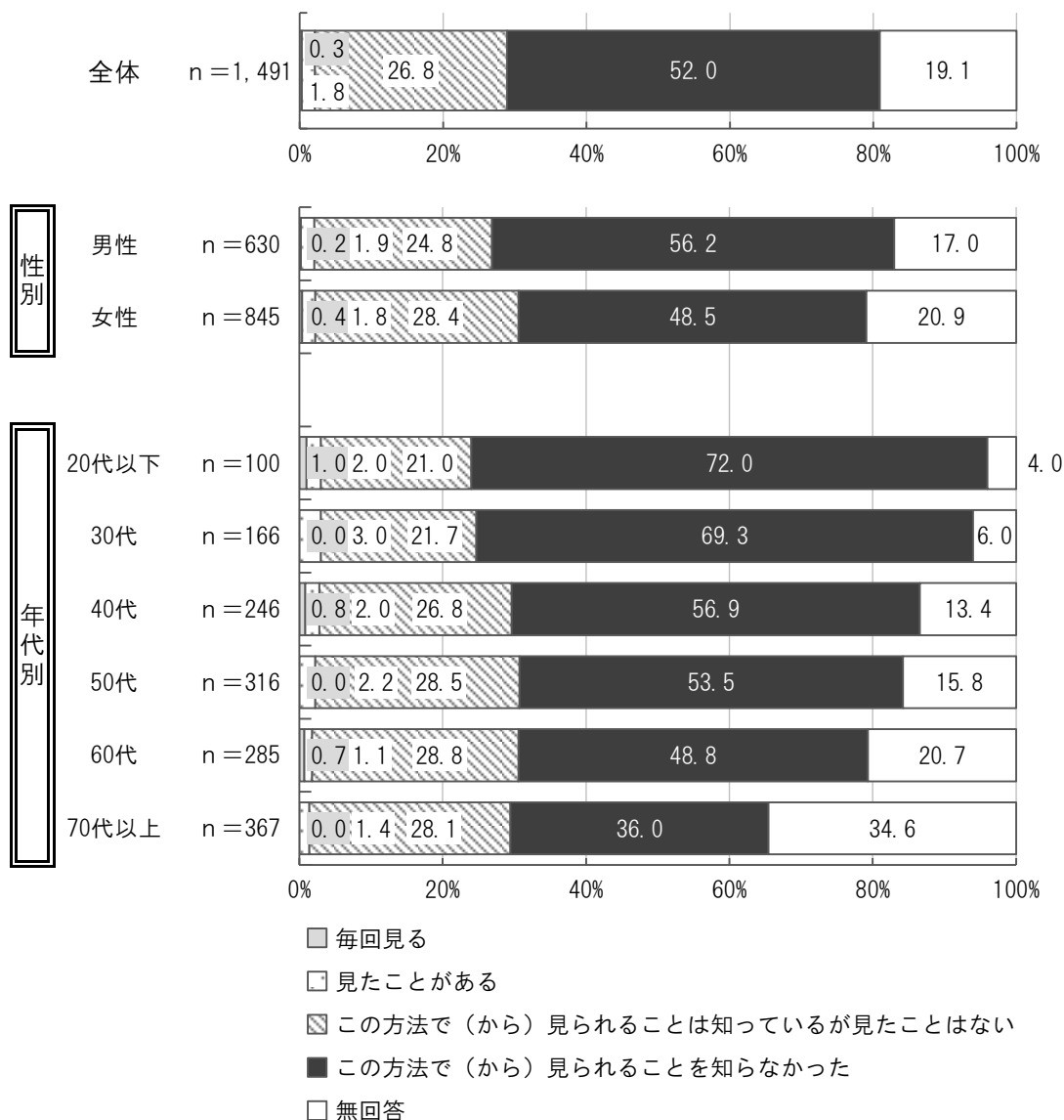


「市公式 Twitter から」の閲覧状況は、「この方法で（から）見られることを知らなかった」が 50.4%で最も多く、次いで「この方法で（から）見られることは知っているが見たことはない」が 28.0%となっている。

性別で見ると、どちらも「この方法で（から）見られることを知らなかった」が最も多く、男性は 54.3%と女性より多くなっている。

年代別では、大きな差異は見られないが、70代以上において無回答が多くなっている。

## 7 市公式 Facebook から

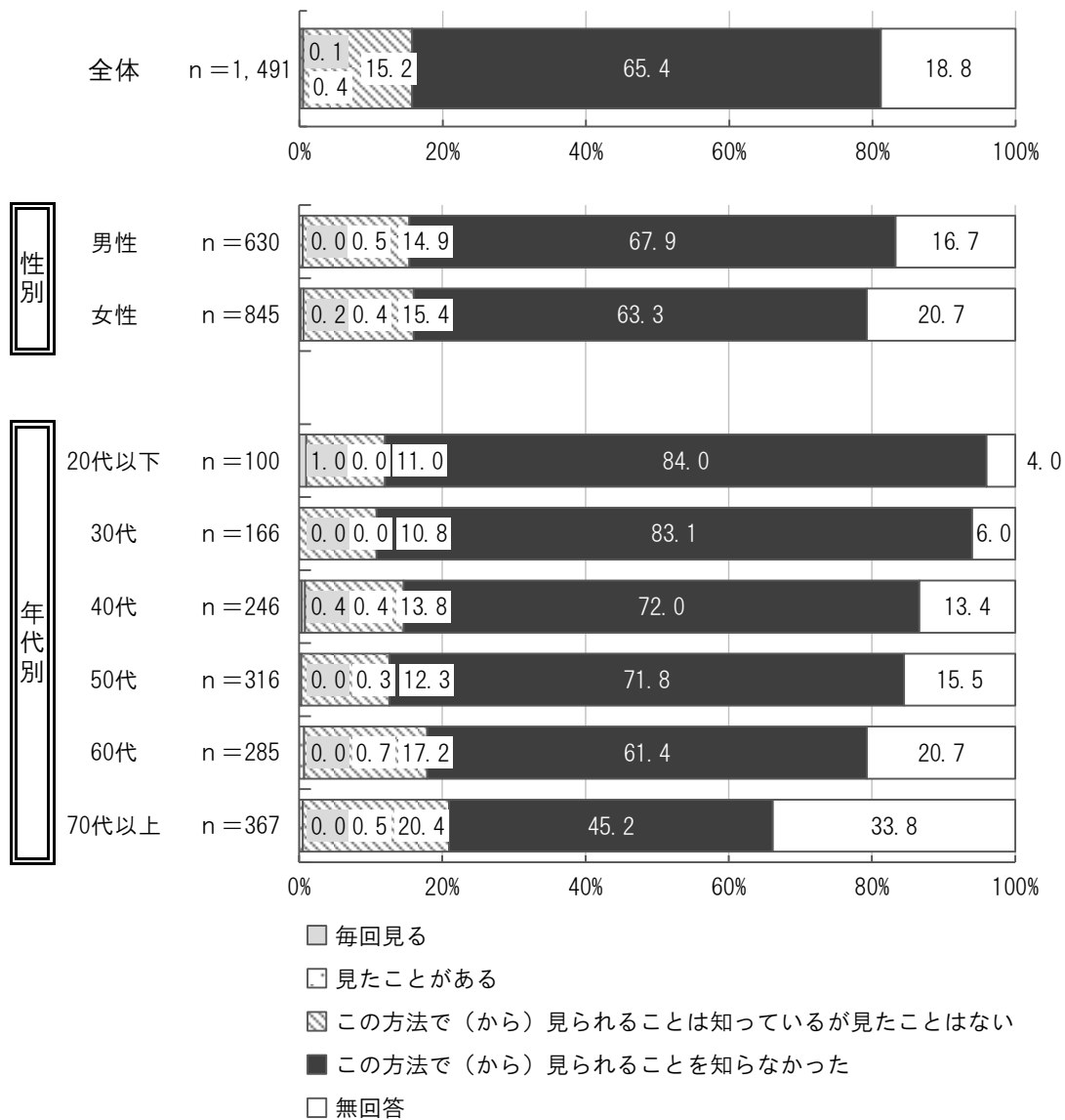


「市公式 Facebook から」の閲覧状況は、「この方法で（から）見られることを知らなかった」が52.0%で最も多く、次いで「この方法で（から）見られることは知っているが見たことはない」が26.8%となっている。

性別で見ると、どちらも「この方法で（から）見られることを知らなかった」が最も多く、男性は56.2%と女性より多くなっている。市公式 Twitter の結果と似ている。

年代別では、大きな差異は見られないが、70代以上において無回答が多くなっている。

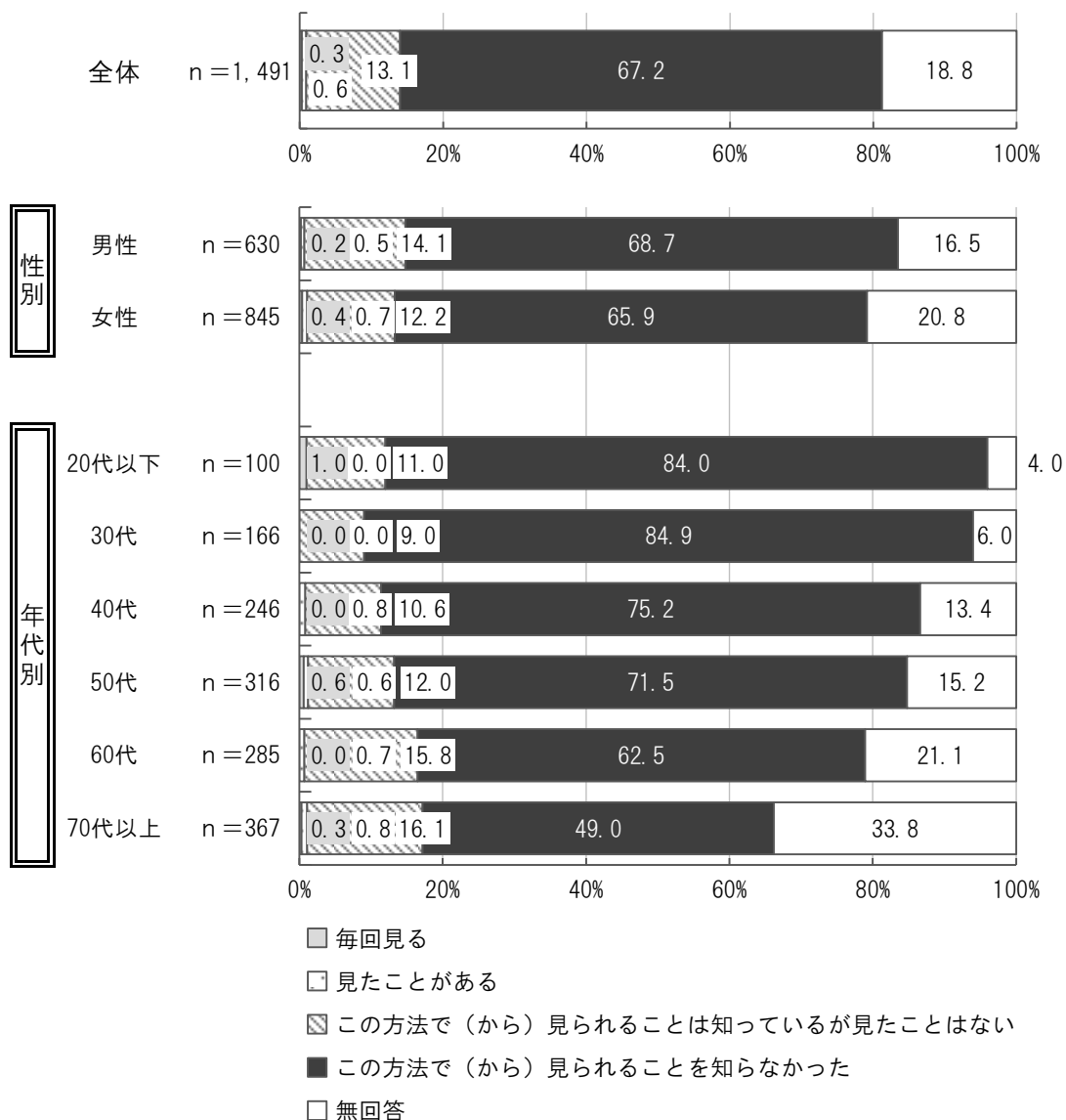
8 電子書籍「Shizuoka-ebooks」で



「電子書籍『Shizuoka-ebooks』で」の閲覧状況は、「この方法で（から）見られることを知らなかった」が 65.4%と最も多く、次いで「この方法で（から）見られることは知っているが見たことはない」が 15.2%となっている。

性別及び年代別で見ると、大きな差異は見られないが、70代以上において無回答が多くなっている。

## 9 無料行政情報アプリ「マチイロ」で



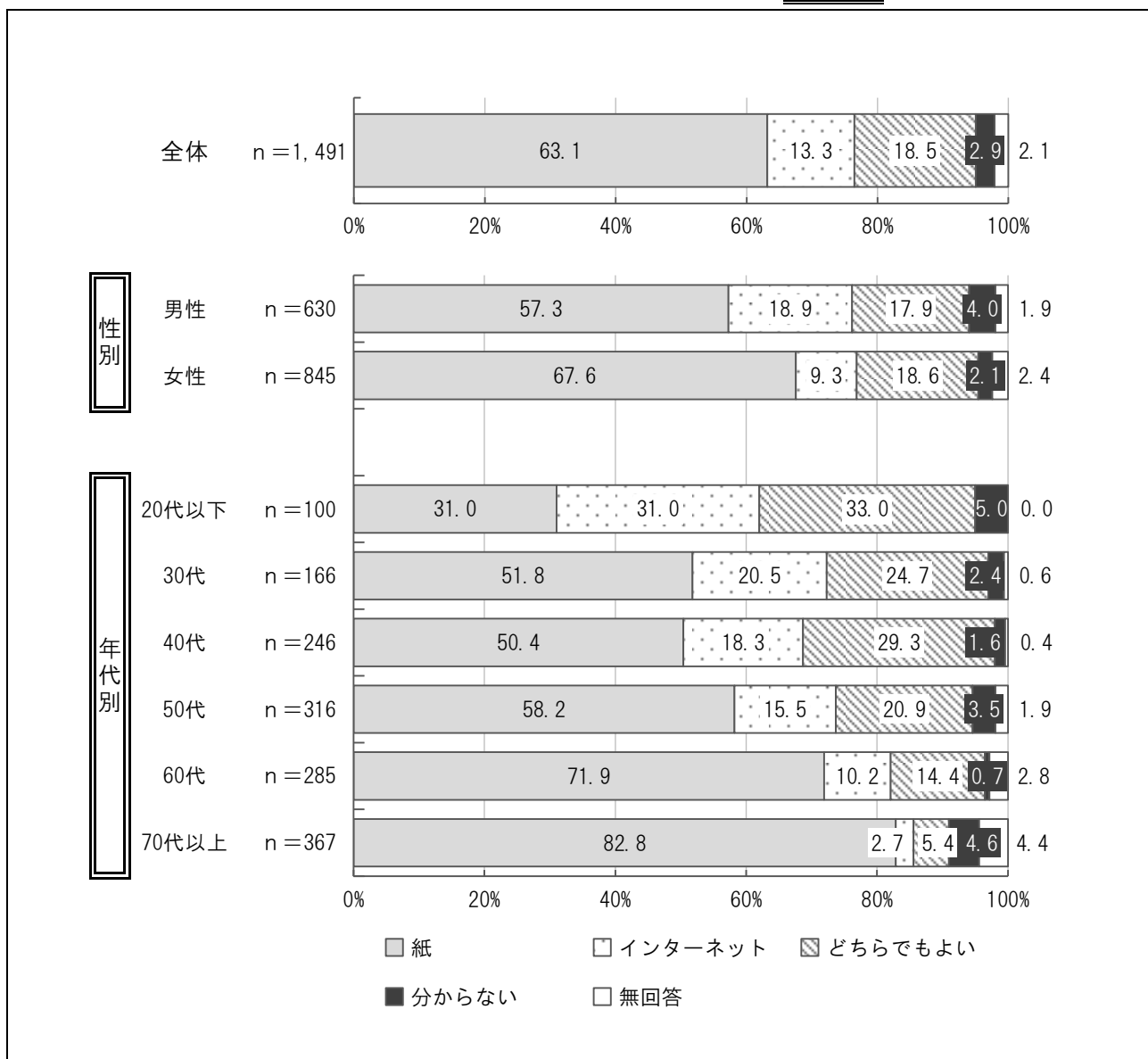
「無料行政情報アプリ『マチイロ』で」の閲覧状況は、「この方法で（から）見られることを知らなかった」が67.2%と最も多く、次いで「この方法で（から）見られることは知っているが見たことはない」が13.1%となっている。

性別及び年代別で見ると、大きな差異は見られないが、70代以上において無回答が多くなっている。

※「その他」の閲覧状況は、回答者数が少ないため、グラフとコメントの掲載は省略する。

(2) 「広報ふじ」を見る方法として希望するもの

問7 「広報ふじ」を見る方法として、希望するものを次の中から1つだけ選んでください。



「広報ふじ」を見る方法として希望するものは、「紙」が63.1%と最も多く、次いで「どちらでもよい」が18.5%、「インターネット」が13.3%となっている。

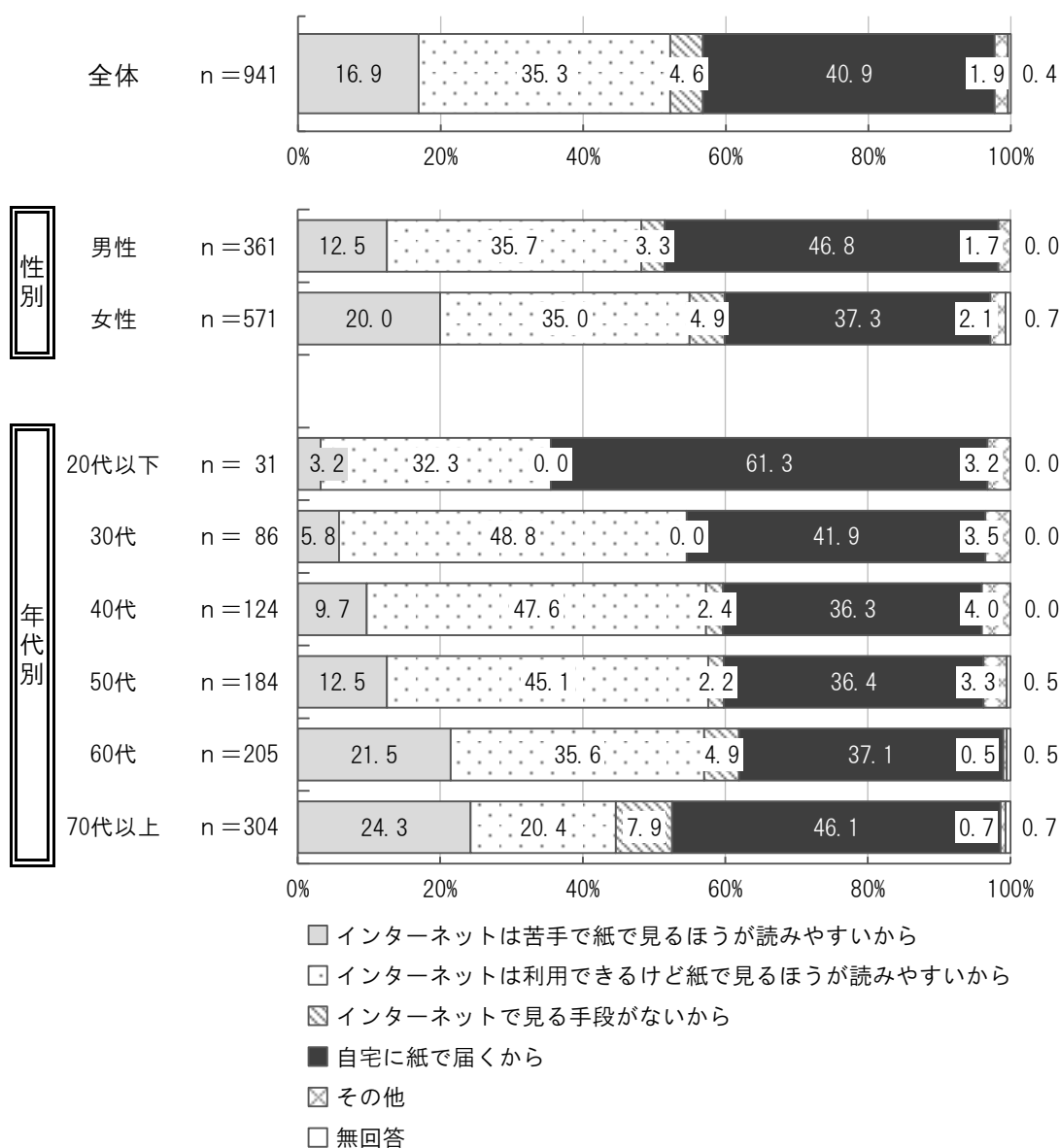
性別で見ると、女性において「紙」が67.6%と男性より多くなっている。男性においては「インターネット」が18.9%と女性の9.3%の約2倍となっている。

年代別では、20代以下において「インターネット」「紙」がそれぞれ31.0%と同じ割合となっている。70代以上においては「紙」が82.8%と多く、「インターネット」「どちらでもよい」が少なくなっている。また、年代が上がるごとに「紙」が、年代が下がるごとに「インターネット」「どちらでもよい」がおおむね多くなっている。



## (3) 「広報ふじ」を紙で見たい理由

## ■ 問7で「紙」と答えた人のみ

問7-1 その理由として最も近いものを次の中から1つだけ選んでください。

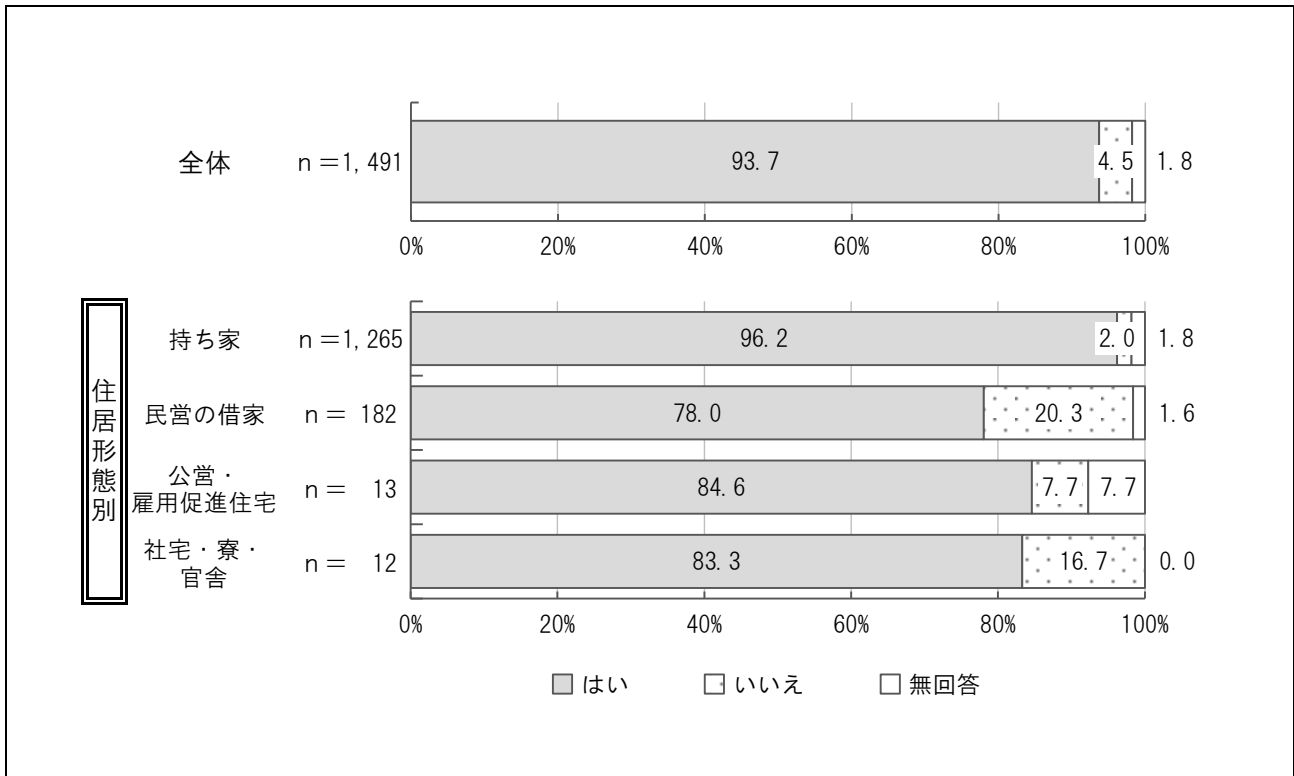
「広報ふじ」を紙で見たい理由は、「自宅に紙が届くから」が40.9%と最も多く、次いで「インターネットは利用できるけど紙で見たい方が読みやすいから」が35.3%、「インターネットは苦手で見たい方が読みやすいから」が16.9%となっている。

性別で見ると、男性において「自宅に紙が届くから」が46.8%と女性より多くなっている。女性においては「インターネットは苦手で見たい方が読みやすいから」が20.0%と男性より多くなっている。

年代別では、「自宅に紙が届くから」は、20代以下が61.3%と最も多く、70代以上・60代も各年代の中で最も多くなっている。「インターネットは利用できるけど紙で見たい方が読みやすいから」は、30代・40代・50代の各年代において最も多くなっている。また、年代が上がるごとに「インターネットは苦手で見たい方が読みやすいから」が多くなっている。30代～60代において、半数以上が紙で見たい方が読みやすいと回答している。

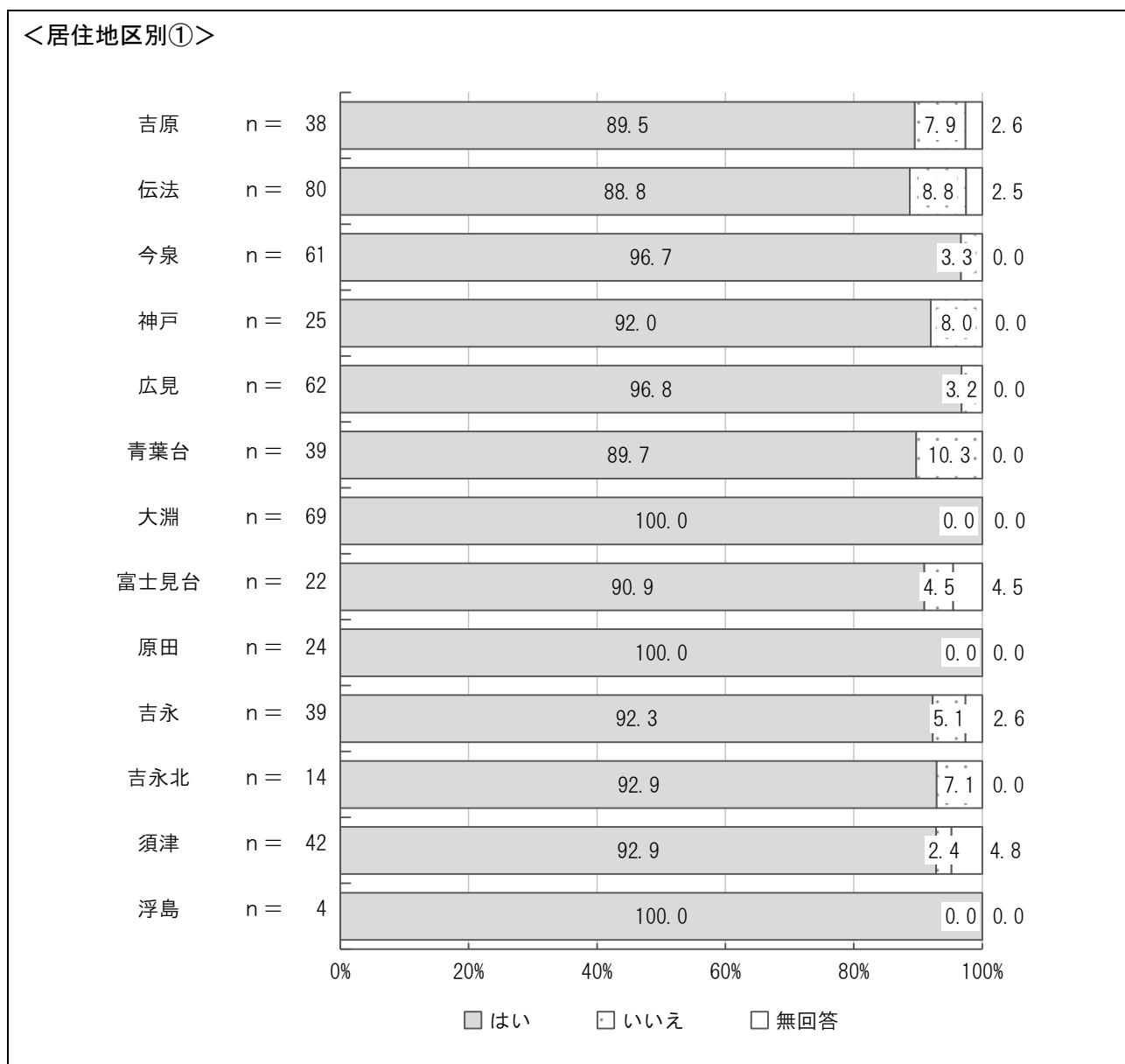
(4) 自宅に「広報ふじ」が届いているか

問8 ご自宅に「広報ふじ」は届いていますか。次の中から1つだけ選んでください。



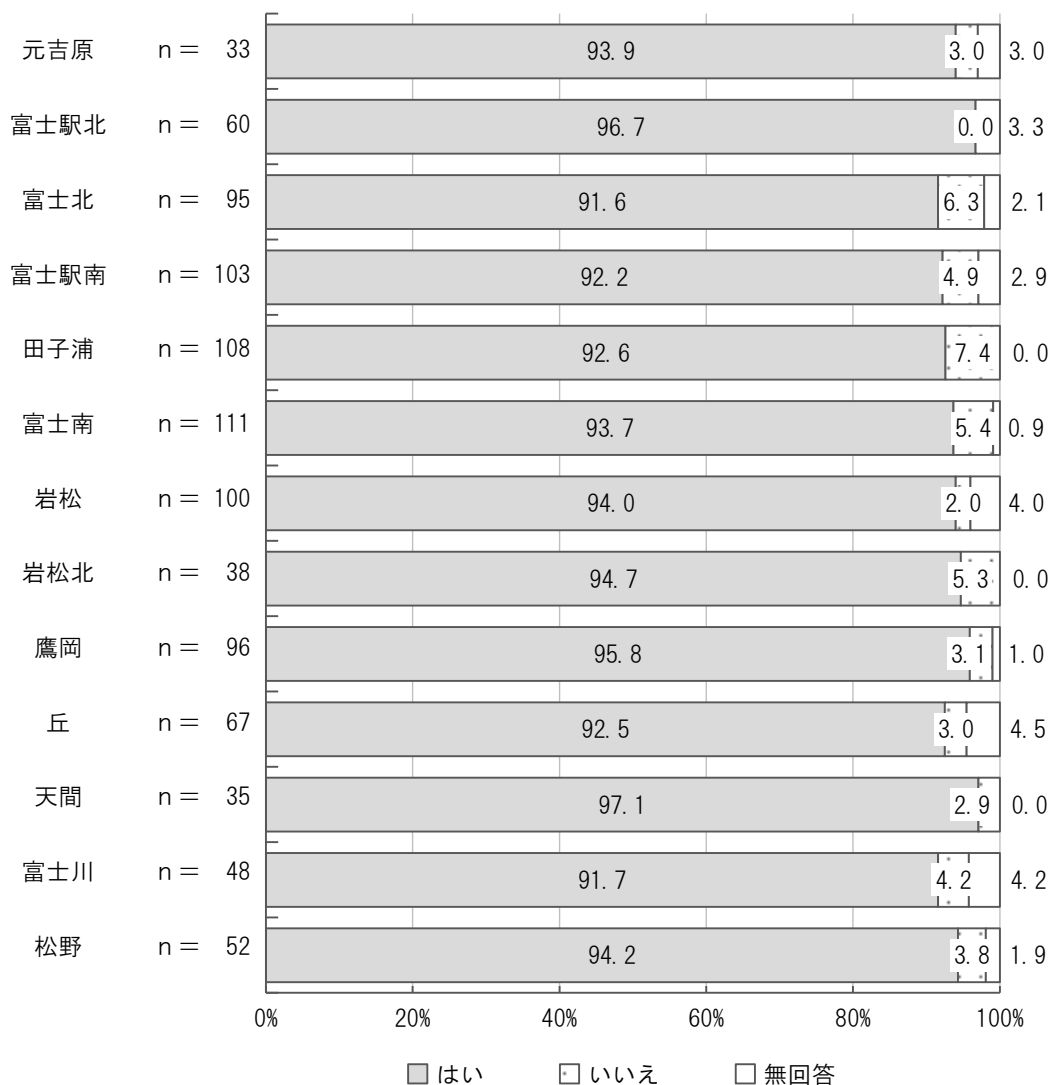
自宅に「広報ふじ」が届いているかについては、「はい」が93.7%、「いいえ」が4.5%となっている。

住居形態別で見ると、持ち家において「はい」が96.2%とほかに比べて多くなっている。



居住地区別では、ほとんどの地区において「はい」が9割以上を占めているが、吉原・伝法・青葉台においては9割を下回っている。

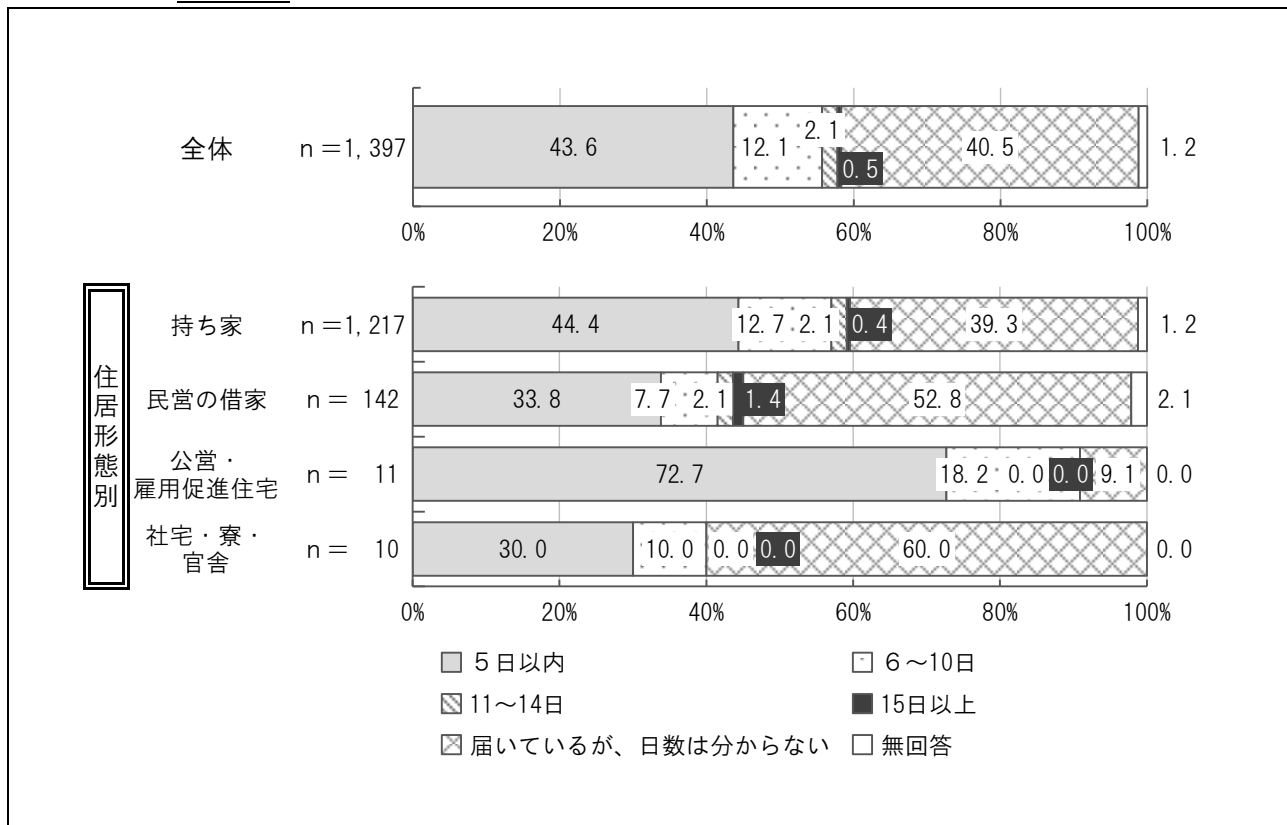
<居住地区別②>



(5) 「広報ふじ」が自宅に届くまでの日数

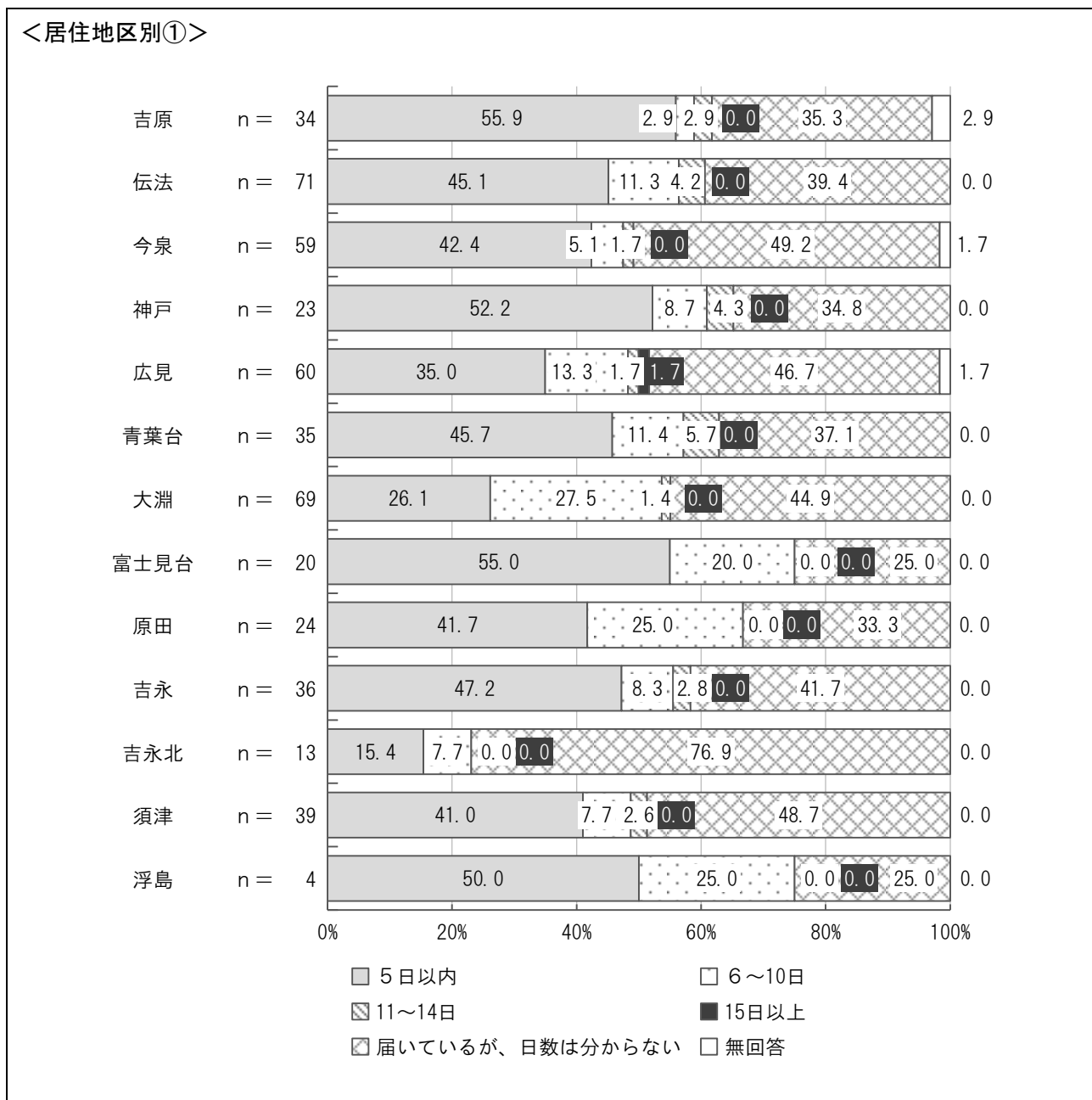
■ 問8で「はい」と答えた人のみ

問8-1 「広報ふじ」は、毎月5日と20日に発行し、町内会・区を通じて世帯配布しています。あなたのご自宅には、発行日から何日くらいで届いていますか。次の中から主なものを1つだけ選んでください。



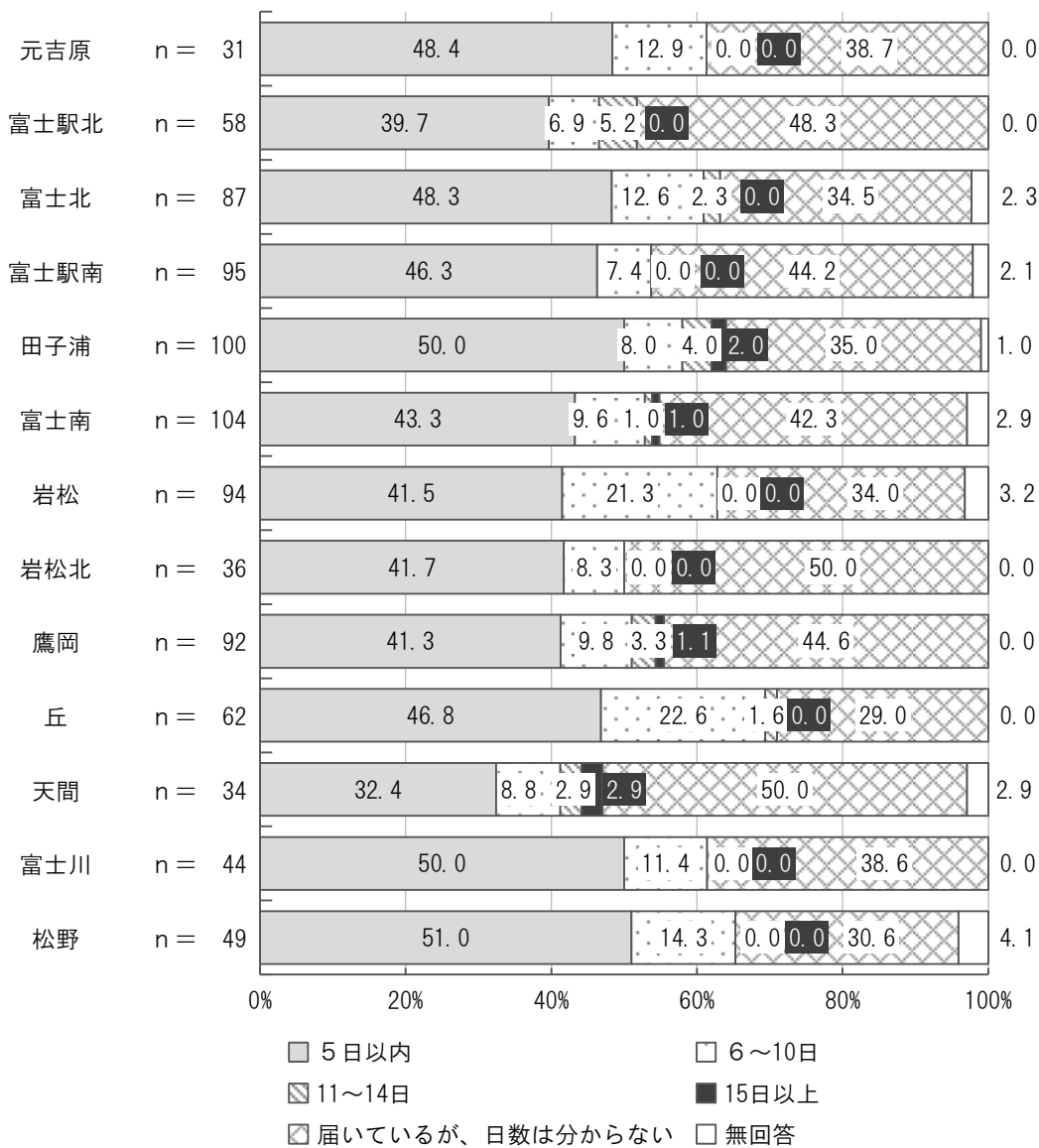
「広報ふじ」が自宅に届くまでの日数は、「5日以内」が43.6%と最も多く、次いで「6～10日」が12.1%、「11～14日」が2.1%となっている。一方、「届いているが、日数は分からない」は40.5%であった。

住居形態別で見ると、持ち家において「5日以内」が44.4%と多くなっている。民営の借家においては「届いているが、日数は分からない」が52.8%と多くなっている。



居住地区別では、吉原・神戸・富士見台・浮島・田子浦・富士川・松野において「5日以内」が半数以上を占めている。大淵・富士見台・原田・浮島・岩松・丘においては「6～10日以内」が2割以上となっている。

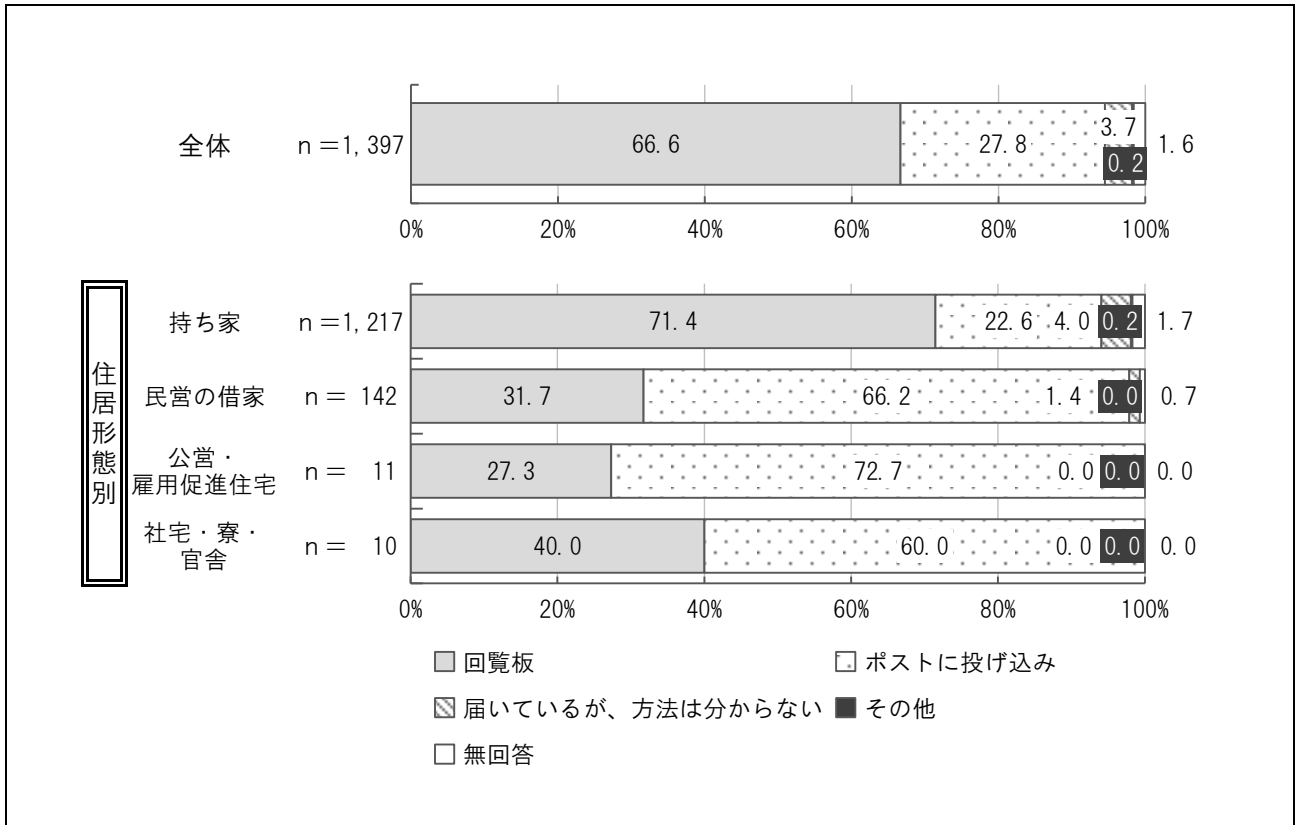
<居住地区別②>



(6) 「広報ふじ」が町内会・区を通じて世帯配布される方法

■ 問8で「はい」と答えた人のみ

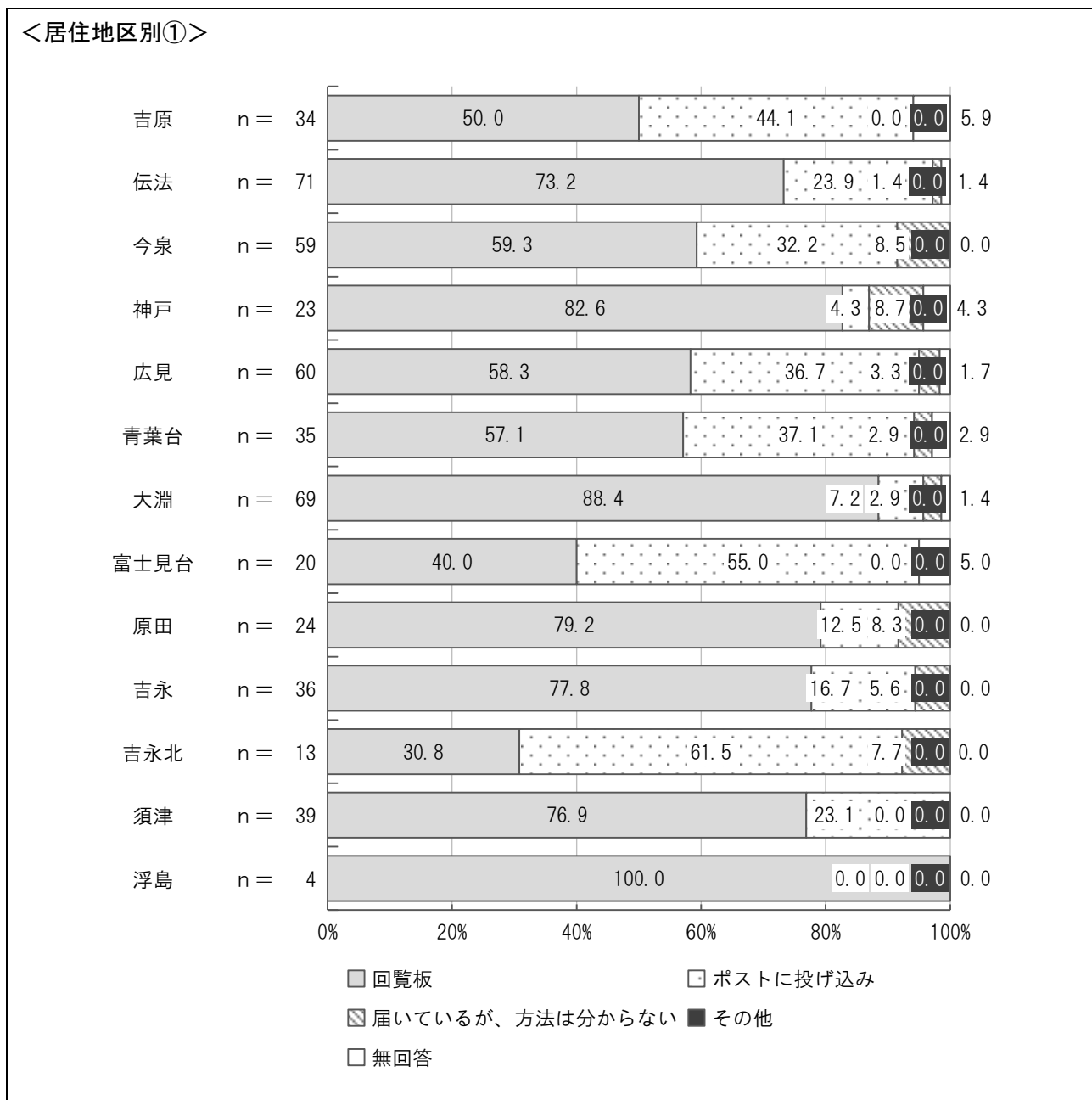
問8-2 町内会・区を通じて世帯配布される「広報ふじ」はどのような方法で届きますか。次の中から1つだけ選んでください。



「広報ふじ」が町内会・区を通じて世帯配布される方法は、「回覧板」が66.6%、「ポストに投げ込み」が27.8%となっている。一方、「届いているが、方法は分からない」は3.7%であった。

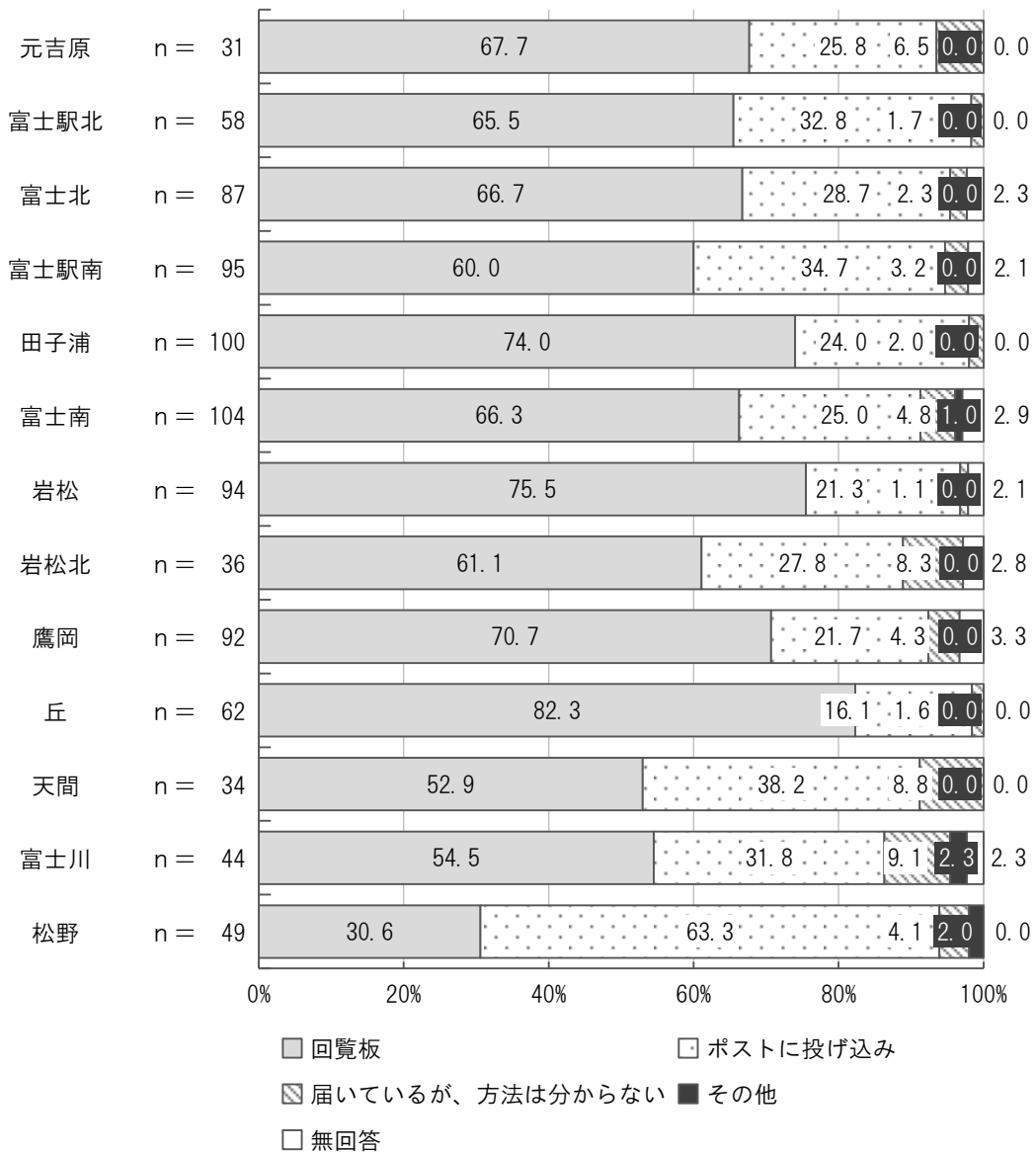
住居形態別で見ると、持ち家において「回覧板」が71.4%と多くなっている。民営の借家においては「ポストに投げ込み」が66.2%と多く、持ち家の約3倍となっている。





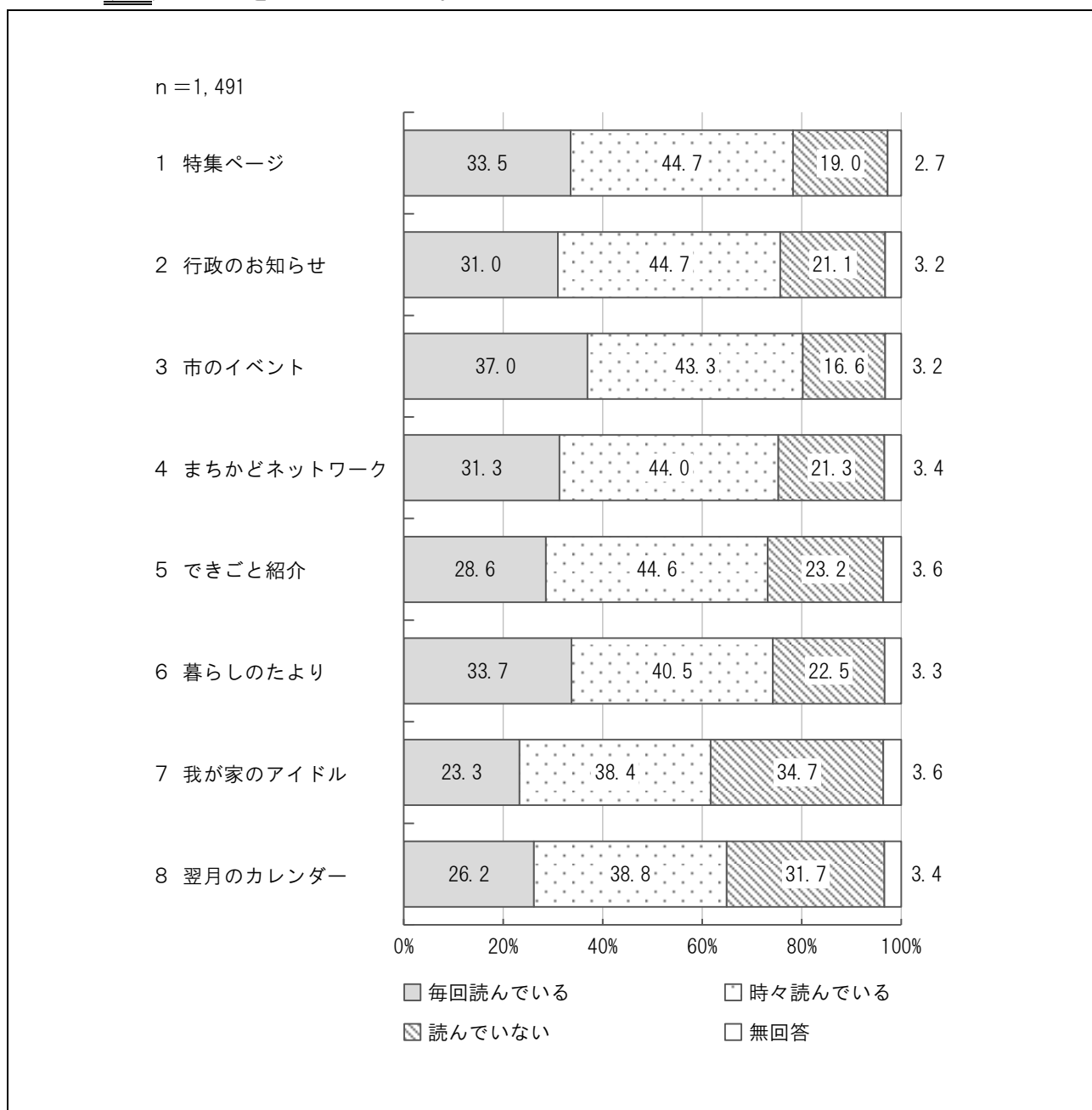
居住地区別では、神戸・大淵・浮島・丘において「回覧板」が8割を超えている。富士見台・吉永北・松野においては「ポストに投げ込み」が半数以上を占めている。

<居住地区別②>



## (7)「広報ふじ」の記事別閲覧状況

問9 あなたは「広報ふじ」をどの程度読んでいますか。それぞれの項目において近いものを1つずつ選んで○をつけてください。



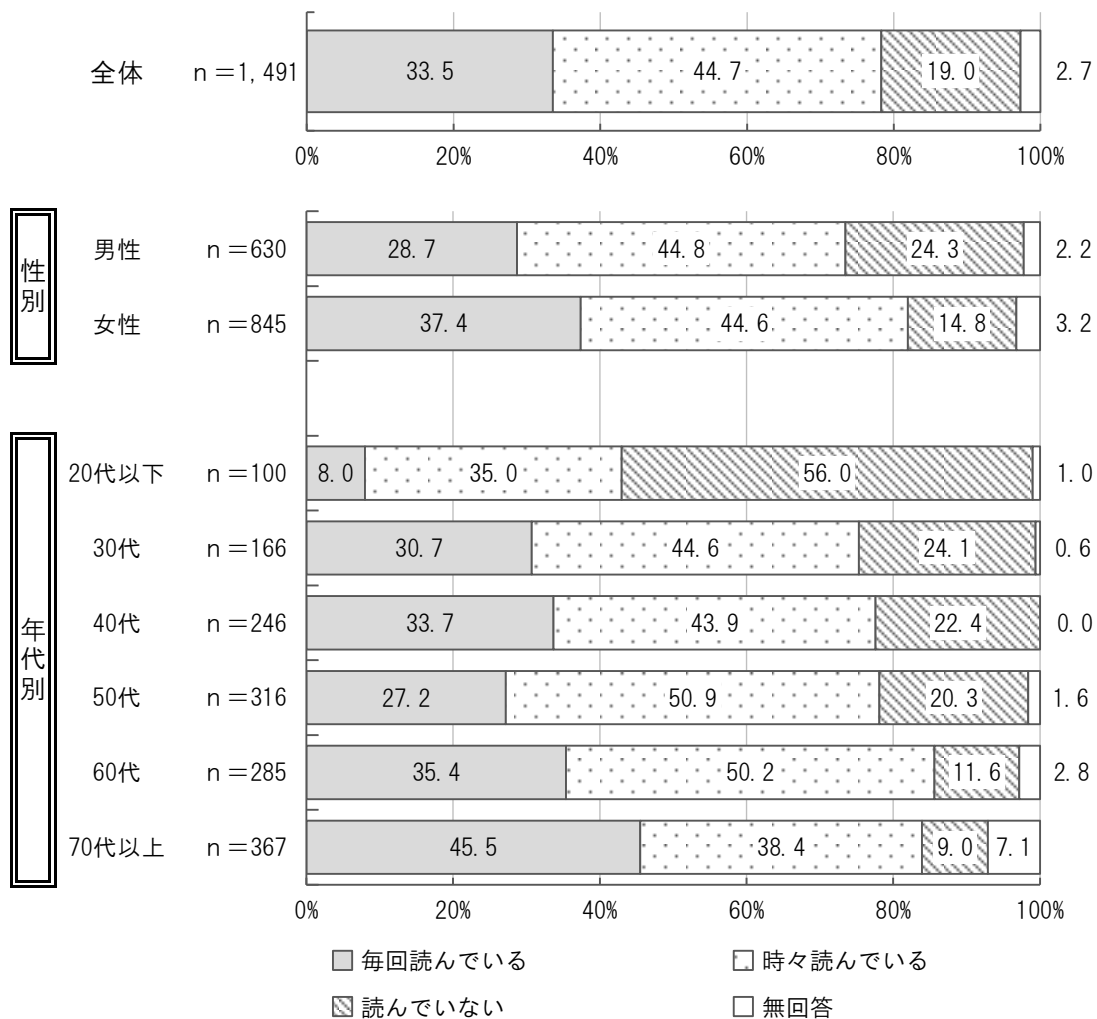
「広報ふじ」の記事別閲覧状況において、「毎回読んでいる」が多い記事は、「3 市のイベント」(37.0%)、「6 暮らしのたより」(33.7%)、「1 特集ページ」(33.5%)の順になっている。また、『読んでいる』(「毎回読んでいる」+「時々読んでいる」)が多い項目は、「3 市のイベント」(80.3%)、「1 特集ページ」(78.2%)、「2 行政のお知らせ」(75.7%)の順になっている。

一方、「読んでいない」が多い記事は、「7 我が家のアイドル」(34.7%)、「8 翌月のカレンダー」(31.7%)、「5 できごと紹介」(23.2%)の順になっている。

※以下、『読んでいる』は「毎回読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせたもの。

### 1 特集ページ

(インタビューや写真を交えて、市の特色や政策・業務などを 2～6 ページ程度で特集したもの)



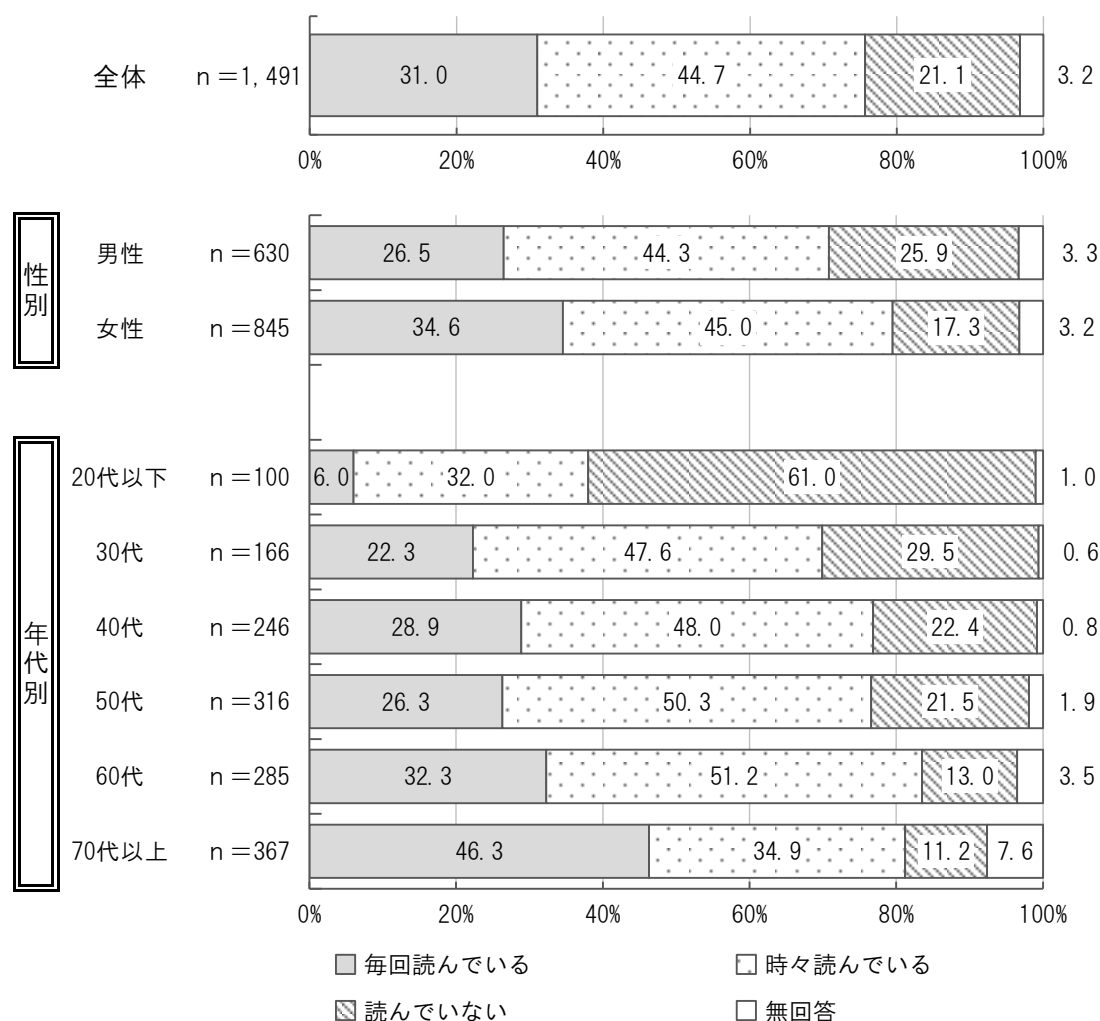
「特集ページ」の閲覧状況は、「毎回読んでいる」が 33.5%、「時々読んでいる」が 44.7%、「読んでいない」が 19.0%となっている。

性別で見ると、男性において「読んでいない」が 24.3%と女性より多くなっている。女性においては「毎回読んでいる」が 37.4%と男性より多くなっている。

年代別では、20代以下において「読んでいない」が 56.0%とほかの年代と比べて多く、「毎回読んでいる」が 8.0%と少なくなっている。70代以上においては「毎回読んでいる」が 45.5%と多く、ほかの年代と比べても多くなっている。60代・70代以上において『読んでいる』が 8割を超えている。

## 2 行政のお知らせ

(半ページや1ページで掲載している制度や計画など)



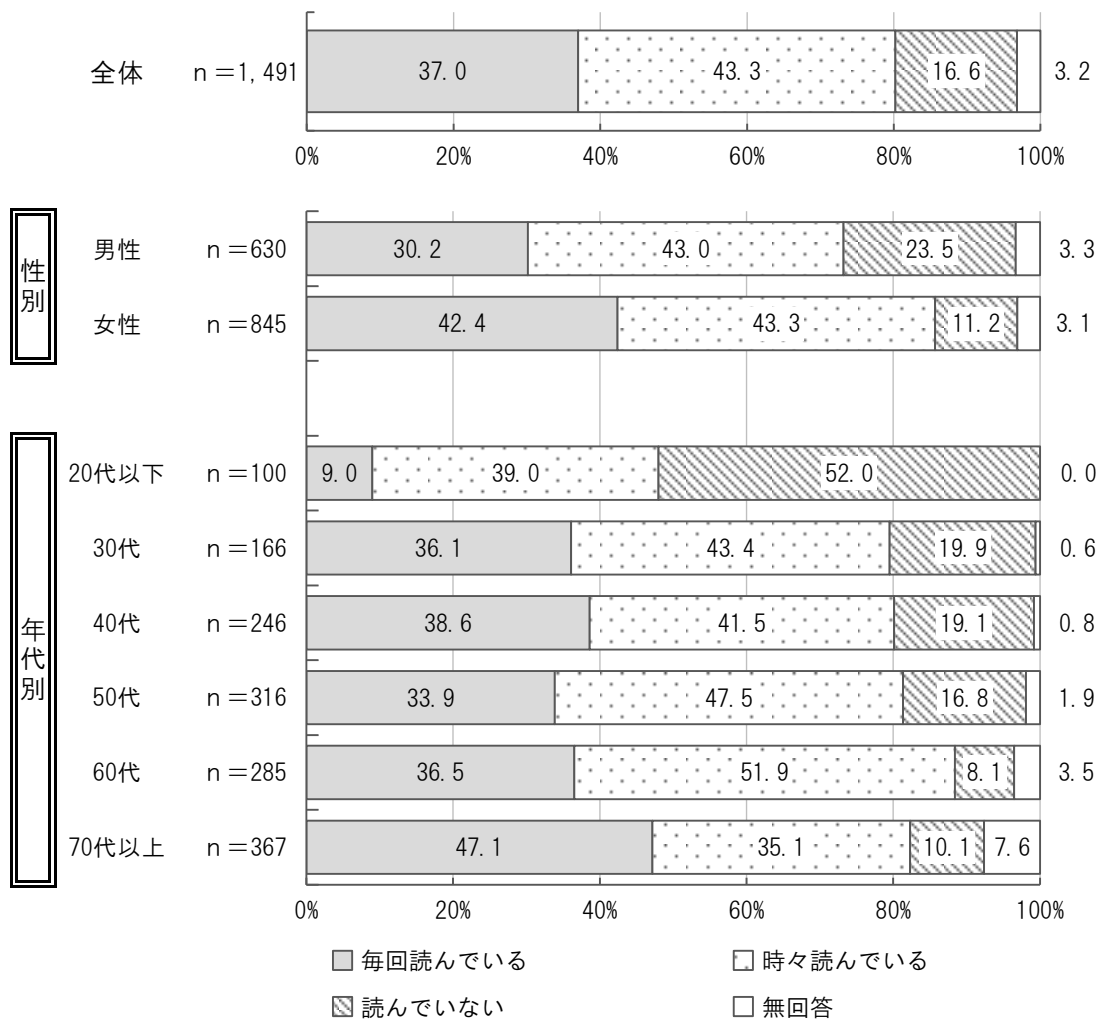
「行政のお知らせ」の閲覧状況は、「毎回読んでいる」が31.0%、「時々読んでいる」が44.7%、「読んでいない」が21.1%となっている。

性別で見ると、男性において「読んでいない」が25.9%と女性より多くなっている。女性においては「毎回読んでいる」が34.6%と男性より多くなっている。

年代別では、20代以下において「読んでいない」が61.0%とほかの年代と比べて多く、「毎回読んでいる」が6.0%と少なくなっている。70代以上においては「毎回読んでいる」が46.3%と多く、ほかの年代と比べても多くなっている。60代・70代以上において『読んでいる』が8割を超えている。

### 3 市のイベント

(半ページや1ページで掲載しているイベント情報)



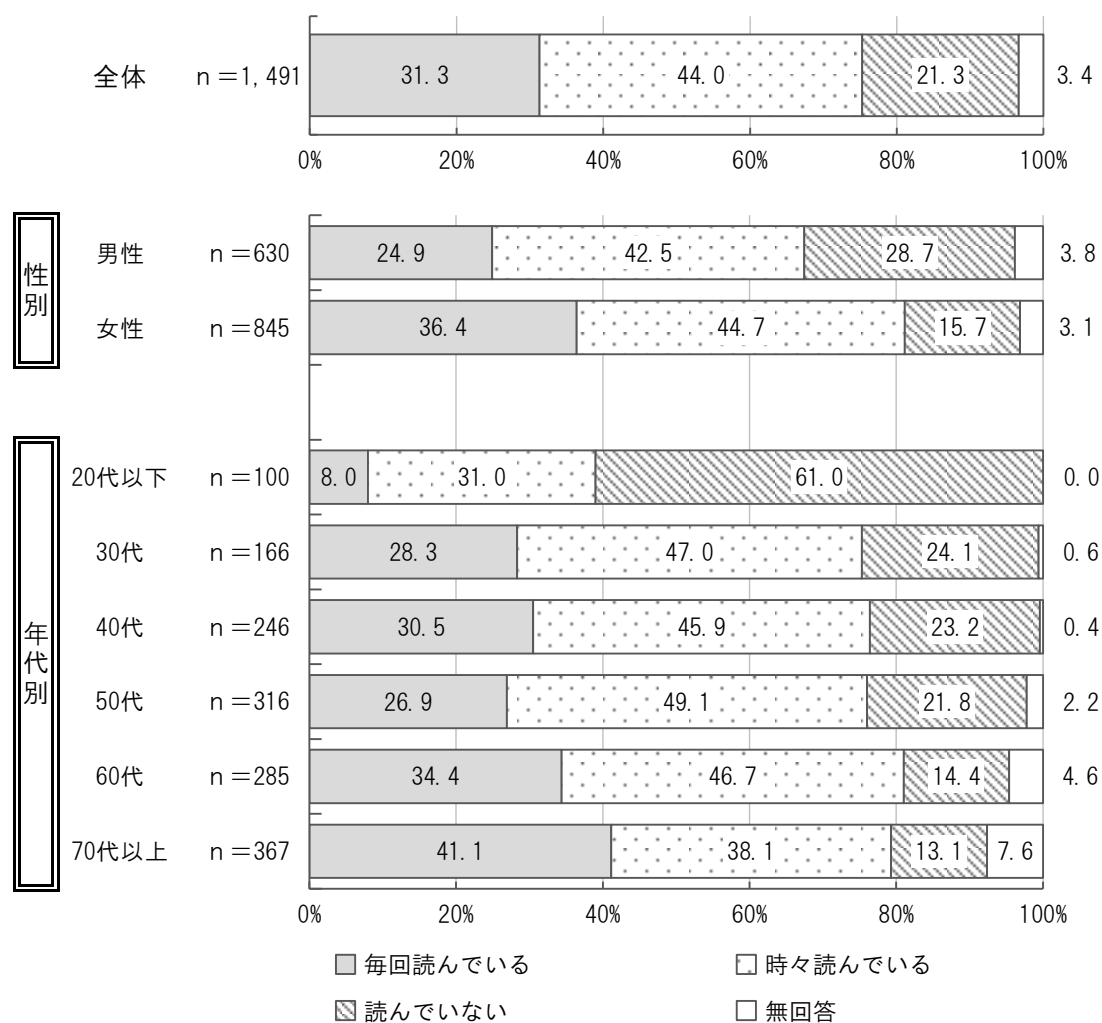
「市のイベント」の閲覧状況は、「毎回読んでいる」が37.0%、「時々読んでいる」が43.3%、「読んでいない」が16.6%となっている。

性別で見ると、男性において「読んでいない」が23.5%と女性より多くなっている。女性においては「毎回読んでいる」が42.4%と男性より多くなっている。

年代別では、20代以下において「読んでいない」が52.0%とほかの年代と比べて多く、「毎回読んでいる」が9.0%と少なくなっている。70代以上においては「毎回読んでいる」が47.1%と多くなっている。また、『読んでいます』は60代において88.4%と多く、次いで70代以上の82.2%となっている。

## 4 まちかどネットワーク

(人物やまちの話題、見頃・食べ頃なまちの魅力などを紹介)



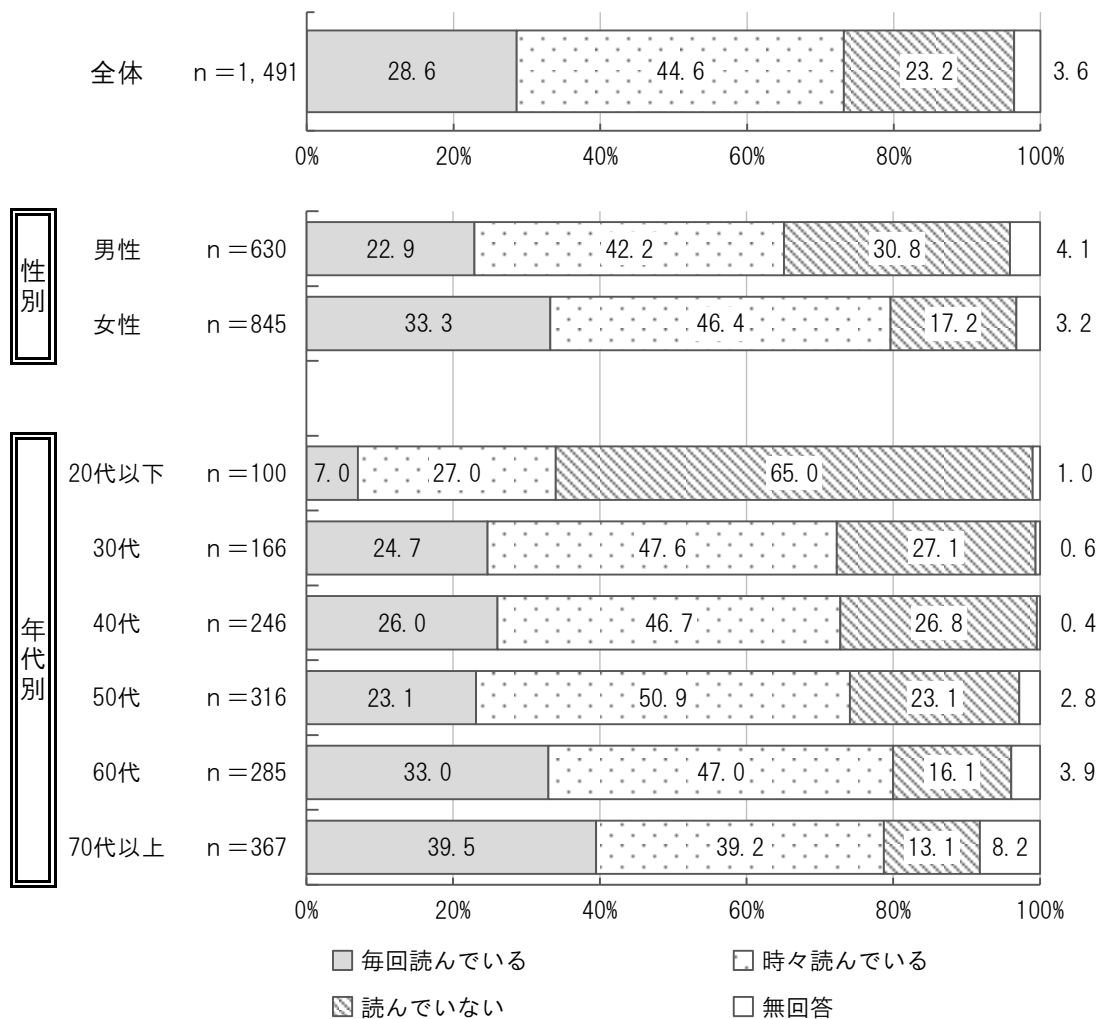
「まちかどネットワーク」の閲覧状況は、「毎回読んでいる」が31.3%、「時々読んでいる」が44.0%、「読んでいない」が21.3%となっている。

性別で見ると、男性において「読んでいない」が28.7%と女性より多くなっている。女性においては「毎回読んでいる」が36.4%と男性より多くなっている。

年代別では、20代以下において「読んでいない」が61.0%とほかの年代と比べて多く、「毎回読んでいる」が8.0%と少なくなっている。70代以上においては「毎回読んでいる」が41.1%と多くなっている。

## 5 できごと紹介

(写真と文章で前月のできごと(行事)を紹介)



「できごと紹介」の閲覧状況は、「毎回読んでいる」が28.6%、「時々読んでいる」が44.6%、「読んでいない」が23.2%となっている。

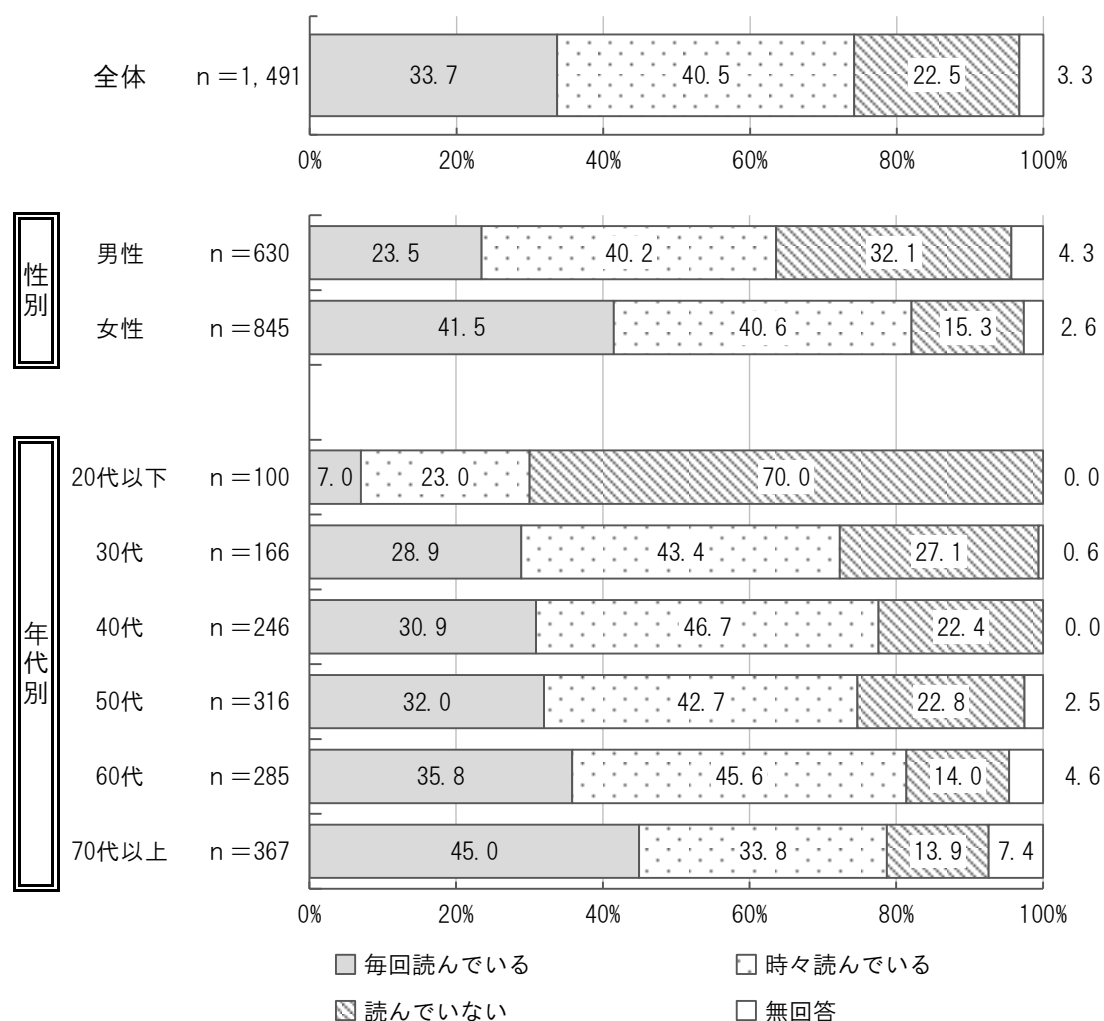
性別で見ると、男性において「読んでいない」が30.8%と女性より多くなっている。女性においては「毎回読んでいる」が33.3%と男性より多くなっている。

年代別では、20代以下において「読んでいない」が65.0%とほかの年代と比べて多く、「毎回読んでいる」が7.0%と少なくなっている。70代以上においては「毎回読んでいる」が39.5%と多くなっている。



## 6 暮らしのたより

(講座・教室の参加者募集、イベントなど様々なお知らせをコンパクトに紹介。毎号の後半に掲載)



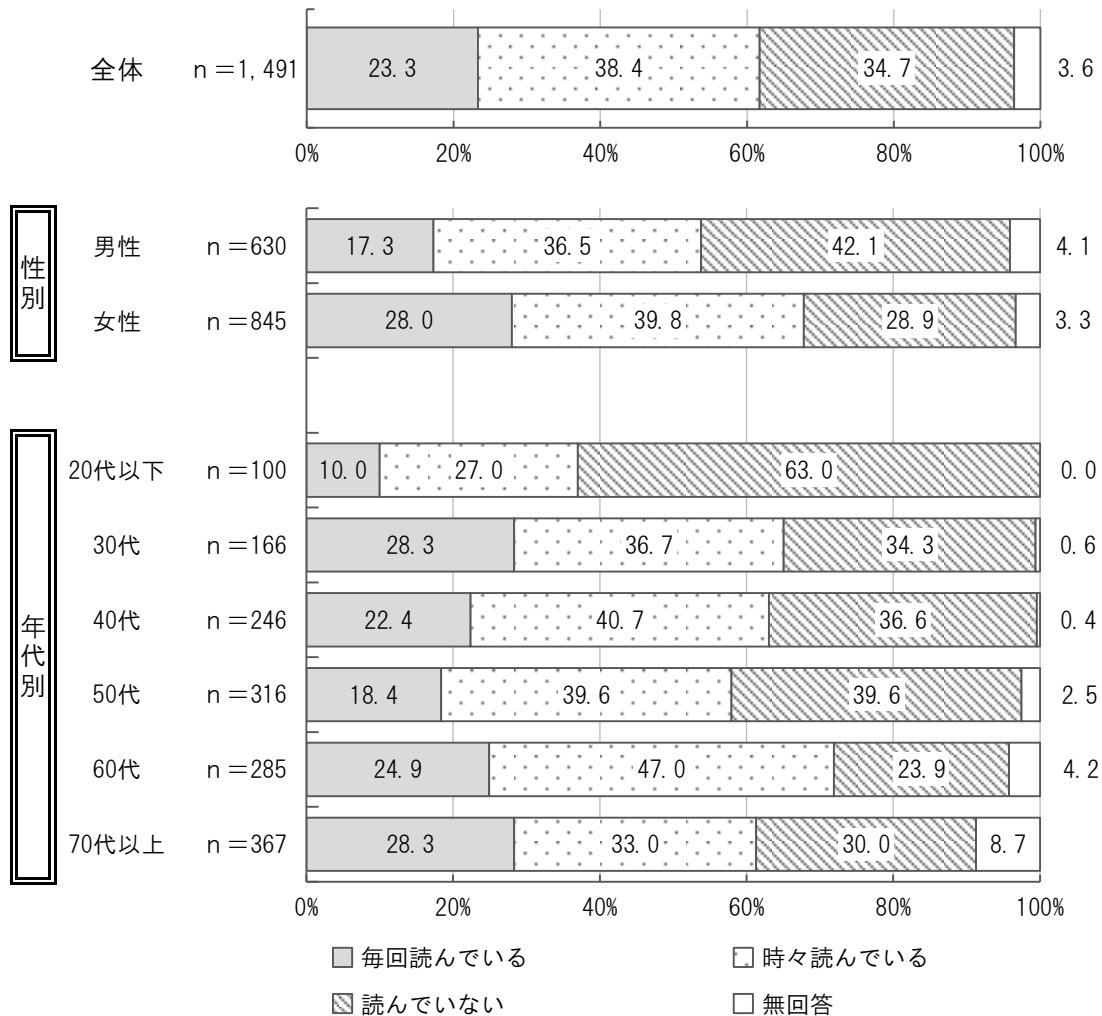
「暮らしのたより」の閲覧状況は、「毎回読んでいる」が33.7%、「時々読んでいる」が40.5%、「読んでいない」が22.5%となっている。

性別で見ると、男性において「読んでいない」が32.1%と女性より多くなっている。女性においては「毎回読んでいる」が41.5%と男性より多くなっている。

年代別では、20代以下において「読んでいない」が70.0%とほかの年代と比べて多く、「毎回読んでいる」が7.0%と少なくなっている。70代以上においては「毎回読んでいる」が45.0%と多くなっている。

## 7 我が家のアイドル

(市民から募集した子どもの写真を掲載)

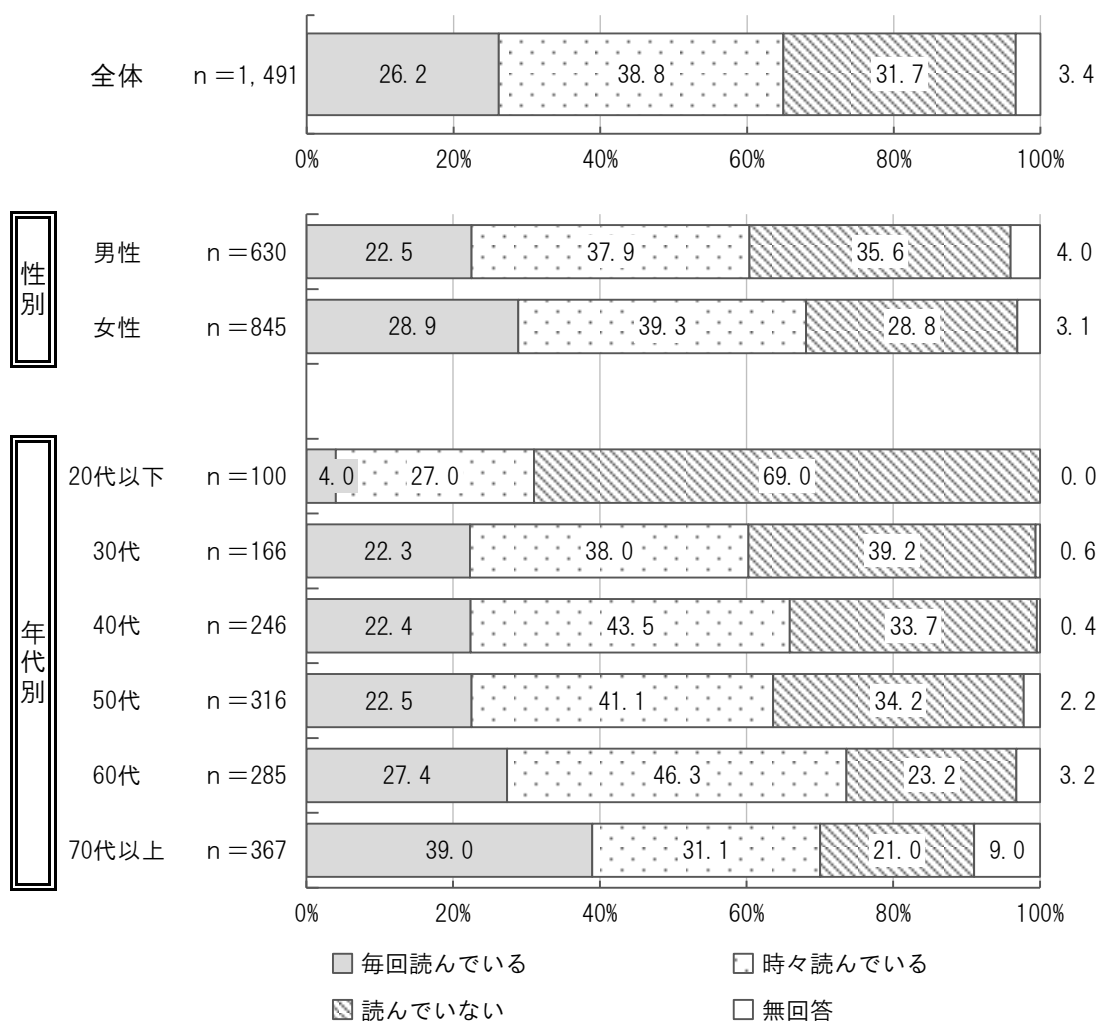


「我が家のアイドル」の閲覧状況は、「毎回読んでいる」が23.3%、「時々読んでいる」が38.4%、「読んでいない」が34.7%となっている。

性別で見ると、男性において「読んでいない」が42.1%と女性より多くなっている。女性においては「毎回読んでいる」が28.0%と男性より多くなっている。

年代別では、20代以下において「読んでいない」が63.0%とほかの年代と比べて多く、「毎回読んでいる」が少なくなっている。60代においては『読んでいる』が71.9%と多く、「読んでいない」が23.9%と少なくなっている。

## 8 翌月のカレンダー



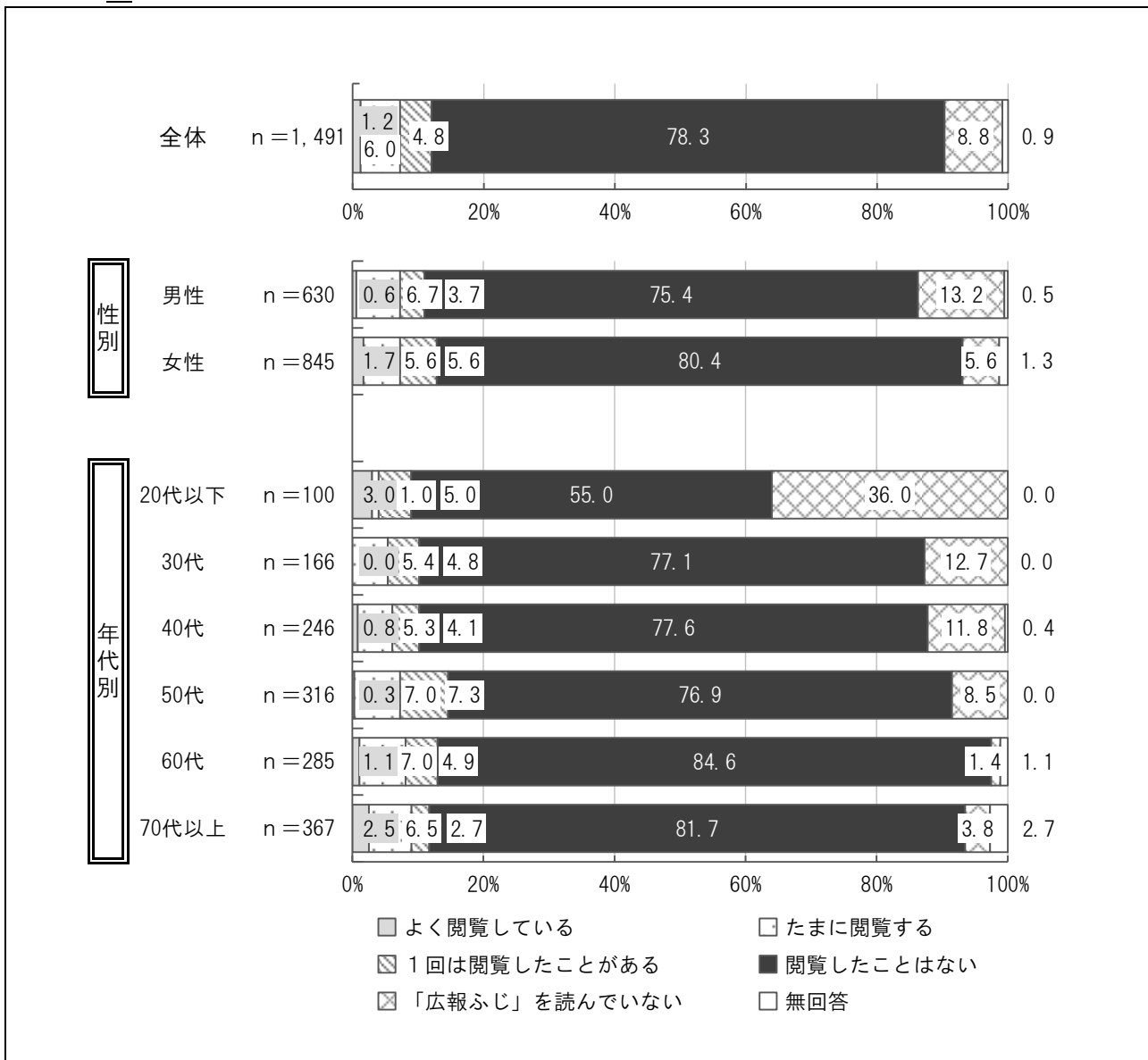
「翌月のカレンダー」の閲覧状況は、「毎回読んでいる」が26.2%、「時々読んでいる」が38.8%、「読んでいない」が31.7%となっている。

性別で見ると、男性において「読んでいない」が35.6%と女性より多くなっている。女性においては「毎回読んでいる」が28.9%と男性より多くなっている。

年代別では、20代以下において「読んでいない」が69.0%とほかの年代と比べて多く、「毎回読んでいる」が4.0%と少なくなっている。70代以上においては「毎回読んでいる」が39.0%と多くなっている。

(8) 「広報ふじ」のQRコードからの市ウェブサイト閲覧状況

問10 現在、QRコードを活用し、「広報ふじ」に掲載できなかった記事に関する詳しい内容を市ウェブサイトから見ていただくよう努めています。広報紙掲載内容よりもさらに詳しい情報を得るため、QRコードから市ウェブサイトを読んだことはありますか。次の中から1つだけ選んでください。



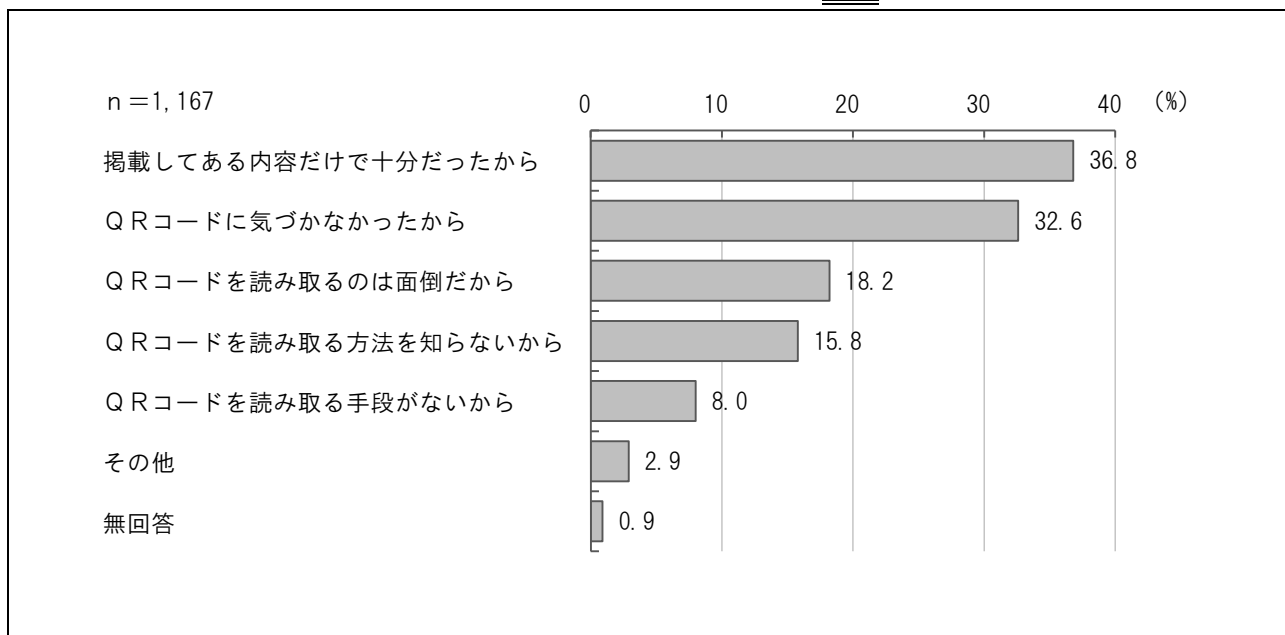
「広報ふじ」のQRコードからの市ウェブサイト閲覧状況は、「閲覧したことはない」が78.3%と最も多く、次いで「たまに閲覧する」が6.0%、「1回は閲覧したことがある」が4.8%となっている。一方、「『広報ふじ』を読んでいない」は8.8%であった。

性別で見ると、男性において「『広報ふじ』を読んでいない」が13.2%と女性より多くなっている。女性においては「閲覧したことはない」が80.4%と男性より多くなっている。

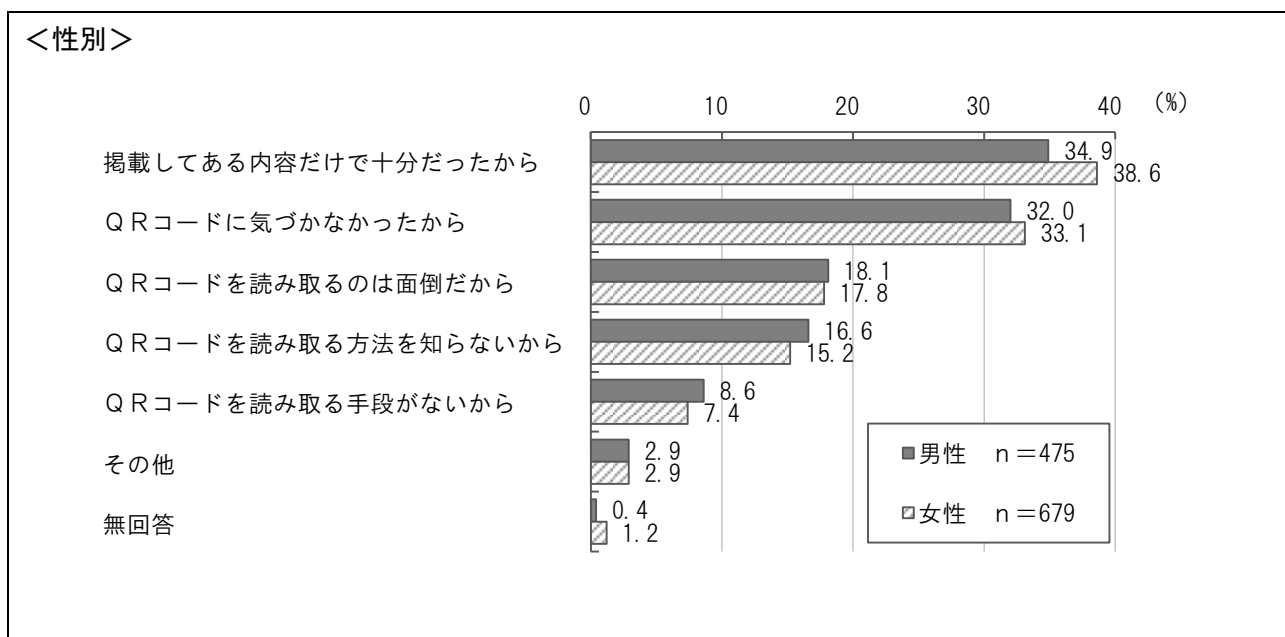
年代別では、20代以下において「『広報ふじ』を読んでいない」が36.0%とほかの年代と比べて多く、「閲覧したことはない」が55.0%と少なくなっている。

## (9) QRコードから市ウェブサイトを開覧したことがない理由

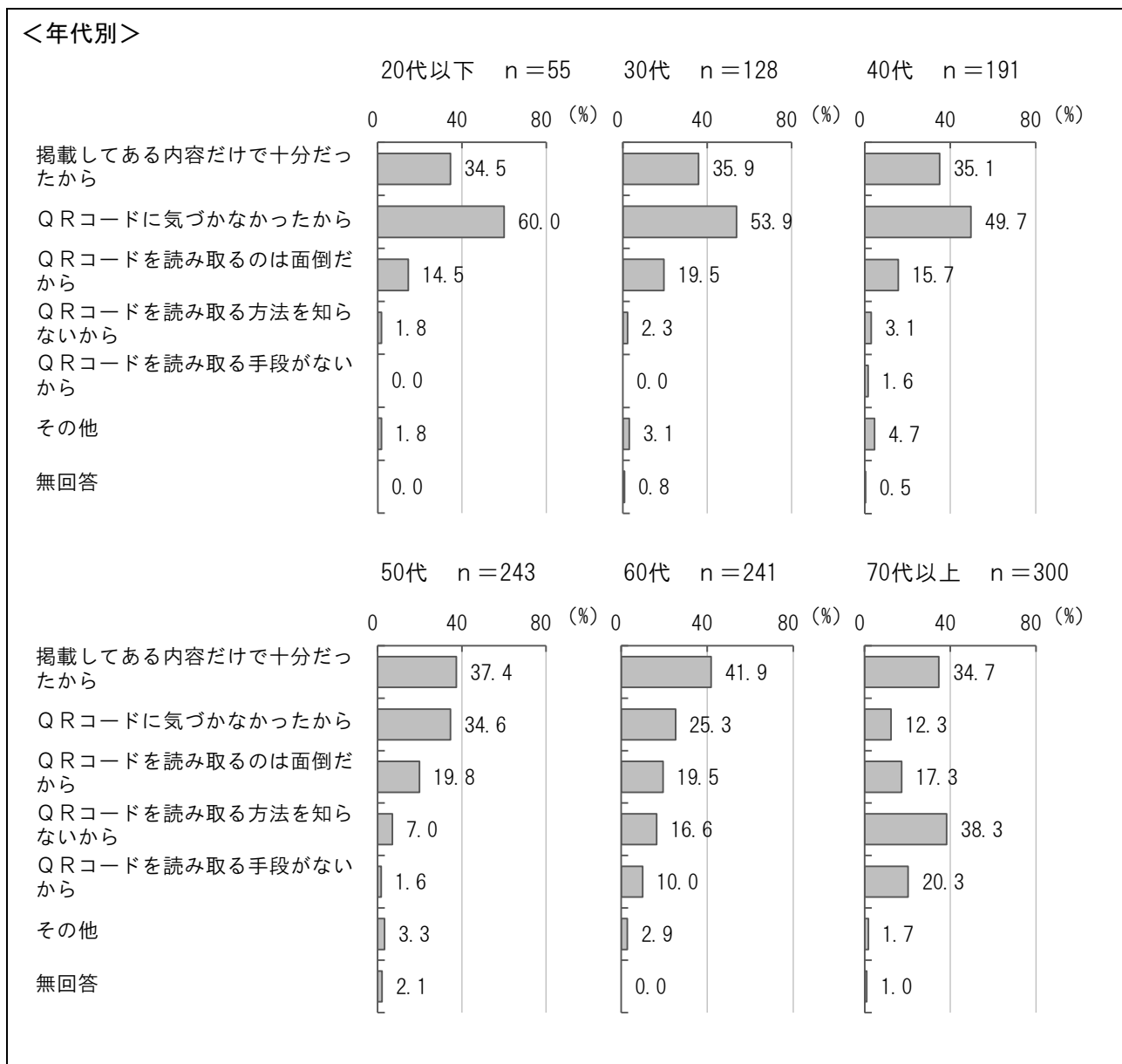
## ■ 問10で「閲覧したことはない」と答えた人のみ

問10-1 その理由は何ですか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。

QRコードから市ウェブサイトを開覧したことがない理由は、「掲載してある内容だけで十分だったから」が36.8%と最も多く、次いで「QRコードに気づかなかったから」が32.6%、「QRコードを読み取るのは面倒だから」が18.2%となっている。



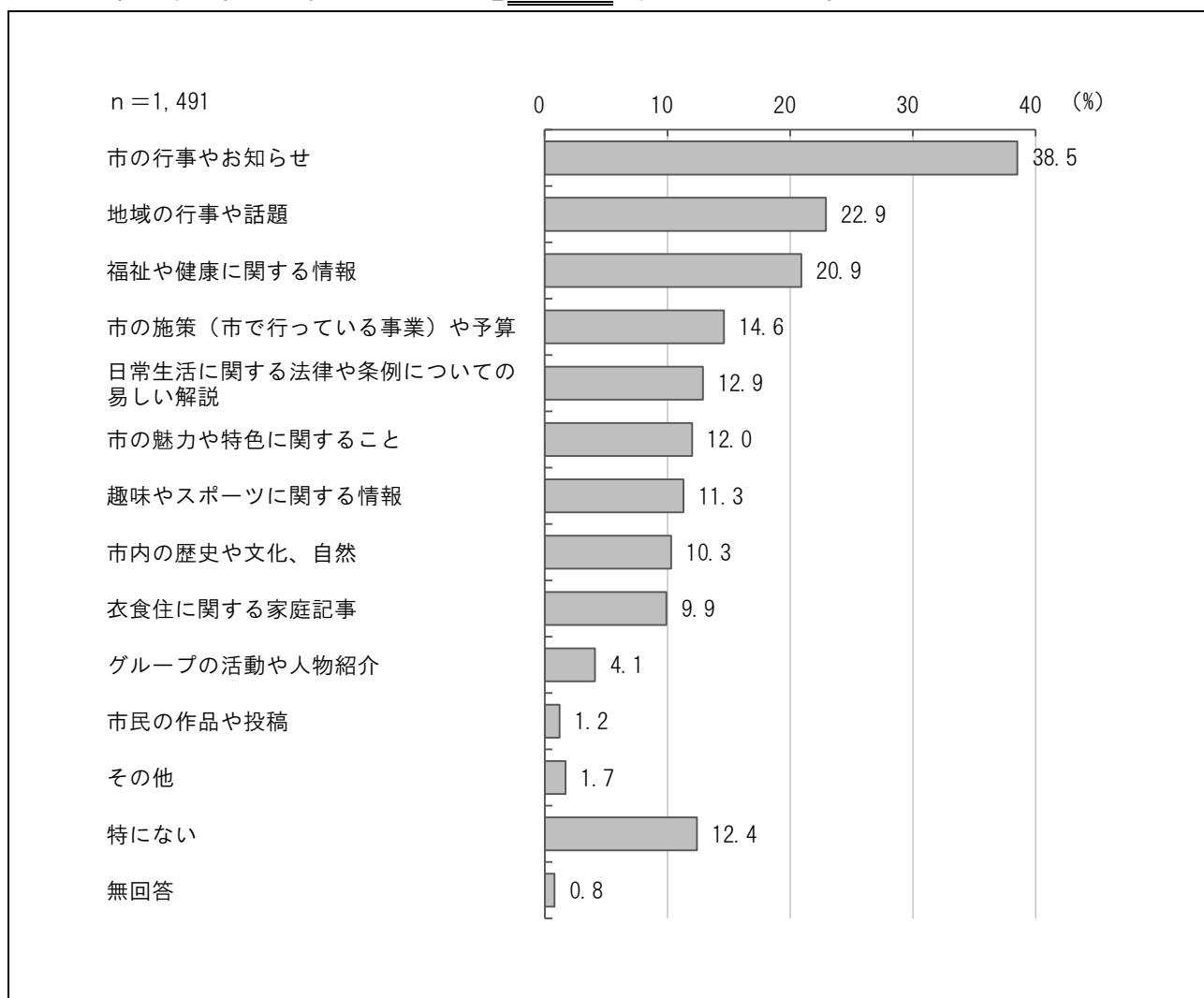
性別で見ると、大きな差異は見られない。



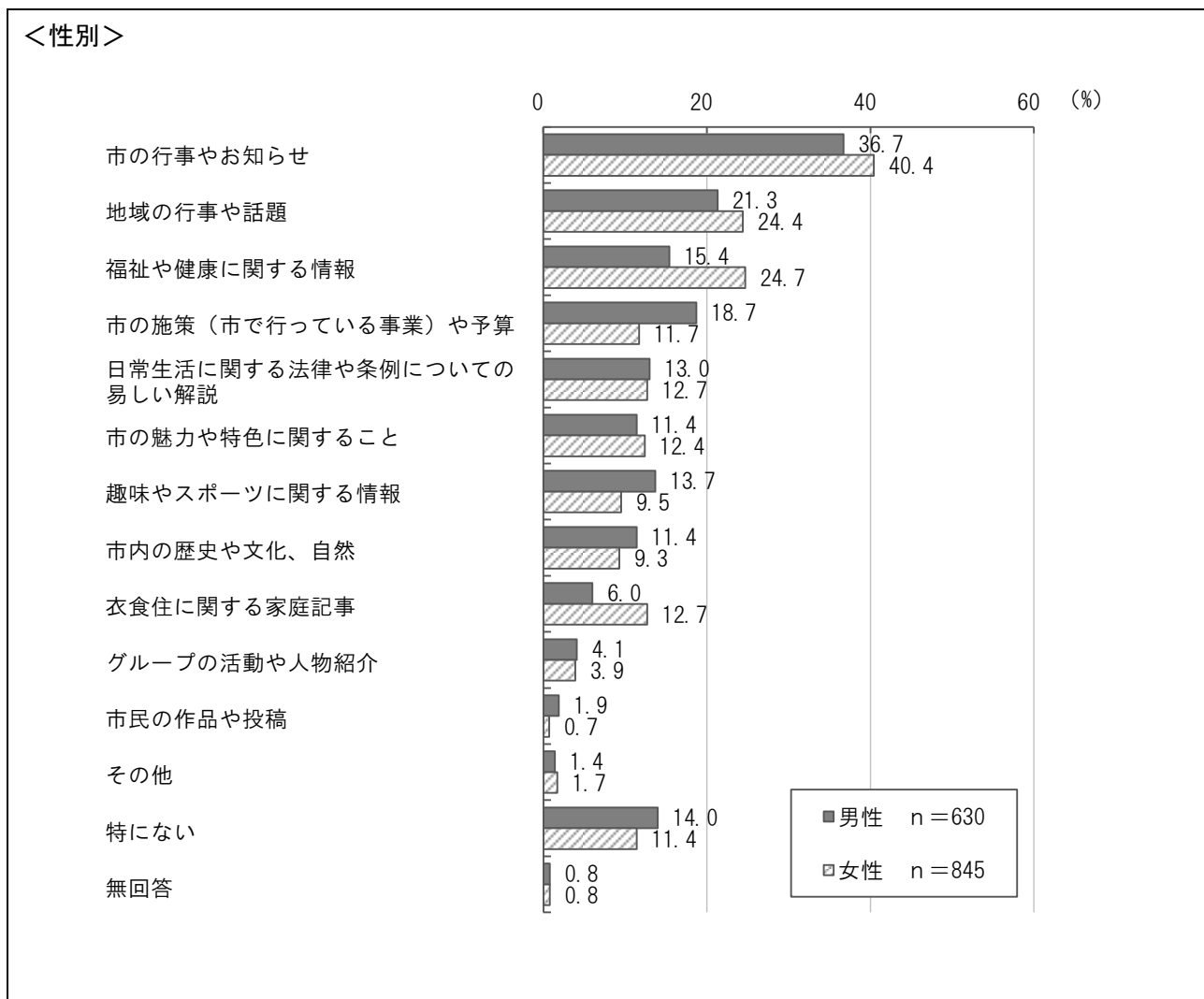
年代別では、「QRコードに気づかなかったから」は20代以下・30代・40代の各年代において最も多くなっている。50代・60代においては「掲載してある内容だけで十分だったから」が最も多く、70代以上においては「QRコードを読み取る方法を知らないから」が38.3%と最も多くなっており、ほかの年代と比べ「QRコードを読み取る手段がないから」は多く、「QRコードに気づかなかったから」が12.3%と少なくなっている。

## (10) 今後「広報ふじ」で特に知りたい、または取り上げてほしいと思うこと

問11 あなたが、今後「広報ふじ」で特に知りたいと思うことや、取り上げてほしいと思うことは何ですか。次の中から主なものを2つ以内で選んでください。

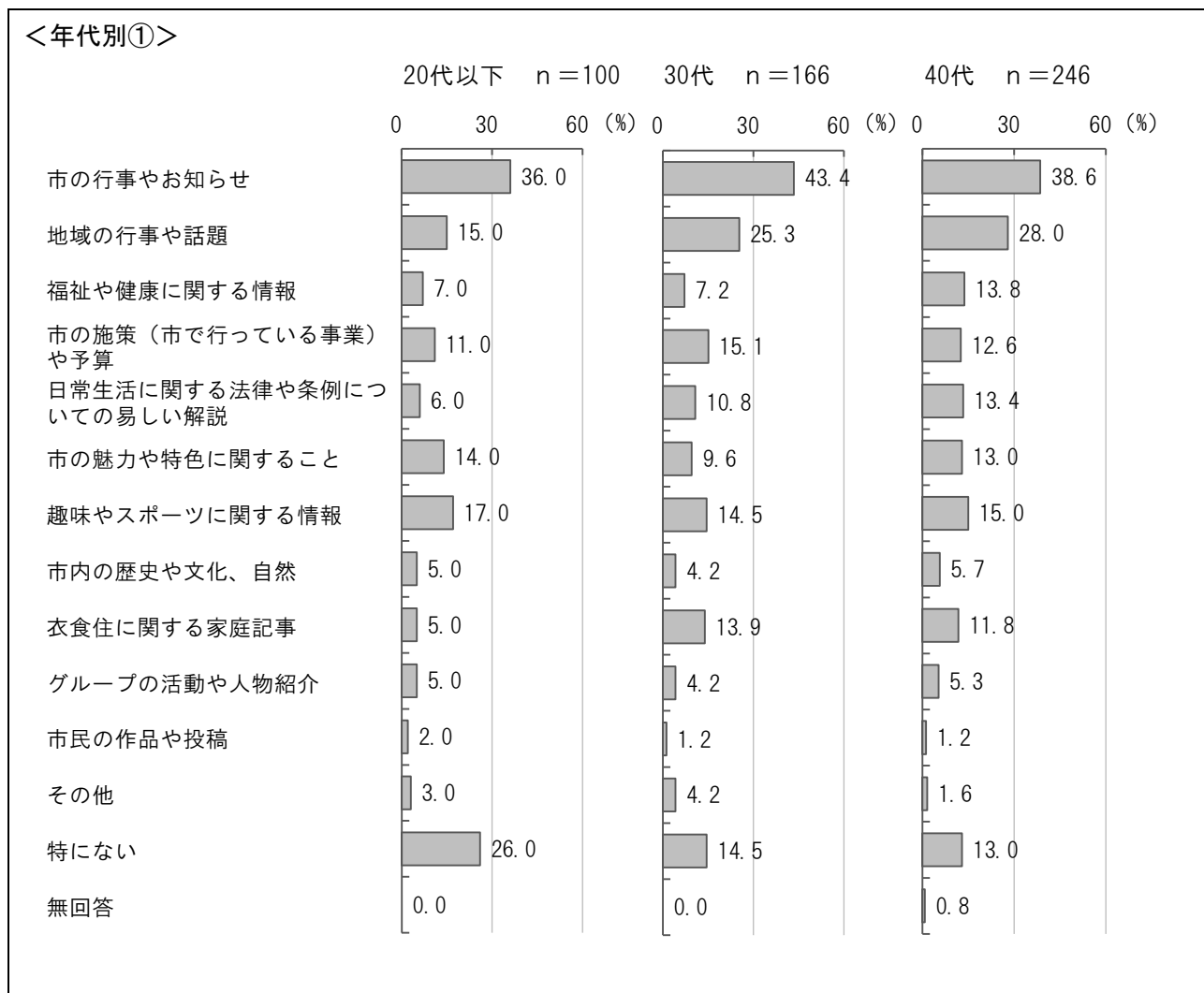


今後「広報ふじ」で特に知りたい、または取り上げてほしいと思うことは、「市の行事やお知らせ」が38.5%と最も多く、次いで「地域の行事や話題」が22.9%、「福祉や健康に関する情報」が20.9%となっている。

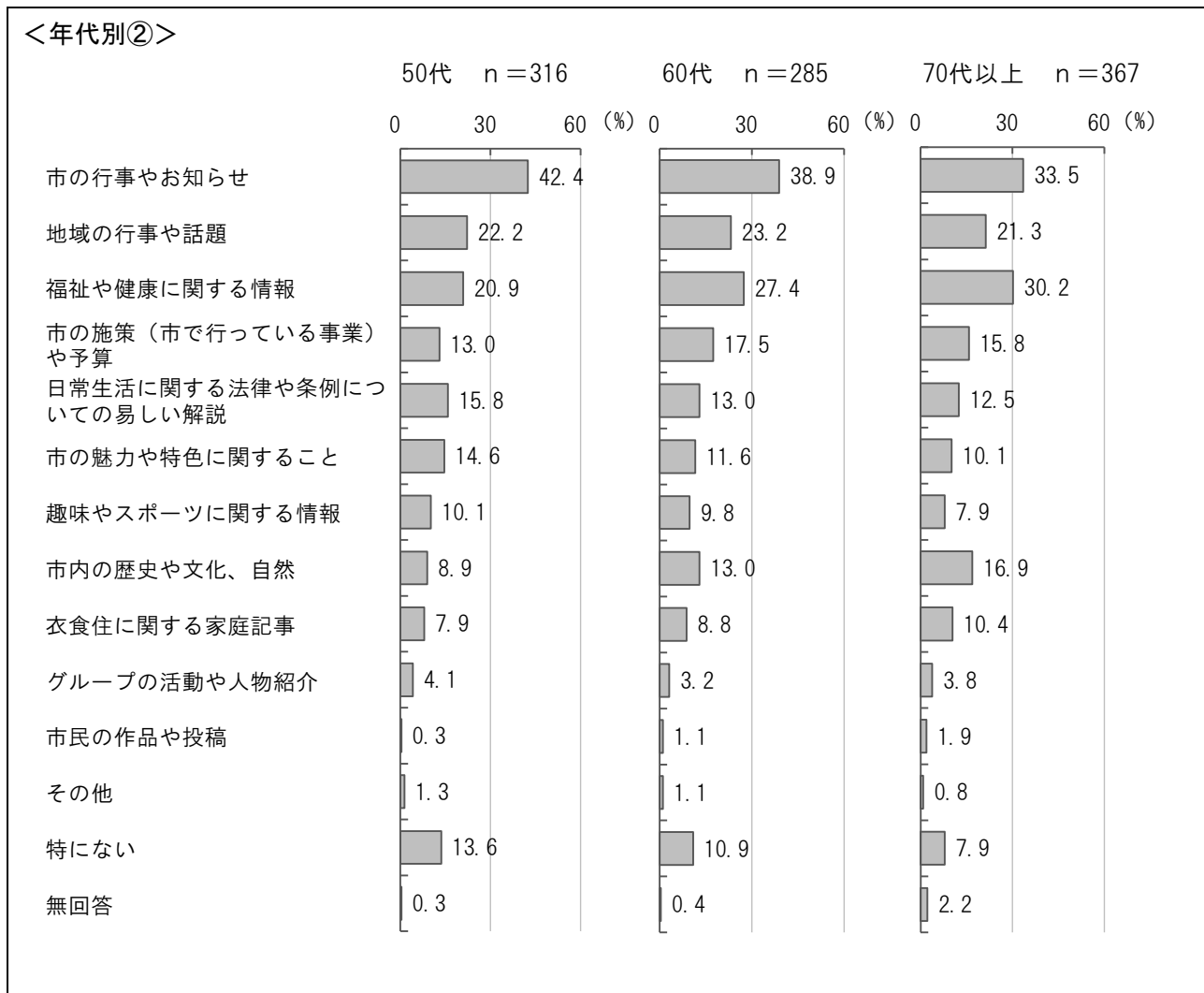


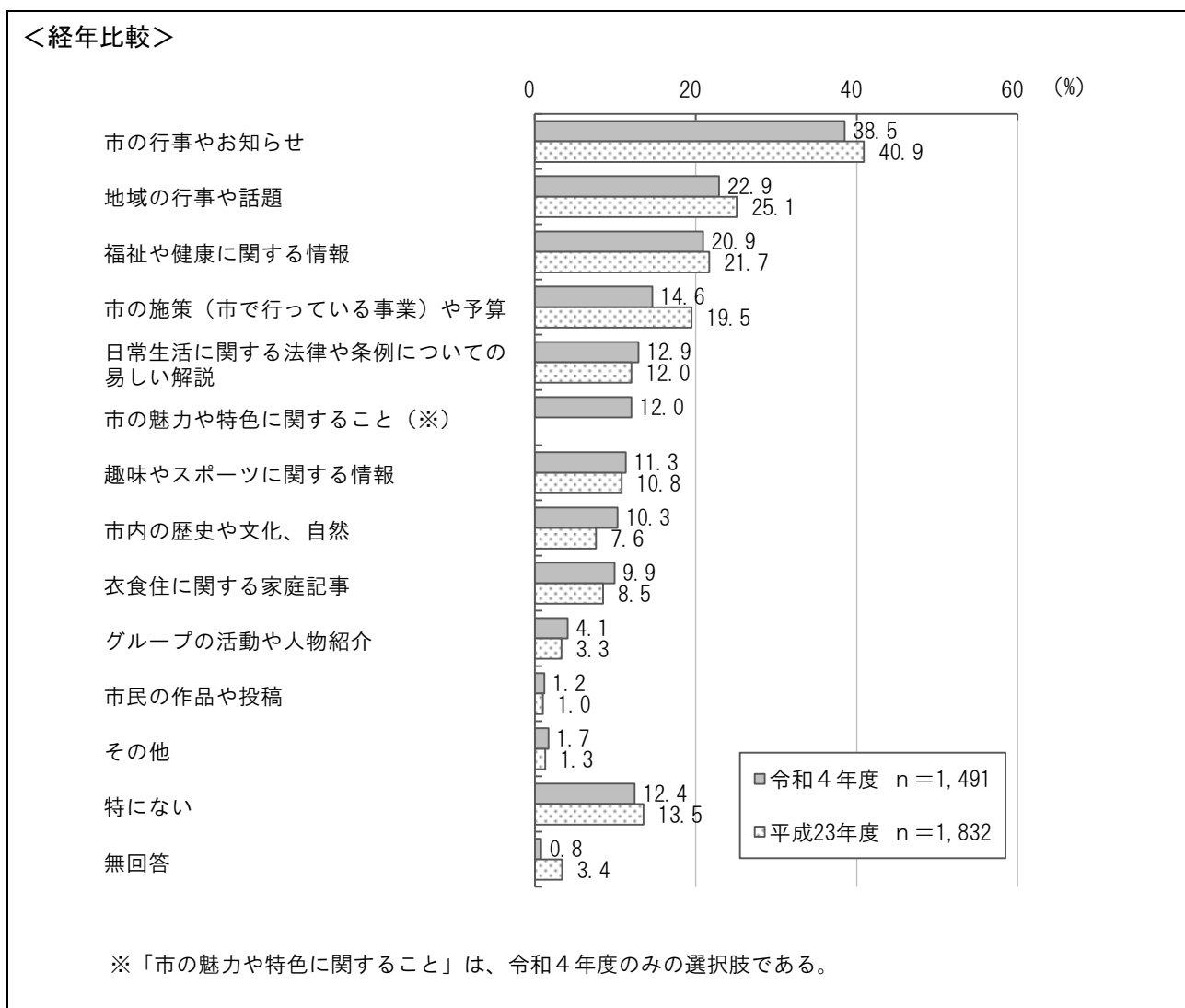
性別で見ると、男性において「市の施策（市で行っている事業）や予算」が 18.7%と女性より多くなっている。女性においては「福祉や健康に関する情報」「衣食住に関する家庭記事」が男性より多くなっている。





年代別では、20代以下において「地域の行事や話題」が15.0%とほかの年代と比べて少なくなっている。「福祉や健康に関する情報」は年代が上がるにつれ、多くなっている。

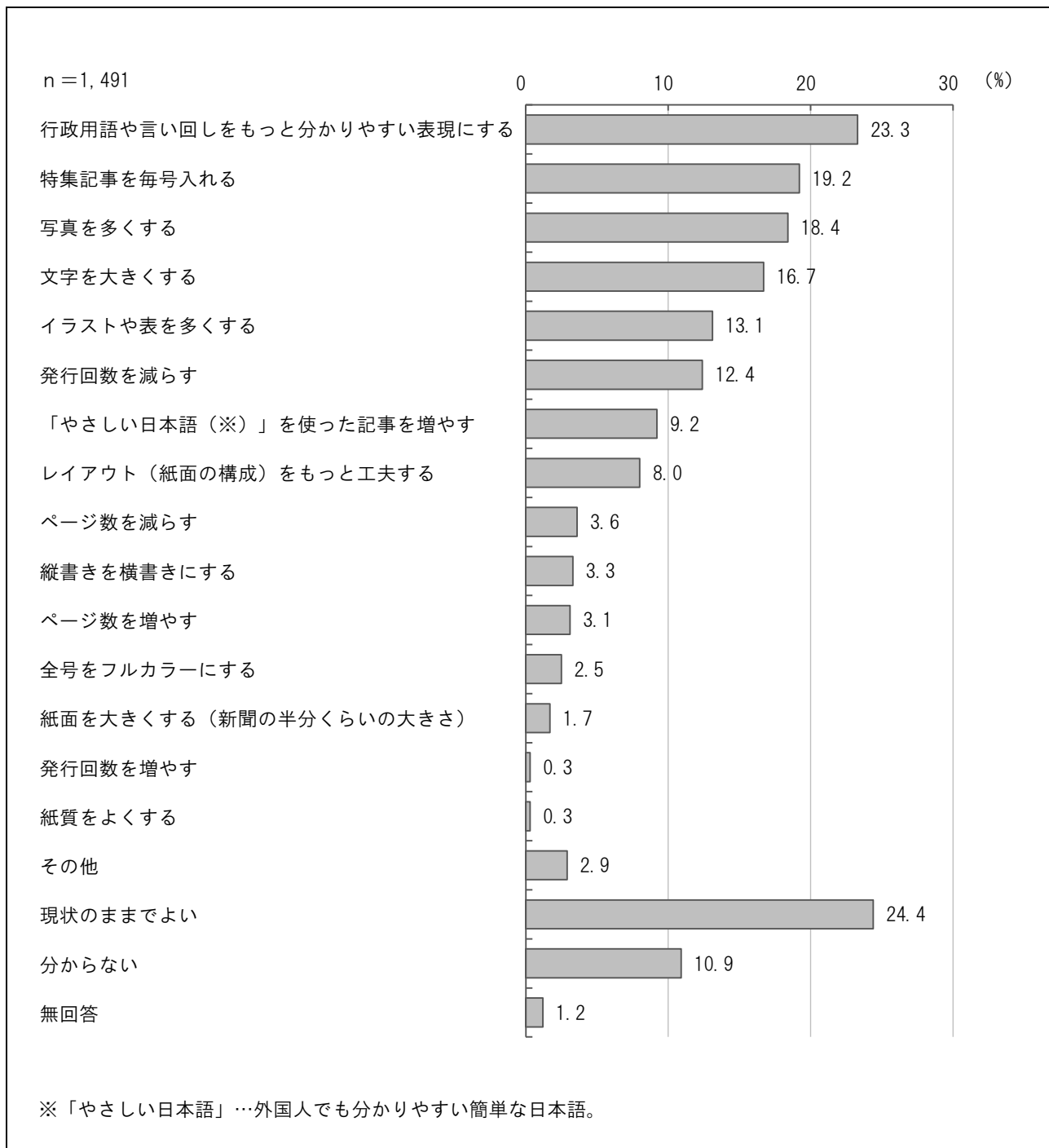




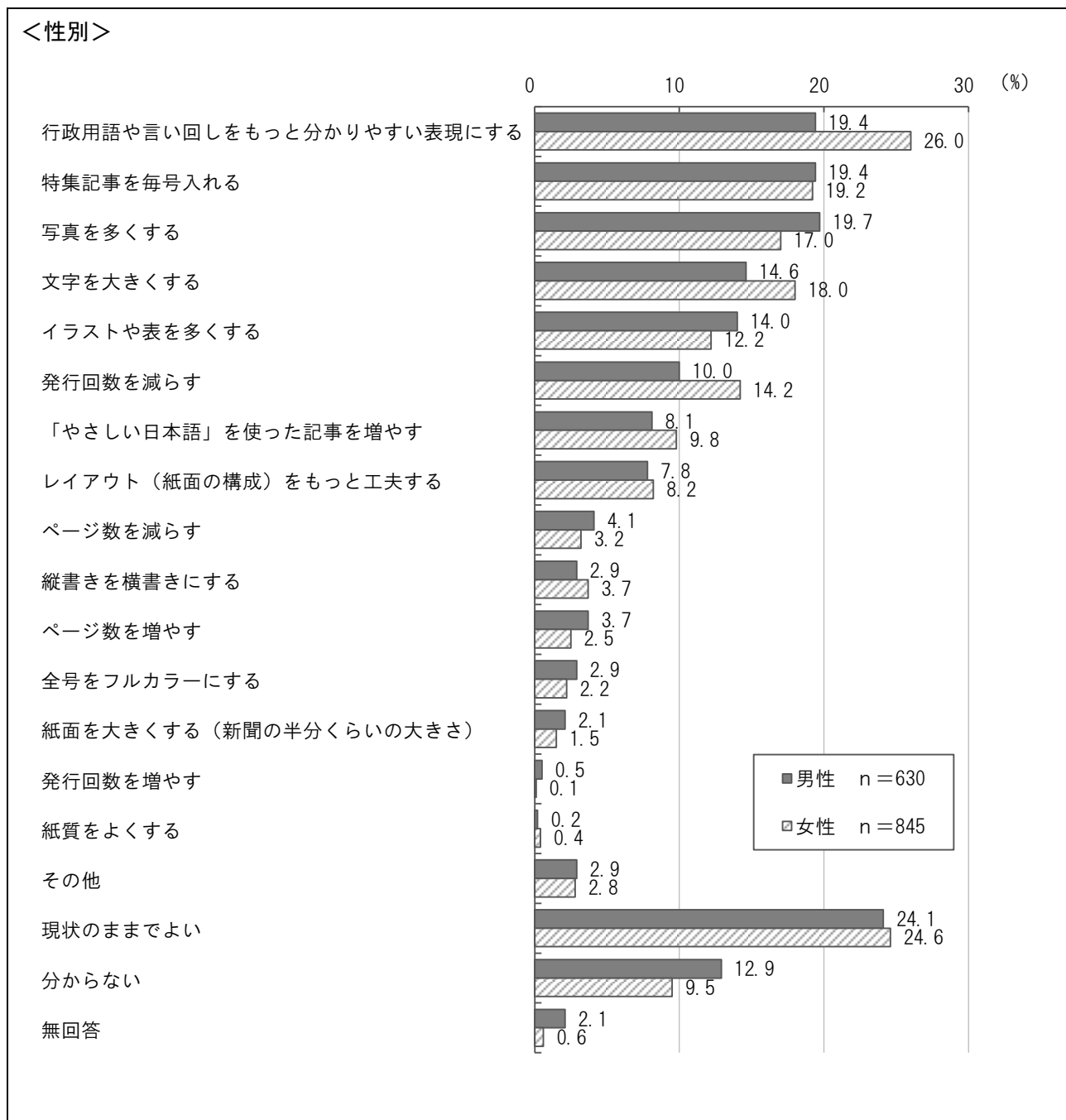
平成23年度の調査結果と比較すると、大きな差異は見られない。

(11) 「広報ふじ」をさらに読みやすくするために必要だと思う改善方法

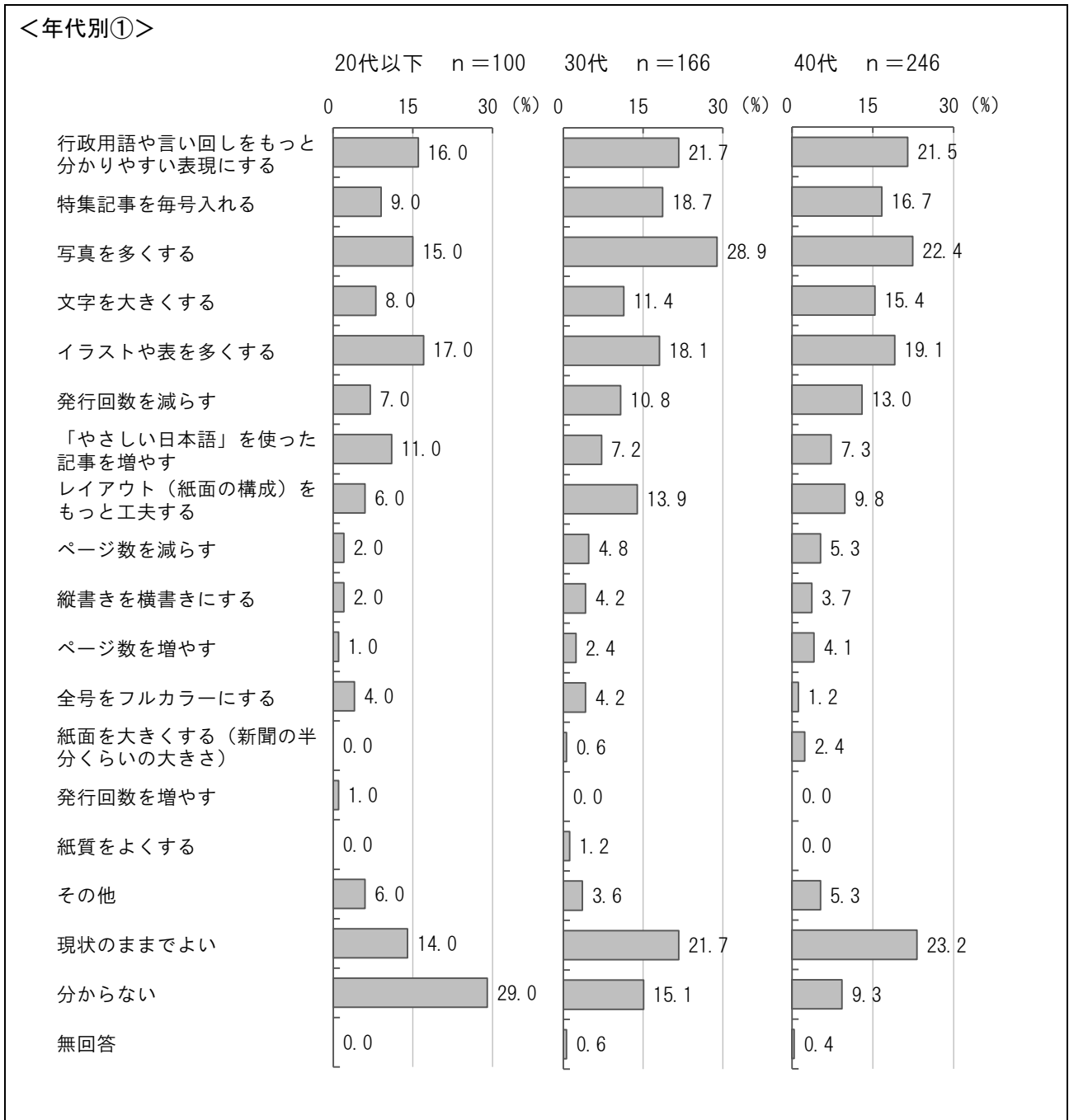
問12 「広報ふじ」は、市民の皆様を読んでもらえる広報紙を目指していますが、さらに読みやすくするためにはどのような改善が必要だと思いますか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。



「広報ふじ」をさらに読みやすくするために必要だと思う改善方法は、「行政用語や言い回しをもっと分かりやすい表現にする」が23.3%と最も多く、次いで「特集記事を毎号入れる」が19.2%、「写真を多くする」が18.4%となっている。一方、「現状のままでよい」は24.4%であった。

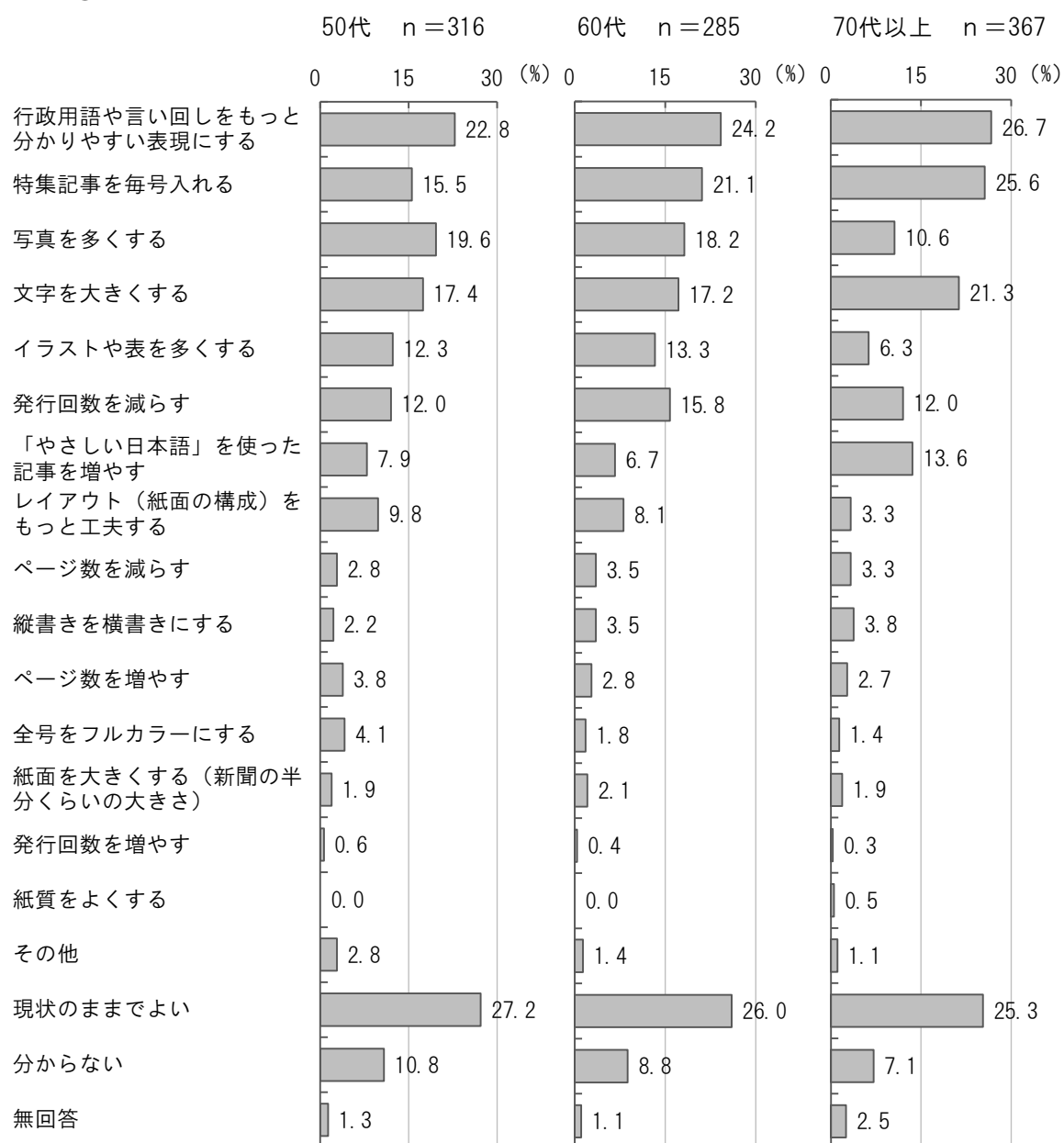


性別で見ると、女性において「行政用語や言い回しをもっと分かりやすい表現にする」が26.0%と男性より多くなっている。



年代別では、20代以下において「行政用語や言い回しをもっと分かりやすい表現にする」「特集記事を毎号入れる」「現状のままでよい」がほかの年代と比べて少なくなっている。30代においては「写真を多くする」が28.9%と多くなっている。70代以上においては「イラストや表を多くする」が6.3%と少なくなっている。また、40代～70代以上においては「現状のままでよい」が最も多くなっている。

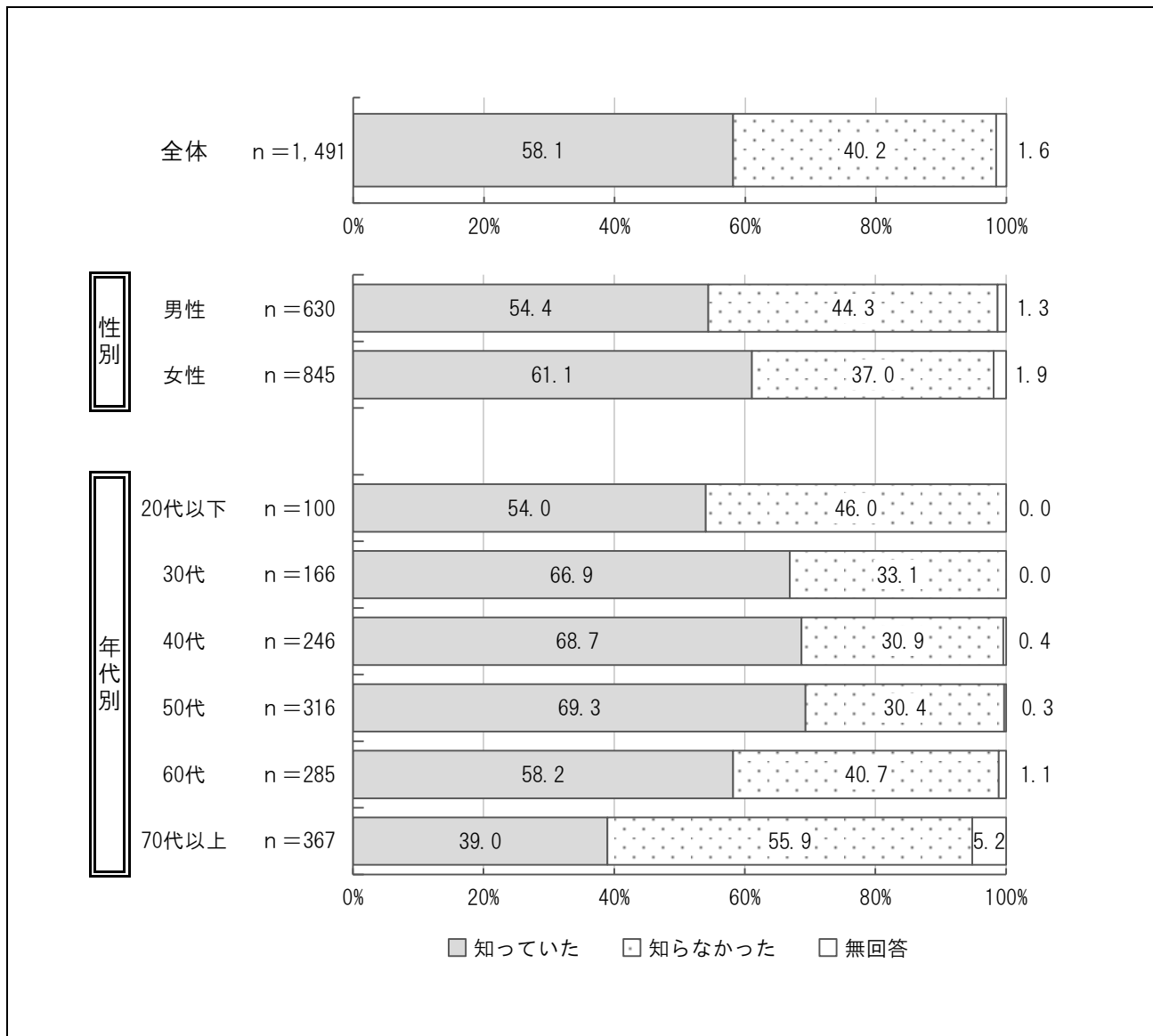
## &lt;年代別②&gt;



富士市公式 LINE について

(12) 富士市公式 LINE の認知状況

問13 あなたは富士市公式LINEを知っていましたか。次の中から1つだけ選んでください。



富士市公式LINEの認知状況は、「知っていた」が58.1%、「知らなかった」が40.2%となっている。

性別で見ると、女性において「知っていた」が61.1%と男性より多くなっている。

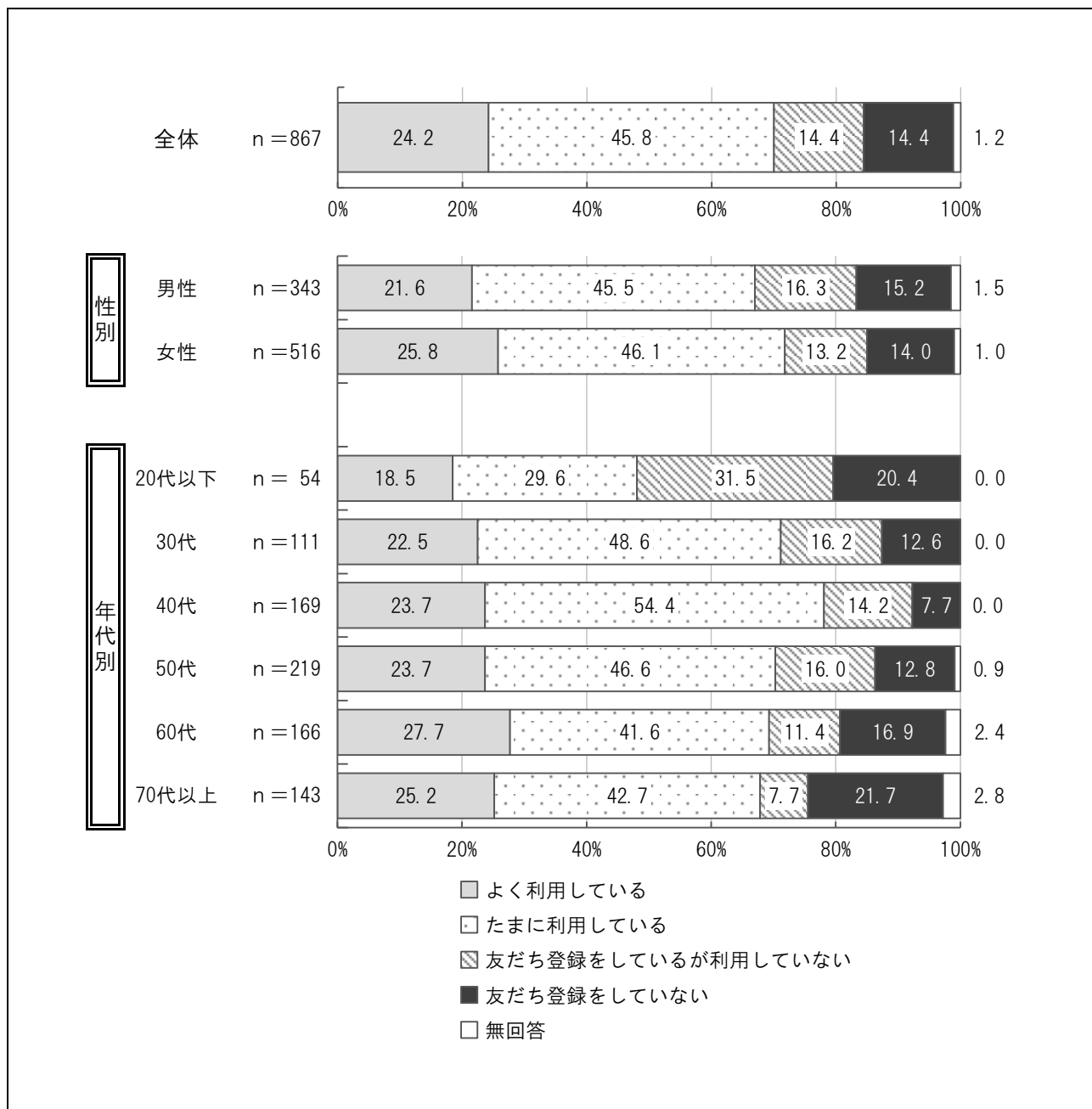
年代別では、30代～50代において「知っていた」が6割以上と多くなっている。70代以上においては「知っていた」が39.0%とほかの年代と比べて少なくなっている。



## (13) 富士市公式LINEの利用状況

## ■ 問13で「知っていた」と答えた人のみ

問13-1 あなたは富士市公式LINEをどの程度利用していますか。次の中から1つだけ選んでください。



富士市公式LINEの利用状況は、「たまに利用している」が45.8%と最も多く、次いで「よく利用している」が24.2%、「友だち登録をしているが利用していない」「友だち登録をしていない」がともに14.4%となっている。また、『利用している』（「よく利用している」+「たまに利用している」）は70.0%、『利用していない』（「友だち登録をしているが利用していない」+「友だち登録をしていない」）は28.8%となっている。

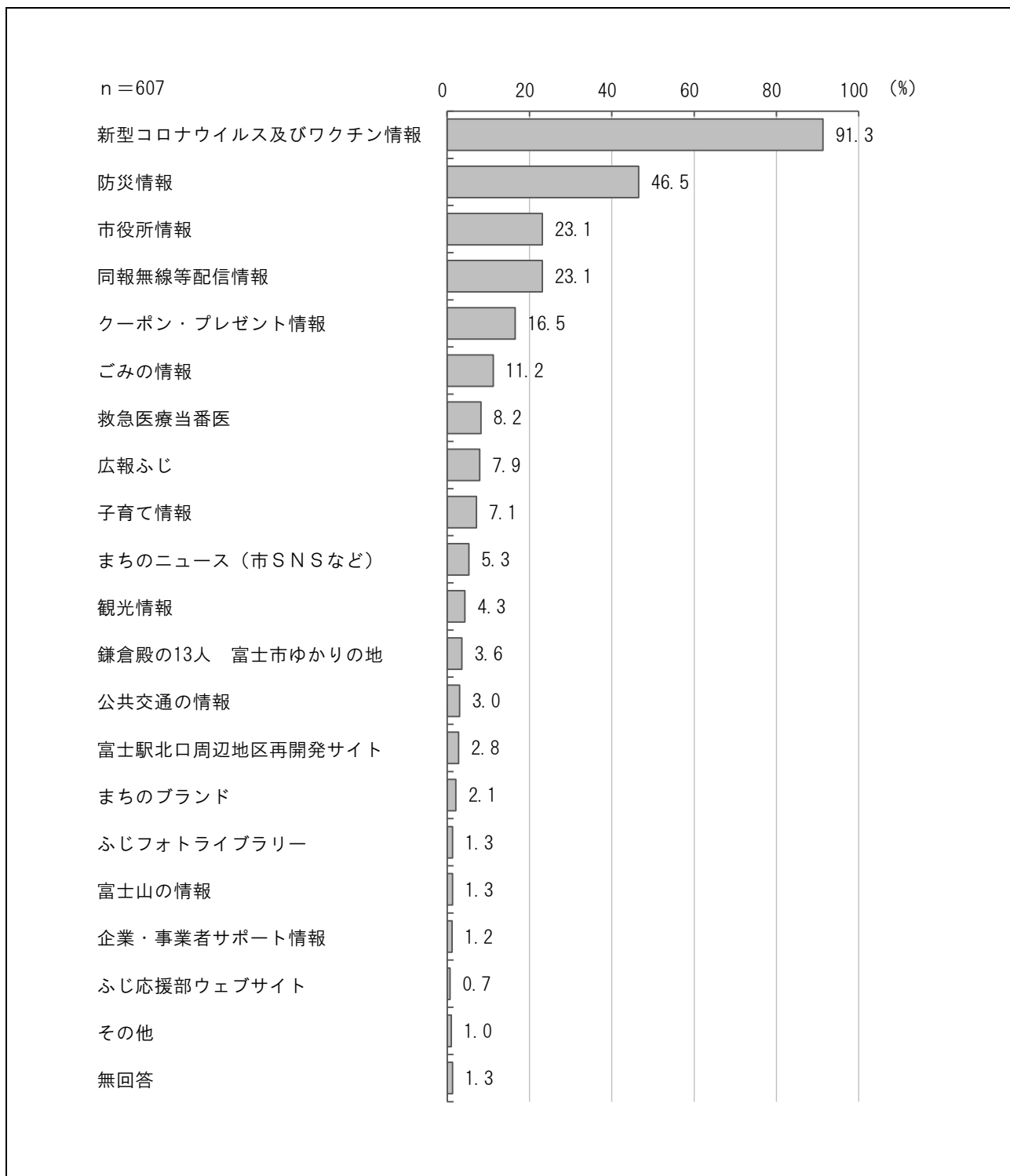
性別で見ると、大きな差異は見られない。

年代別では、ほかの年代と比べ、20代以下において「友だち登録をしているが利用していない」が31.5%と多く、『利用している』が48.1%と少なくなっている。40代においては「たまに利用している」が54.4%と多くなっている。また、『利用している』は40代において78.1%と多くなっている。

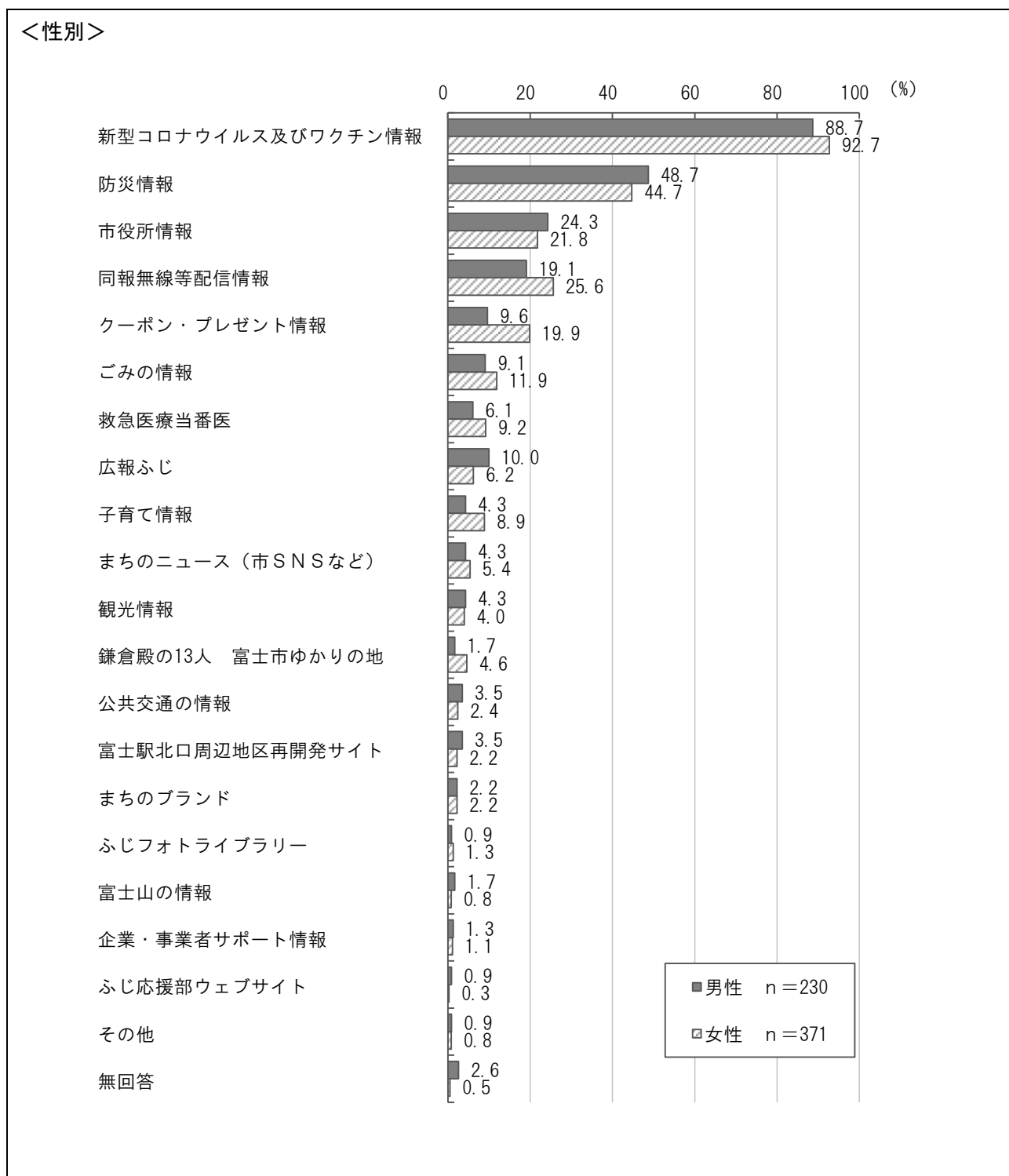
(14) 富士市公式 LINE で見ている情報

■ 問 13-1 で「よく利用している」「たまに利用している」と答えた人のみ

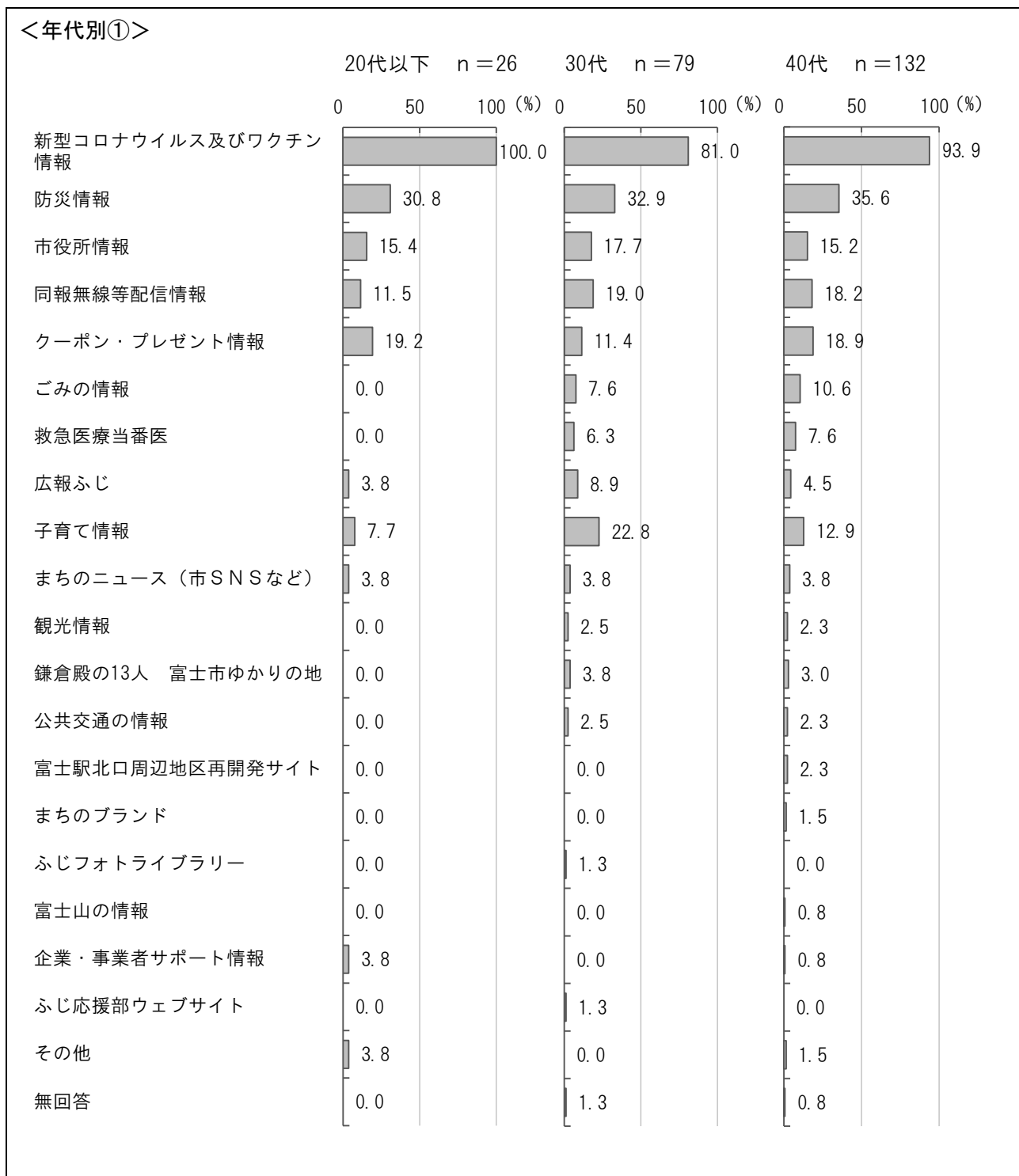
問13-2 富士市公式LINEでどのような情報を見えていますか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。



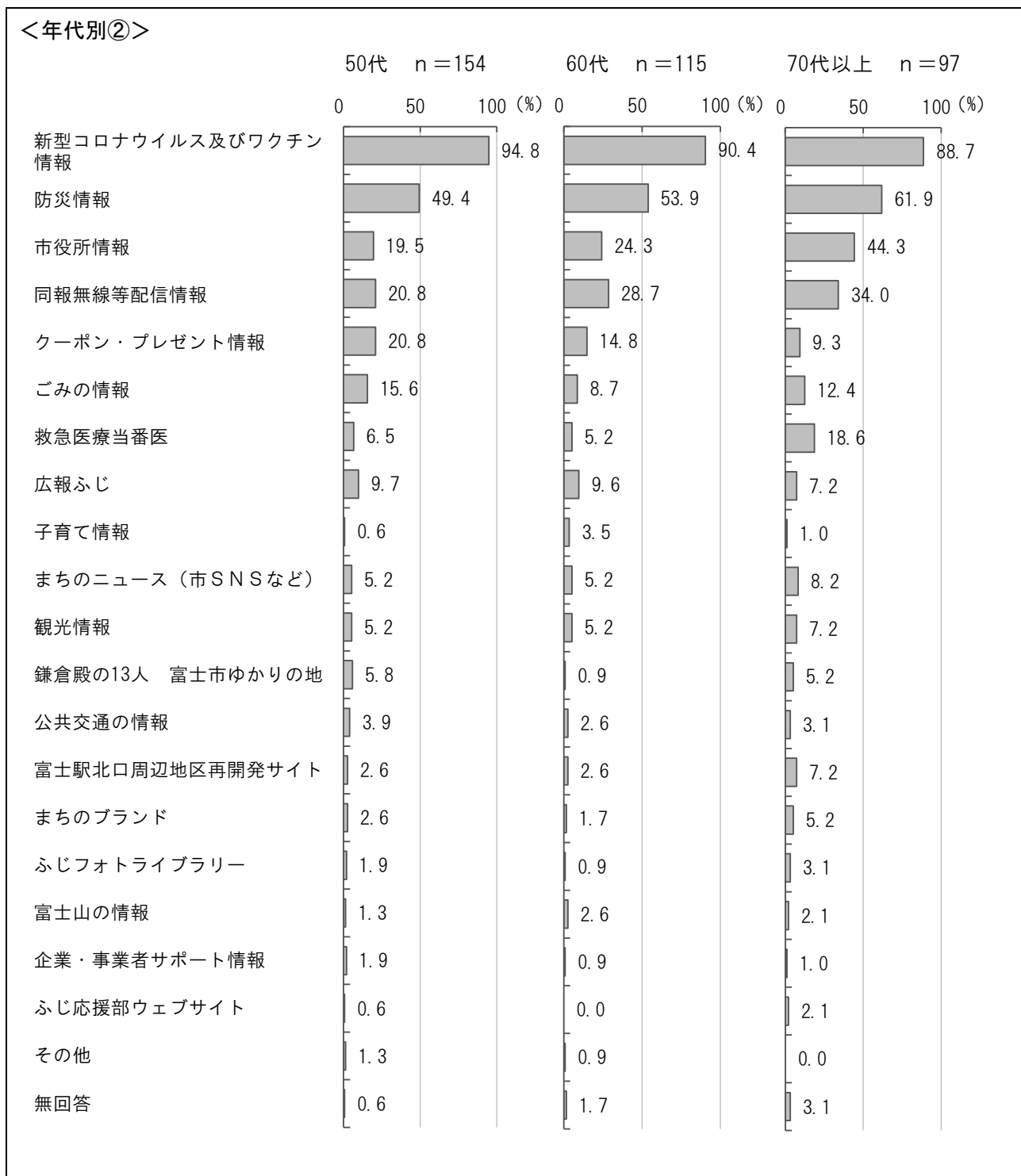
富士市公式 LINE で見ている情報は、「新型コロナウイルス及びワクチン情報」が 91.3%と突出して多く、次いで「防災情報」が 46.5%、「市役所情報」「同報無線等配信情報」がともに 23.1%となっている。



性別で見ると、女性において「同報無線等配信情報」「クーポン・プレゼント情報」が男性より多くなっている。

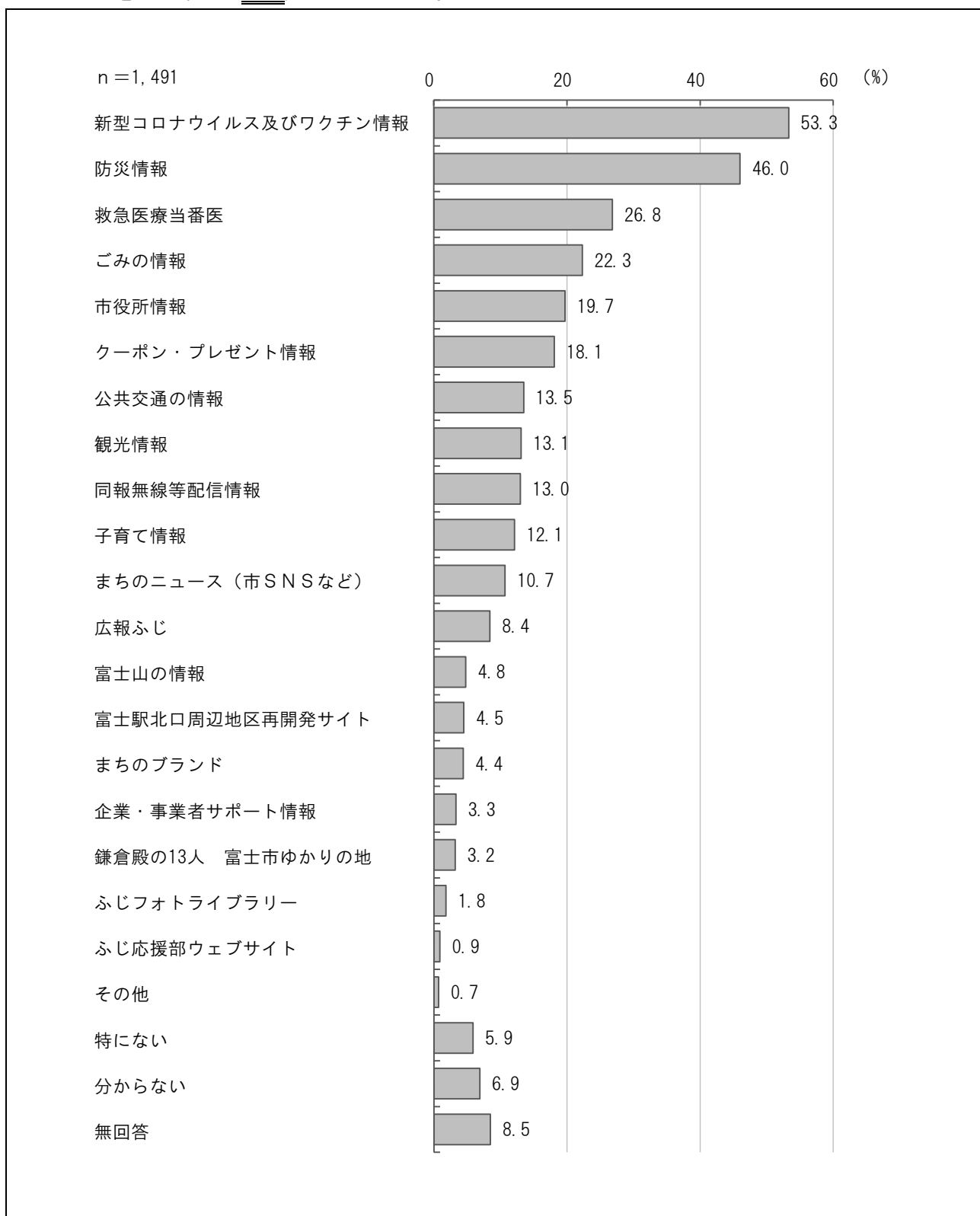


年代別では、全ての年代において「新型コロナウイルス及びワクチン情報」が多く、特に 20 代以下において 100.0% とほかの年代と比べて多くなっている。20 代以下において「同報無線等配信情報」が 11.5% と少なく、また「ごみの情報」「救急医療当番医」と回答した人はいなかった。30 代においては「子育て情報」が 22.8% とほかの年代と比べて多く、「新型コロナウイルス及びワクチン情報」が 81.0% と少なくなっている。また、70 代以上においては「防災情報」「市役所情報」「同報無線等配信情報」「救急医療当番医」が多くなっている。

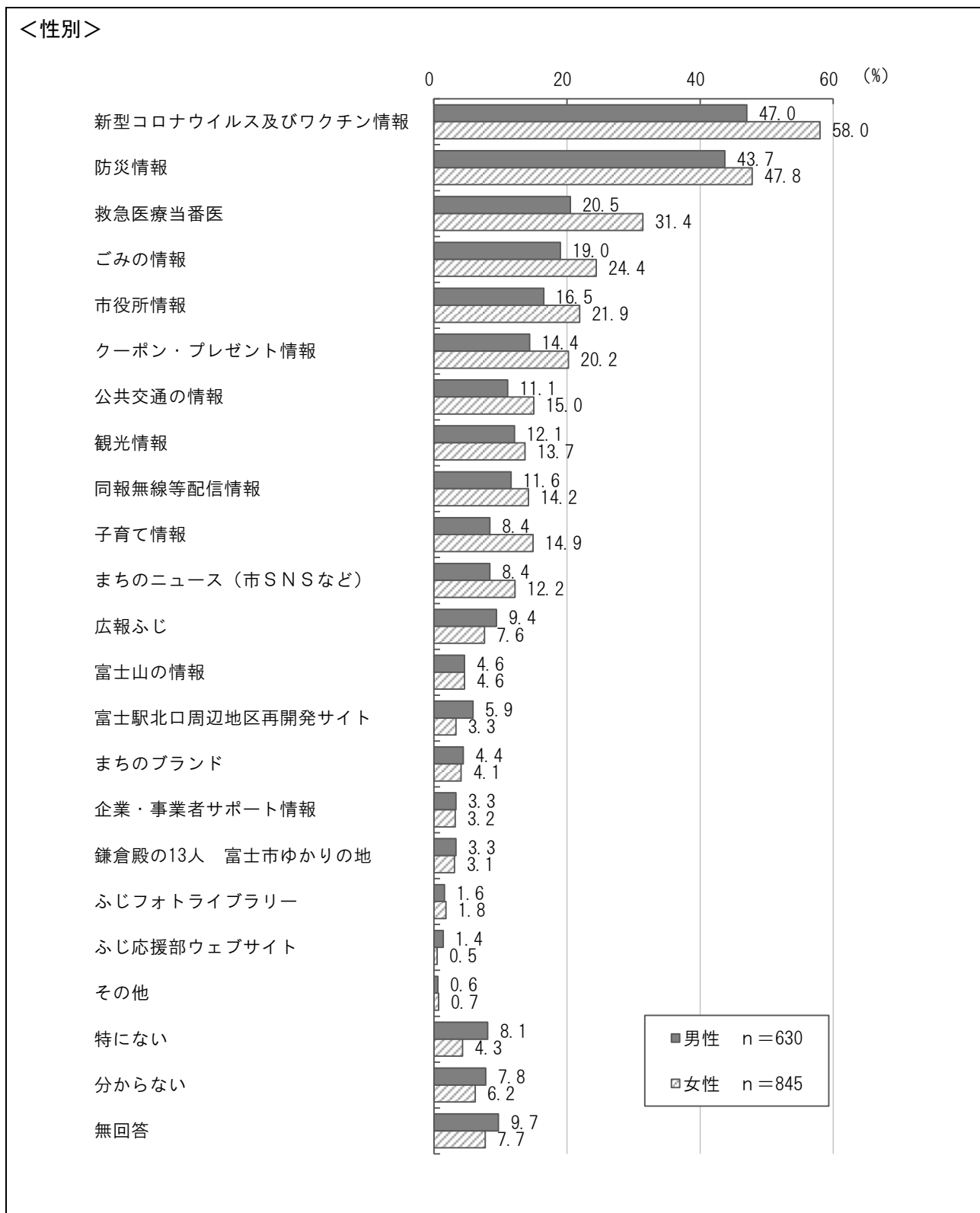


(15) 富士市公式 LINE で得られる情報として便利だと思うもの

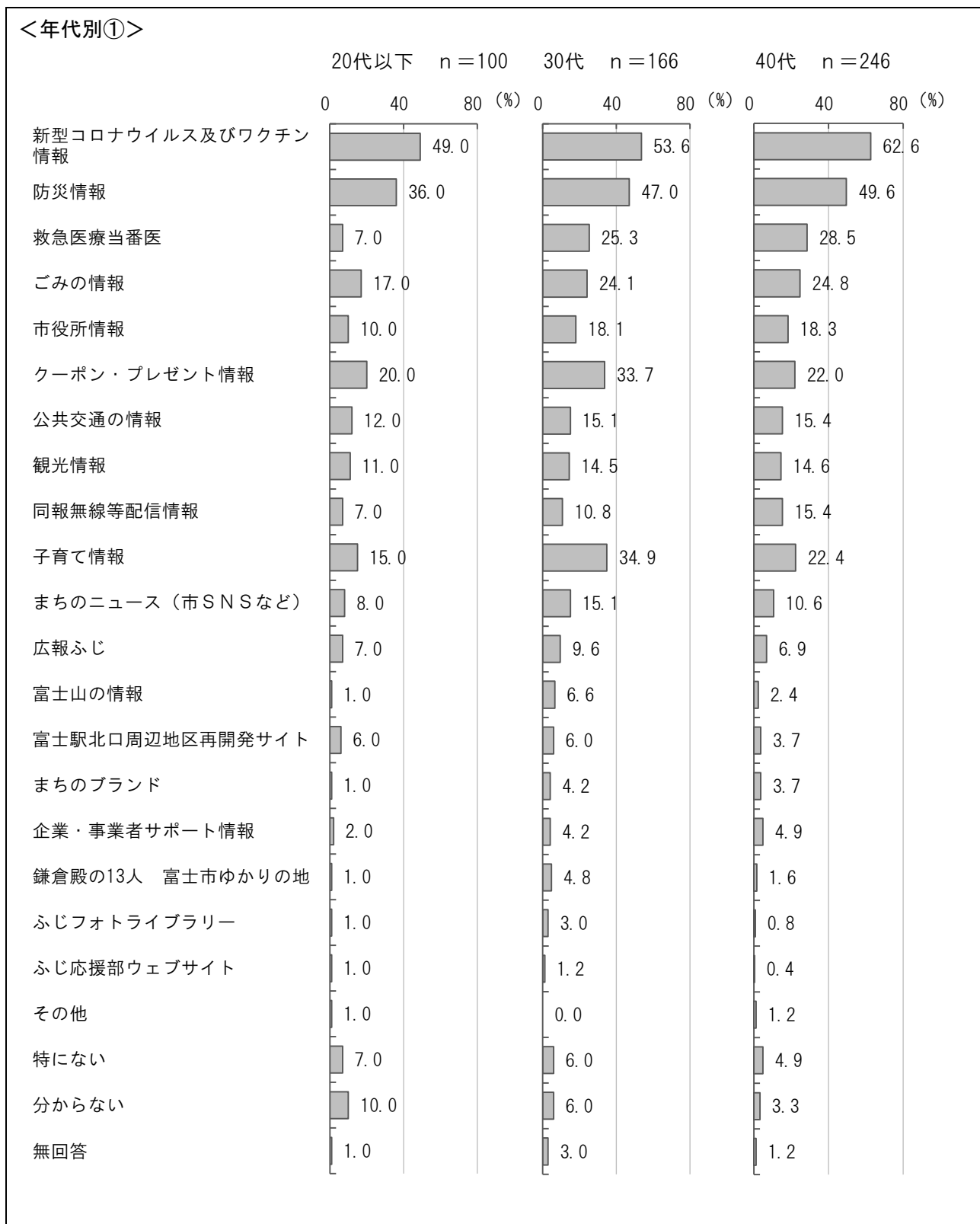
問14 富士市公式LINEで得られる情報として便利だと思うものは何ですか。あなたの考えに近いものを次の中から全て選んでください。



富士市公式 LINE で得られる情報として便利だと思うものは、「新型コロナウイルス及びワクチン情報」が 53.3%と最も多く、次いで「防災情報」が 46.0%、「救急医療当番医」が 26.8%となっている。

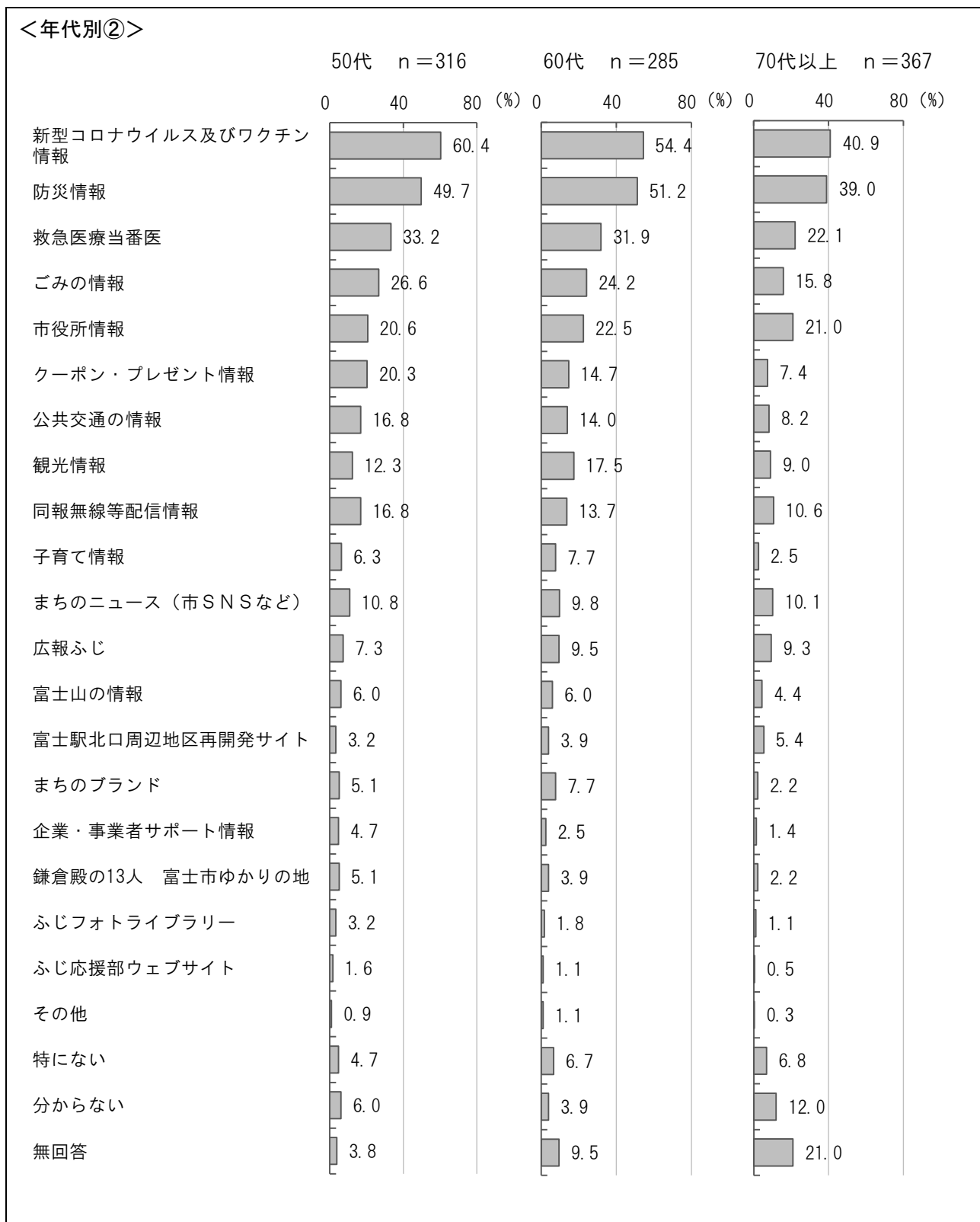


性別で見ると、女性において「新型コロナウイルス及びワクチン情報」「救急医療当番医」「ごみの情報」などが男性より多くなっている。



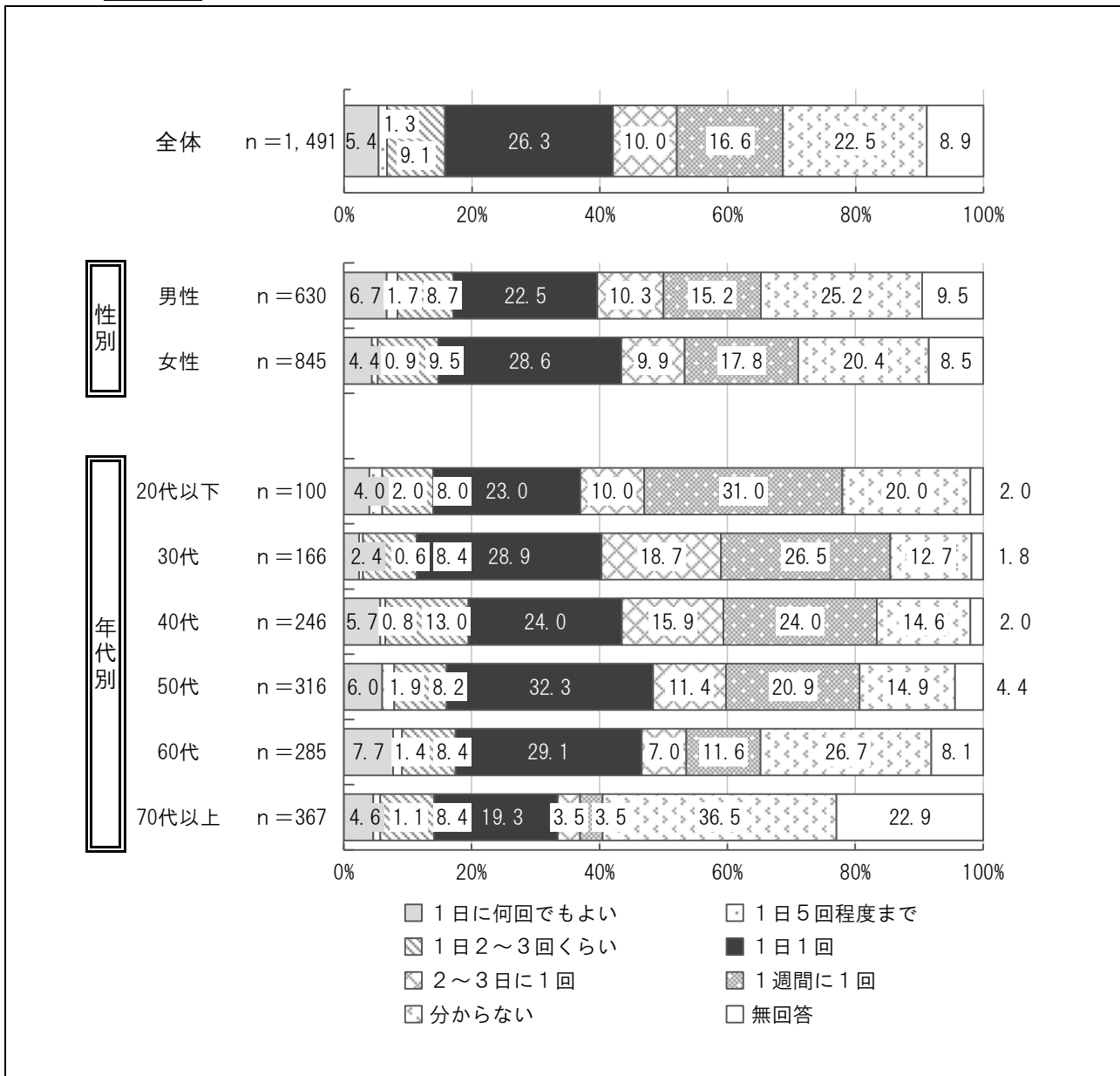
年代別では、20代以下において「救急医療当番医」「市役所情報」がほかの年代と比べて少なくなっている。30代においては「クーポン・プレゼント情報」「子育て情報」が多くなっている。また、70代以上においては「新型コロナウイルス及びワクチン情報」「クーポン・プレゼント情報」が少なくなっている。





(16) 富士市公式 LINE で自分が希望する情報の望ましい配信頻度

問15 富士市公式LINEは、自分が欲しい情報の種類を登録すると、その情報が届くようになります。情報が届く頻度についてどのくらいが望ましいか、次の中からあなたの気持ちに近いものを1つだけ選んでください（※設定していない人には全ての情報が届いています）。



富士市公式 LINE で自分が希望する情報の望ましい配信頻度は、「1日1回」が 26.3%と最も多く、次いで「1週間に1回」が 16.6%、「2~3日に1回」が 10.0%となっている。一方、「分からない」は 22.5%であった。

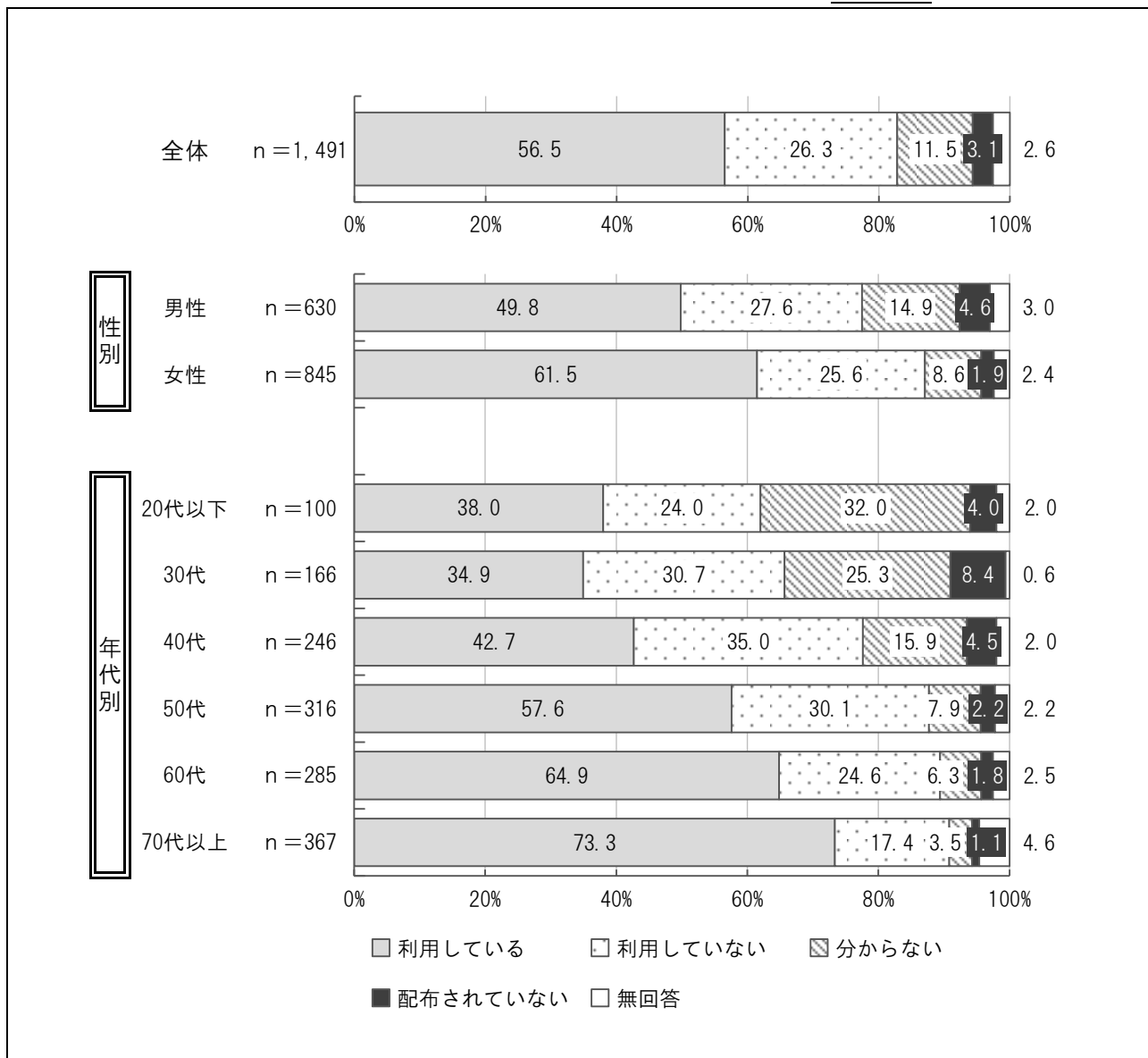
性別で見ると、女性において「1日1回」が 28.6%と男性より多くなっている。

年代別では、70代以上において「1週間に1回」が 3.5%とほかの年代と比べて少なくなっている。

## 「市民暮らしのカレンダー」について

## (17) 「市民暮らしのカレンダー」の利用状況

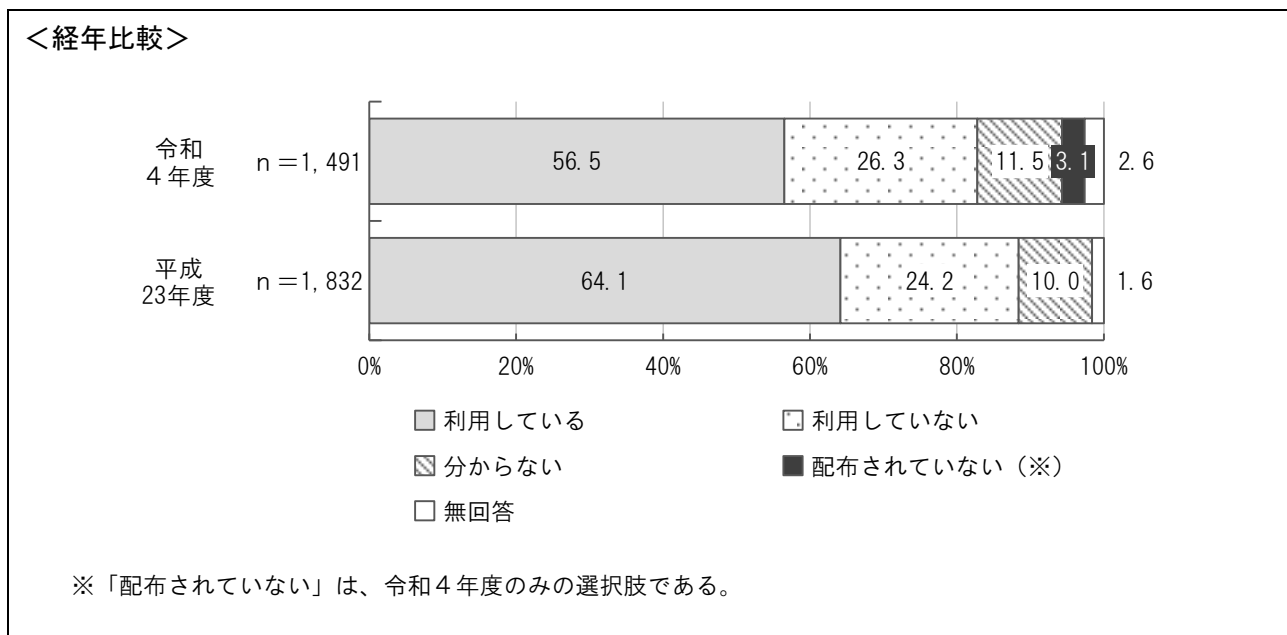
問16 毎年11～12月に、「市民暮らしのカレンダー」を各家庭へ配布しています。あなたの家庭では、「市民暮らしのカレンダー」を利用していますか。次の中から1つだけ選んでください。



「市民暮らしのカレンダー」の利用状況は、「利用している」が56.5%、「利用していない」が26.3%となっている。一方、「分からない」は11.5%、「配布されていない」は3.1%であった。

性別で見ると、女性において「利用している」が61.5%と男性より多くなっている。

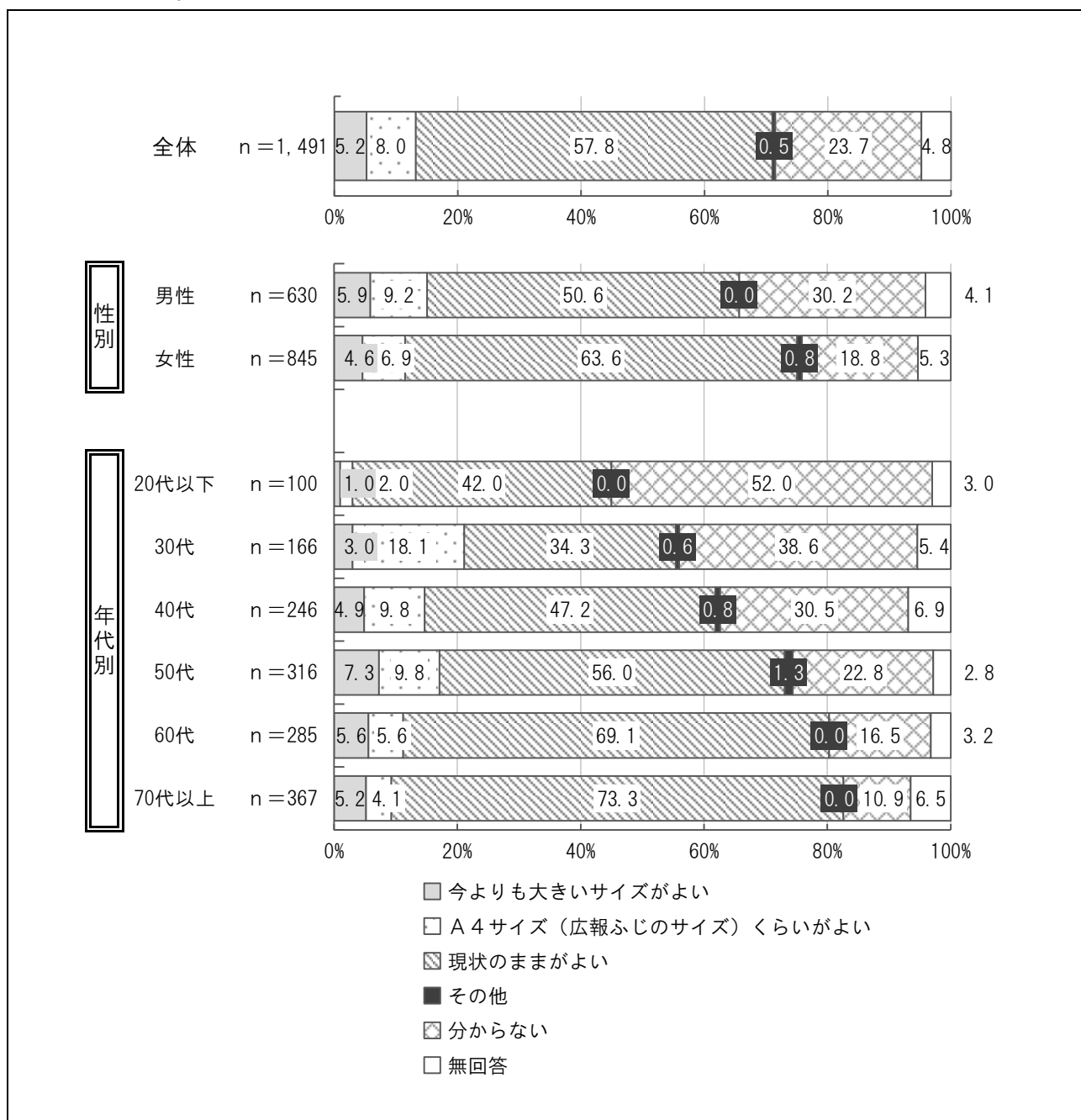
年代別では、ほかの年代と比べて70代以上において「利用している」が73.3%と多く、40代において「利用していない」が多くなっている。また、年代が上がるごとに「利用している」がおおむね多くなっている。



平成 23 年度の調査結果と比較すると、「利用している」が 56.5%と、7.6 ポイント減少している。

## (18) 「市民暮らしのカレンダー」のサイズに対する考え

問17 「市民暮らしのカレンダー」の大きさについてお聞きします。次の中から1つだけ選んでください。



「市民暮らしのカレンダー」のサイズに対する考えは、「現状のままがよい」が57.8%と最も多く、次いで「A4サイズ (広報ふじのサイズ) くらいがよい」が8.0%、「今よりも大きいサイズがよい」が5.2%となっている。一方、「分からない」は23.7%であった。

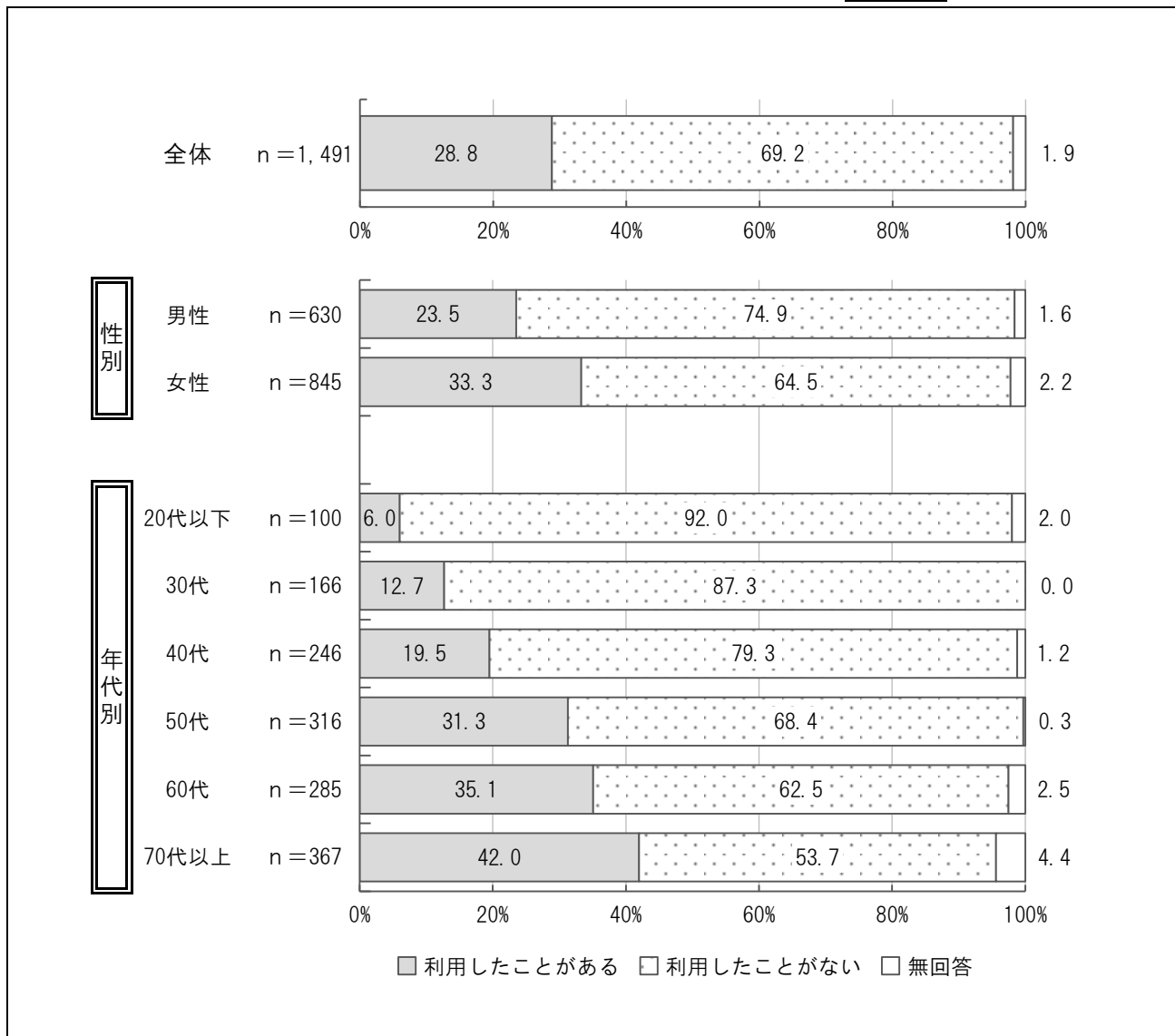
性別で見ると、女性において「現状のままがよい」が63.6%と男性より多くなっている。

年代別では、「現状のままがよい」は年代が上がるにつれおおむね多くなっている。30代において「A4サイズ (広報ふじのサイズ) くらいがよい」が18.1%とほかの年代と比べて多く、「現状のままがよい」が34.3%と少なくなっている。

市民暮らしのガイドブック「私の便利帳」について

(19) 「私の便利帳」の利用状況

問18 あなたは「私の便利帳」を利用したことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。



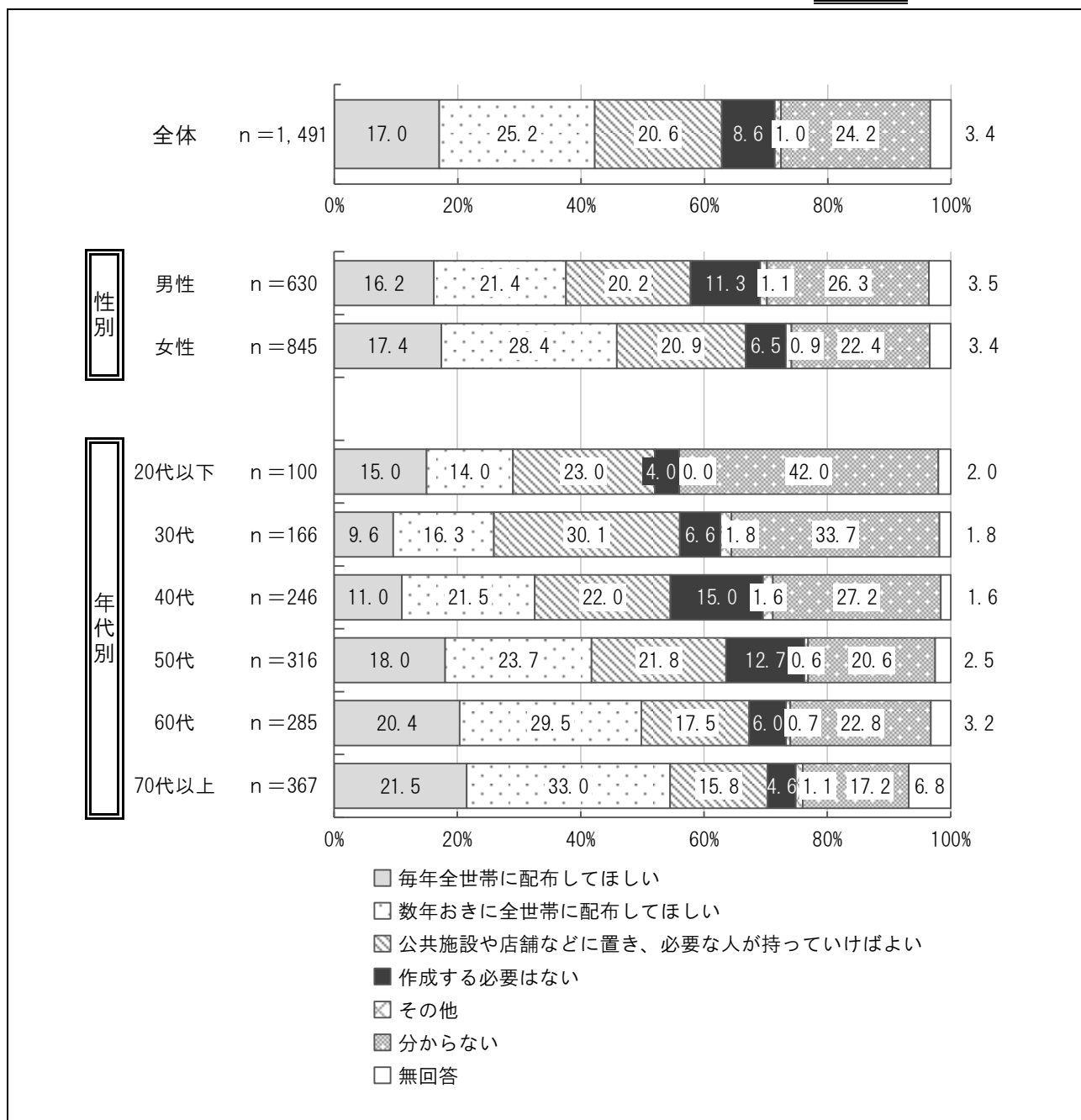
「私の便利帳」の利用状況は、「利用したことがある」が 28.8%、「利用したことがない」が 69.2% となっている。

性別で見ると、男性において「利用したことがない」が 74.9%と女性より多くなっている。

年代別では、20代以下において「利用したことがある」が 6.0%とほかの年代と比べて少なくなっている。70代以上においては「利用したことがない」が 53.7%とほかの年代に比べて少なくなっている。また、年代が上がるごとに「利用したことがある」が多くなっている。

## (20) 「私の便利帳」の配布に対する考え

問19 あなたは、「私の便利帳」の配布についてどう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。



「私の便利帳」の配布に対する考えは、「数年おきに全世帯に配布してほしい」が25.2%と最も多く、次いで「公共施設や店舗などに置き、必要な人が持っていけばよい」が20.6%、「毎年全世帯に配布してほしい」が17.0%となっている。一方、「分からない」は24.2%であった。

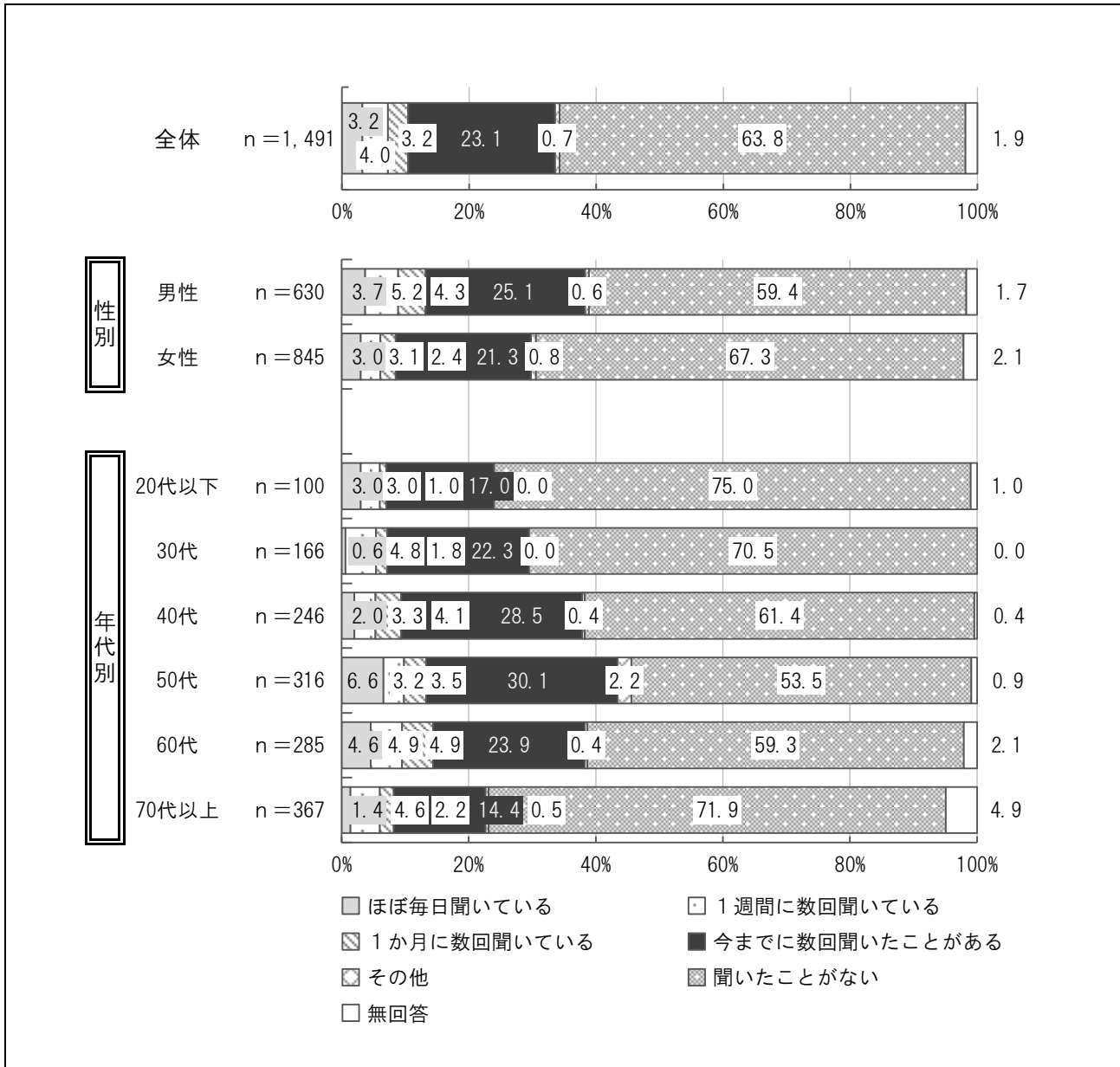
性別で見ると、女性において「数年おきに全世帯に配布してほしい」が28.4%と男性より多くなっている。

年代別では、30代において「公共施設や店舗などに置き、必要な人が持っていけばよい」が30.1%と多く、ほかの年代と比べても多くなっている。また、年代が上がるごとに「毎年全世帯に配布してほしい」「数年おきに全世帯に配布してほしい」がおおむね多くなっている。

コミュニティエフエム放送「Radio-f (84.4MHz)」について

(21) コミュニティエフエム放送「Radio-f (84.4MHz)」の聴取状況

問20 あなたはコミュニティエフエム放送「Radio-f (84.4MHz)」をどのくらいの頻度で聞いていますか。次の中から当てはまるものを1つだけ選んでください。



コミュニティエフエム放送「Radio-f (84.4MHz)」の聴取状況は、「聞いたことがない」が63.8%と最も多く、次いで「今までに数回聞いたことがある」が23.1%、「1週間に数回聞いている」が4.0%、「ほぼ毎日聞いている」「1か月に数回聞いている」がともに3.2%となっている。

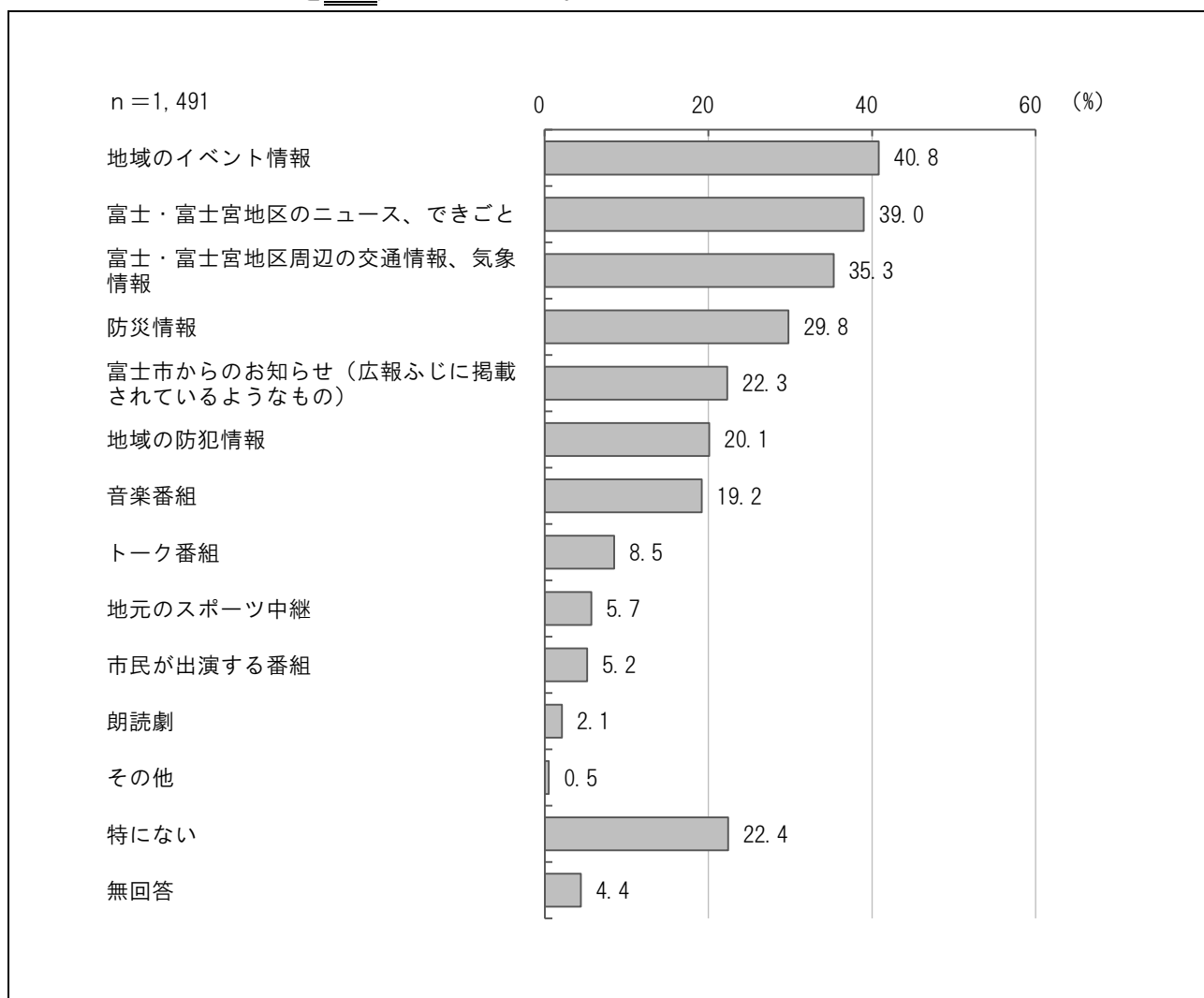
性別で見ると、女性において「聞いたことがない」が67.3%と男性より多くなっている。

年代別では、1度でも聞いたことのある人は、50代で43.4%、60代で38.2%、40代で37.8%となっている。50代においては「聞いたことがない」が53.5%とほかの年代と比べて少なくなっている。

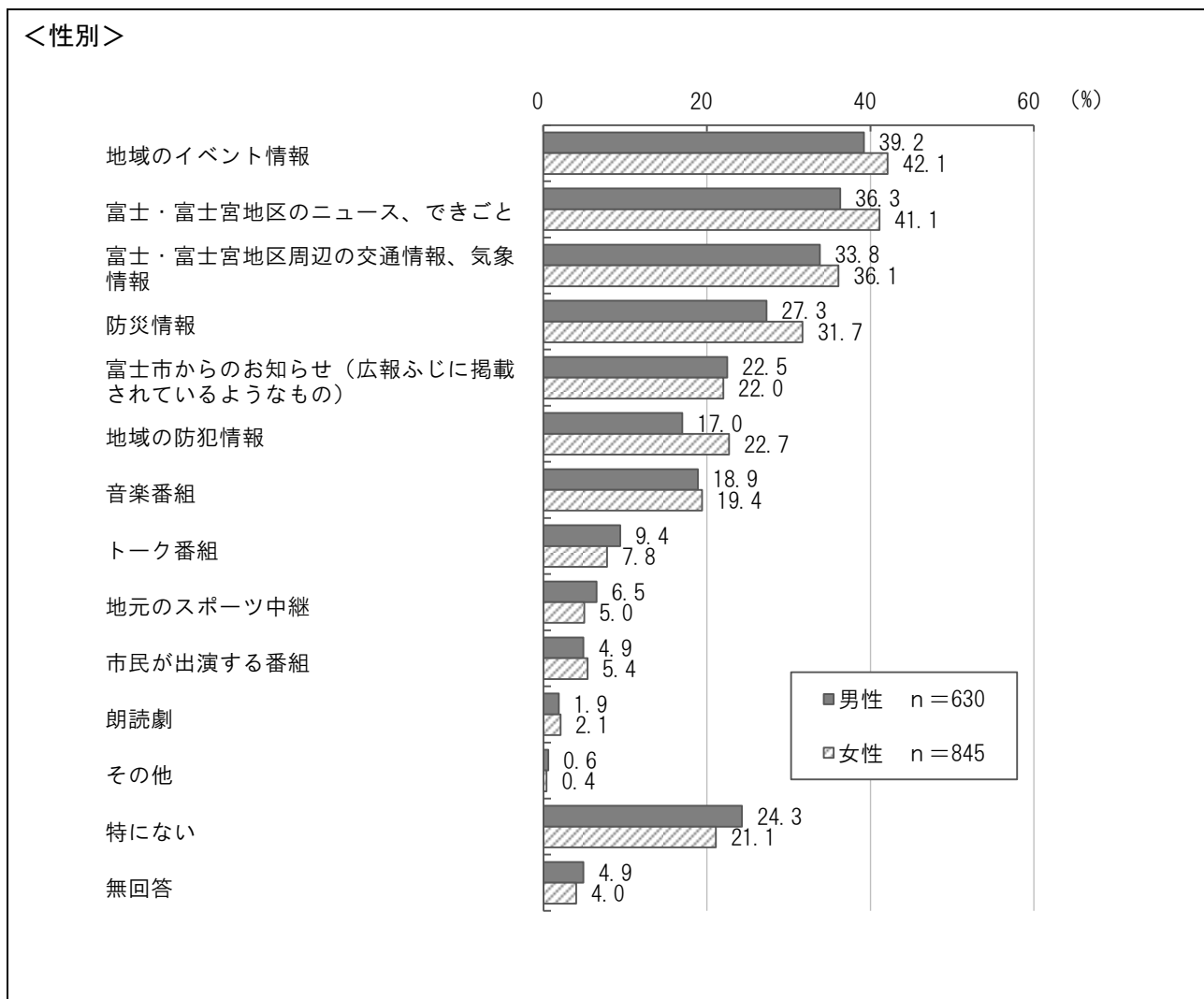


## (22) 「Radio-f」で聞きたい番組内容

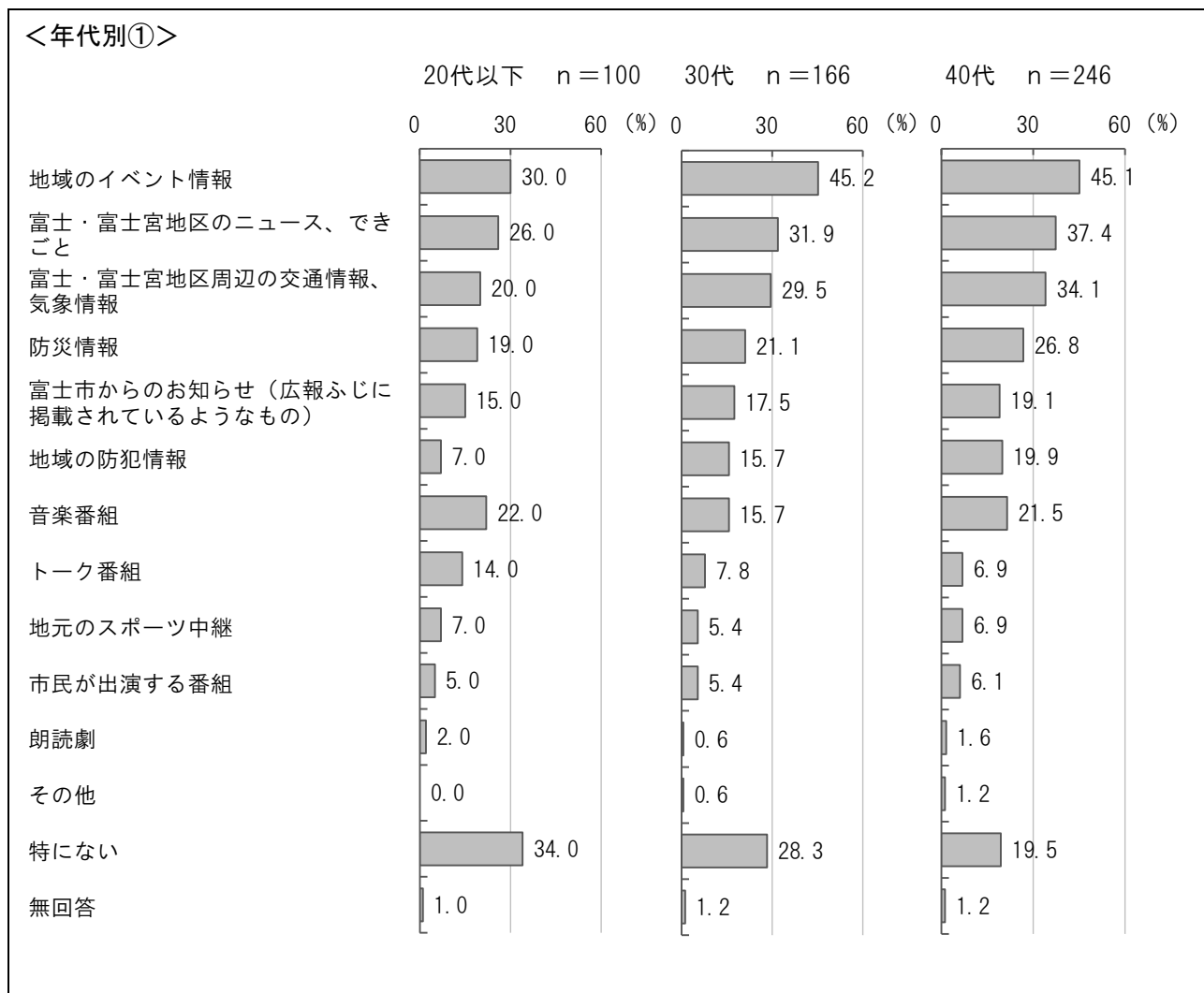
問21 あなたが「Radio-f」を聞くとしたら、どのような内容の番組を聞きたいですか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。



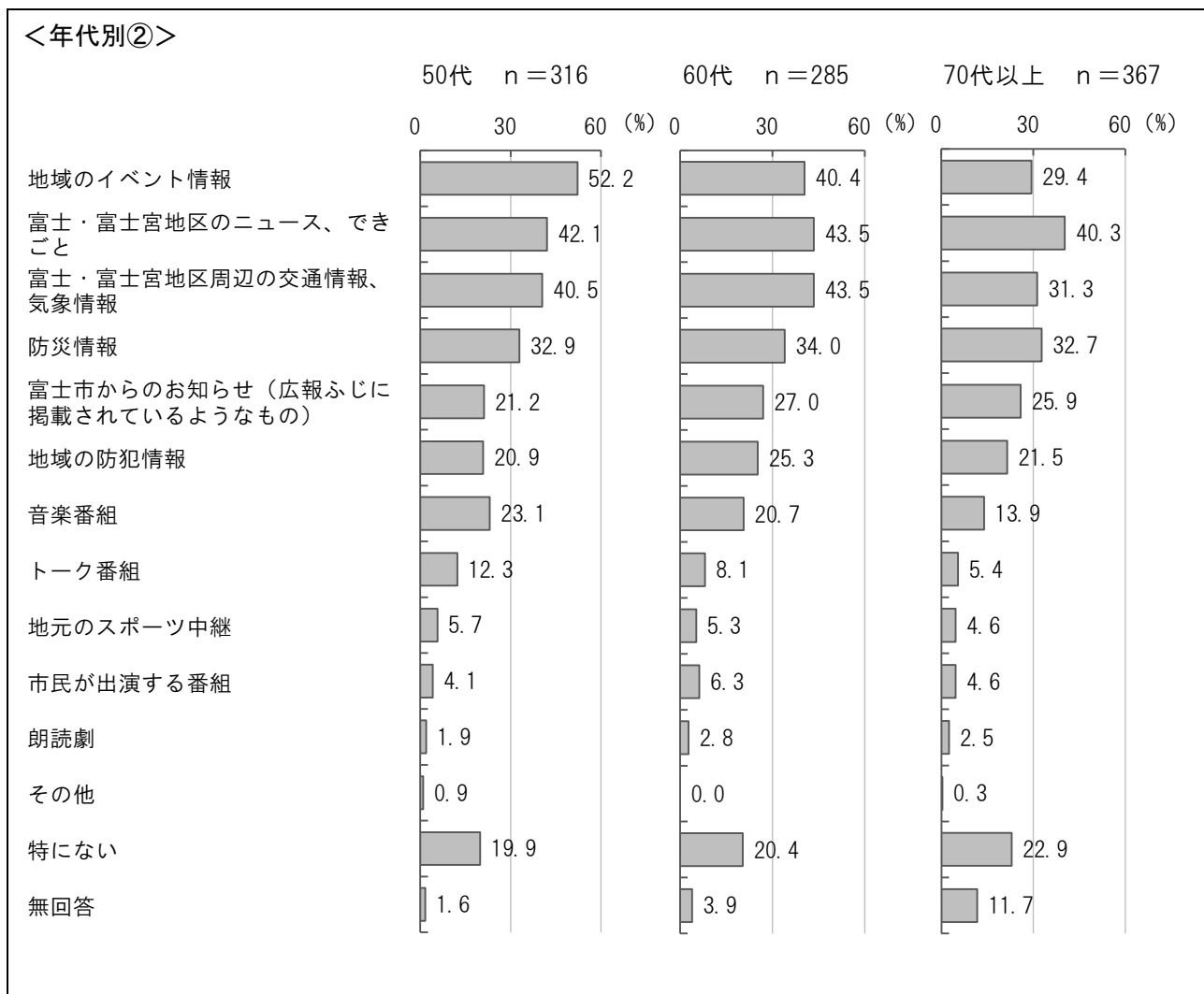
「Radio-f」で聞きたい番組内容は、「地域のイベント情報」が40.8%と最も多く、次いで「富士・富士宮地区のニュース、できごと」が39.0%、「富士・富士宮地区周辺の交通情報、気象情報」が35.3%となっている。

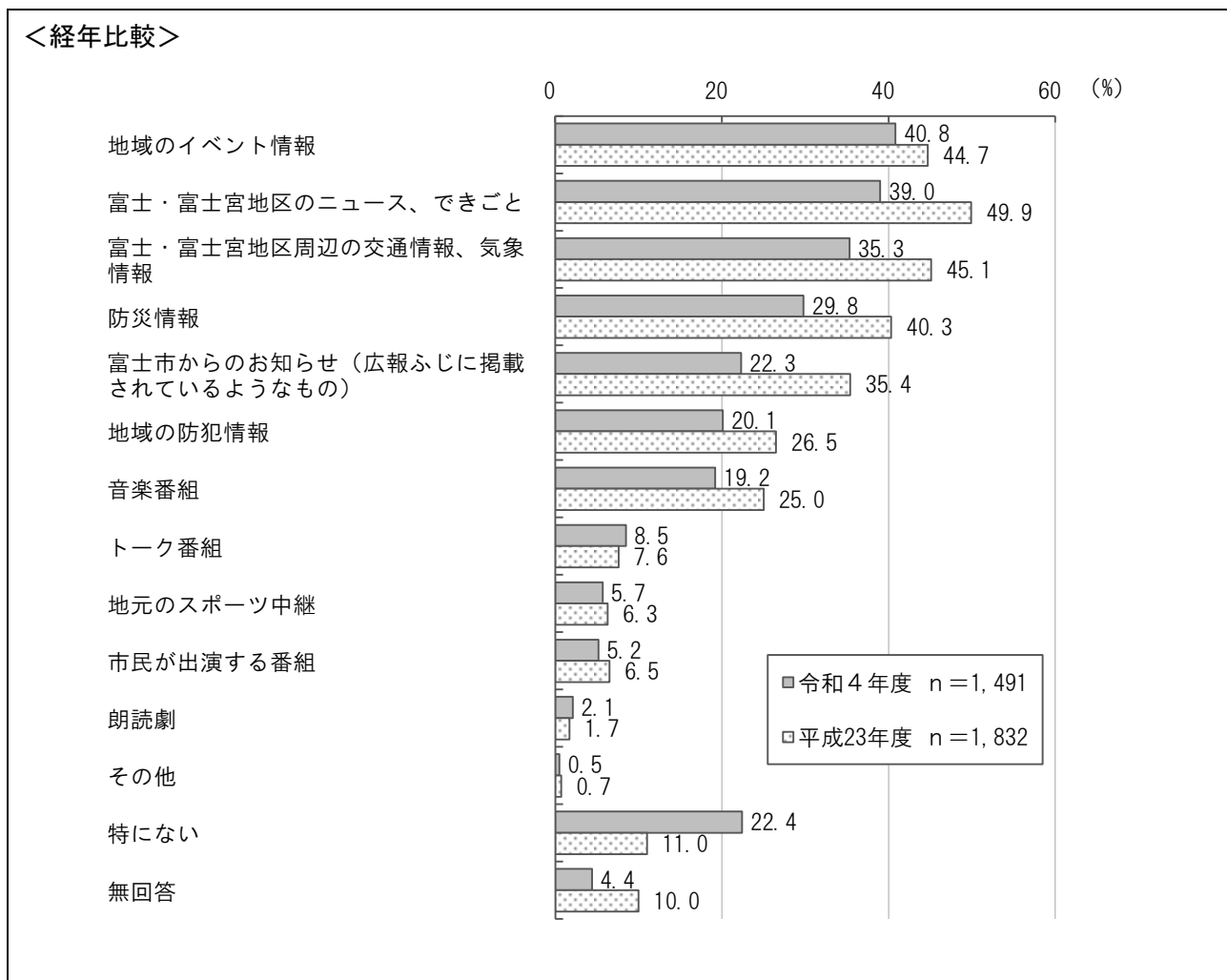


性別で見ると、女性において「地域の防犯情報」が22.7%と男性より多くなっている。



年代別では、20代以下において「富士・富士宮地区のニュース、できごと」「富士・富士宮地区周辺の交通情報、気象情報」「地域の防犯情報」がほかの年代と比べて少なくなっている。50代においては「地域のイベント情報」が52.2%と半数を超え、ほかの年代と比べても多くなっている。60代・70代以上においては「富士・富士宮地区のニュース、できごと」が最も多くなっている。





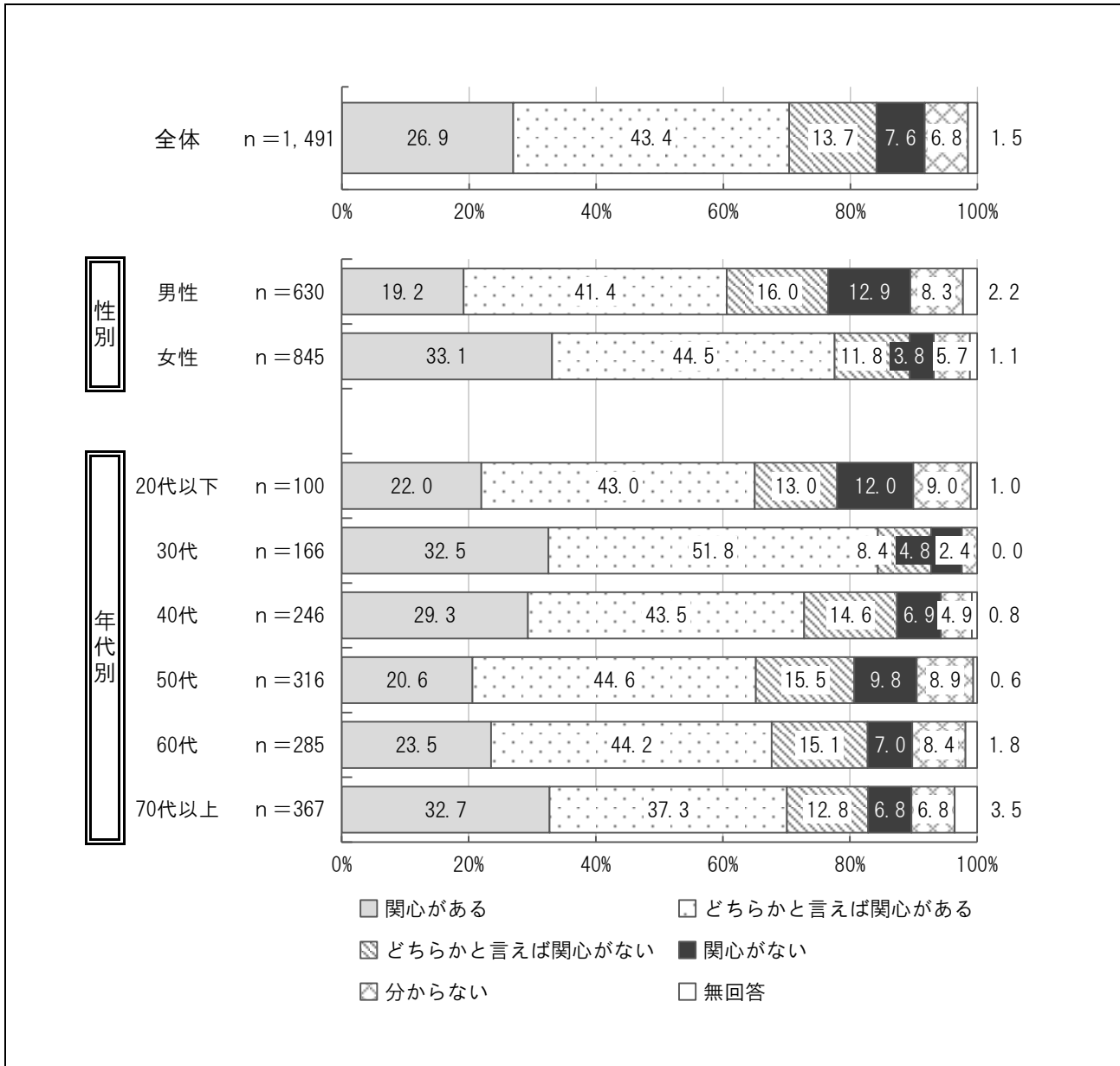
平成23年度の調査結果と比較すると、「富士・富士宮地区のニュース、できごと」「富士・富士宮地区周辺の交通情報、気象情報」「防災情報」など、ほとんどの項目で減少している。

## ■食育について

### 「食育」への関心について

#### (1) 「食育」の関心度

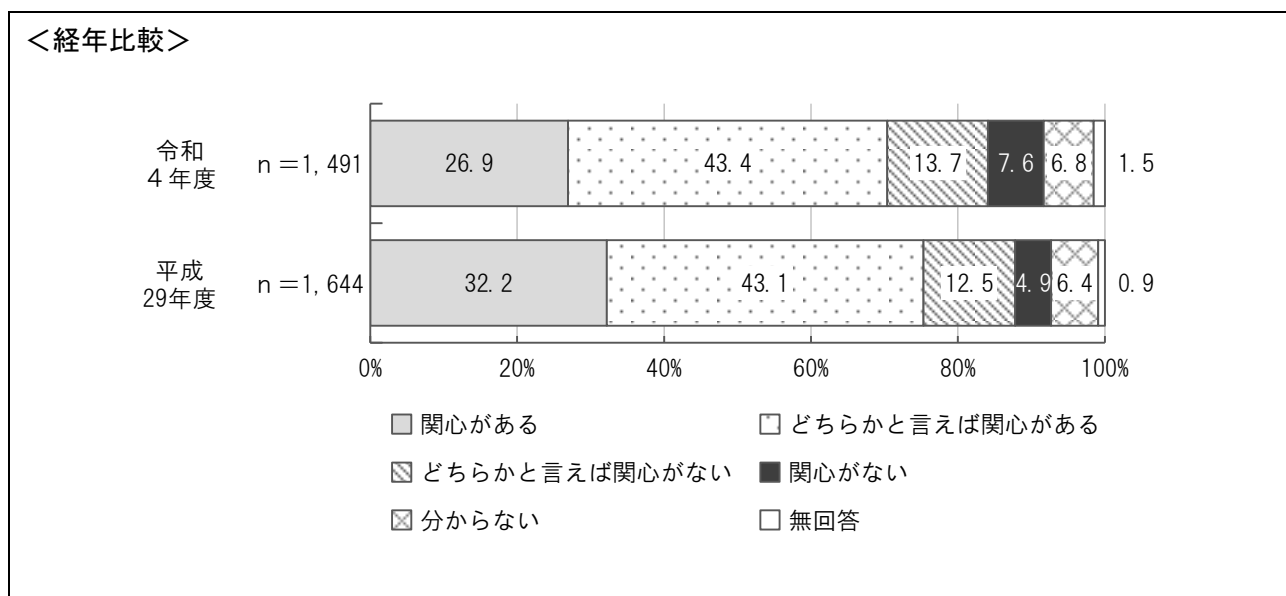
問23 あなたは、「食育」に関心がありますか。次の中から1つだけ選んでください。



「食育」の関心度は、「どちらかと言えば関心がある」が 43.4%と最も多く、次いで「関心がある」が 26.9%、「どちらかと言えば関心がない」が 13.7%となっている。また、『関心がある』（「関心がある」＋「どちらかと言えば関心がある」）は 70.3%、『関心がない』（「どちらかと言えば関心がない」＋「関心がない」）は 21.3%となっている。

性別で見ると、女性において「関心がある」が 33.1%と男性より多くなっている。また、『関心がある』は女性において 77.6%と多くなっている。

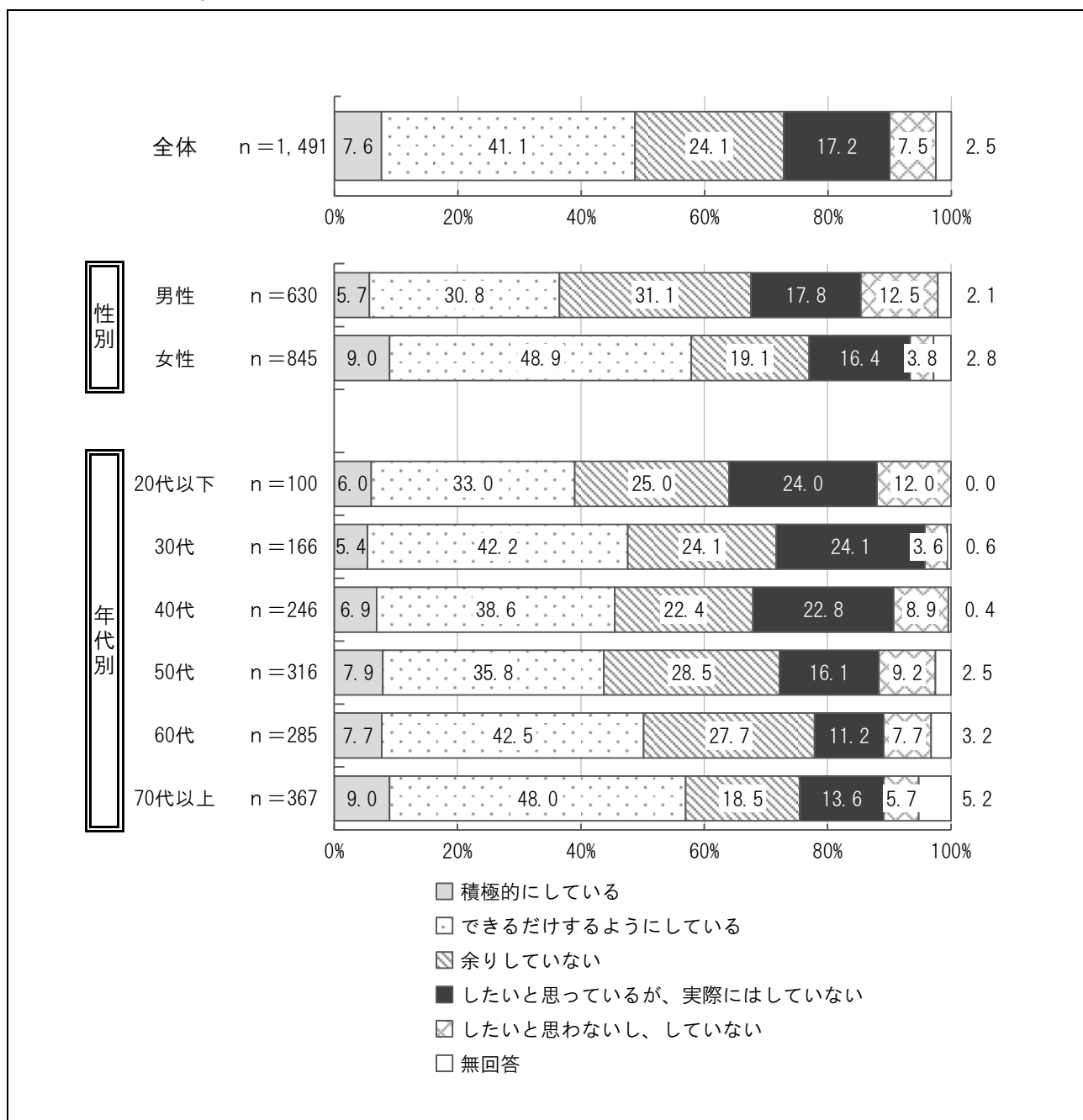
年代別では、30代において「どちらかと言えば関心がある」が 51.8%とほかの年代と比べて多くなっている。70代以上においては「どちらかと言えば関心がある」が 37.3%と少なくなっている。また、『関心がある』は30代において 84.3%と多く、8割を超えている。



平成 29 年度の調査結果と比較すると、「関心がある」が 26.9%と、5.3 ポイント減少している。また、『関心がある』は 70.3%と、5.0 ポイント減少している。

(2) 「食育」の実践状況

問24 あなたは、日頃から「食育」を何らかの形で実践していますか。次の中から1つだけ選んでください。

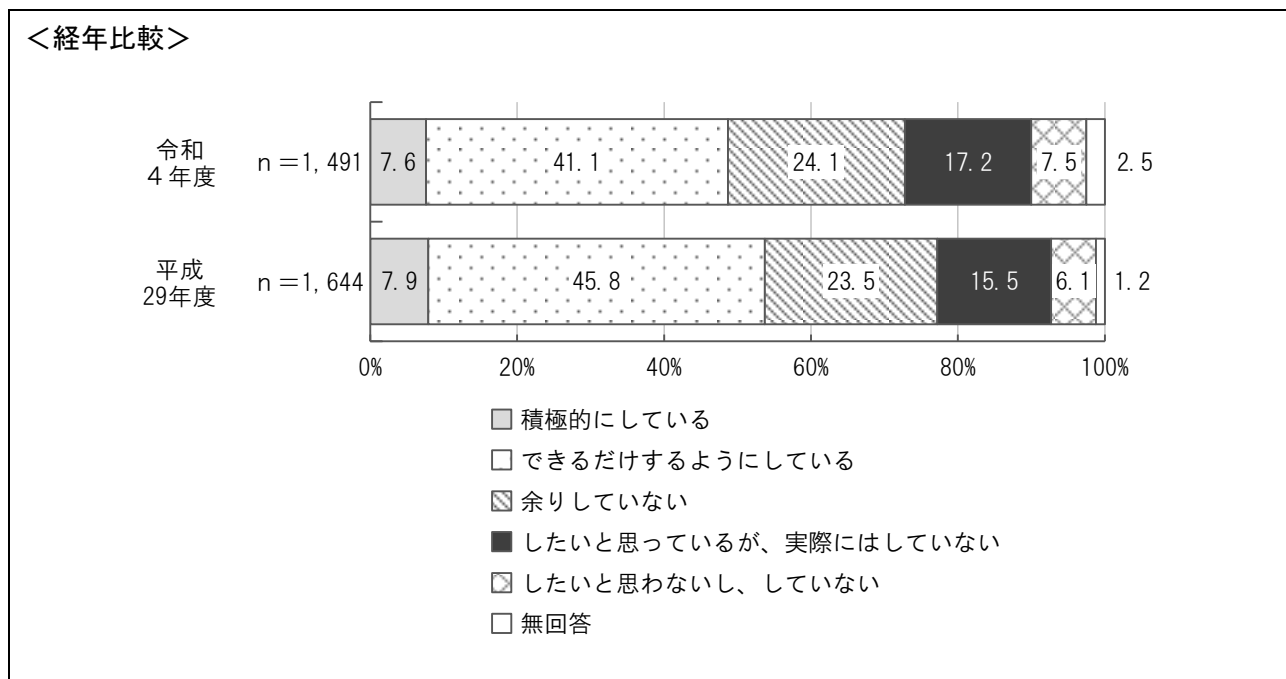


「食育」の実践状況は、「できるだけするようにしている」が 41.1%と最も多く、次いで「余りしていない」が 24.1%、「したいと思っているが、実際にはしていない」が 17.2%となっている。また、『している』（「積極的に行っている」＋「できるだけするようにしている」）は 48.7%、『していない』（「余りしていない」＋「したいと思っているが、実際にはしていない」＋「したいと思わないし、していない」）は 48.8%となっている。

性別で見ると、男性において「余りしていない」「したいと思わないし、していない」が女性より多くなっている。女性においては「できるだけするようにしている」が 48.9%と男性より多くなっている。また、『していない』は男性において 61.4%と多く、女性との差が大きくなっている。



年代別では、70代以上において「できるだけするようにしている」が48.0%とほかの年代と比べて多くなっている。また、『している』は70代以上において56.9%、『していない』は20代以下において61.0%と多くなっている。

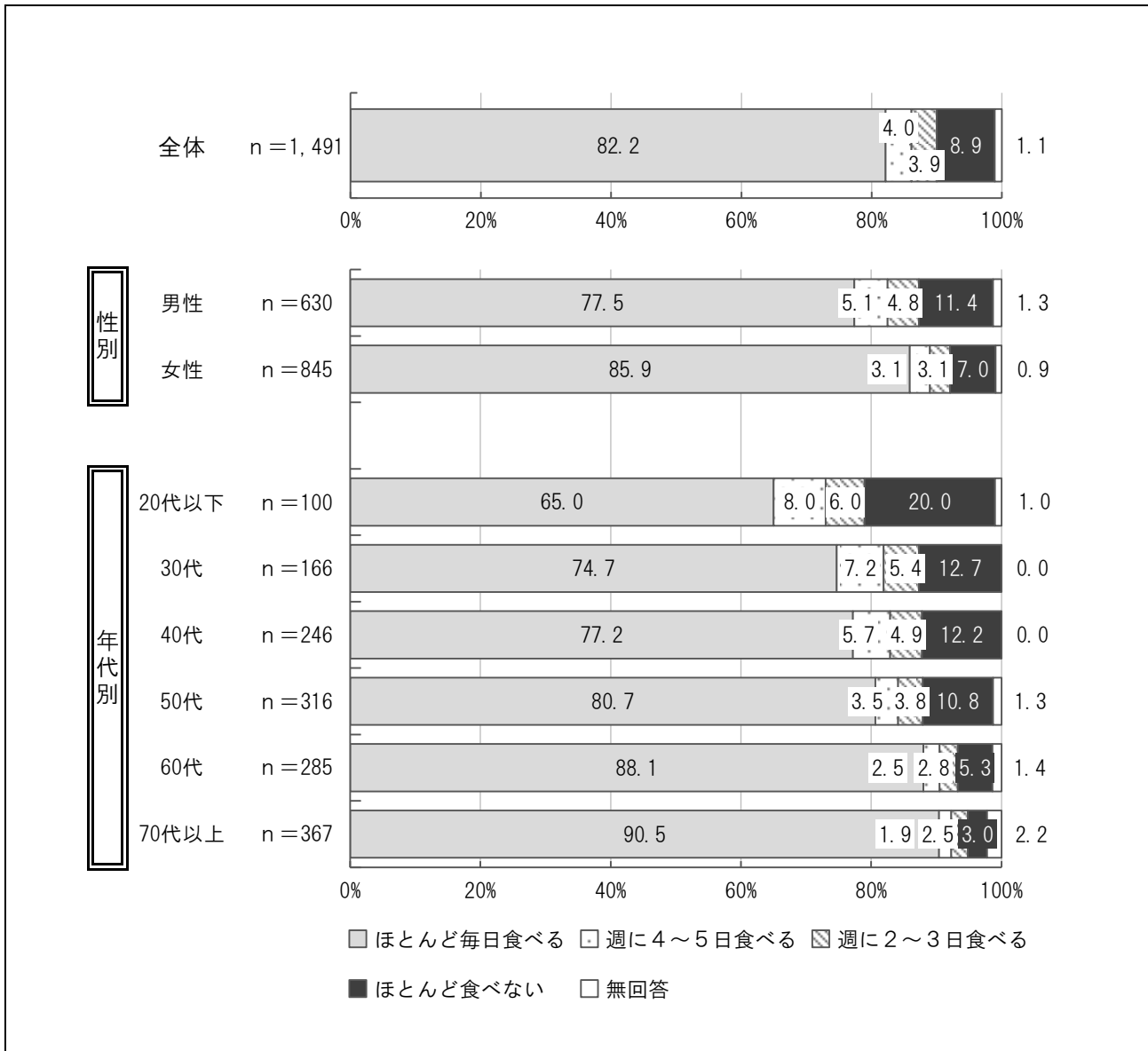


平成29年度の調査結果と比較すると、『している』は48.7%と、5.0ポイント減少している。

食生活・生活習慣について

(3) 朝食の摂取状況

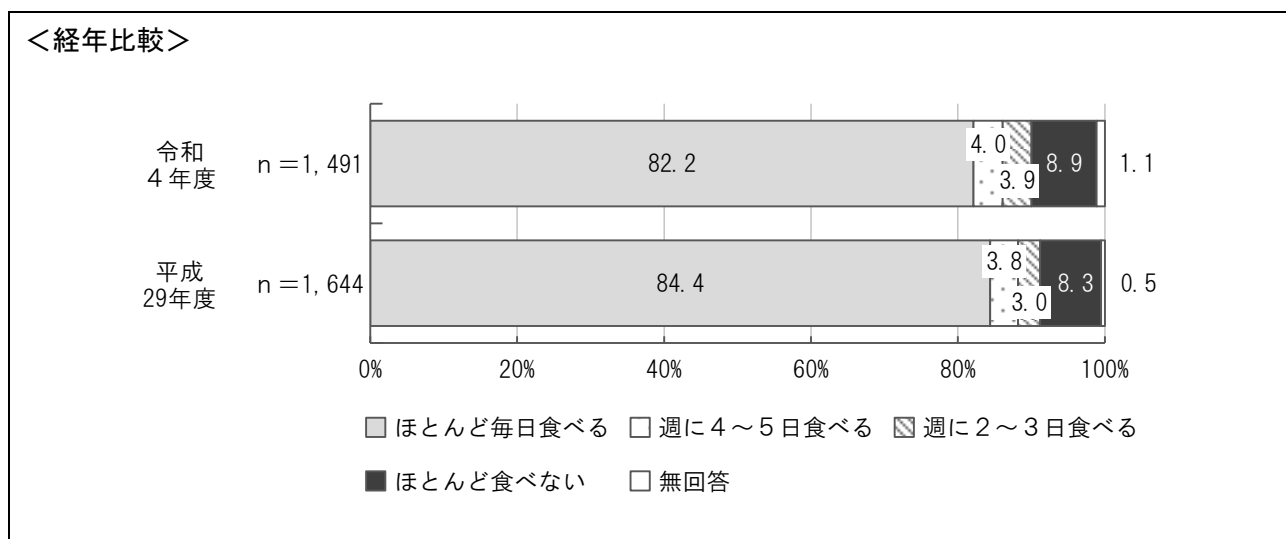
問25 あなたは、ふだん朝食を食べますか。次の中から1つだけ選んでください。



朝食の摂取状況は、「ほとんど毎日食べる」が 82.2%と最も多く、次いで「ほとんど食べない」が 8.9%、「週に4~5日食べる」が 4.0%となっている。

性別で見ると、女性において「ほとんど毎日食べる」が 85.9%と男性より多くなっている。

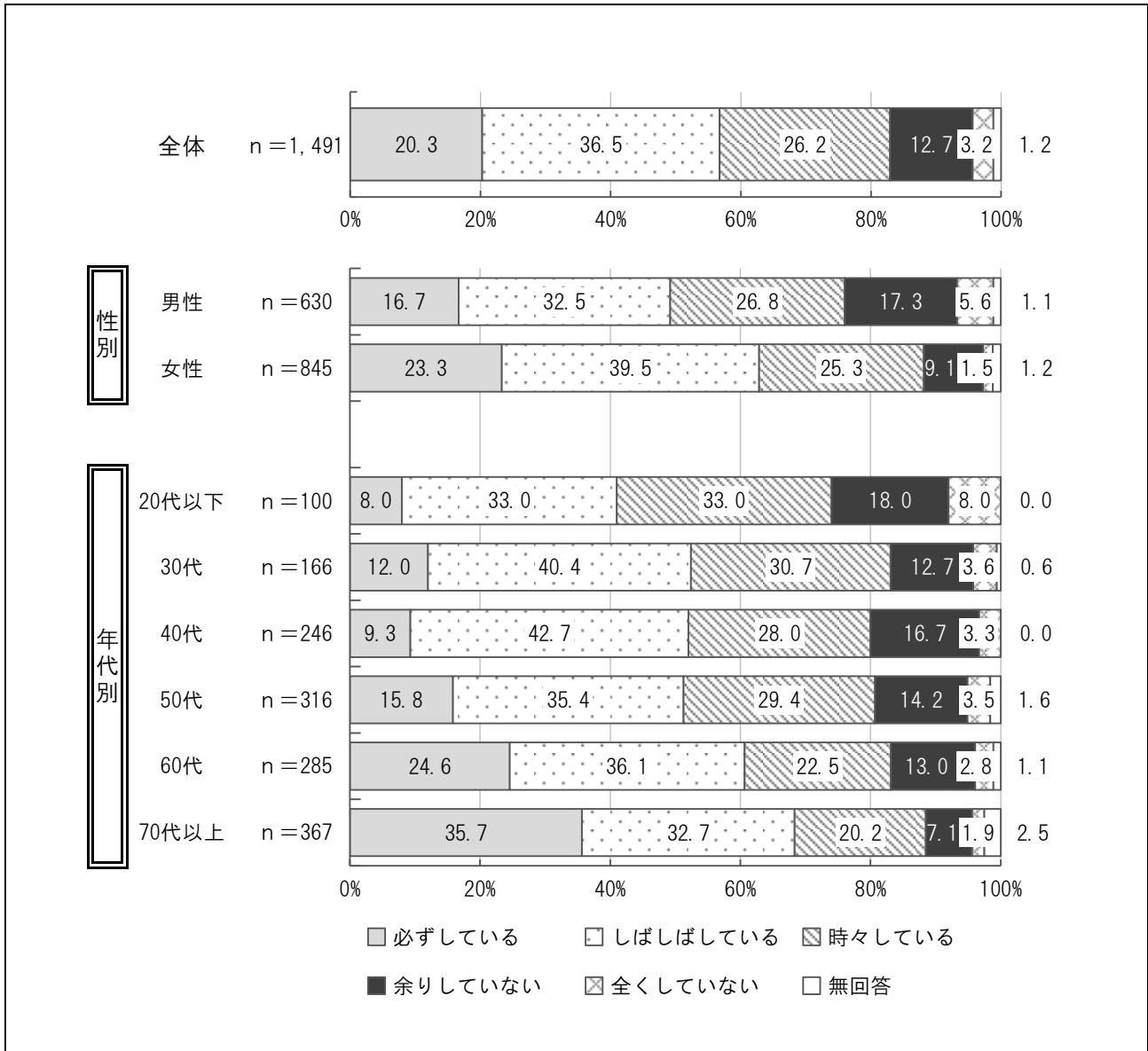
年代別では、20代以下において「ほとんど食べない」が 20.0%とほかの年代と比べて多く、「ほとんど毎日食べる」が 65.0%と少なくなっている。また、年代が上がるごとに「ほとんど毎日食べる」が、年代が下がるごとに「ほとんど食べない」が多くなっている。



平成29年度の調査結果と比較すると、大きな差異は見られない。

(4) 栄養バランスに気をつけた食生活の実践状況

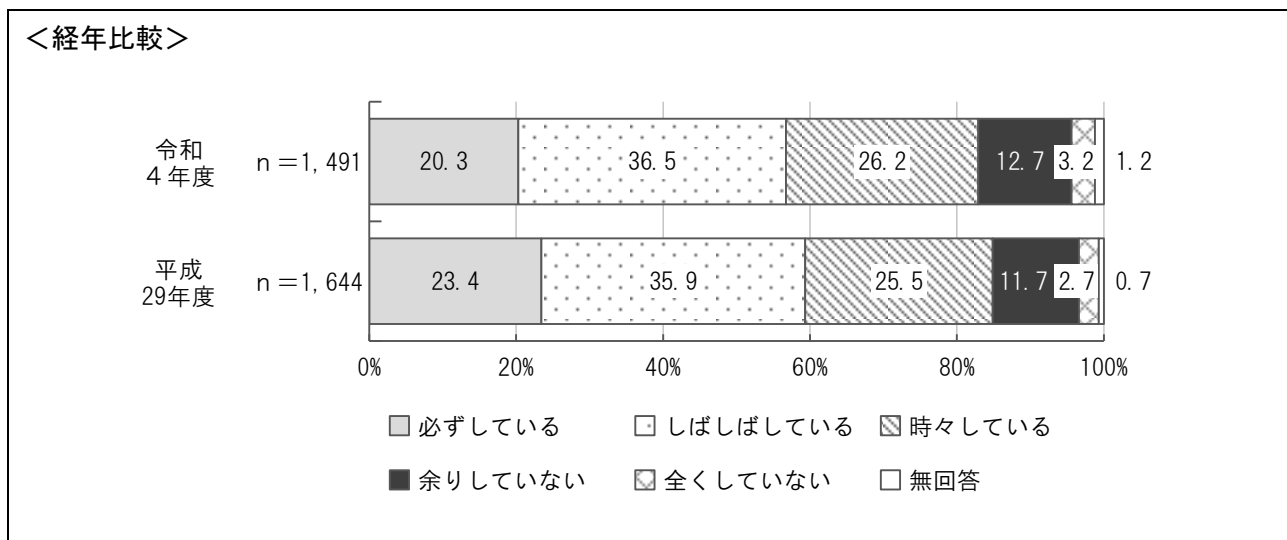
問26 あなたは、米を中心として水産物、畜産物、野菜など多様な副食から構成された日本独自の食生活を実践したり、または、油の多いものを控えたりするなど、栄養のバランスに気をつけていますか。次の中から1つだけ選んでください。



栄養バランスに気をつけた食生活の実践状況は、「しばしばしている」が 36.5%と最も多く、次いで「時々している」が 26.2%、「必ずしている」が 20.3%となっている。また、『している』（「必ずしている」＋「しばしばしている」＋「時々している」）は 82.9%、『していない』（「余りしていない」＋「全くしていない」）は 15.9%となっている。

性別で見ると、男性において「余りしていない」が 17.3%と女性より多くなっている。女性においては「必ずしている」「しばしばしている」が男性より多くなっている。また、『している』は女性において 88.2%と多くなっている。

年代別では、70代以上において「必ずしている」が 35.7%とほかの年代と比べて多く、「余りしていない」が 7.1%と少なくなっている。また、『している』は 70代以上において 88.6%、『していない』は 20代以下において 26.0%と多くなっている。

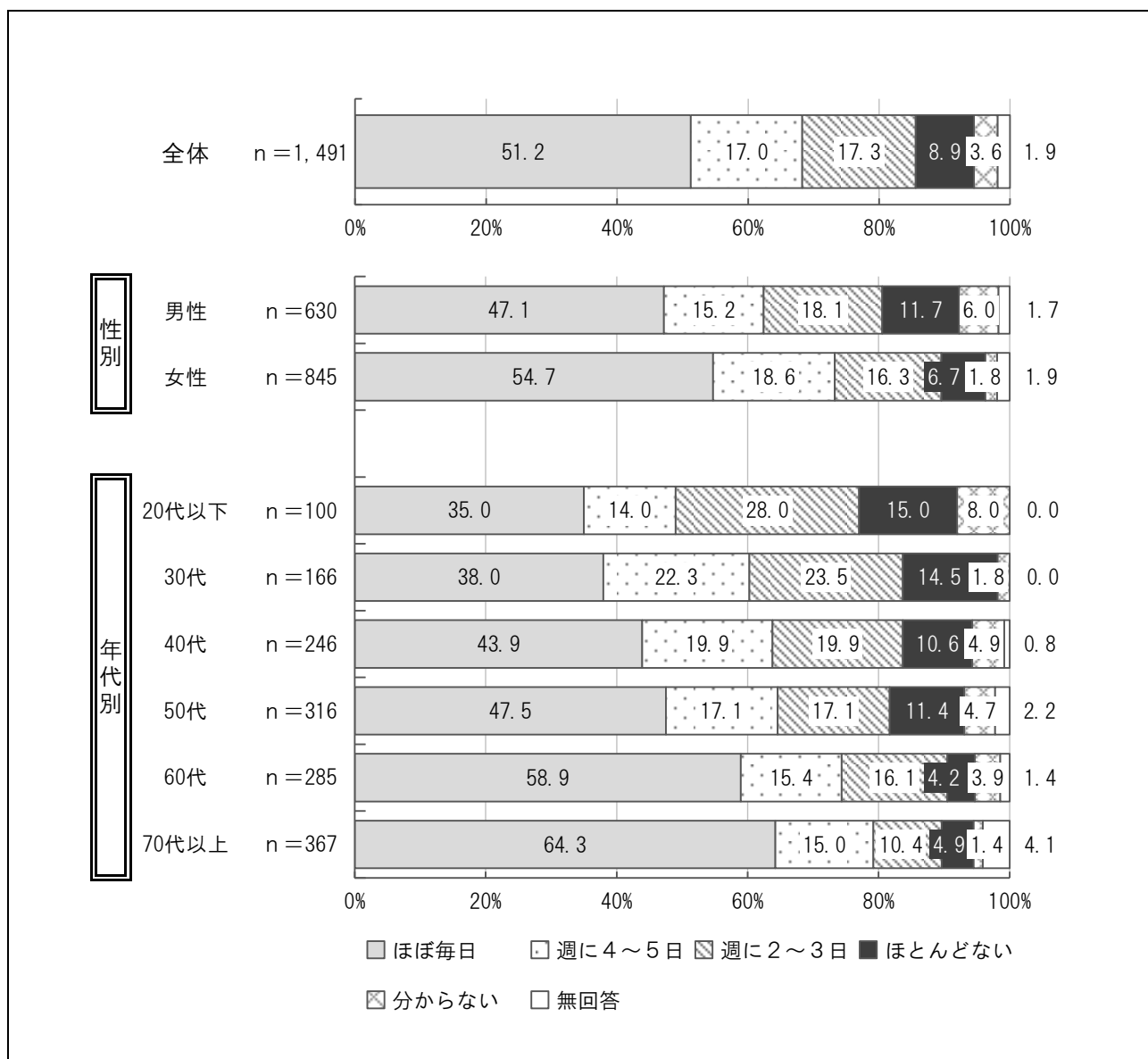


平成29年度の調査結果と比較すると、大きな差異は見られない。

(5) 1日に2回以上「主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる」ことの週あたり日数

問27 主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることが1日に2回以上あるのは、週に何日ありますか。次の中から1つだけ選んでください。

- 「主食」とは、米、パン、麺類などの穀類で、主として糖質エネルギーの供給源となるものです。
- 「主菜」とは、魚や肉、卵、大豆製品などを使った副食の中心となる料理で、主として良質たんぱく質や脂肪の供給源となるものです。
- 「副菜」とは、野菜などを使った料理で、主食と主菜に不足するビタミン、ミネラル、食物繊維などを補う重要な役割を果たしています。



1日に2回以上「主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる」ことの週あたり日数は、「ほぼ毎日」が51.2%と最も多く、次いで「週に2~3日」が17.3%、「週に4~5日」が17.0%となっている。

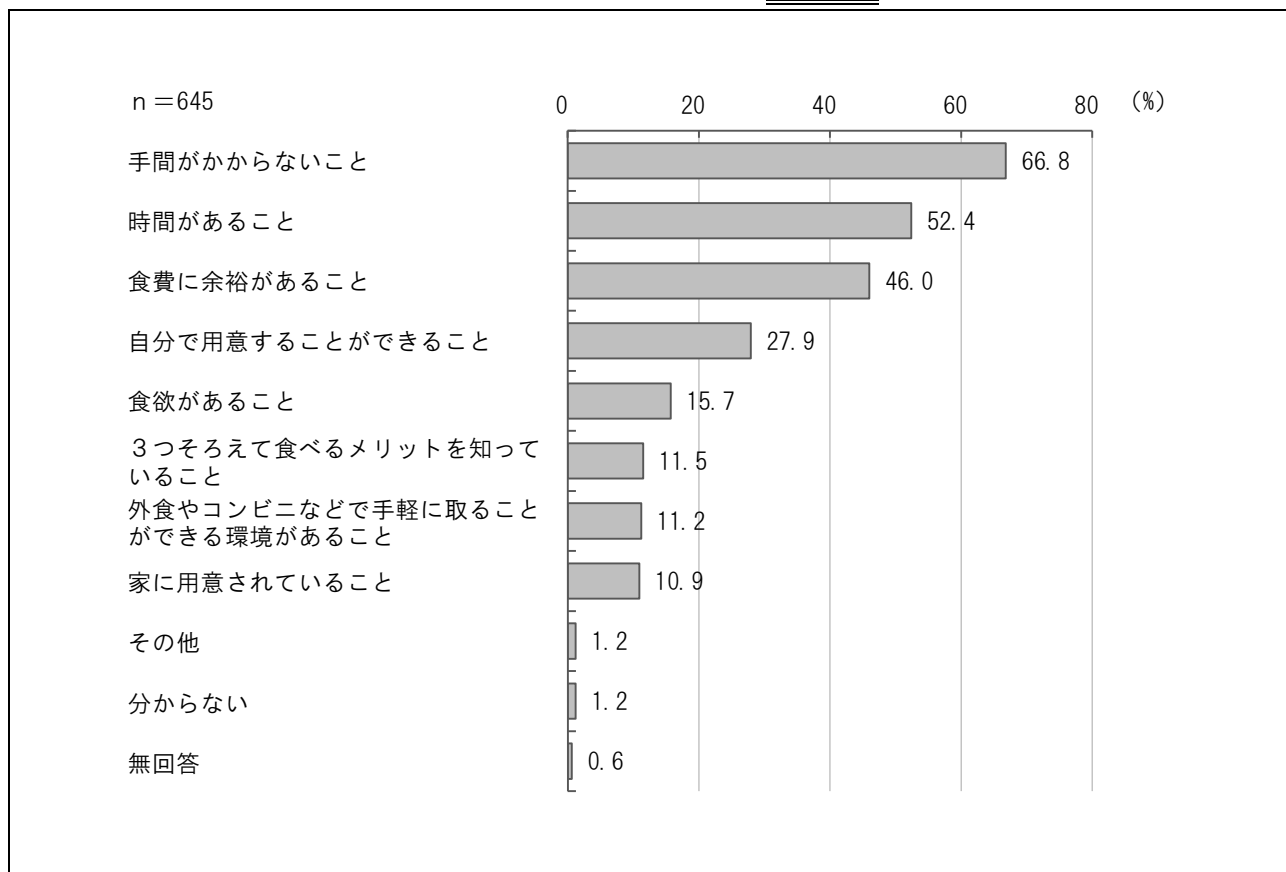
性別で見ると、男性において「ほとんどない」が11.7%と女性より多くなっている。女性においては「ほぼ毎日」が54.7%と男性より多くなっている。

年代別では、70代以上において「ほぼ毎日」が64.3%とほかの年代と比べて多く、「週に2~3日」が10.4%と少なくなっている。また、年代が上がるごとに「ほぼ毎日」が多くなっている。

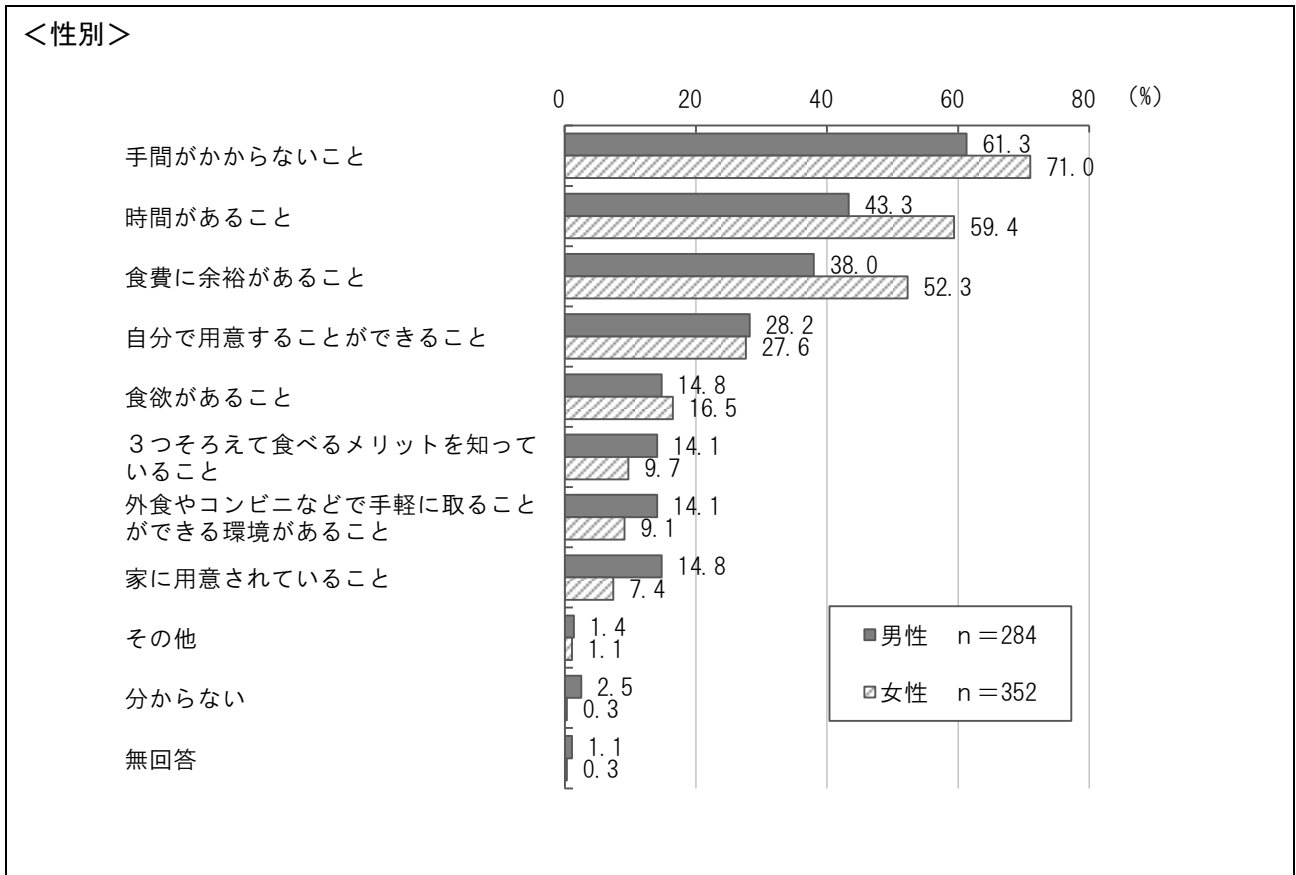
## (6) 主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる回数を増やすために必要だと思うこと

■ 問27で「週に4～5日」又は「週に2～3日」又は「ほとんどない」と答えた人のみ

問27-1 主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる回数を増やすためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から当てはまるものを3つ以内で選んでください。

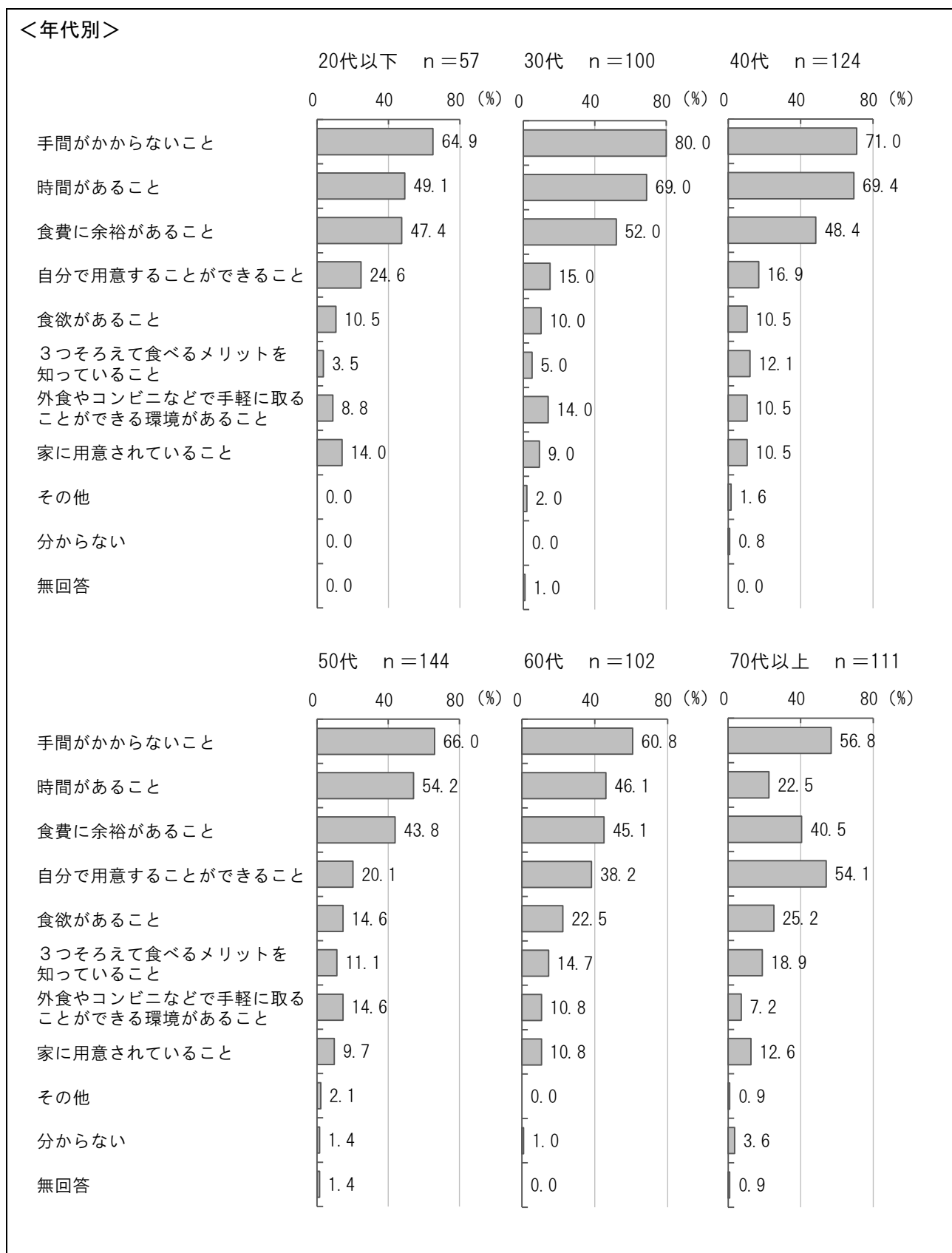


主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる回数を増やすために必要だと思うことは、「手間がかからないこと」が66.8%と最も多く、次いで「時間があること」が52.4%、「食費に余裕があること」が46.0%となっている。



性別で見ると、男性において「外食やコンビニなどで手軽に取ることができる環境があること」「家に用意されていること」が女性より多くなっている。女性においては「手間がかからないこと」「時間があること」「食費に余裕があること」が多く、男性との差が大きくなっている。

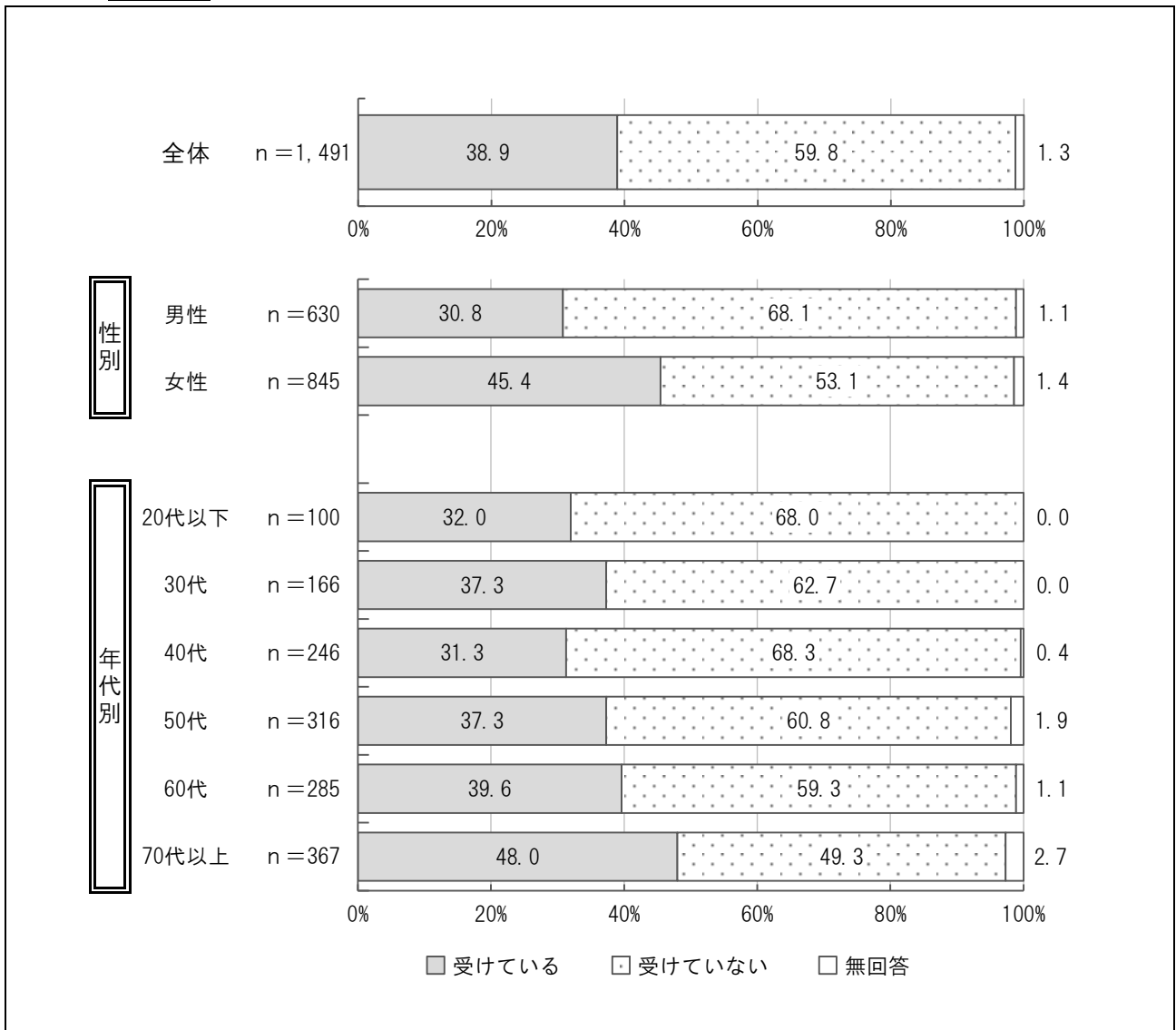




年代別では、30代において「手間がかからないこと」が80.0%とほかの年代と比べて多くなっている。70代以上においては「自分で用意することができること」が54.1%と多く、「時間があること」が22.5%と少なくなっている。

(7) 治療以外での 1 年に 1 回以上の定期的な歯科健診状況

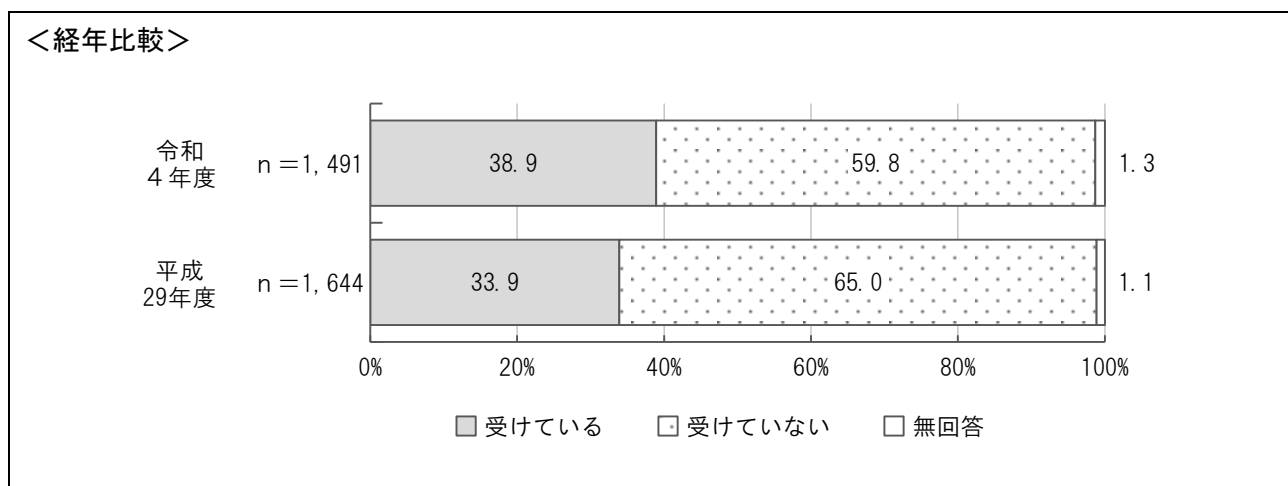
問28 あなたは、治療以外で、1 年に 1 回以上、定期的な歯の健診を受けていますか。次の中から 1 つだけ選んでください。



治療以外での 1 年に 1 回以上の定期的な歯科健診状況は、「受けている」が 38.9%、「受けていない」が 59.8%となっている。

性別で見ると、男性において「受けていない」が 68.1%と女性より多くなっている。

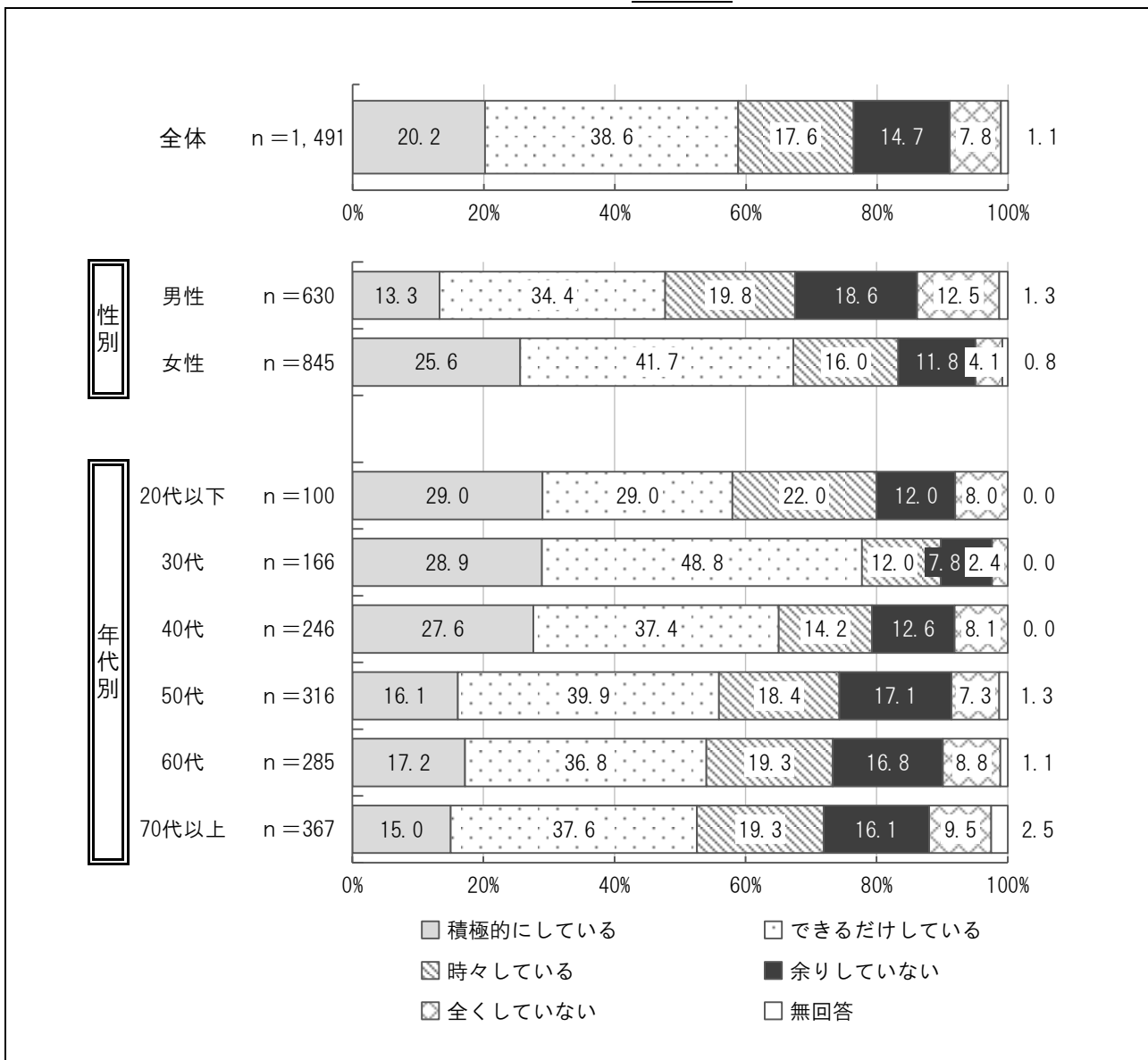
年代別では、70 代以上において「受けていない」が 49.3%とほかの年代と比べて少なく、半数を下回っている。



平成29年度の調査結果と比較すると、「受けている」が38.9%と、5.0ポイント増加している。

(8) 食を通じたコミュニケーション充実のための取組状況

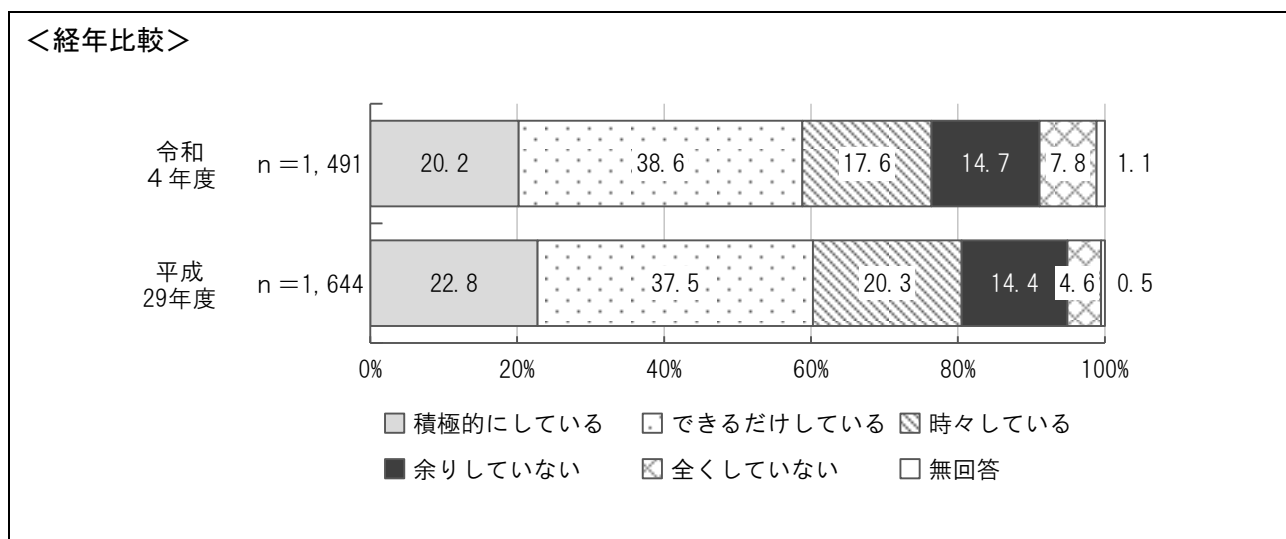
問29 あなたは、家族や友人と食卓を囲み、食事を楽しむ機会を増やすなど、食を通じたコミュニケーションを充実させていますか。次の中から1つだけ選んでください。



食を通じたコミュニケーション充実のための取組状況は、「できるだけしている」が 38.6%と最も多く、次いで「積極的に行っている」が 20.2%、「時々している」が 17.6%となっている。また、『している』（「積極的に行っている」＋「できるだけしている」＋「時々している」）は 76.4%、『していない』（「余りしていない」＋「全くしていない」）は 22.5%となっている。

性別で見ると、男性において「余りしていない」「全くしていない」が女性より多くなっている。女性においては「積極的に行っている」「できるだけしている」が男性より多くなっている。また、『している』は女性において 83.2%と多くなっている。

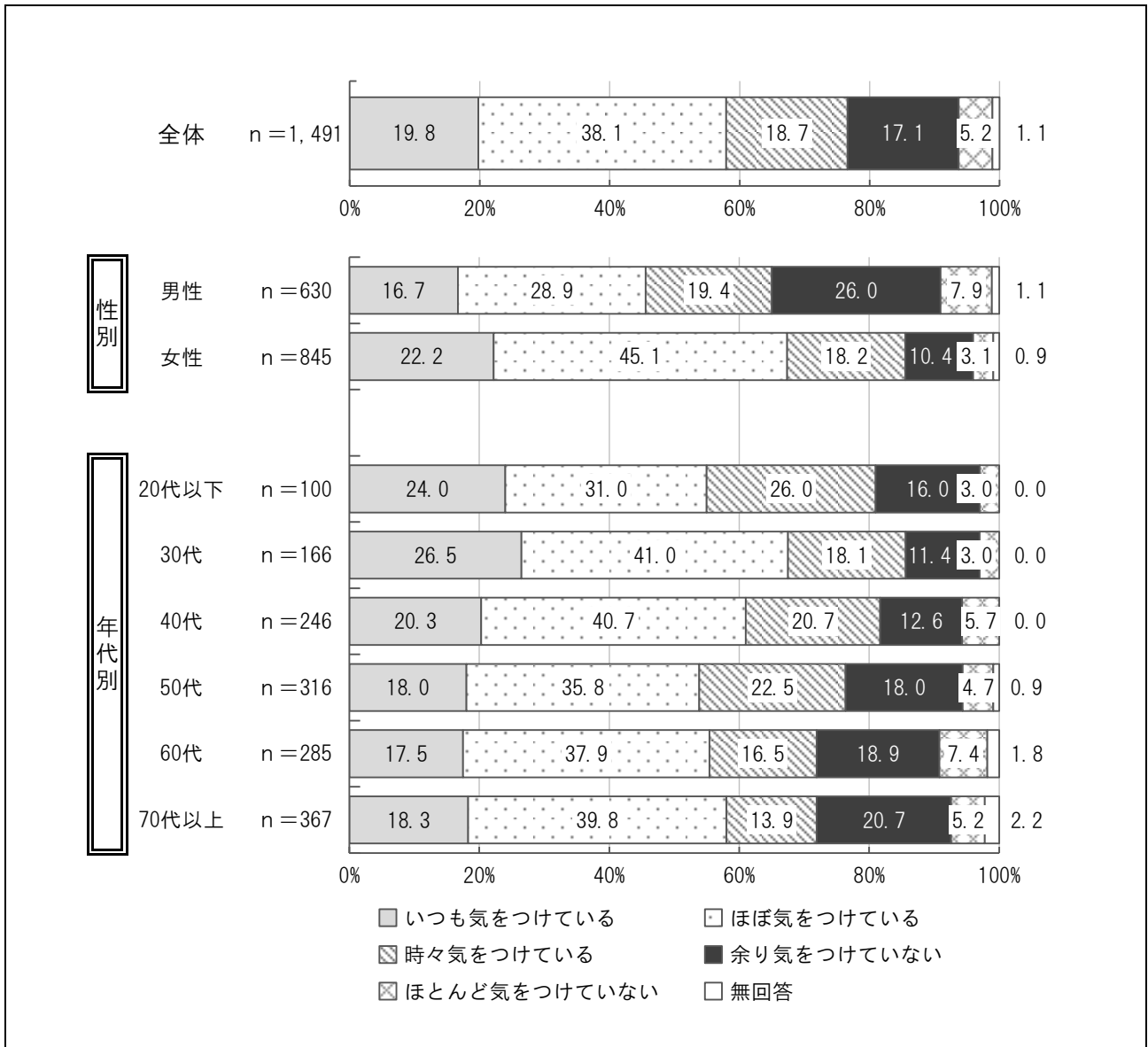
年代別では、20代以下において「できるだけしている」が 29.0%とほかの年代と比べて少なくなっている。30代においては「できるだけしている」が 48.8%と多く、半数近くになっている。また、『している』は 30代において 89.8%と多くなっている。



平成29年度の調査結果と比較すると、大きな差異は見られない。

(9) 食事に関する作法の実践状況

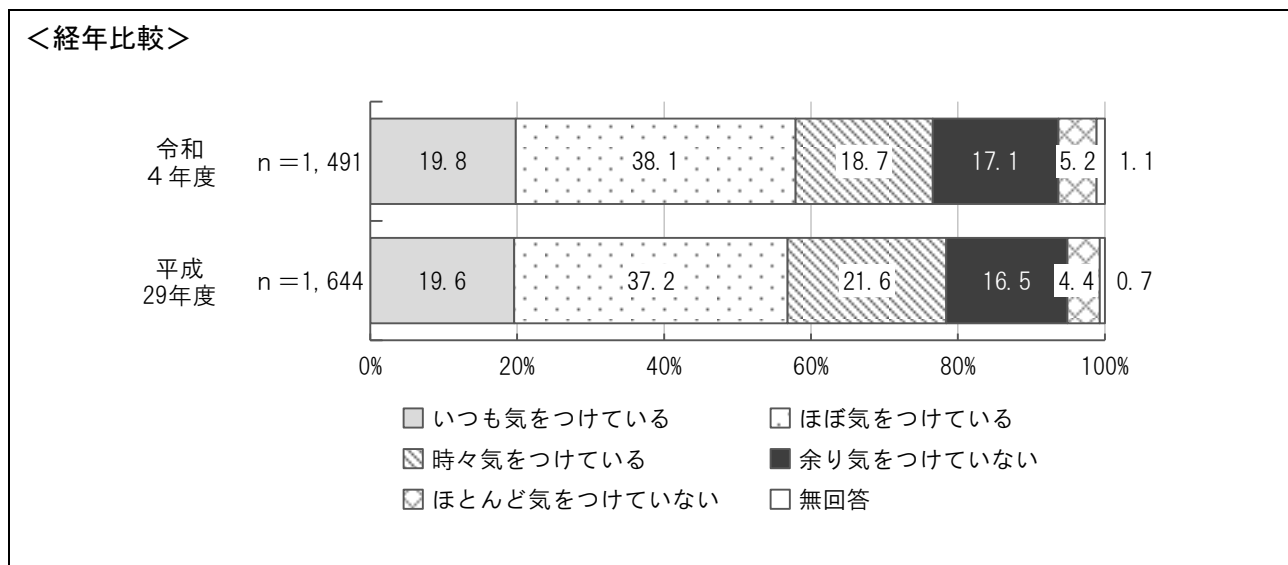
問30 あなたは、食事に関する作法に気をつけていますか。次の中から1つだけ選んでください。



食事に関する作法の実践状況は、「ほぼ気をつけている」が 38.1%と最も多く、次いで「いつも気をつけている」が 19.8%、「時々気をつけている」が 18.7%となっている。また、『気をつけている』（「いつも気をつけている」+「ほぼ気をつけている」+「時々気をつけている」）は 76.6%、『気をつけていない』（「余り気をつけていない」+「ほとんど気をつけていない」）は 22.3%となっている。

性別で見ると、男性において「余り気をつけていない」が 26.0%と女性より多くなっている。女性においては「いつも気をつけている」「ほぼ気をつけている」が男性より多くなっている。また、『気をつけている』は女性において 85.6%と多く、男性との差が大きくなっている。

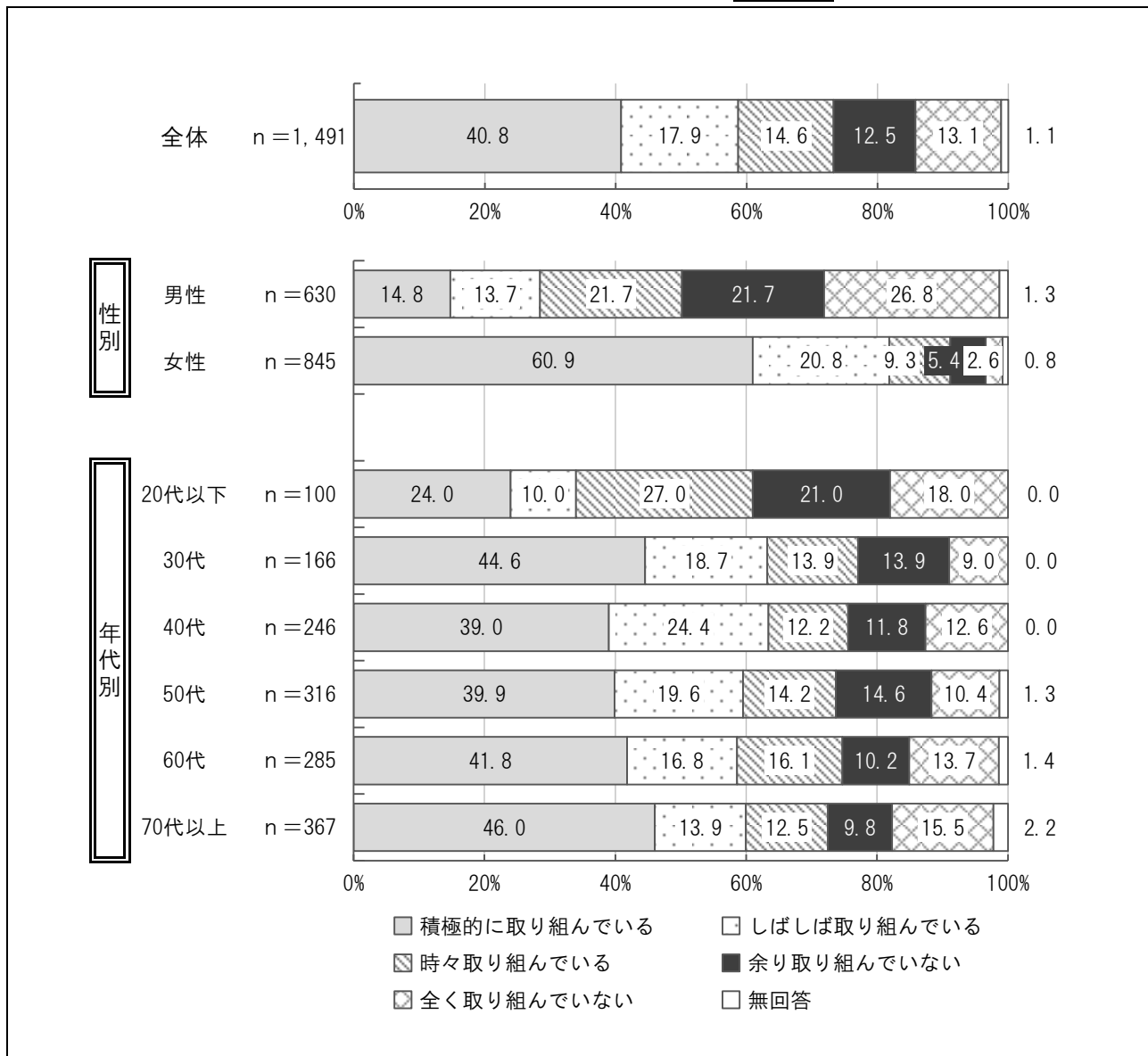
年代別では、大きな差異は見られない。



平成29年度の調査結果と比較すると、大きな差異は見られない。

(10) 料理の取組状況

問31 あなたは、自ら料理に取り組んでいますか。次の中から1つだけ選んでください。

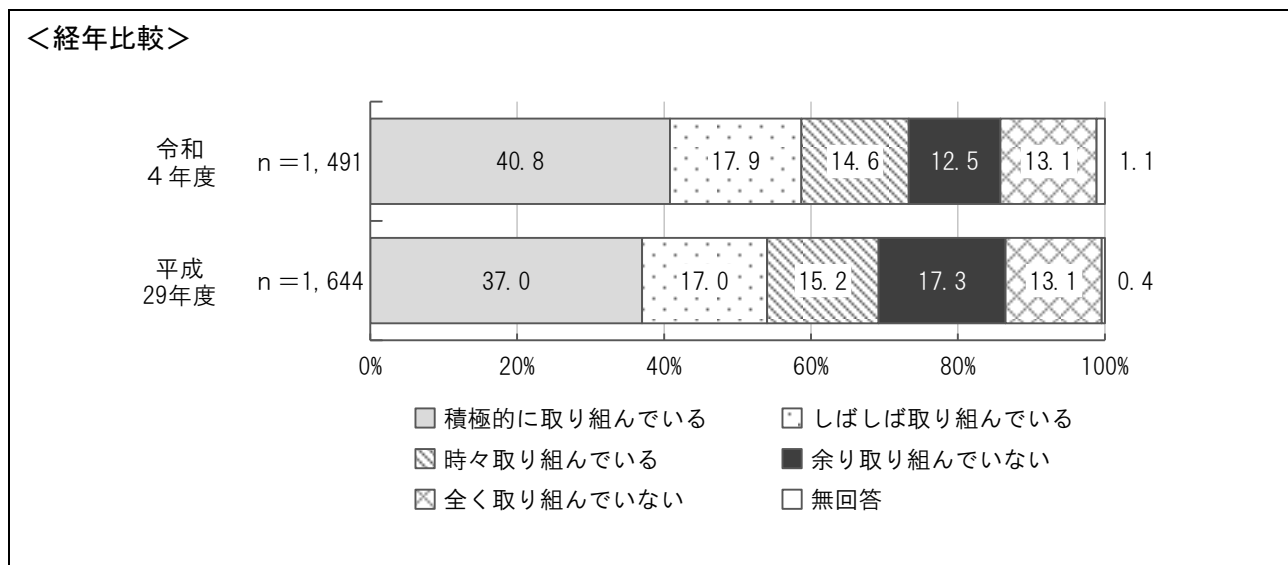


料理の取組状況は、「積極的に取り組んでいる」が40.8%と最も多く、次いで「しばしば取り組んでいる」が17.9%、「時々取り組んでいる」が14.6%となっている。また、『取り組んでいる』（「積極的に取り組んでいる」+「しばしば取り組んでいる」+「時々取り組んでいる」）は73.4%、『取り組んでいない』（「余り取り組んでいない」+「全く取り組んでいない」）は25.6%となっている。

性別で見ると、男性において「時々取り組んでいる」「余り取り組んでいない」「全く取り組んでいない」が女性より多くなっている。女性においては「積極的に取り組んでいる」が60.9%と多く、男性との差が特に大きくなっている。また、『取り組んでいる』は女性において91.1%と多く、9割を超えている。

年代別では、20代以下において「時々取り組んでいる」「余り取り組んでいない」がほかの年代と比べて多く、「積極的に取り組んでいる」が24.0%と少なくなっている。また、『取り組んでいない』は20代以下において39.0%と多くなっている。





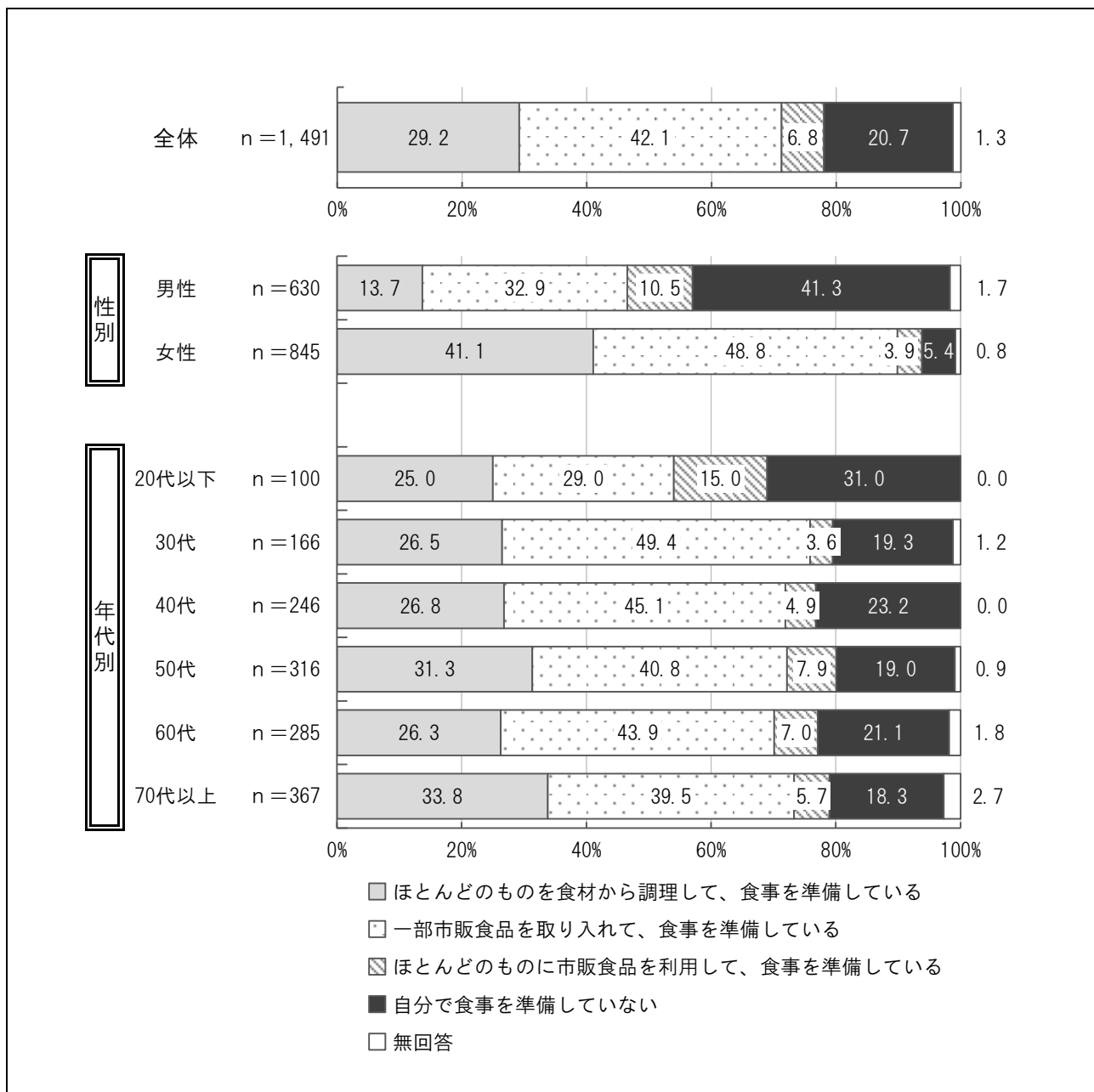
平成29年度の調査結果と比較すると、大きな差異は見られない。

(11) 自らの食事準備状況

問32 あなたは、ふだんの食事を自分で準備していますか。次の中から1つだけ選んでください。

※「食事を準備する」とは、調理だけでなく、温めたり、お皿に盛り付けたりすることを含みます。弁当を買ってくるだけというのは含みません。

※「市販食品」とは、惣菜、冷凍食品、レトルト食品等、そのままもしくは温めるだけでよいものことです。



自らの食事準備状況は、「一部市販食品を取り入れて、食事を準備している」が 42.1%と最も多く、次いで「ほとんどのものを食材から調理して、食事を準備している」が 29.2%、「自分で食事を準備していない」が 20.7%となっている。また、『自分で食事を準備している』（「ほとんどのものを食材から調理して、食事を準備している」＋「一部市販食品を取り入れて、食事を準備している」＋「ほとんどのものに市販食品を利用して、食事を準備している」）は 78.0%となっている。

性別で見ると、男性において「ほとんどのものに市販食品を利用して、食事を準備している」が10.5%と女性より多く、また「自分で食事を準備していない」は41.3%と多く、女性との差が特に大きくなっている。女性においては「ほとんどのものを食材から調理して、食事を準備している」が41.1%と多く、男性との差が特に大きくなっている。

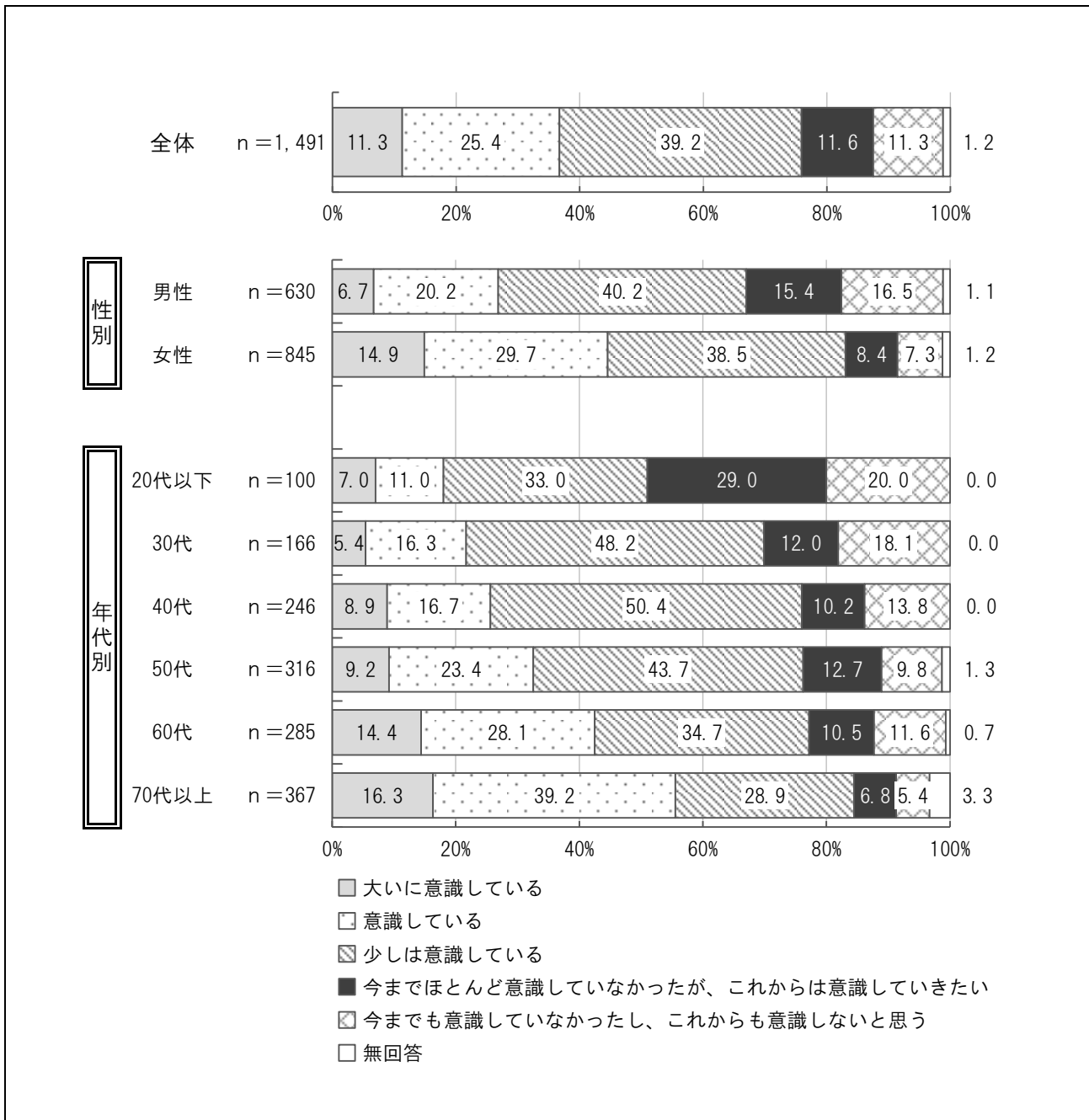
年代別では、20代以下において「ほとんどのものに市販食品を利用して、食事を準備している」「自分で食事を準備していない」がほかの年代と比べて多く、「一部市販食品を取り入れて、食事を準備している」が29.0%と少なくなっている。また、『自分で食事を準備している』は20代以下において69.0%と少なくなっている。

(12) 家庭における地産地消に対する意識状況

問33 あなたの家庭では、ふだんの買い物や食事の際に、地産地消\*を意識していますか。次の中から1つだけ選んでください。

※地産地消とは…

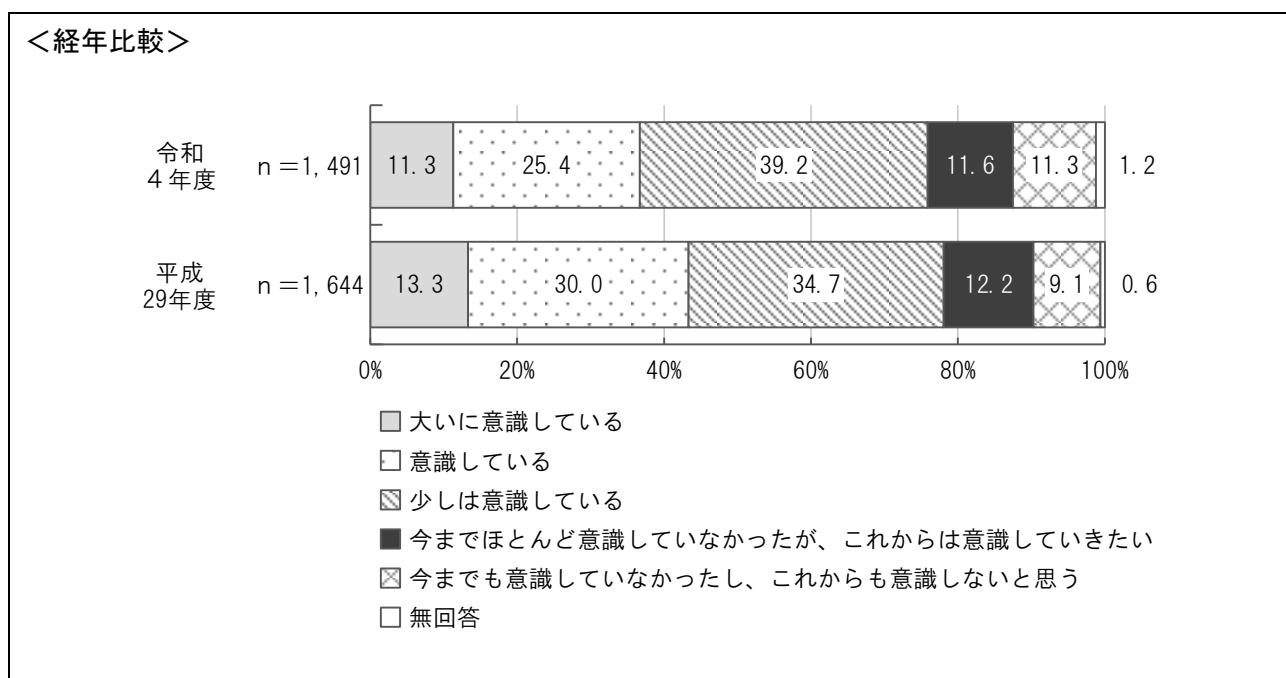
「地場生産ー地場消費」を略した言葉で、地域で生産されたものを地域で消費すること。食料に対する安全志向の高まりを背景とした、消費者と生産者の相互理解を深める取組の1つ。



家庭における地産地消に対する意識状況は、「少しは意識している」が 39.2%と最も多く、次いで「意識している」が 25.4%、「今までほとんど意識していなかったが、これからは意識していきたい」が 11.6%となっている。また、『意識している』（「大いに意識している」+「意識している」+「少しは意識している」）は 75.9%、『意識していない』（「今までほとんど意識していなかったが、これからは意識していきたい」+「今までも意識していなかったし、これからも意識しないと思う」）は 22.9%となっている。

性別で見ると、男性において「今までほとんど意識していなかったが、これからは意識していきたい」「今までも意識していなかったし、これからも意識しないと思う」が女性より多くなっている。女性においては「大いに意識している」「意識している」が男性より多くなっている。また、『意識していない』は男性において31.9%と多くなっている。

年代別では、20代以下において「今までほとんど意識していなかったが、これからは意識していきたい」が29.0%とほかの年代と比べて多く、「意識している」が11.0%と少なくなっている。70代以上においては「意識している」が39.2%と多くなっている。また、年代が上がるごとに『意識している』が多くなっており、『意識していない』は20代以下において5割近くと多くなっている。



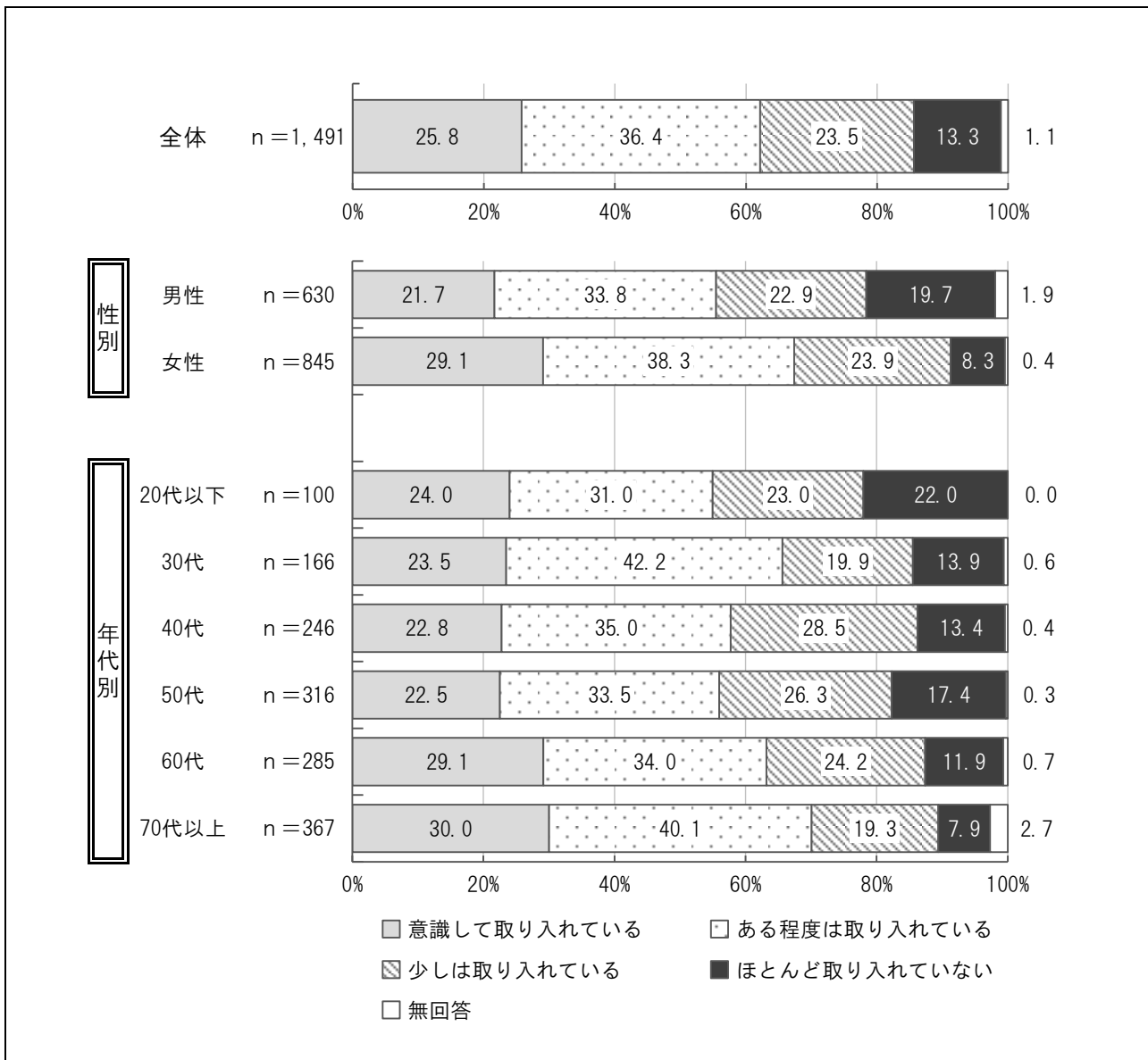
平成29年度の調査結果と比較すると、大きな差異は見られない。

(13) 家庭での行事食の取り入れ状況

問34 あなたの家庭では、行事食\*を取り入れていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※行事食とは…

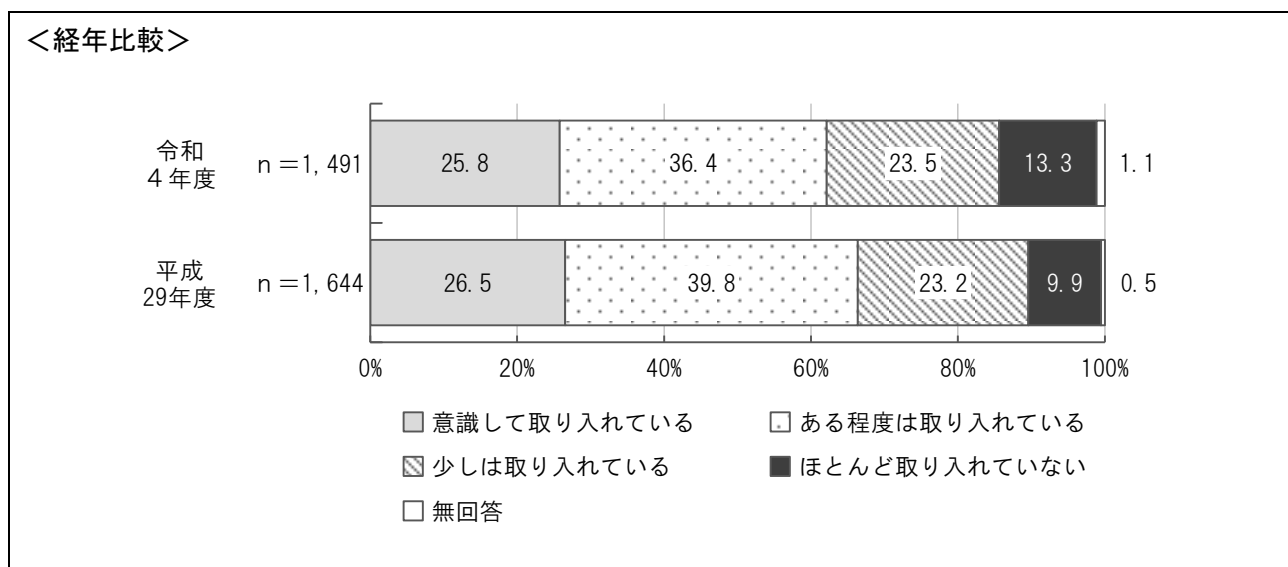
正月のおせち料理、ひな祭りのちらし寿司、端午の節句の柏餅、土用の丑のうなぎ、冬至のかぼちゃ料理などの季節折々の日本の伝統行事の際に食べる料理や、特別な行事のときの食事のこと。



家庭での行事食の取り入れ状況は、「ある程度は取り入れている」が 36.4%と最も多く、次いで「意識して取り入れている」が 25.8%、「少しは取り入れている」が 23.5%となっている。また、『取り入れている』（「意識して取り入れている」＋「ある程度は取り入れている」＋「少しは取り入れている」）は 85.6%となっている。

性別で見ると、男性において「ほとんど取り入れていない」が 19.7%と女性より多くなっている。女性においては「意識して取り入れている」が 29.1%と男性より多くなっている。また、『取り入れている』は女性において 91.4%と多くなっている。

年代別では、大きな差異は見られない。

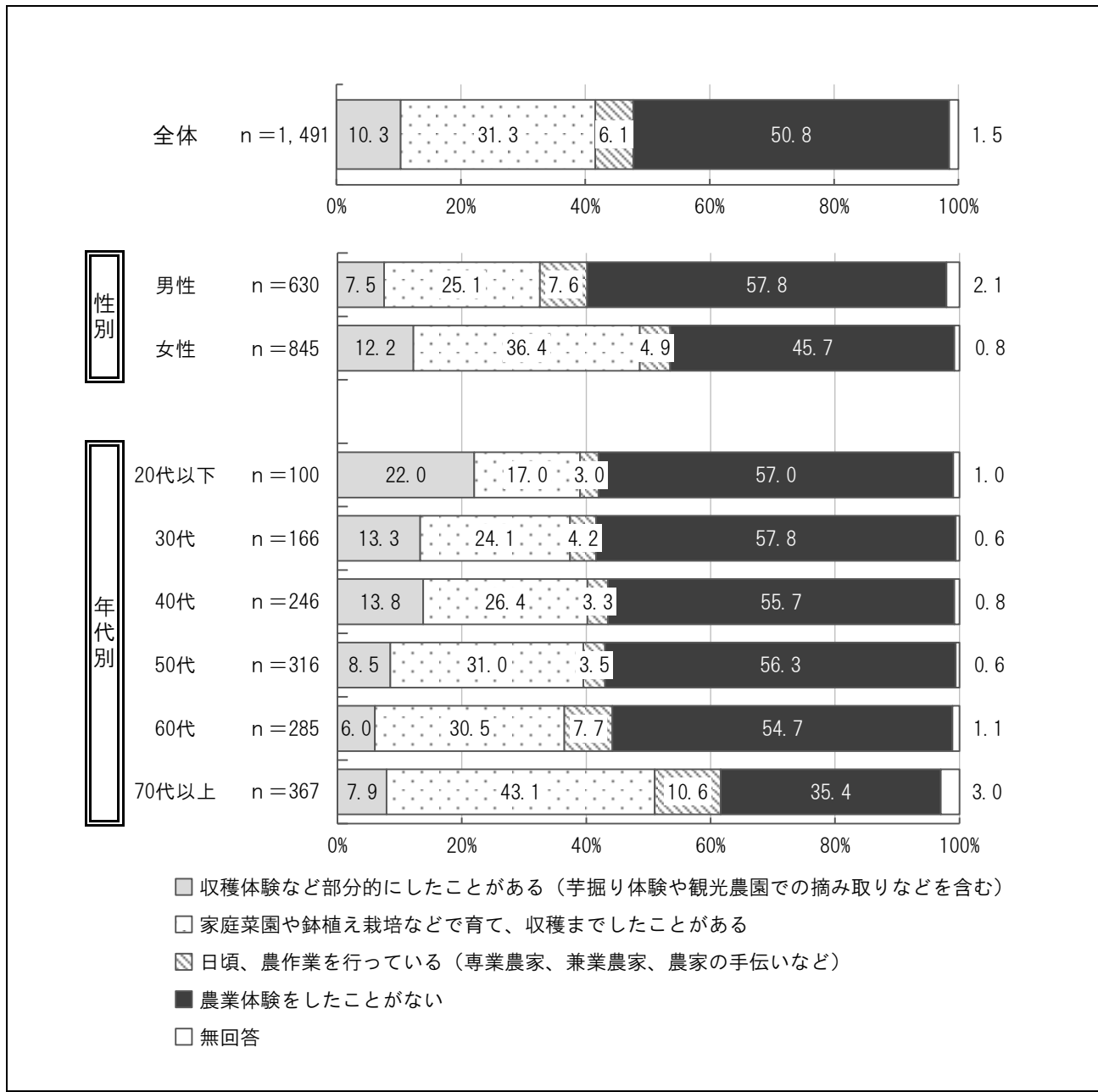


平成29年度の調査結果と比較すると、大きな差異は見られない。

食に関する取組について

(14) 過去3年間の「農業体験」状況

問35 あなたは、過去3年間に「農業体験」をしたことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

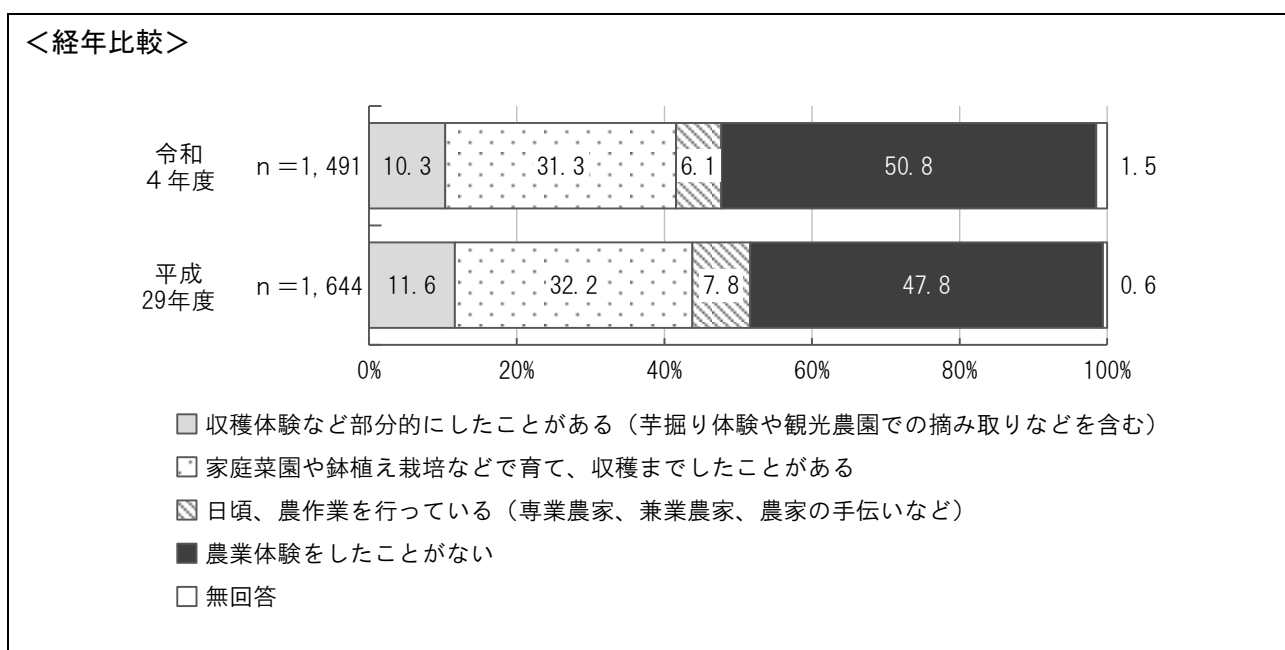


過去3年間の「農業体験」状況は、「農業体験をしたことがない」が50.8%と最も多く、次いで「家庭菜園や鉢植え栽培などで育て、収穫までしたことがある」が31.3%、「収穫体験など部分的にしたことがある (芋掘り体験や観光農園での摘み取りなどを含む)」が10.3%となっている。また、『したことがある』(「収穫体験など部分的にしたことがある (芋掘り体験や観光農園での摘み取りなどを含む)」+「家庭菜園や鉢植え栽培などで育て、収穫までしたことがある」+「日頃、農作業を行っている (専業農家、兼業農家、農家の手伝いなど)」)は47.7%となっている。



性別で見ると、男性において「農業体験をしたことがない」が57.8%と女性より多くなっている。女性においては「家庭菜園や鉢植え栽培などで育て、収穫までしたことがある」が36.4%と男性より多くなっている。また、『したことがある』は女性において53.5%と多くなっている。

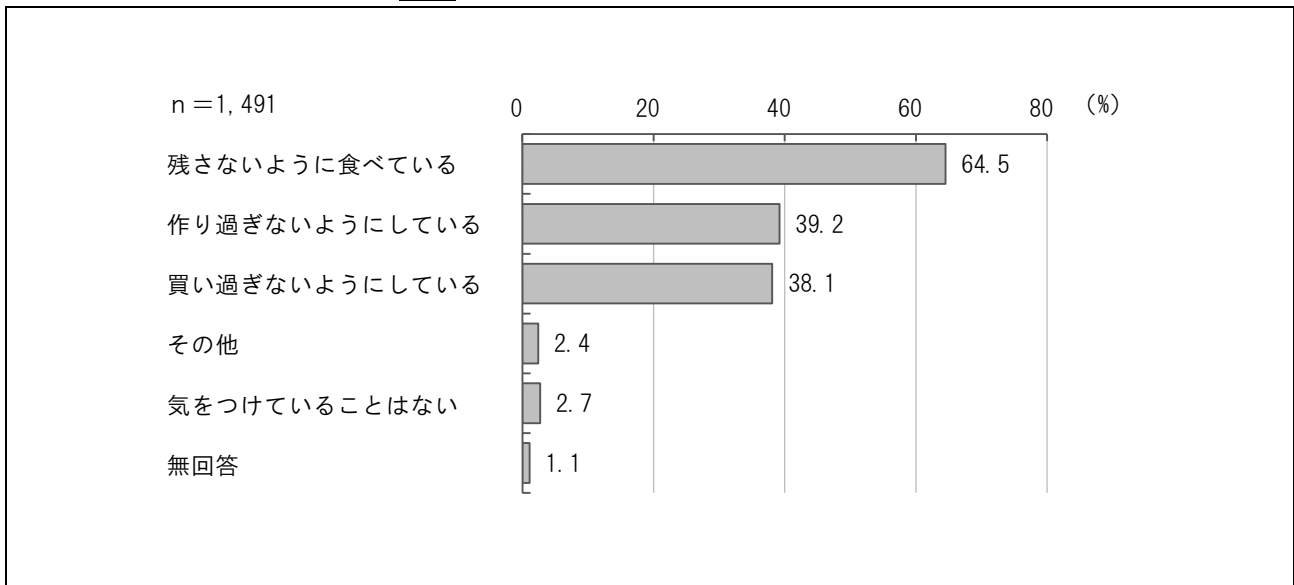
年代別では、20代以下において「収穫体験など部分的にしたことがある（芋掘り体験や観光農園での摘み取りなどを含む）」が22.0%とほかの年代と比べて多く、「家庭菜園や鉢植え栽培などで育て、収穫までしたことがある」が17.0%と少なくなっている。70代以上においては「家庭菜園や鉢植え栽培などで育て、収穫までしたことがある」が43.1%と多く、「農業体験をしたことがない」が35.4%と少なくなっている。また、『したことがある』は70代以上において61.6%と多くなっている。



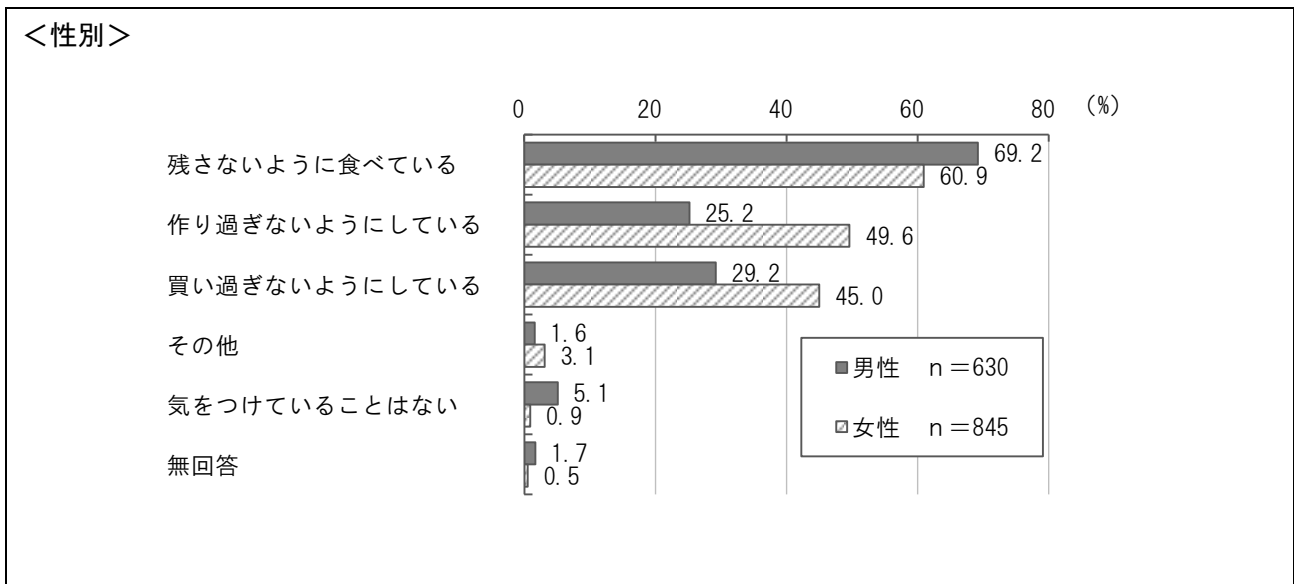
平成29年度の調査結果と比較すると、大きな差異は見られない。

(15) 食べ残しや廃棄減少のために気をつけていること

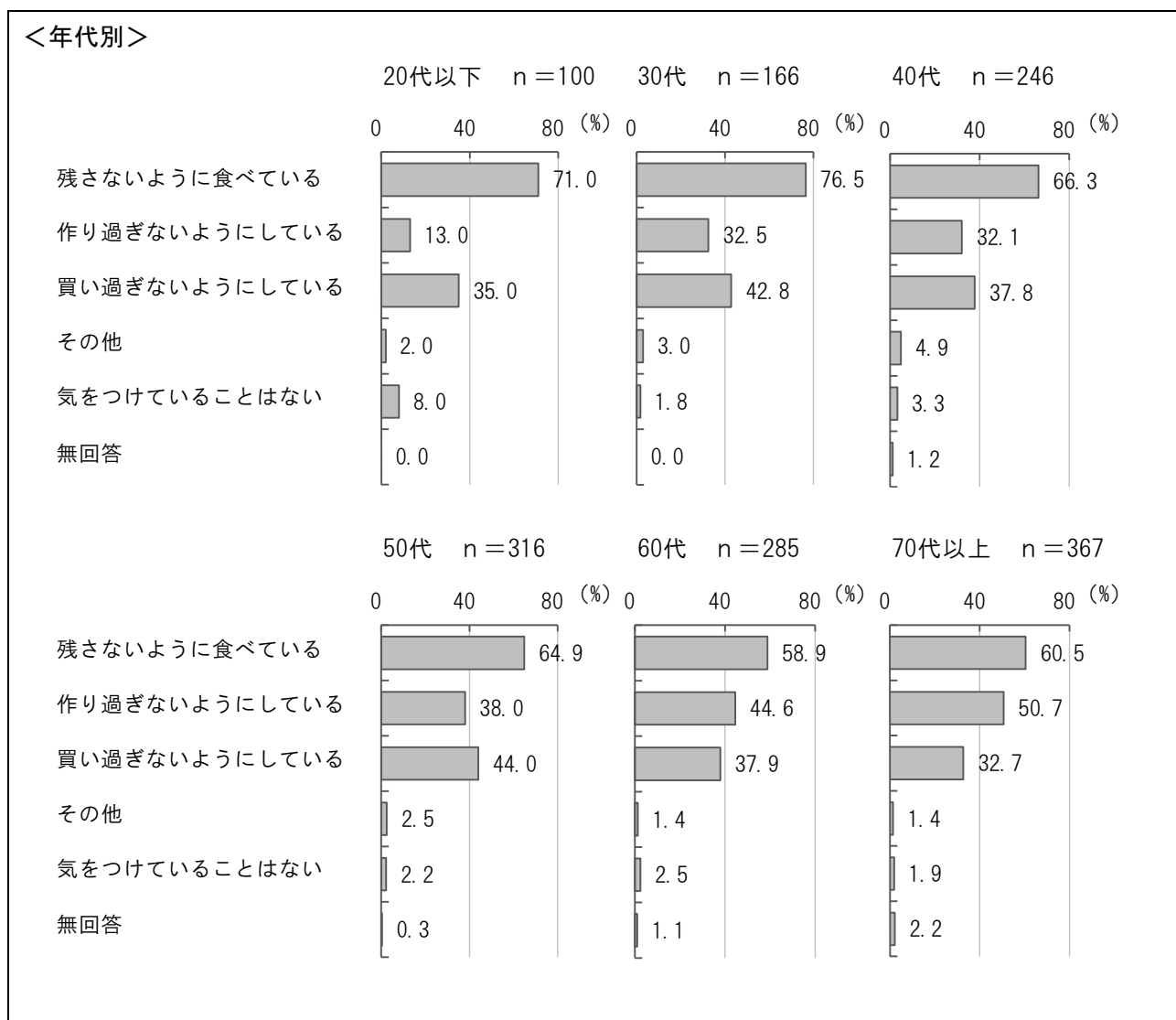
問36 あなたは、食べ残しや廃棄を減らすために、どのようなことに気をつけていますか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。



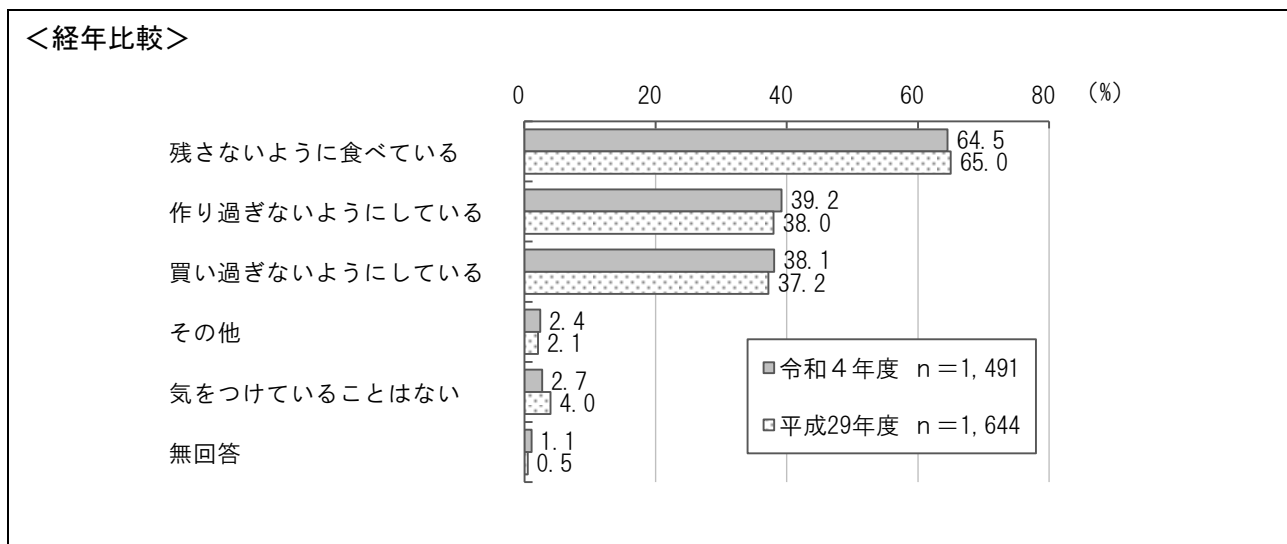
食べ残しや廃棄減少のために気をつけていることは、「残さないように食べている」が 64.5%と最も多く、次いで「作り過ぎないようにしている」が 39.2%、「買い過ぎないようにしている」が 38.1%となっている。



性別で見ると、男性において「残さないように食べている」が 69.2%と女性より多くなっている。女性においては「作り過ぎないようにしている」「買い過ぎないようにしている」が半数近くと多く、男性との差が大きくなっている。



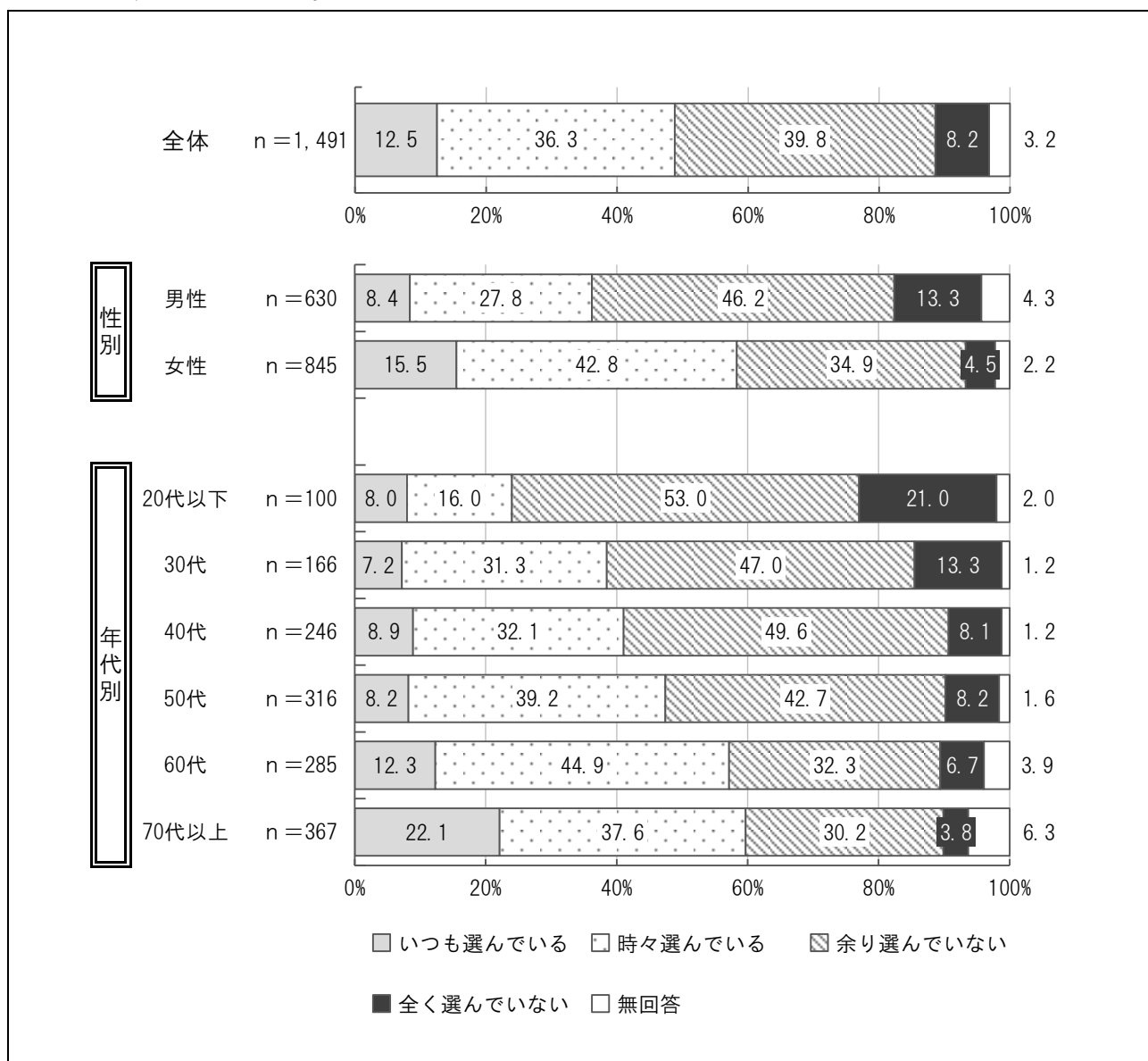
年代別では、20代以下において「作り過ぎないようにしている」が13.0%とほかの年代と比べて少なくなっている。30代においては「残さないように食べている」が76.5%と多くなっている。また、70代以上においては「作り過ぎないようにしている」が50.7%と多くなっている。



平成 29 年度の調査結果と比較すると、大きな差異は見られない。

## (16) 環境に配慮した農林水産物・食品の選定状況

問37 あなたは、日頃から環境に配慮した農林水産物・食品を選んでいきますか。次の中から1つだけ選んでください。



環境に配慮した農林水産物・食品の選定状況は、「余り選んでいない」が39.8%と最も多く、次いで「時々選んでいる」が36.3%、「いつも選んでいる」が12.5%となっている。また、『選んでいる』（「いつも選んでいる」+「時々選んでいる」）は48.8%、『選んでいない』（「余り選んでいない」+「全く選んでいない」）は48.1%となっている。

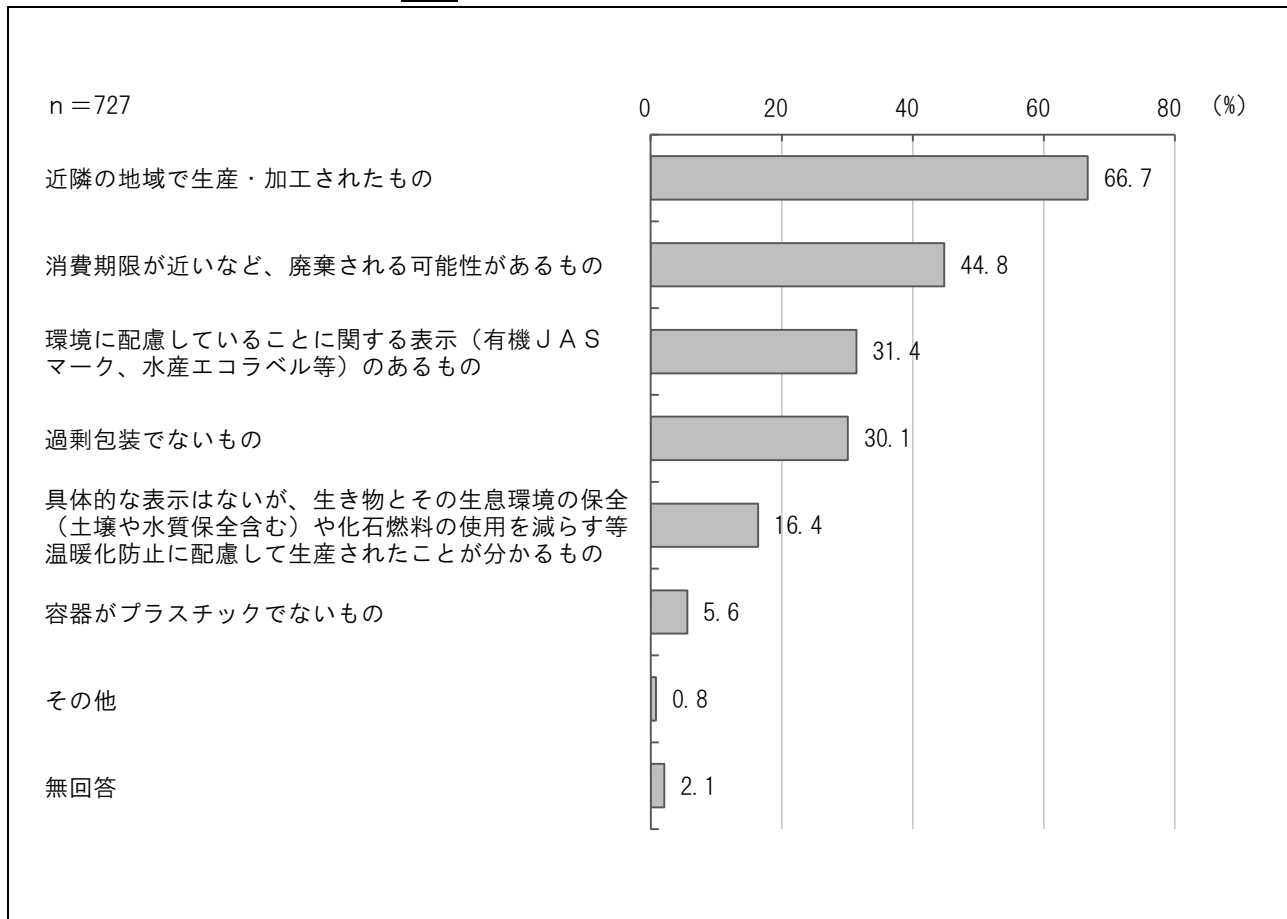
性別で見ると、男性において「余り選んでいない」「全く選んでいない」が女性より多くなっている。女性においては「いつも選んでいる」「時々選んでいる」が男性より多くなっている。また、『選んでいる』は女性において58.3%と多くなっている。

年代別では、20代以下において「全く選んでいない」が21.0%とほかの年代と比べて多く、「時々選んでいる」が16.0%と少なくなっている。60代においては「時々選んでいる」が44.9%と多くなっている。70代以上においては「いつも選んでいる」が22.1%と多くなっている。また、『選んでいる』は20代以下において24.0%と少なく、年代が上がるごとに多くなっている。

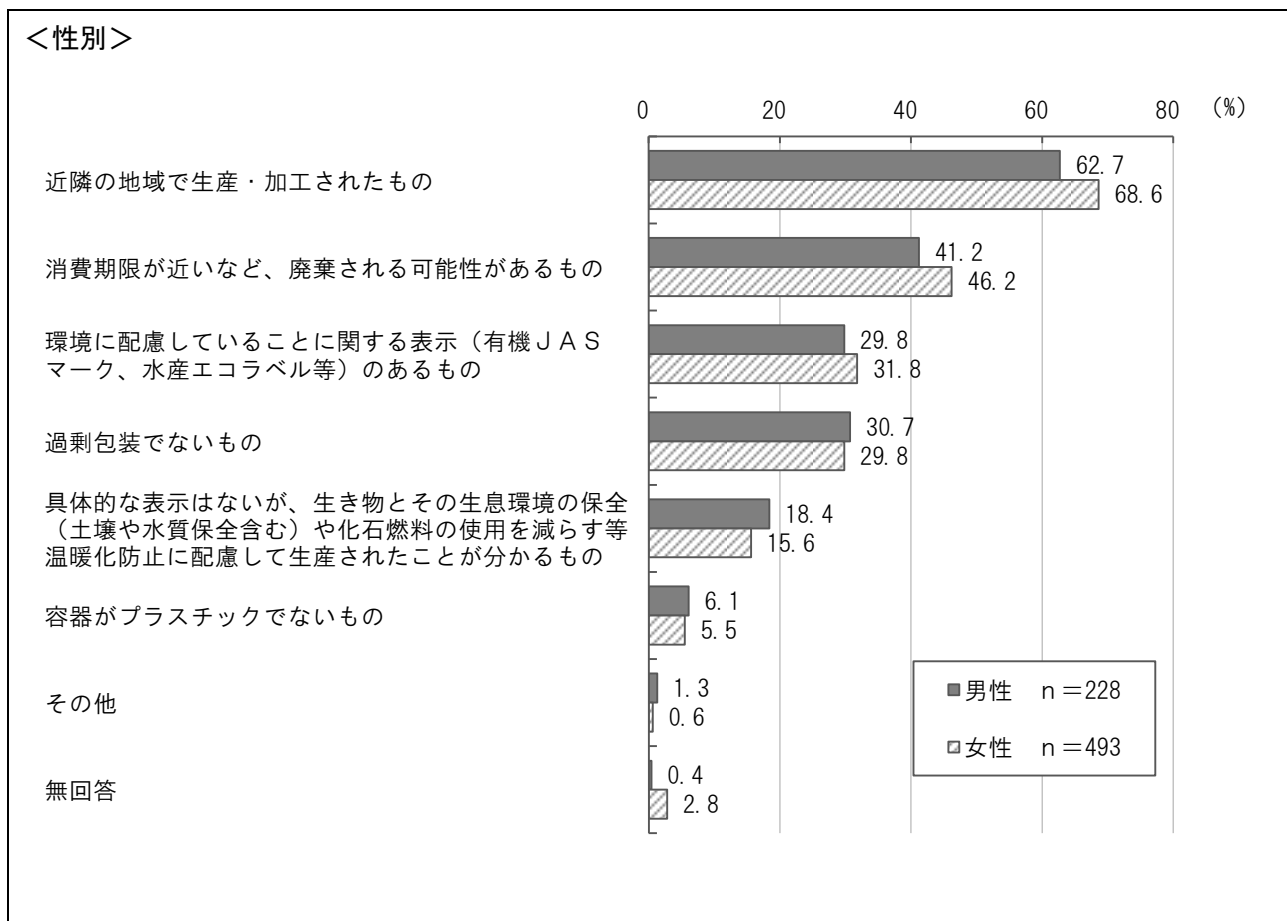
(17) 環境に配慮した農林水産物・食品で選定しているもの

■ 問 37 で「いつも選んでいる」「時々選んでいる」と答えた人のみ

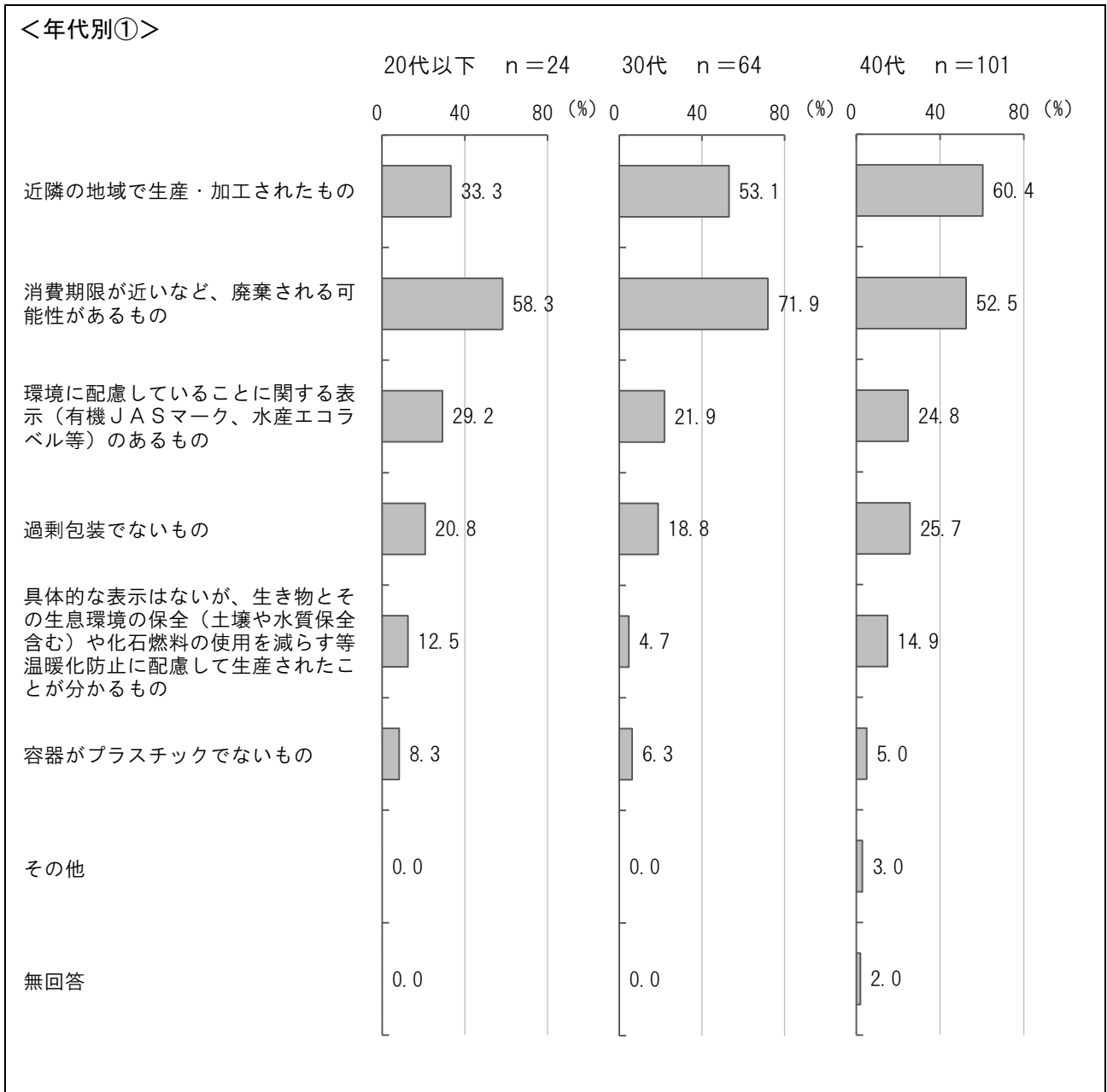
問37-1 あなたは、どのような環境に配慮した農林水産物・食品を選んでいますか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。



環境に配慮した農林水産物・食品で選定しているものは、「近隣の地域で生産・加工されたもの」が 66.7%と最も多く、次いで「消費期限が近いなど、廃棄される可能性があるもの」が 44.8%、「環境に配慮していることに関する表示（有機 J A S マーク、水産エコラベル等）のあるもの」が 31.4%となっている。

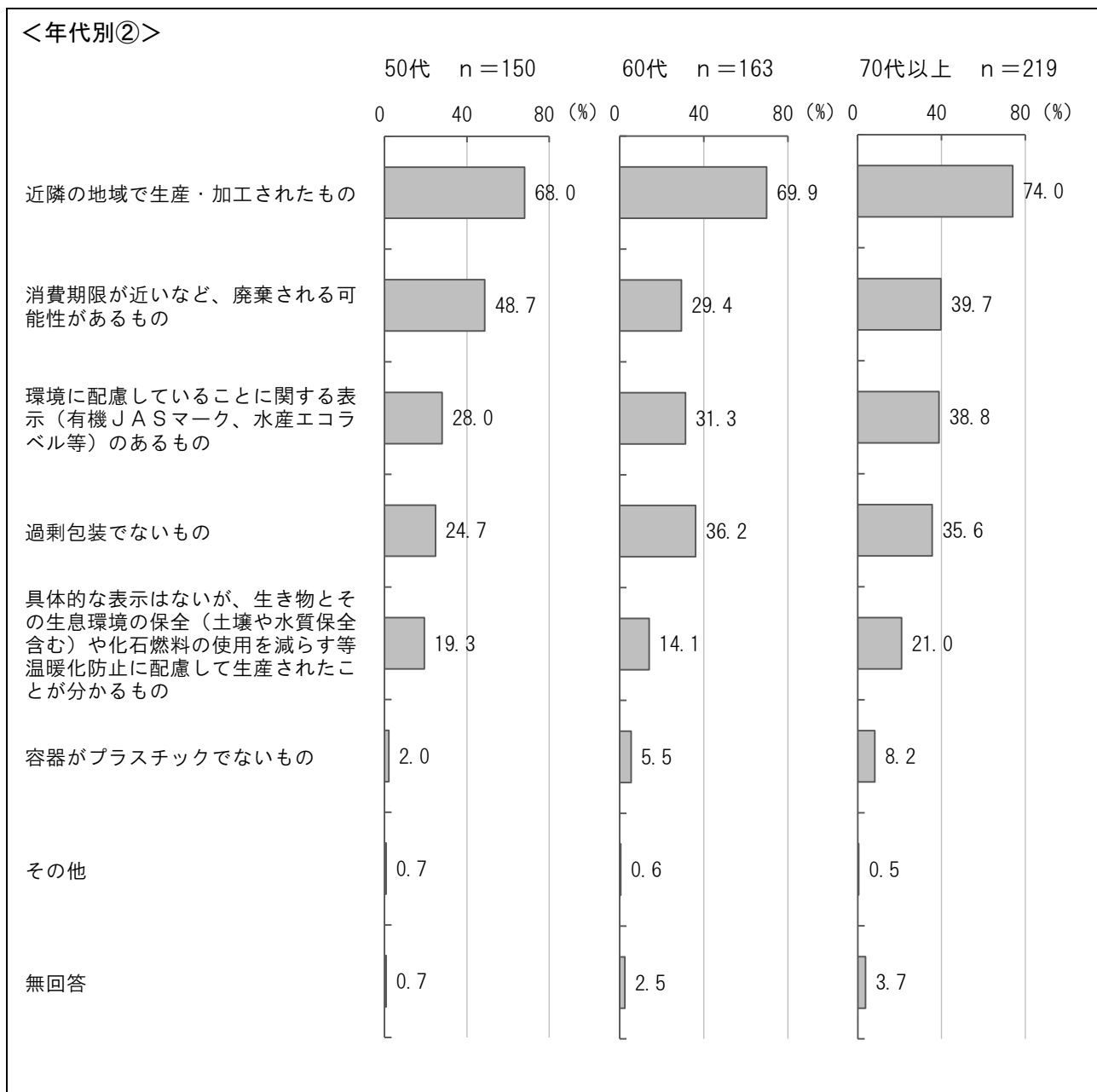


性別で見ると、女性において「近隣の地域で生産・加工されたもの」「消費期限が近いなど、廃棄される可能性があるもの」が男性より多くなっている。



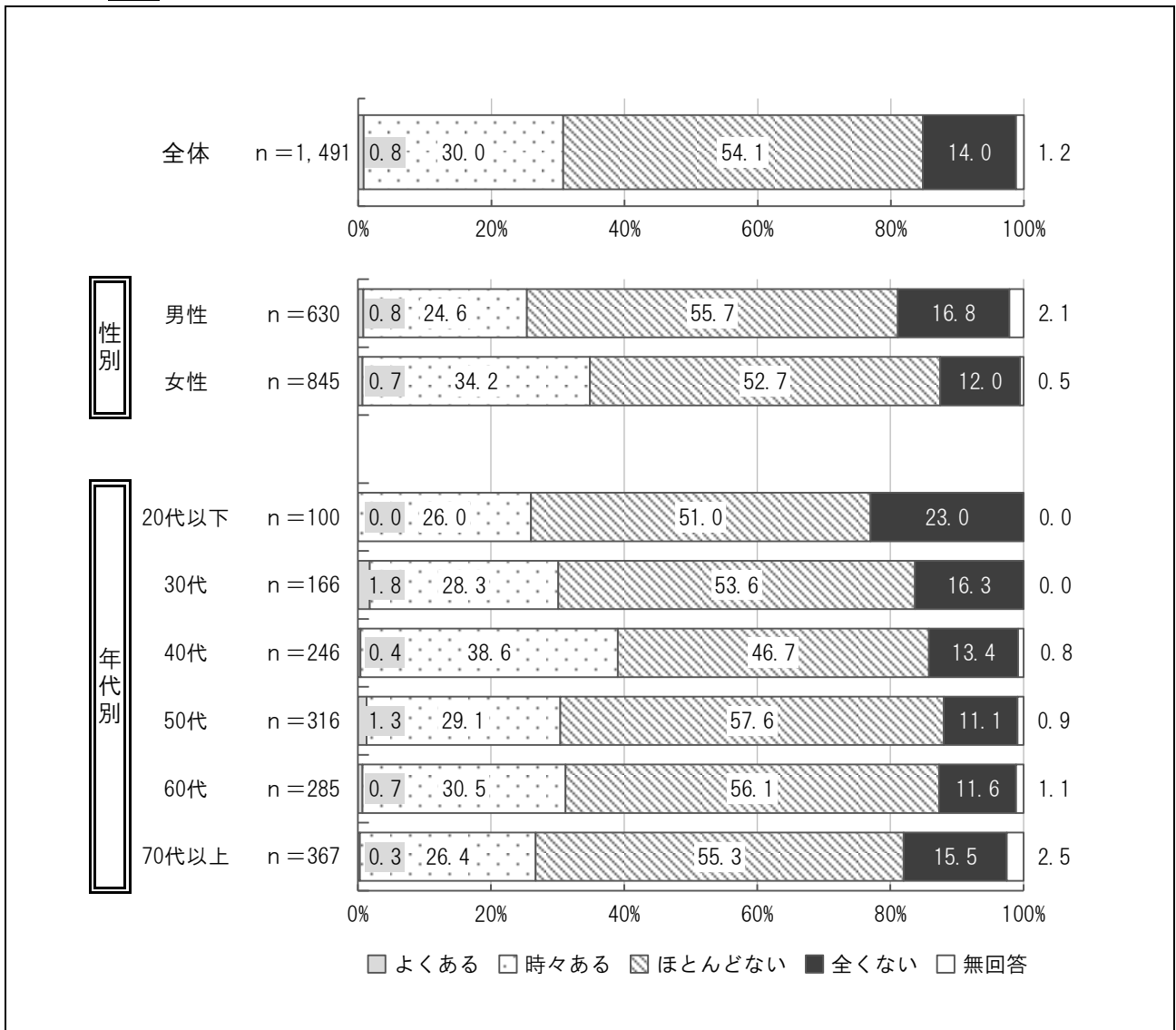
年代別では、20代以下において「近隣の地域で生産・加工されたもの」が33.3%とほかの年代と比べて少なくなっている。30代においては「消費期限が近いなど、廃棄される可能性があるもの」が71.9%と多く、「具体的な表示はないが、生き物とその生息環境の保全（土壌や水質保全含む）や化石燃料の使用を減らす等温暖化防止に配慮して生産されたことが分かるもの」が4.7%と少なくなっている。また、60代においては「消費期限が近いなど、廃棄される可能性があるもの」が29.4%と少なくなっている。さらに、70代以上においては「環境に配慮していることに関する表示（有機JASマーク、水産エコラベル等）のあるもの」が38.8%と多くなっている。





(18) 食品を購入して食べないまま廃棄してしまう頻度

問38 あなたは、購入した食品を食べないまま、捨ててしまうことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。



食品を購入して食べないまま廃棄してしまう頻度は、「ほとんどない」が54.1%と最も多く、次いで「時々ある」が30.0%、「全くない」が14.0%となっている。また、『ある』（「よくある」＋「時々ある」）は30.8%、『ない』（「ほとんどない」＋「全くない」）は68.0%となっている。

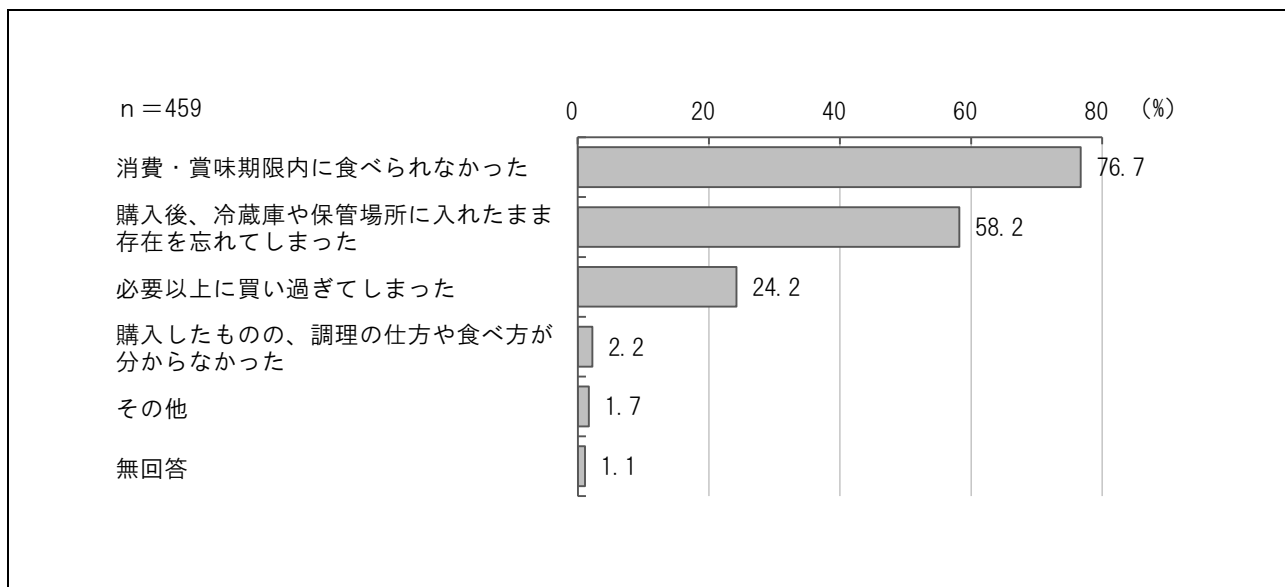
性別で見ると、女性において「時々ある」が34.2%と男性より多くなっている。また、『ある』は女性において34.9%と多くなっている。

年代別では、20代以下において「全くない」が23.0%とほかの年代と比べて多くなっている。40代においては「時々ある」が38.6%と多くなっている。また、『ある』は40代において39.0%と多く、4割近くとなっている。

## (19) 食べないまま廃棄してしまった原因

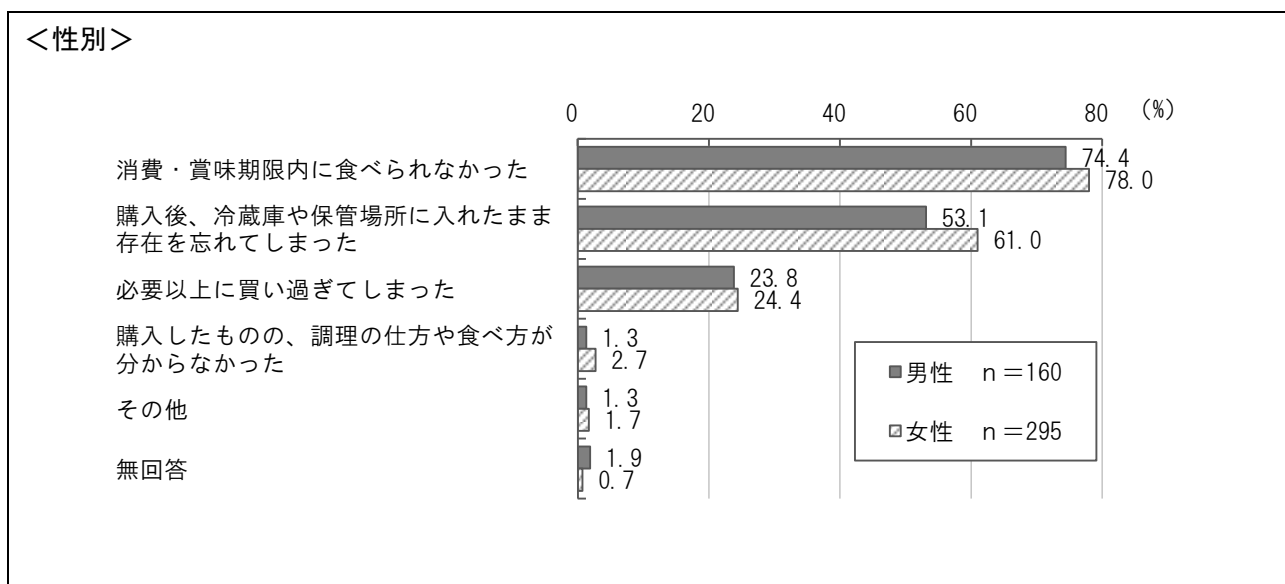
■ 問38で「よくある」「時々ある」と答えた人のみ

問38-1 捨ててしまった原因は何だと思いますか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。

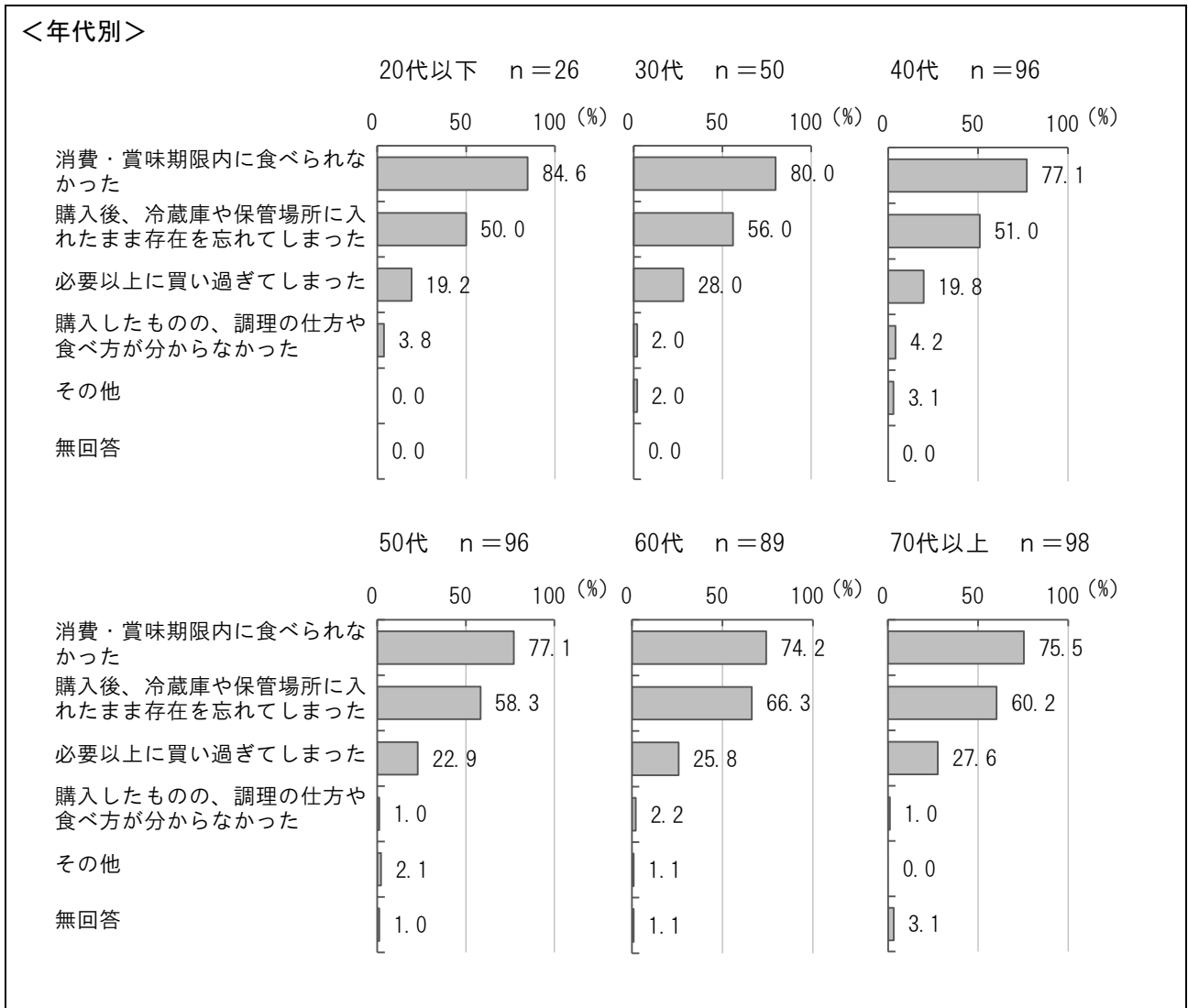


食べないまま廃棄してしまった原因は、「消費・賞味期限内に食べられなかった」が76.7%と最も多く、次いで「購入後、冷蔵庫や保管場所に入れたまま存在を忘れてしまった」が58.2%、「必要以上に買い過ぎてしまった」が24.2%となっている。

## &lt;性別&gt;



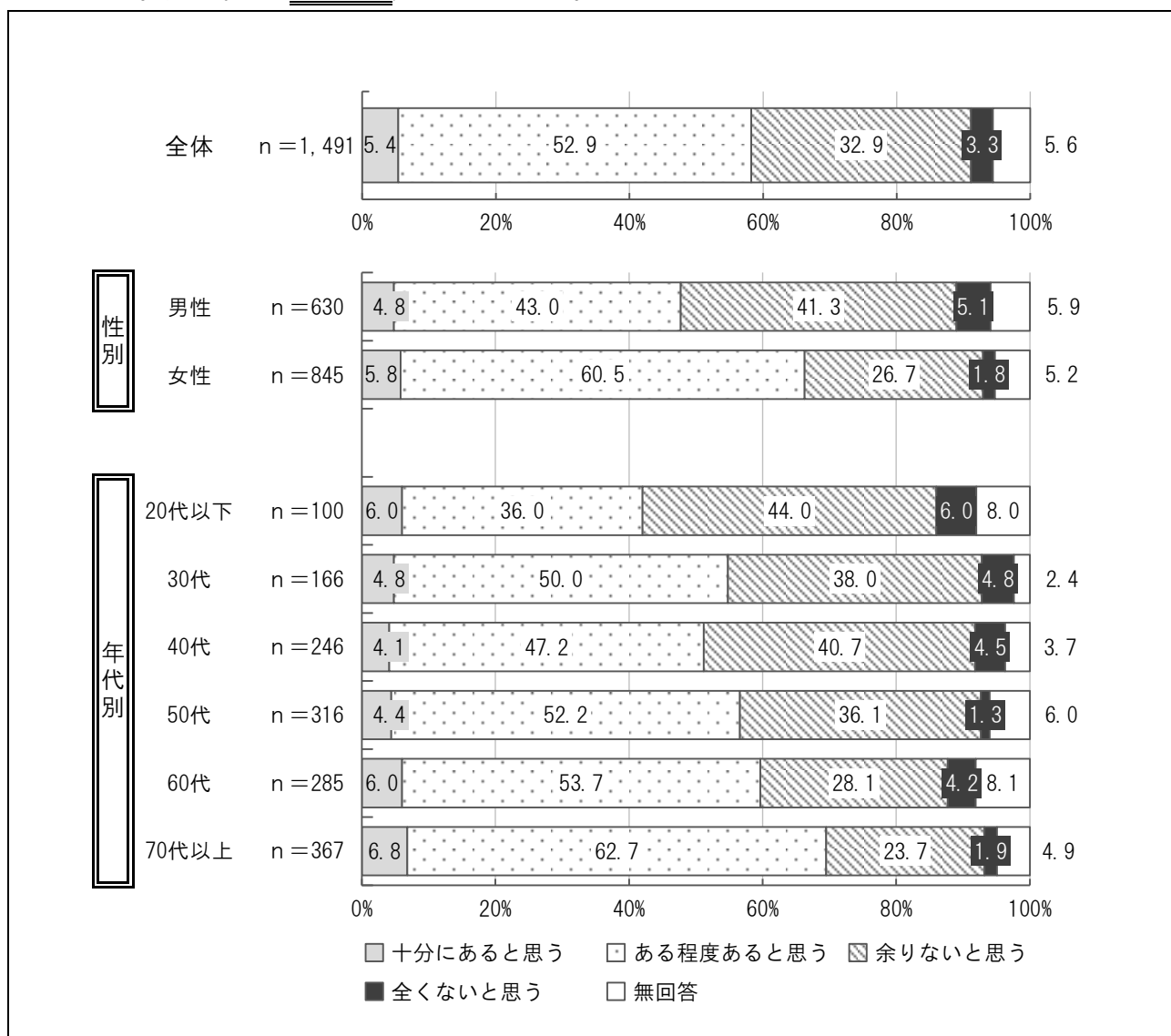
性別で見ると、女性において「購入後、冷蔵庫や保管場所に入れたまま存在を忘れてしまった」が61.0%と男性より多くなっている。



年代別では、60代において「購入後、冷蔵庫や保管場所に入れたまま存在を忘れてしまった」が66.3%とほかの年代と比べて多くなっている。

## (20) 食品の安全性に関する基礎的な知識の保有状況

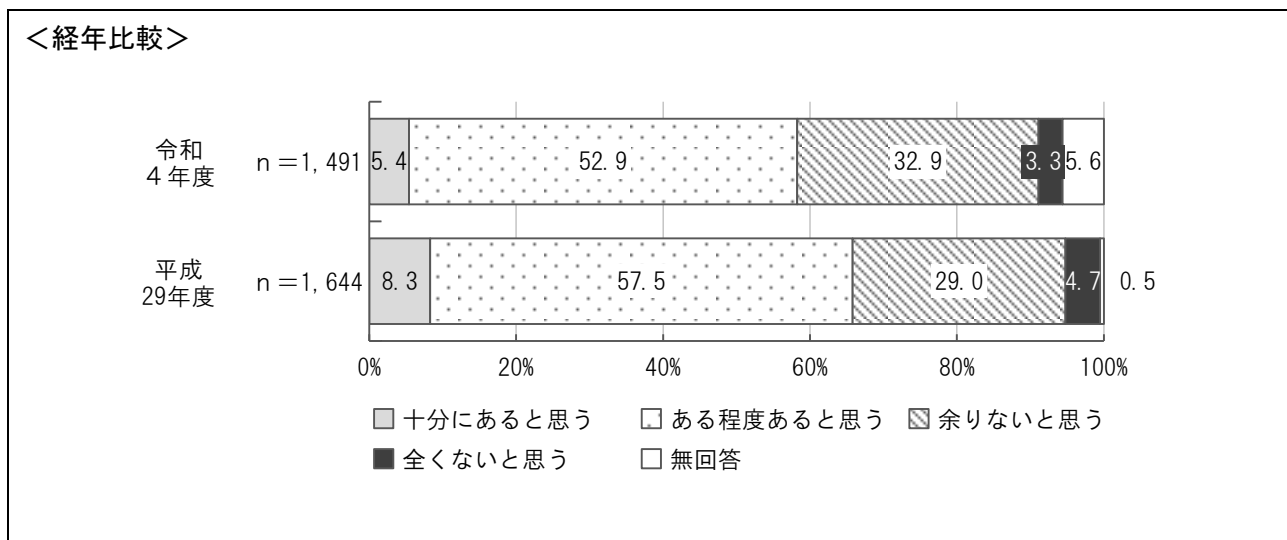
問39 あなたは、安全な食生活を送るための食品の安全性に関する基礎的な知識があると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。



食品の安全性に関する基礎的な知識の保有状況は、「ある程度あると思う」が52.9%と最も多く、次いで「余りないと思う」が32.9%、「十分にあると思う」が5.4%となっている。また、『あると思う』（「十分にあると思う」＋「ある程度あると思う」）は58.3%、『ないと思う』（「余りないと思う」＋「全くないと思う」）は36.2%となっている。

性別で見ると、男性において「余りないと思う」が41.3%と女性より多くなっている。女性においては「ある程度あると思う」が60.5%と男性より多くなっている。また、『あると思う』は女性において66.3%と多くなっている。

年代別では、20代以下において「ある程度あると思う」が36.0%とほかの年代と比べて少なくなっている。70代以上においては「ある程度あると思う」が62.7%と多くなっている。また、『あると思う』は70代以上において69.5%と多く、20代以下においては42.0%と少なくなっている。



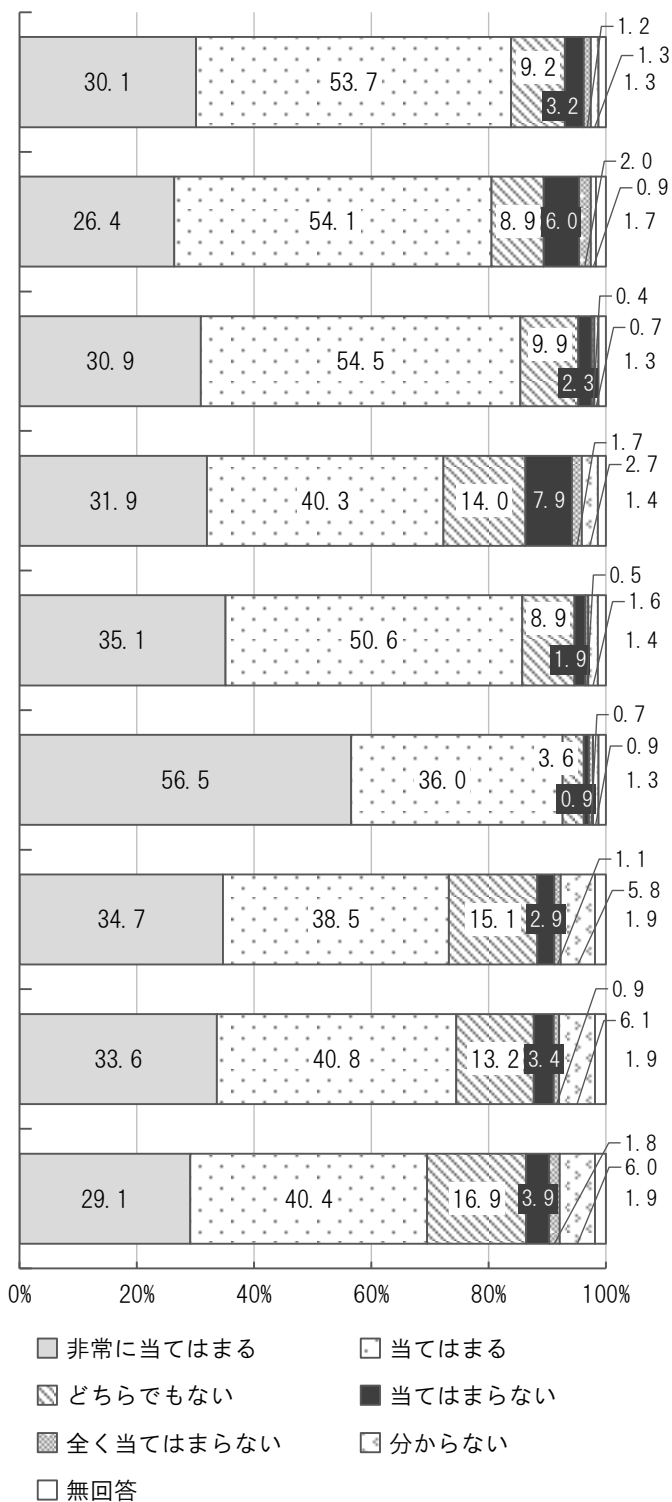
平成 29 年度の調査結果と比較すると、『あると思う』は 58.3%と、7.5 ポイント減少している。

(21) 安全な食生活を送るための意識状況

問40 あなたは、安全な食生活を送るためのポイントとして、以下の項目をどの程度意識し、判断していますか。次の中からそれぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

n = 1,491

- 1 食品を買うときや食べるときに「消費期限」、「アレルギー表示」など容器包装に記載されている表示を確認すること
- 2 「賞味期限」を過ぎた食品であっても、必ずしもすぐに食べられなくなるわけではないため、臭いや見た目など食品の状態に応じて判断すること
- 3 食品に表示されている「保存方法」や「使用方法」を守ること
- 4 生肉や生魚を扱った包丁、まな板、トンゴ、箸などの器具は、専用のものを使うか、他の調理に使用する場合には熱湯をかける（またはよく洗う）こと
- 5 料理は、長時間、室温で放置しないこと
- 6 生の状態（生食用として販売されているものは除く）や加熱が不十分な状態で肉を食べないこと
- 7 健康食品は医薬品とは違うので、薬と同じように使用すると病気の治癒が遅れたり症状が悪化したりすることがあるため病気の治療目的で利用しないこと
- 8 健康食品は病者、小児、妊産婦、高齢者などでは健康被害を起こしやすいため、利用に当たっては注意が必要であること
- 9 健康食品を選ぶ場合は、成分名、含有量、使用上の注意、問い合わせ先、品質保証に関するマークなど表示されている内容をよく読んで、自分に必要かどうか検討してから購入すること



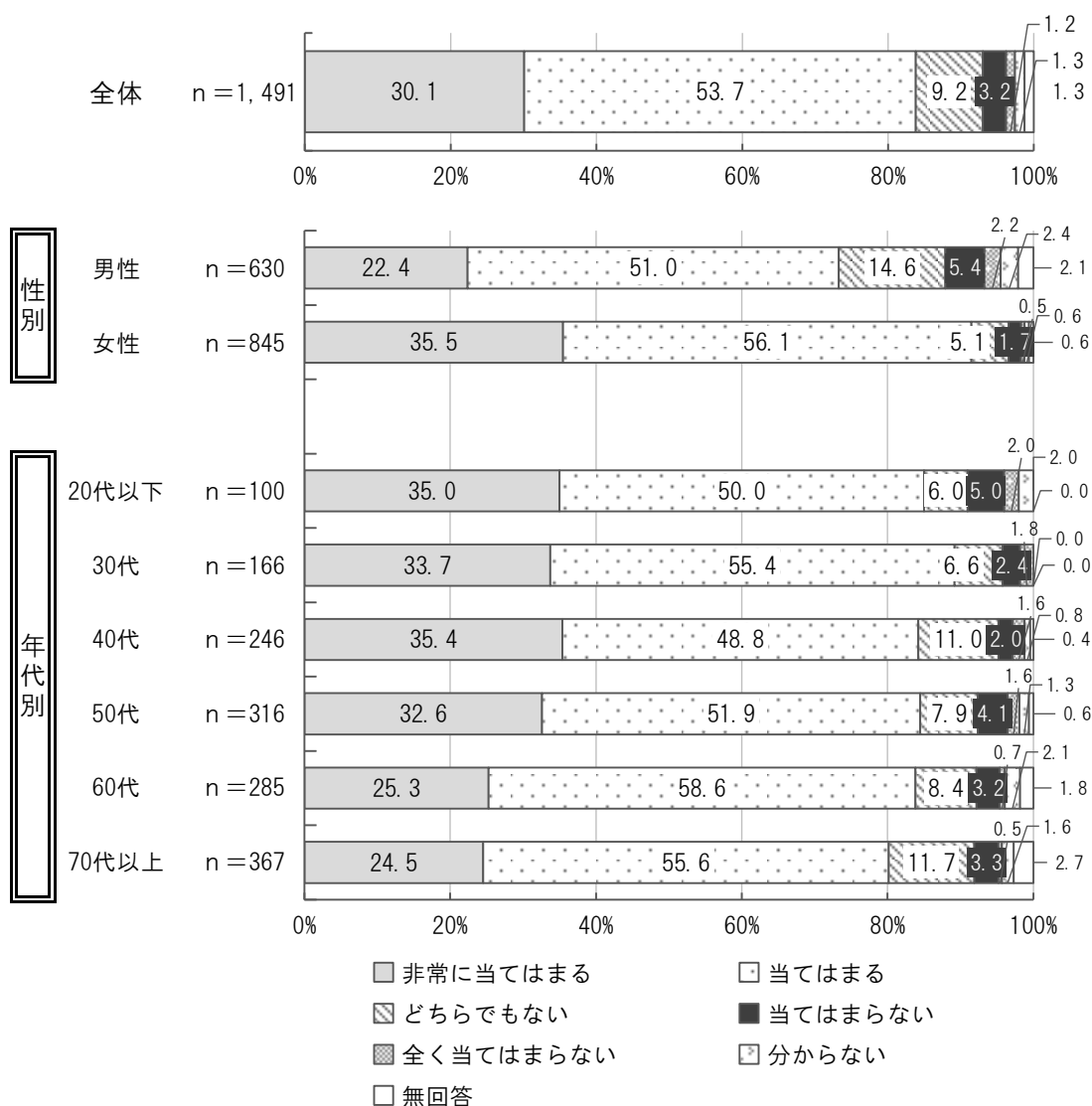
安全な食生活を送るための意識状況において、『当てはまる』（「非常に当てはまる」＋「当てはまる」）が多い項目は、「6 生の状態（生食用として販売されているものは除く）や加熱が不十分な状態で肉を食べないこと」（92.6%）、「5 料理は、長時間、室温で放置しないこと」（85.6%）、「3 食品に表示されている『保存方法』や『使用方法』を守ること」（85.4%）の順になっている。

一方、『当てはまらない』（「当てはまらない」＋「全く当てはまらない」）が多い項目は、「4 生肉や生魚を扱った包丁、まな板、トング、箸などの器具は、専用のものを使うか、他の調理に使用する場合には熱湯をかける（またはよく洗う）こと」（9.7%）、「2 『賞味期限』を過ぎた食品であっても、必ずしもすぐに食べられなくなるわけではないため、臭いや見た目など食品の状態に応じて判断すること」（8.0%）、「9 健康食品を選ぶ場合は、成分名、含有量、使用上の注意、問い合わせ先、品質保証に関するマークなど表示されている内容をよく読んで、自分に必要かどうか検討してから購入すること」（5.7%）の順になっている。

※以下、『当てはまる』は「非常に当てはまる」と「当てはまる」、『当てはまらない』は「当てはまらない」と「全く当てはまらない」を合わせたもの。



1 食品を買うときや食べるときに「消費期限」、「アレルギー表示」など容器包装に記載されている表示を確認すること

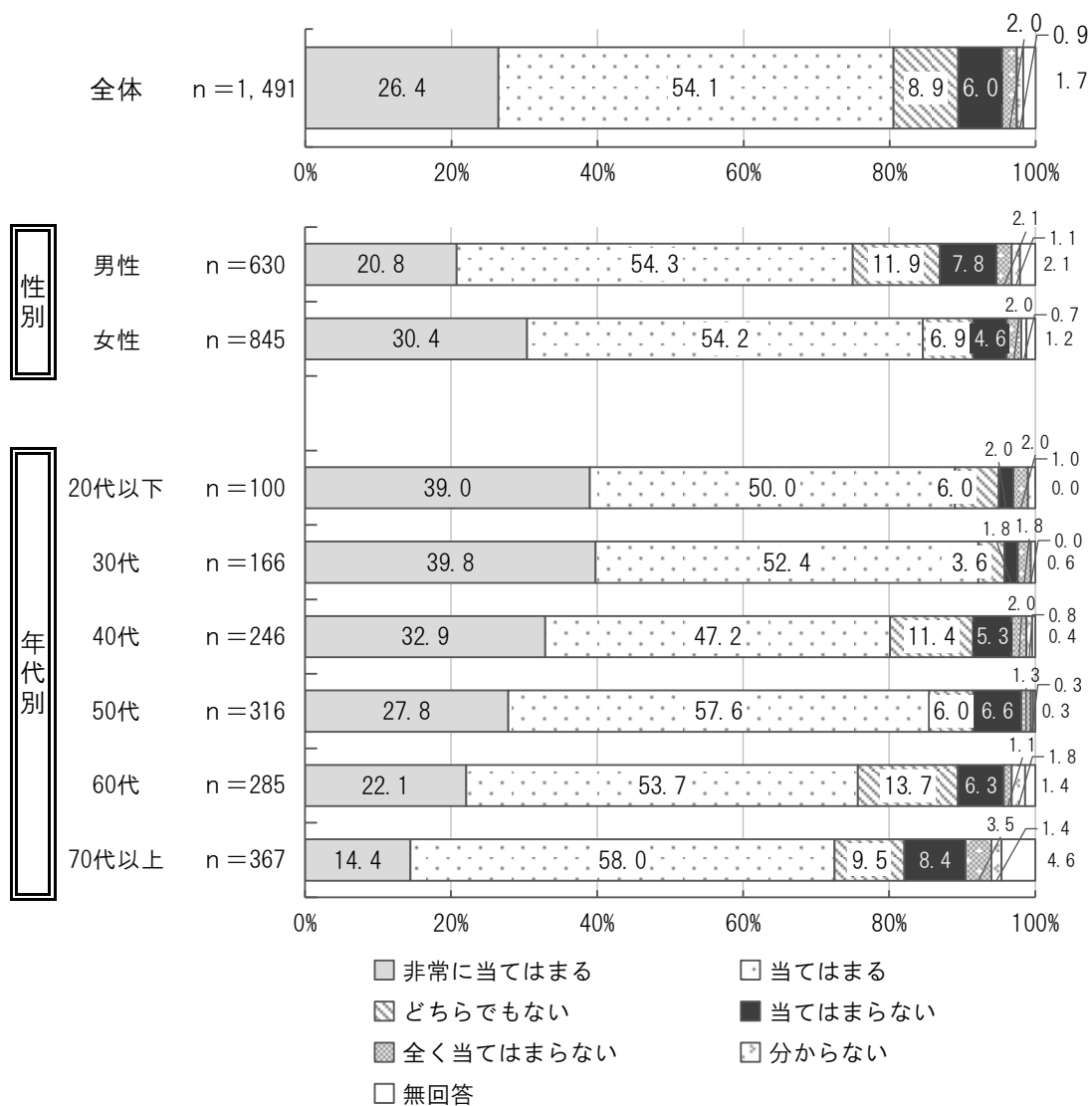


「食品を買うときや食べるときに『消費期限』、『アレルギー表示』など容器包装に記載されている表示を確認すること」については、『当てはまる』が83.8%、『当てはまらない』が4.4%となっている。

性別で見ると、男性において「どちらでもない」が14.6%と女性より多くなっている。女性においては「非常に当てはまる」「当てはまる」が男性より多くなっている。

年代別では、60代と70代以上において「非常に当てはまる」がほかの年代と比べて少なく、3割を下回っている。

2 「賞味期限」を過ぎた食品であっても、必ずしもすぐに食べられなくなるわけではないため、臭いや見た目など食品の状態に応じて判断すること

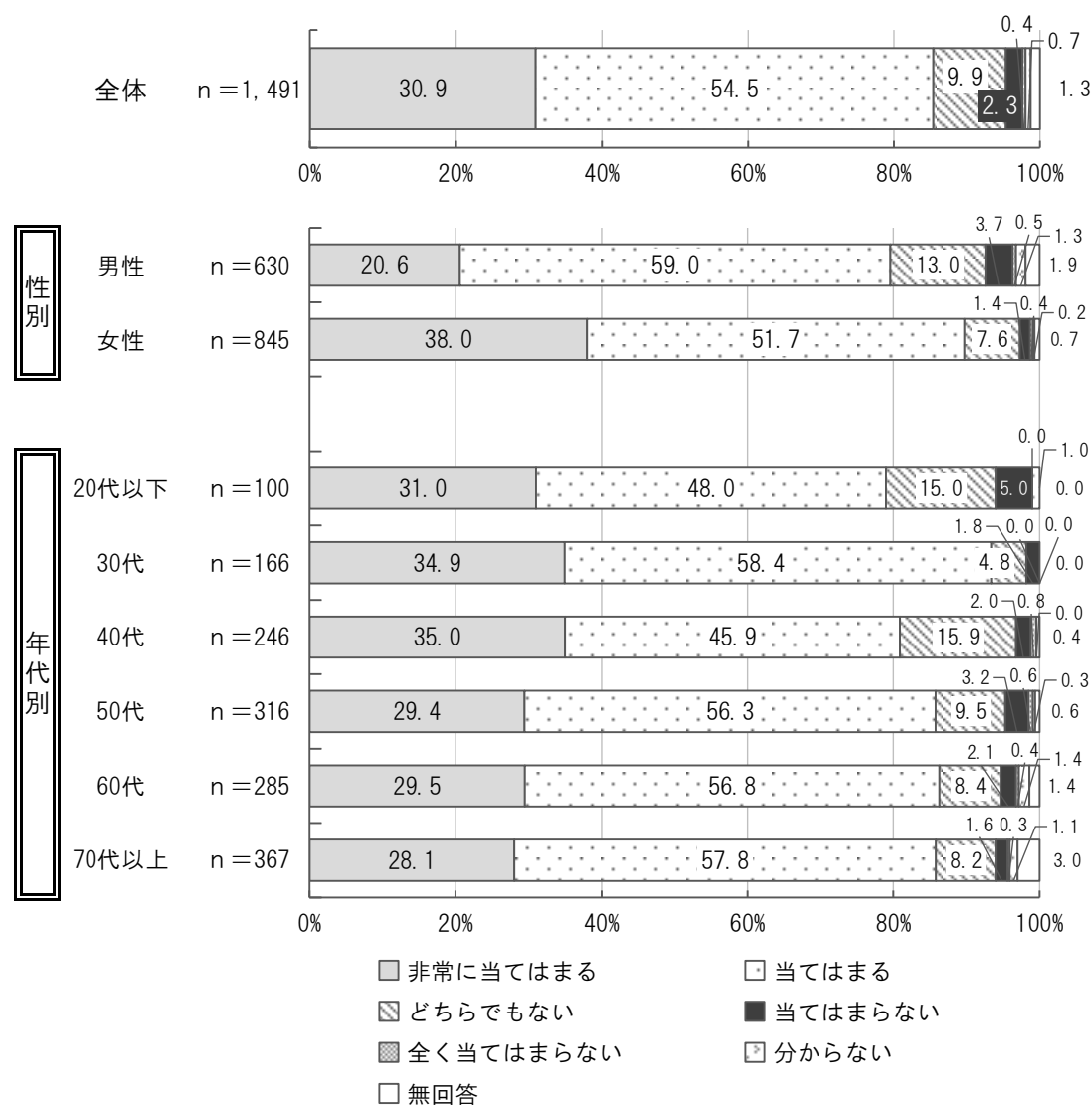


『賞味期限』を過ぎた食品であっても、必ずしもすぐに食べられなくなるわけではないため、臭いや見た目など食品の状態に応じて判断すること』については、『当てはまる』が80.5%、『当てはまらない』が8.0%となっている。

性別で見ると、男性において「どちらでもない」が11.9%と女性より多くなっている。女性においては「非常に当てはまる」が30.4%と男性より多くなっている。また、『当てはまる』は女性において84.6%と多くなっている。

年代別では、70代以上において「非常に当てはまる」が14.4%とほかの年代と比べて少なく、年代が下がるごとにおおむね多くなっている。

## 3 食品に表示されている「保存方法」や「使用方法」を守ること

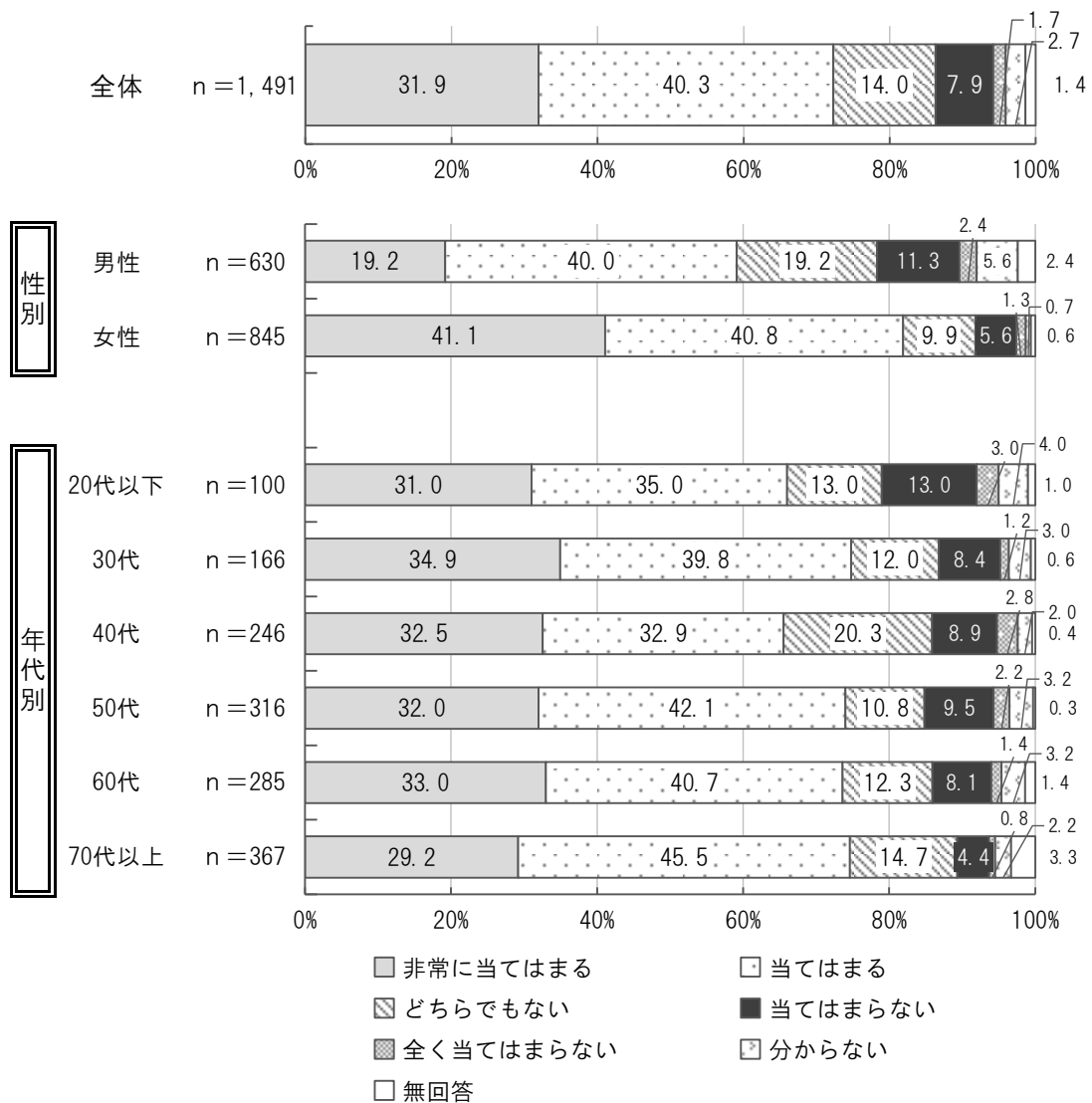


「食品に表示されている『保存方法』や『使用方法』を守ること」については、『当てはまる』が85.4%、『当てはまらない』が2.7%となっている。

性別で見ると、男性において「当てはまる」「どちらでもない」が女性より多くなっている。女性においては「非常に当てはまる」が38.0%と男性より多くなっている。また、『当てはまる』は女性において89.7%と多くなっている。

年代別では、『当てはまる』は30代以上において93.4%と多くなっている。

4 生肉や生魚を扱った包丁、まな板、トング、箸などの器具は、専用のものを使うか、他の調理に使用する場合には熱湯をかける（またはよく洗う）こと

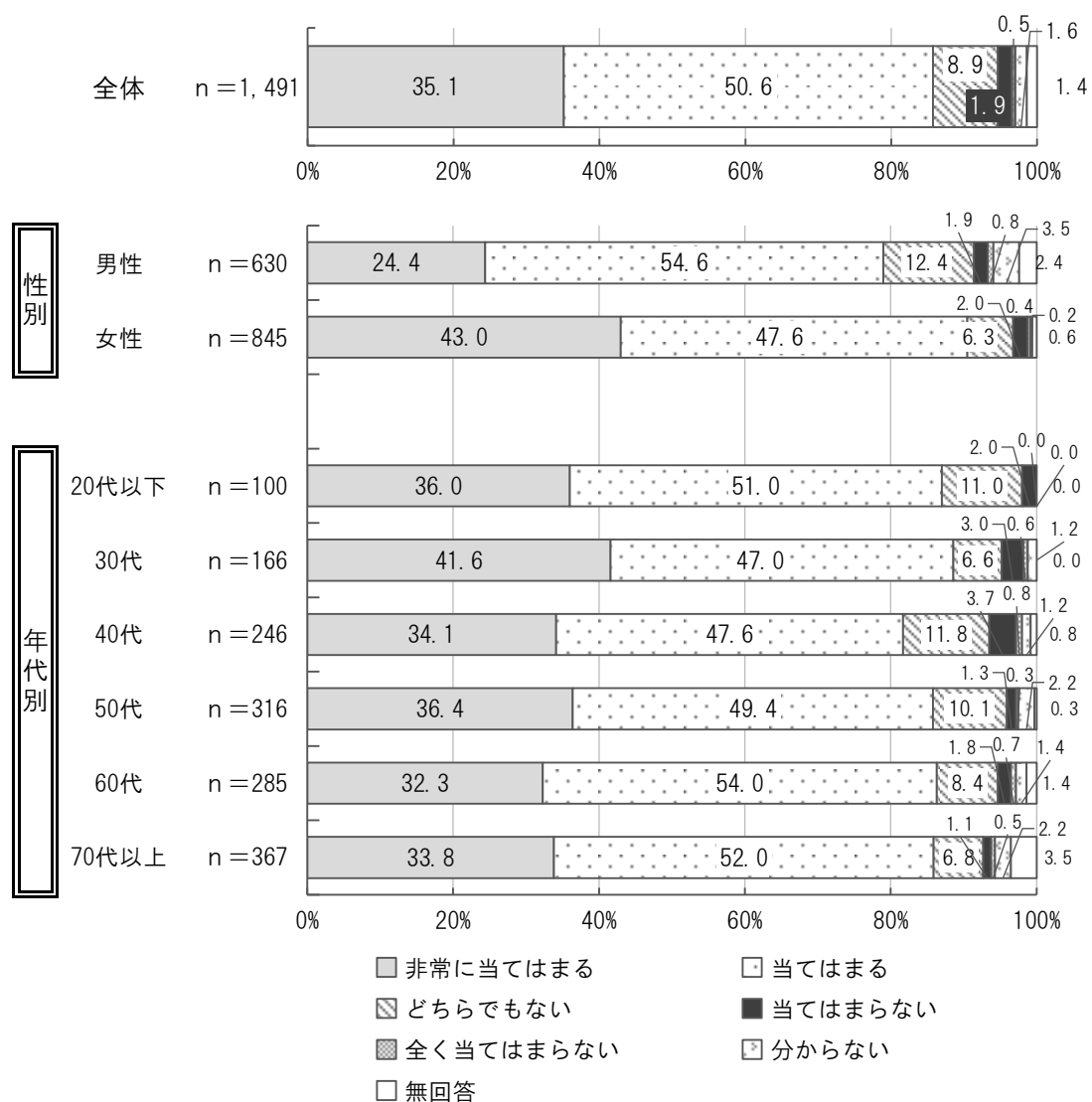


「生肉や生魚を扱った包丁、まな板、トング、箸などの器具は、専用のものを使うか、他の調理に使用する場合には熱湯をかける（またはよく洗う）こと」については、『当てはまる』が72.2%、『当てはまらない』が9.7%となっている。

性別で見ると、男性において「どちらでもない」「当てはまらない」が女性より多くなっている。女性においては「非常に当てはまる」が41.1%と多く、男性との差が大きくなっている。また、『当てはまる』は女性において81.9%と多くなっている。

年代別では、40代において「どちらでもない」が20.3%とほかの年代と比べて多くなっている。

## 5 料理は、長時間、室温で放置しないこと

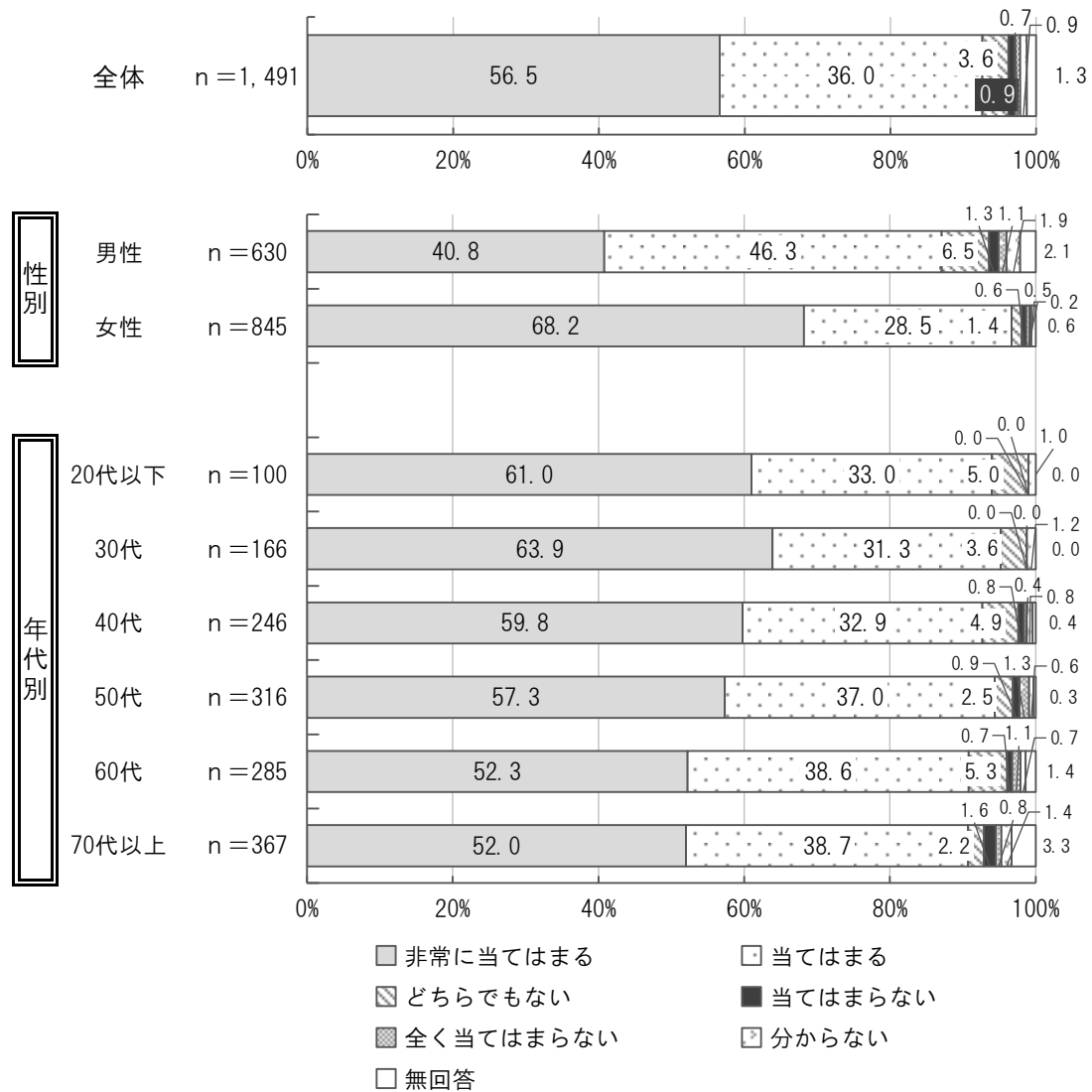


「料理は、長時間、室温で放置しないこと」については、『当てはまる』が85.6%、『当てはまらない』が2.5%となっている。

性別で見ると、男性において「当てはまる」「どちらでもない」が女性より多くなっている。女性においては「非常に当てはまる」が43.0%と男性より多くなっている。また、『当てはまる』は女性において90.5%と多くなっている。

年代別では、30代において「非常に当てはまる」が41.6%とほかの年代と比べて多くなっている。

6 生の状態（生食用として販売されているものは除く）や加熱が不十分な状態で肉を食べないこと

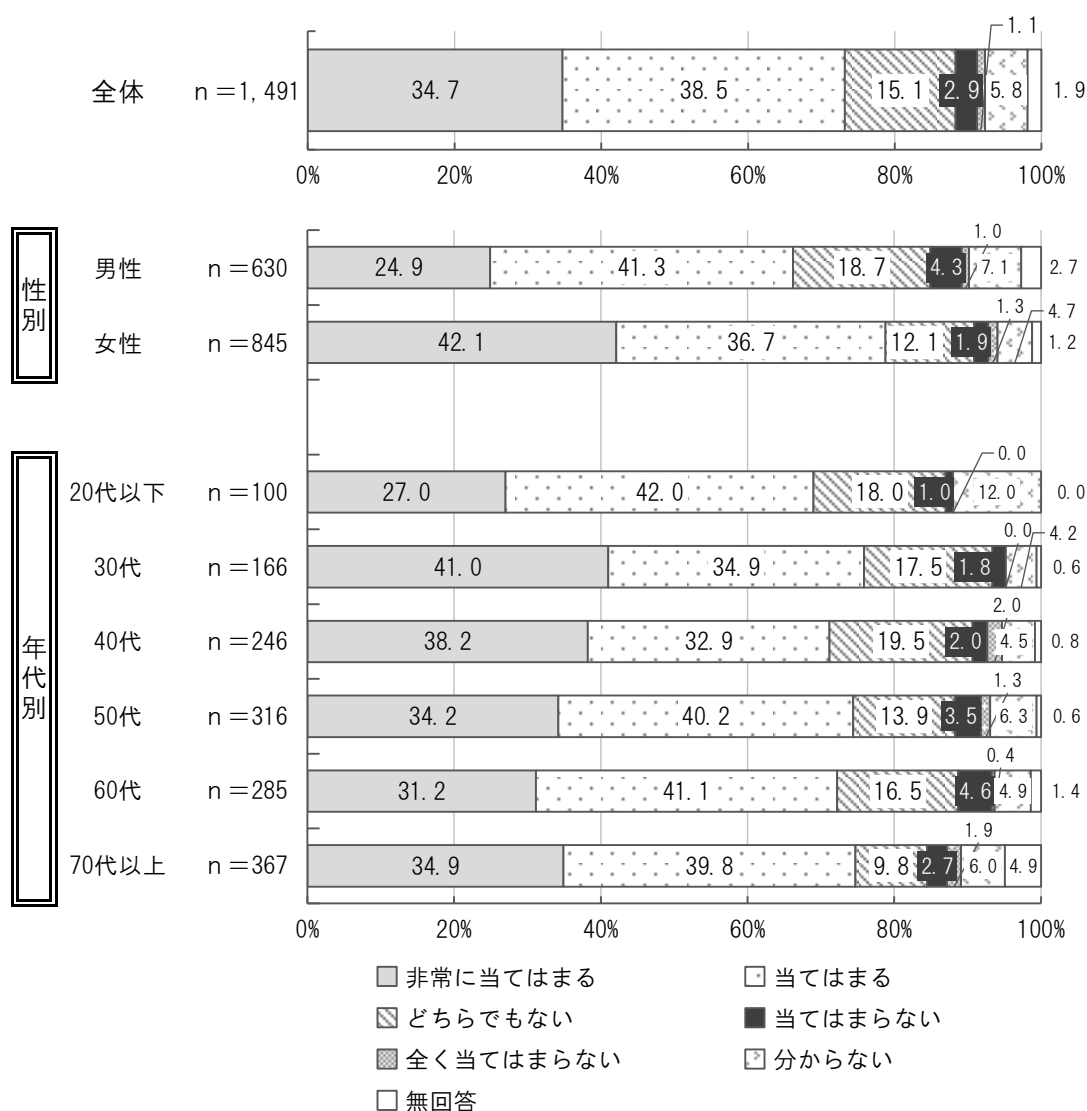


「生の状態（生食用として販売されているものは除く）や加熱が不十分な状態で肉を食べないこと」については、『当てはまる』が 92.6%、『当てはまらない』が 1.6%となっている。

性別で見ると、男性において「当てはまる」「どちらでもない」が女性より多くなっている。女性においては「非常に当てはまる」が 68.2%と多く、男性との差が大きくなっている。また、『当てはまる』は女性において 96.7%と多くなっている。

年代別では、年代が下がるごとに「非常に当てはまる」がおおむね多くなっている。

7 健康食品は医薬品とは違うので、薬と同じように使用すると病気の治癒が遅れたり症状が悪化したりすることがあるため病気の治療目的で利用しないこと

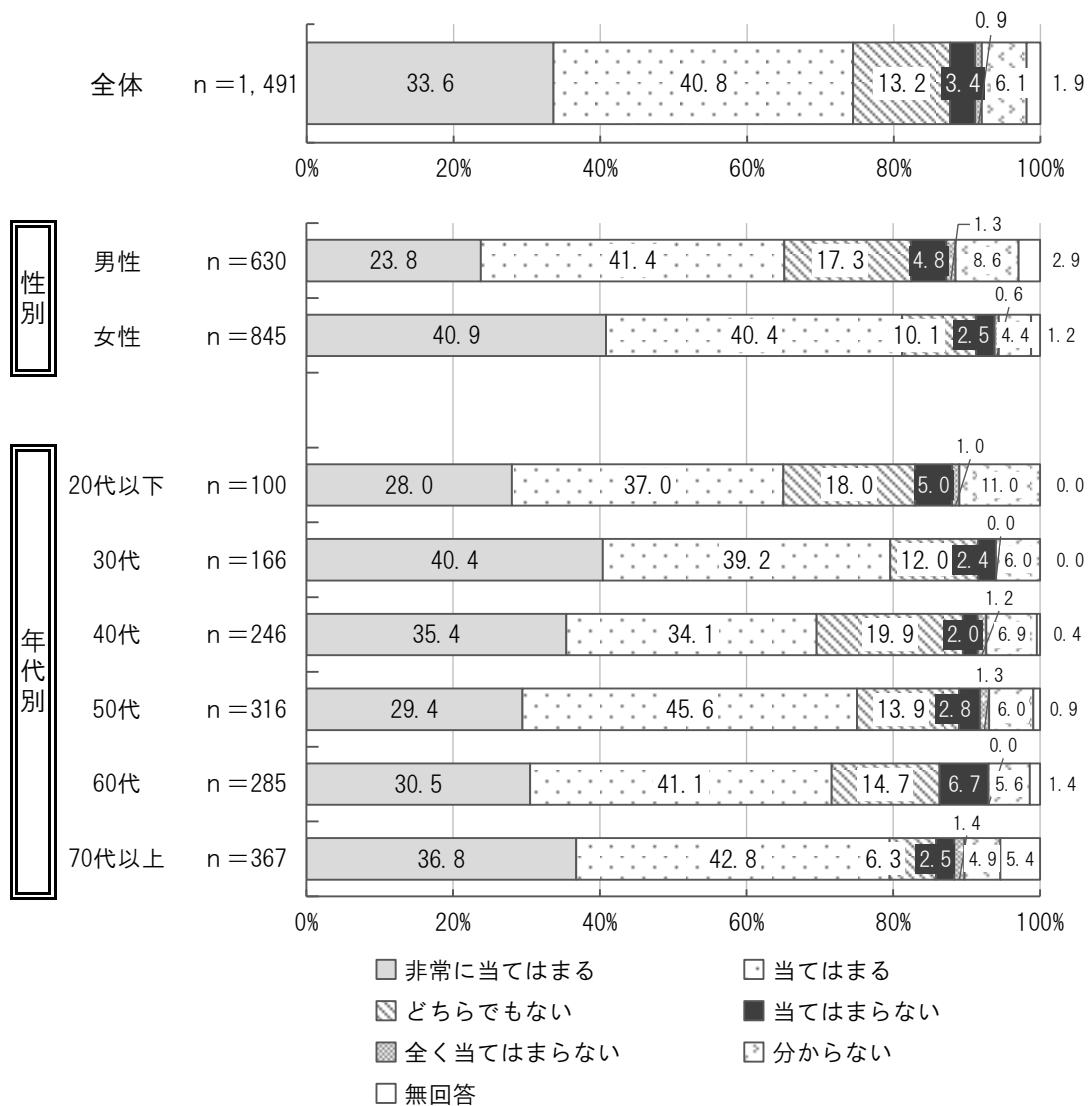


「健康食品は医薬品とは違うので、薬と同じように使用すると病気の治癒が遅れたり症状が悪化したりすることがあるため病気の治療目的で利用しないこと」については、『当てはまる』が73.2%、『当てはまらない』が4.0%となっている。

性別で見ると、男性において「どちらでもない」が18.7%と女性より多くなっている。女性においては「非常に当てはまる」が42.1%と男性より多くなっている。また、『当てはまる』は女性において78.8%と多くなっている。

年代別では、大きな差異は見られない。

8 健康食品は病者、小児、妊産婦、高齢者などでは健康被害を起こしやすいため、利用に当たっては注意が必要であること



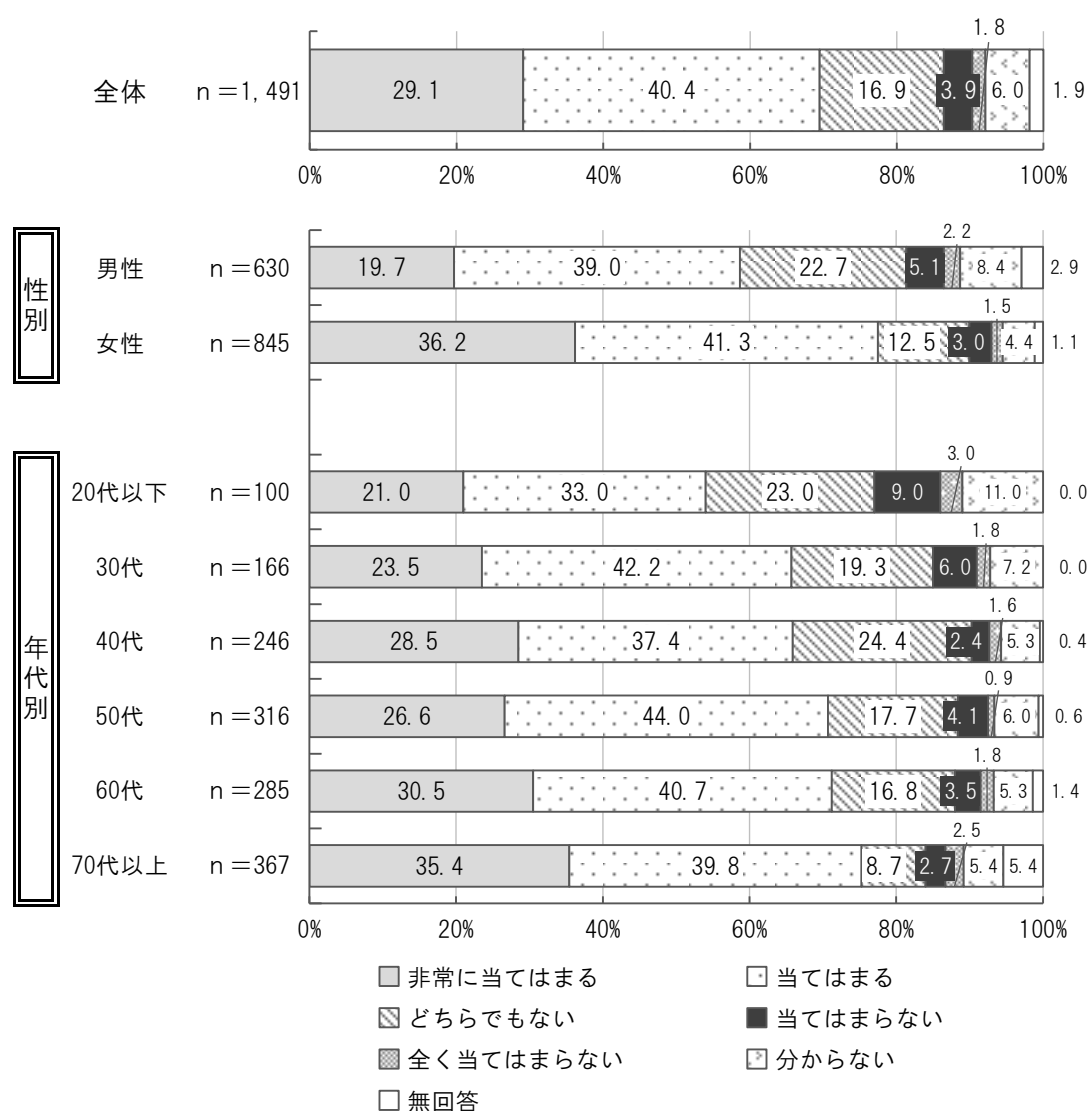
「健康食品は病者、小児、妊産婦、高齢者などでは健康被害を起こしやすいため、利用に当たっては注意が必要であること」については、『当てはまる』が74.4%、『当てはまらない』が4.3%となっている。

性別で見ると、男性において「どちらでもない」が17.3%と女性より多くなっている。女性においては「非常に当てはまる」が40.9%と男性より多くなっている。また、『当てはまる』は女性において81.3%と多くなっている。

年代別では、70代以上において「どちらでもない」が6.3%とほかの年代と比べて少なくなっている。



9 健康食品を選ぶ場合は、成分名、含有量、使用上の注意、問い合わせ先、品質保証に関するマークなど表示されている内容をよく読んで、自分に必要かどうか検討してから購入すること



「健康食品を選ぶ場合は、成分名、含有量、使用上の注意、問い合わせ先、品質保証に関するマークなど表示されている内容をよく読んで、自分に必要かどうか検討してから購入すること」については、『当てはまる』が69.5%、『当てはまらない』が5.7%となっている。

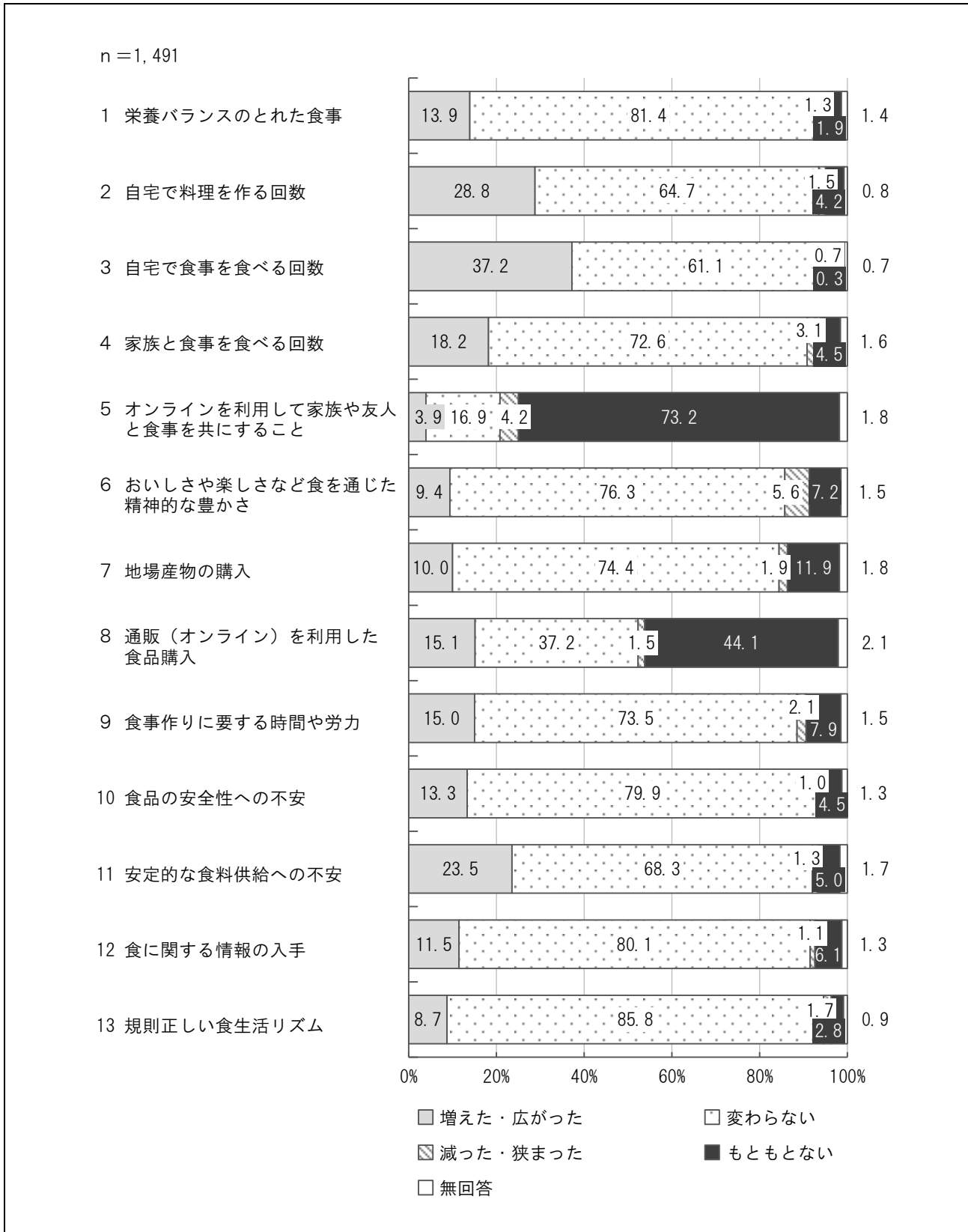
性別で見ると、男性において「どちらでもない」が22.7%と女性より多くなっている。女性においては「非常に当てはまる」が36.2%と男性より多くなっている。また、『当てはまる』は女性において77.5%と多くなっている。

年代別では、70代以上において「どちらでもない」が8.7%とほかの年代と比べて少なくなっている。また、『当てはまる』は20代以下において54.0%と少なく、年代が上がるごとに多くなっている。

新型コロナウイルス感染症と食生活について

(22) 新型コロナウイルス感染症拡大後の食生活の変化状況

問41 あなたご自身の現在の食生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大前に比べて変わりましたか。1～13のそれぞれについて、当てはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。



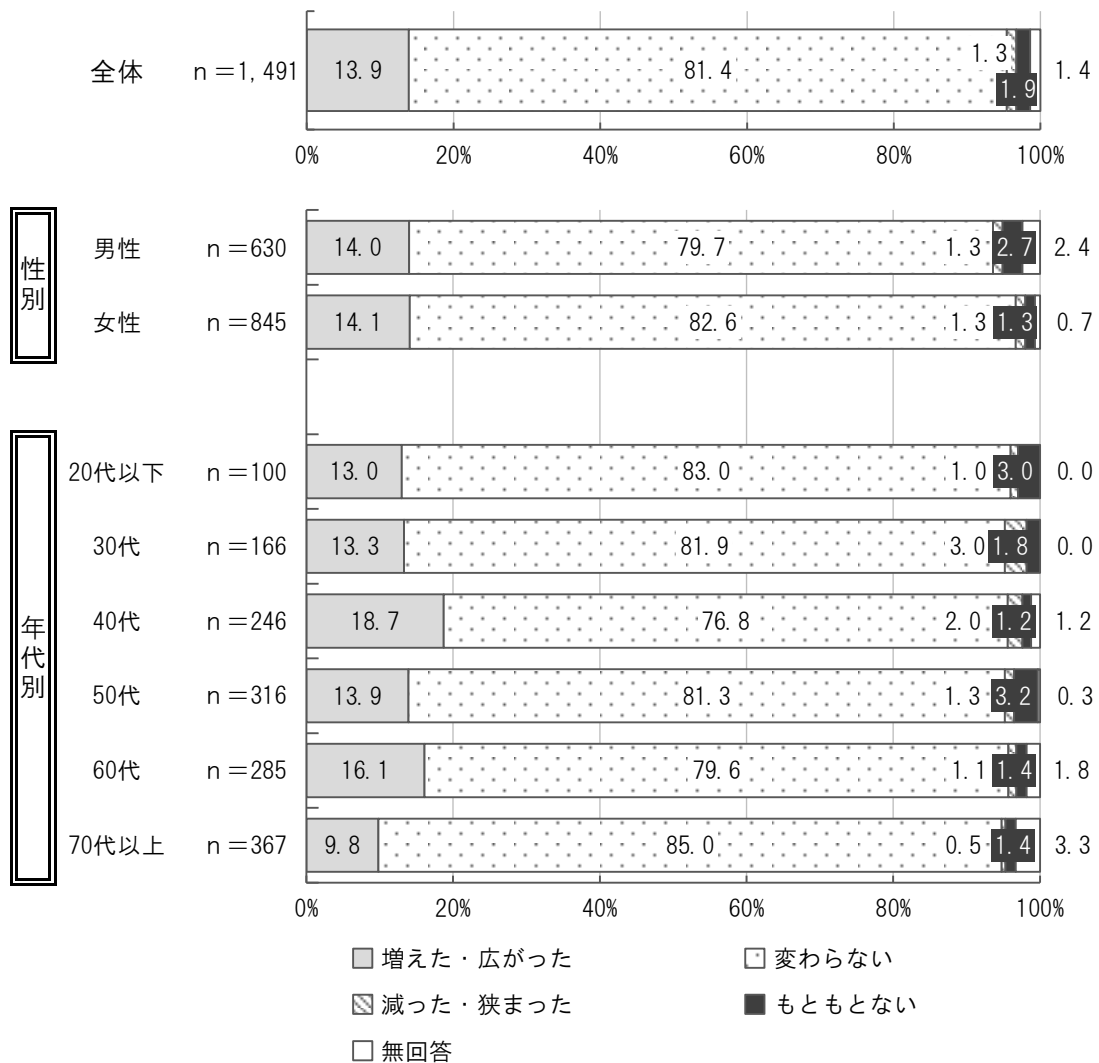
新型コロナウイルス感染症拡大後の食生活の変化状況において、「増えた・広がった」が多い項目は、「3 自宅で食事を食べる回数」(37.2%)、「2 自宅で料理を作る回数」(28.8%)、「11 安定的な食料供給への不安」(23.5%)の順になっている。

また、「変わらない」が多い項目は、「13 規則正しい食生活リズム」(85.8%)、「1 栄養バランスのとれた食事」(81.4%)、「12 食に関する情報の入手」(80.1%)の順になっている。

「減った・狭まった」が多い項目は、「6 おいしさや楽しさなど食を通じた精神的な豊かさ」(5.6%)、「5 オンラインを利用して家族や友人と食事を共にすること」(4.2%)、「4 家族と食事を食べる回数」(3.1%)の順になっている。

一方、「もともとない」が多い項目は、「5 オンラインを利用して家族や友人と食事を共にすること」(73.2%)、「8 通販(オンライン)を利用した食品購入」(44.1%)、「7 地場産物の購入」(11.9%)の順になっている。

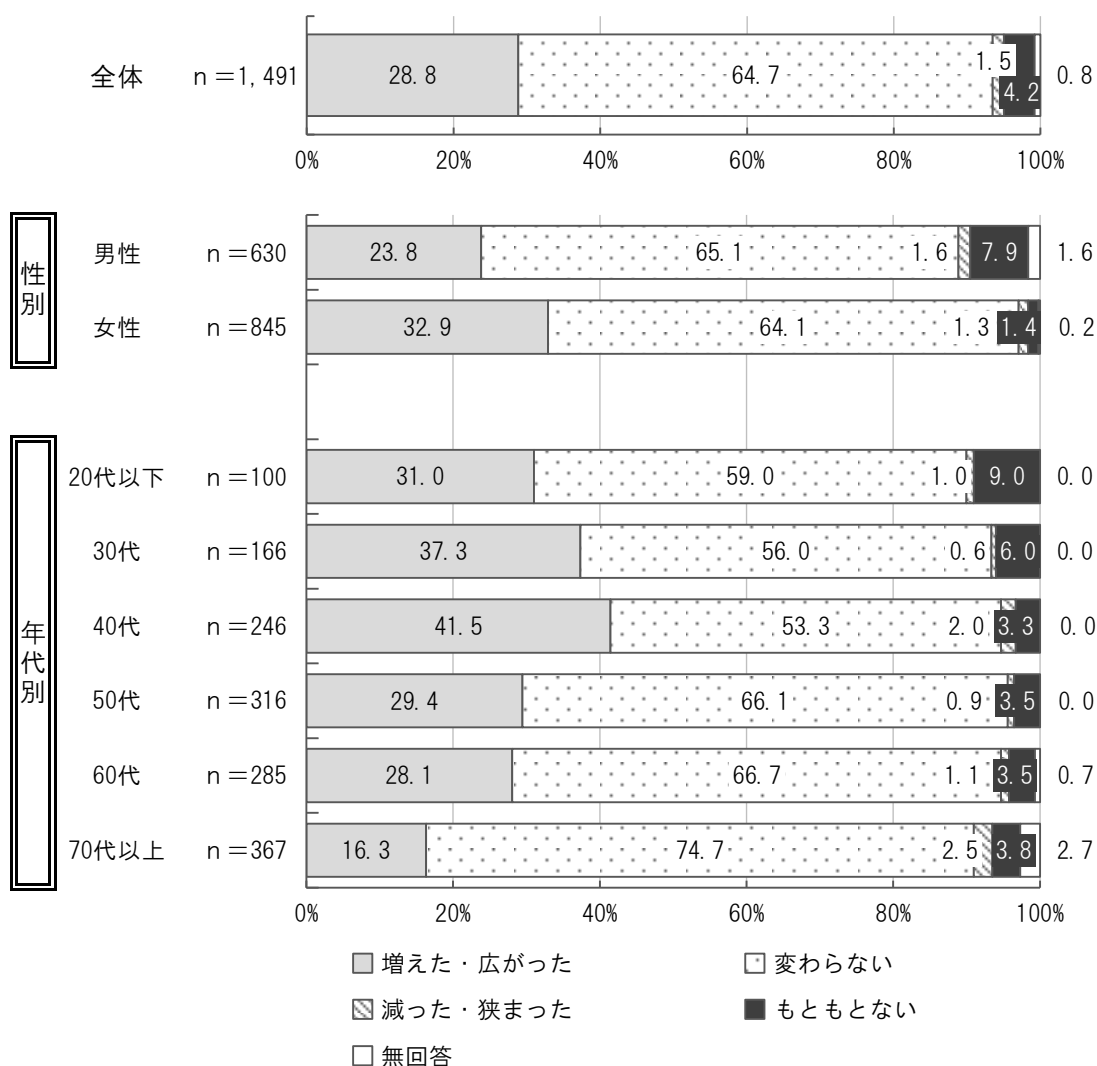
1 栄養バランスのとれた食事



「栄養バランスのとれた食事」は、「変わらない」が 81.4%と最も多く、次いで「増えた・広がった」が 13.9%、「もともとない」が 1.9%となっている。

性別及び年代別で見ると、大きな差異は見られない。

## 2 自宅で料理を作る回数

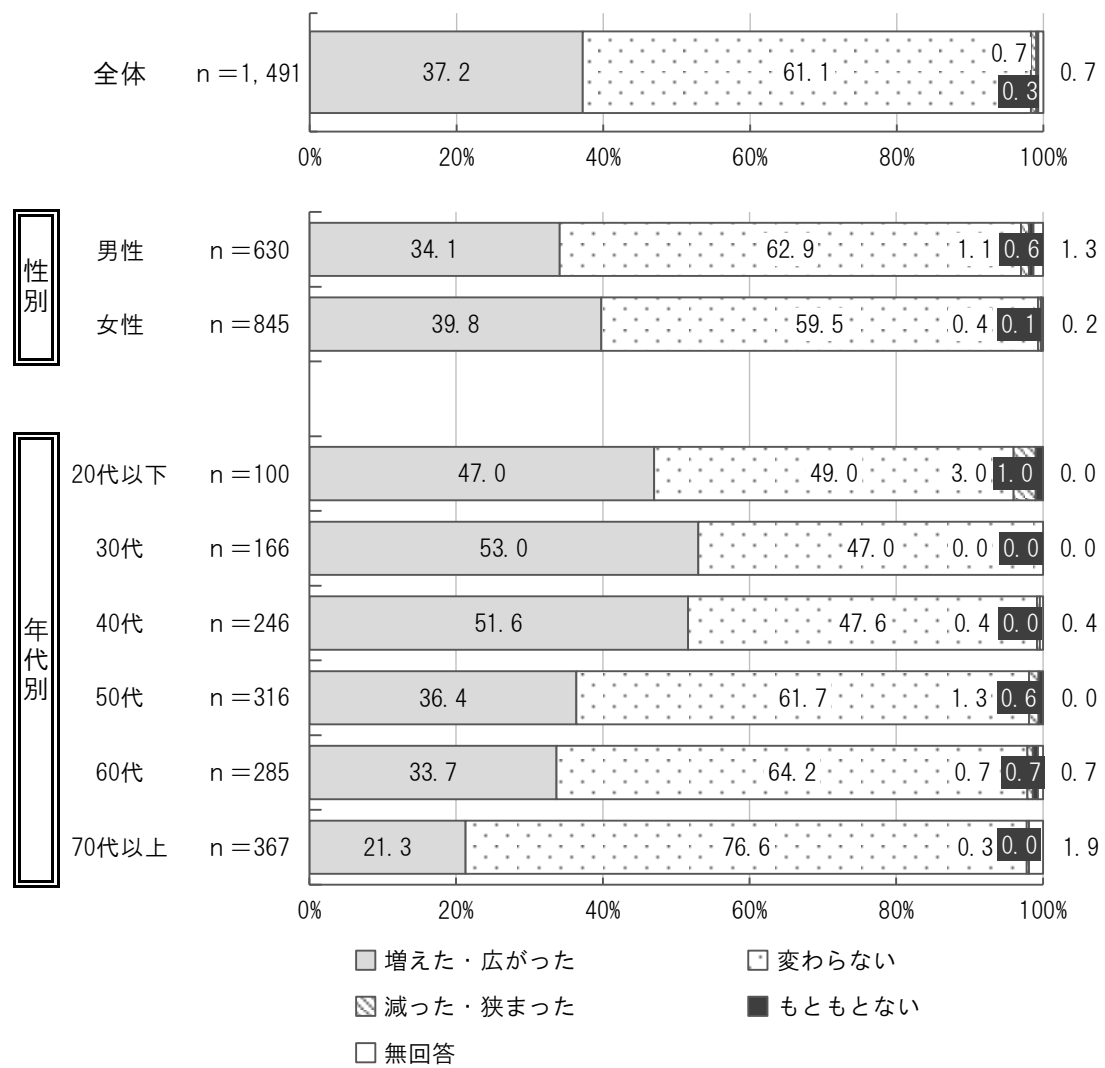


「自宅で料理を作る回数」は、「変わらない」が64.7%と最も多く、次いで「増えた・広がった」が28.8%、「もともとない」が4.2%となっている。

性別で見ると、男性において「もともとない」が7.9%と女性より多くなっている。女性においては「増えた・広がった」が32.9%と男性より多くなっている。

年代別では、70代以上において「変わらない」が74.7%とほかの年代と比べて多く、「増えた・広がった」が16.3%と少なくなっている。

### 3 自宅で食事を食べる回数

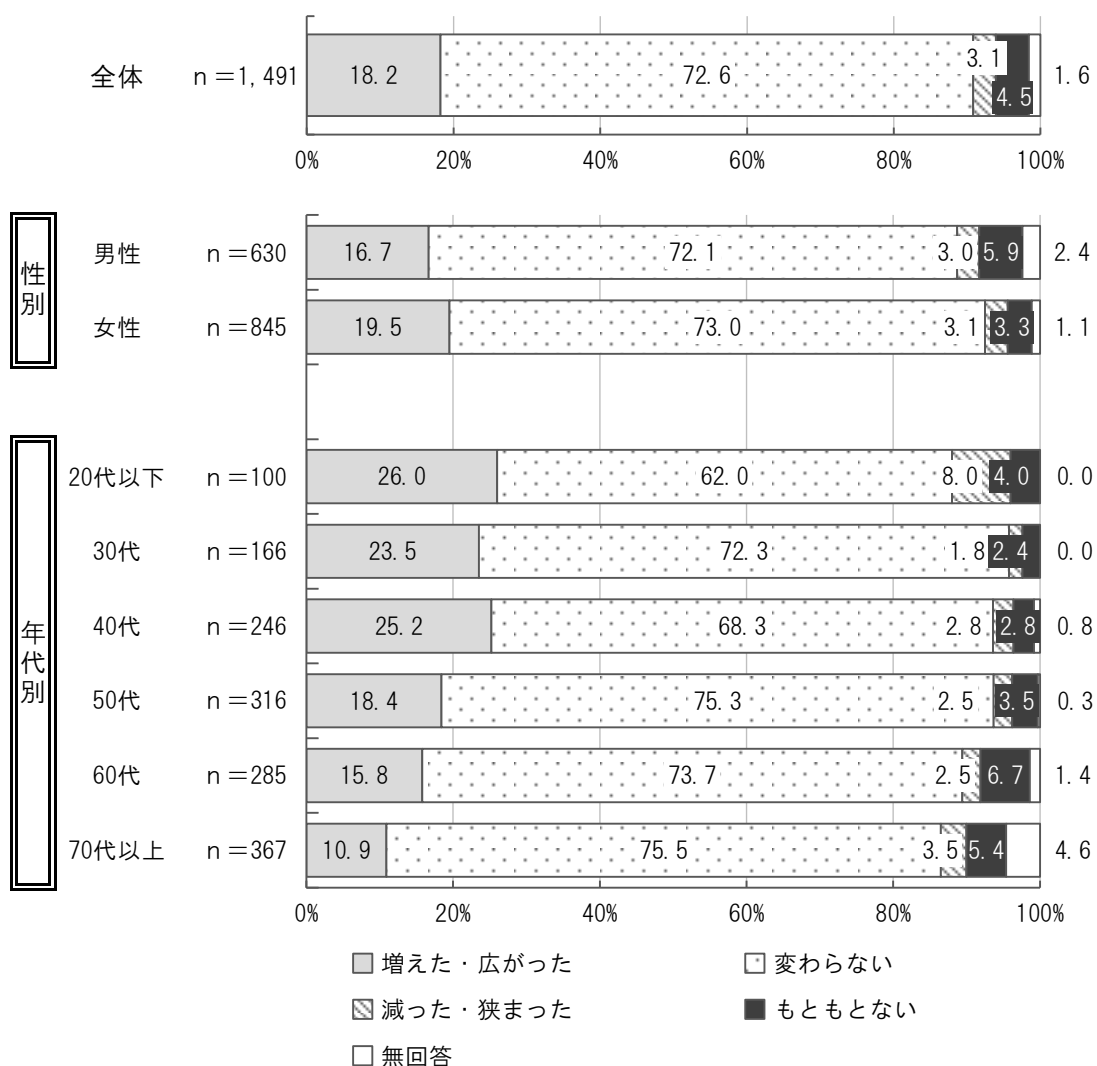


「自宅で食事を食べる回数」は、「変わらない」が 61.1%と最も多く、次いで「増えた・広がった」が 37.2%、「減った・狭まった」が 0.7%となっている。

性別で見ると、女性において「増えた・広がった」が 39.8%と男性より多くなっている。

年代別では、30代と40代において「増えた・広がった」が多く、半数を超えている。70代以上においては「変わらない」が 76.6%とほかの年代と比べて多く、「増えた・広がった」が 21.3%と少なくなっている。

## 4 家族と食事を食べる回数

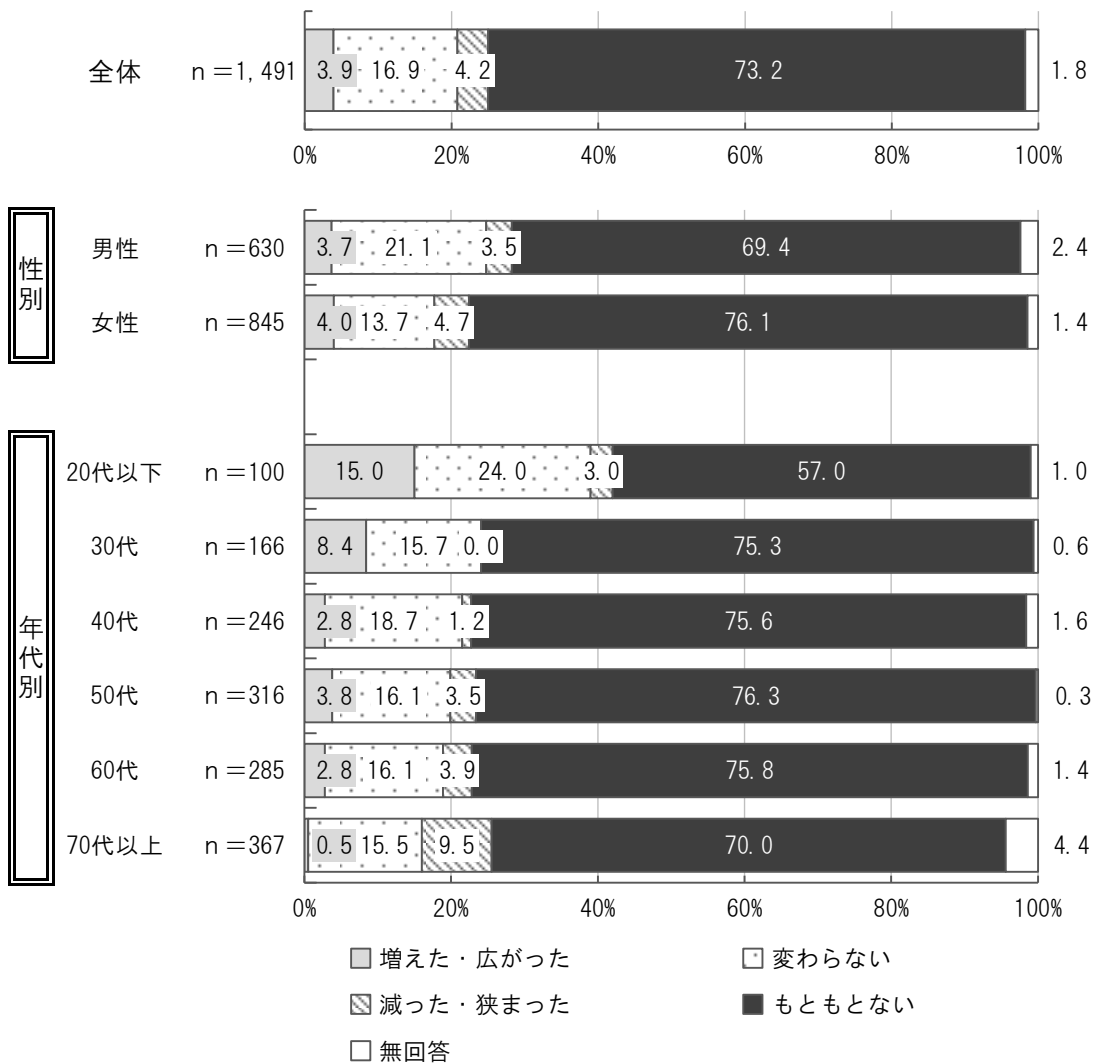


「家族と食事を食べる回数」は、「変わらない」が72.6%と最も多く、次いで「増えた・広がった」が18.2%、「もともとない」が4.5%となっている。

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年代別では、20代以下において「変わらない」が62.0%とほかの年代と比べて少なくなっている。また、年代が下がるごとに「増えた・広がった」がおおむね多くなっている。

5 オンラインを利用して家族や友人と食事を共にすること



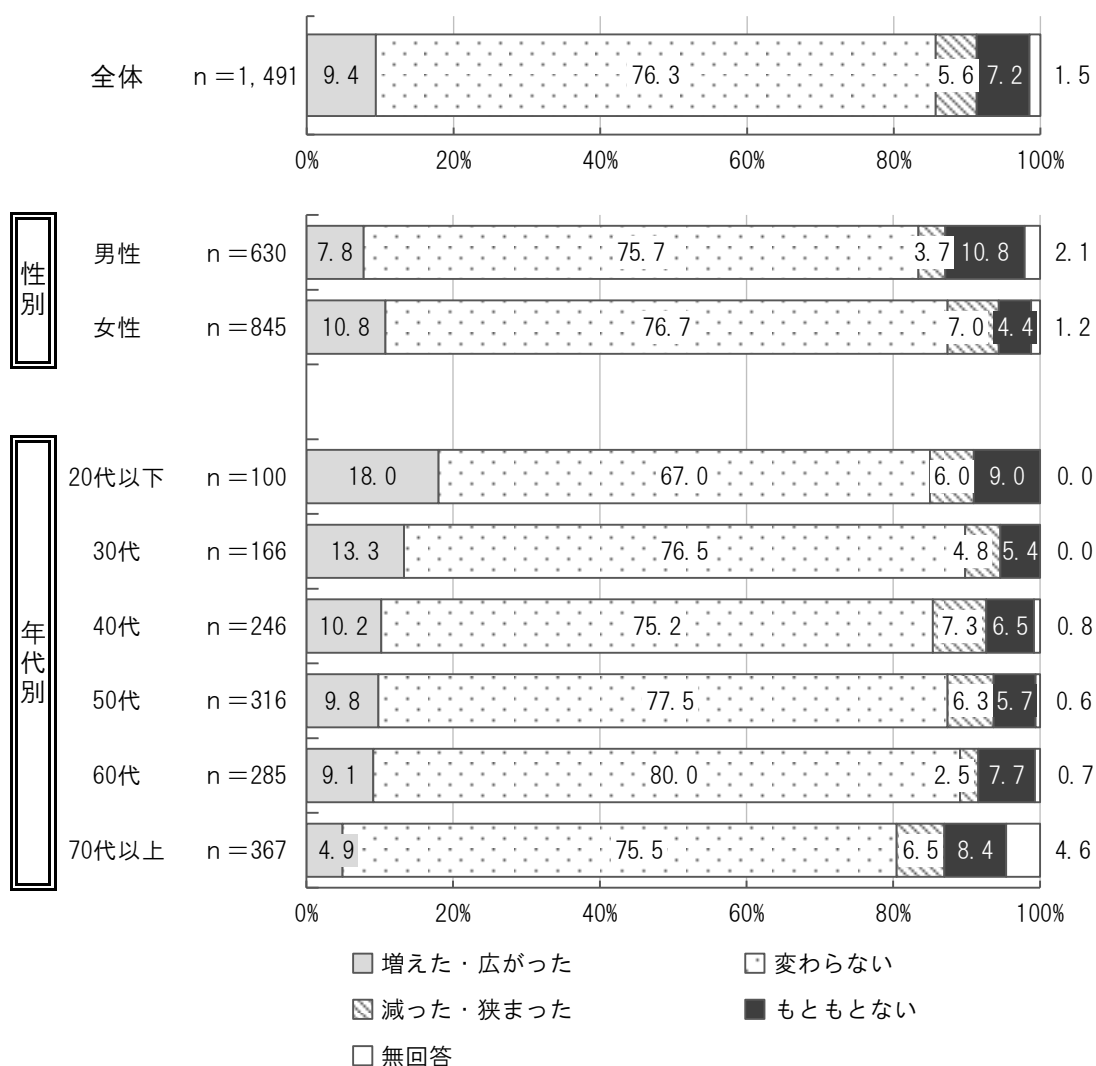
「オンラインを利用して家族や友人と食事を共にすること」は、「もともとない」が 73.2%と最も多く、次いで「変わらない」が 16.9%、「減った・狭まった」が 4.2%となっている。

性別で見ると、男性において「変わらない」が 21.1%と女性より多くなっている。女性においては「もともとない」が 76.1%と男性より多くなっている。

年代別では、20代以下において「増えた・広がった」「変わらない」がほかの年代と比べて多く、「もともとない」が 57.0%と少なくなっている。70代以上においては「減った・狭まった」が 9.5%と多くなっている。また、年代が下がるごとに「増えた・広がった」がおおむね多くなっている。



## 6 おいしさや楽しさなど食を通じた精神的な豊かさ

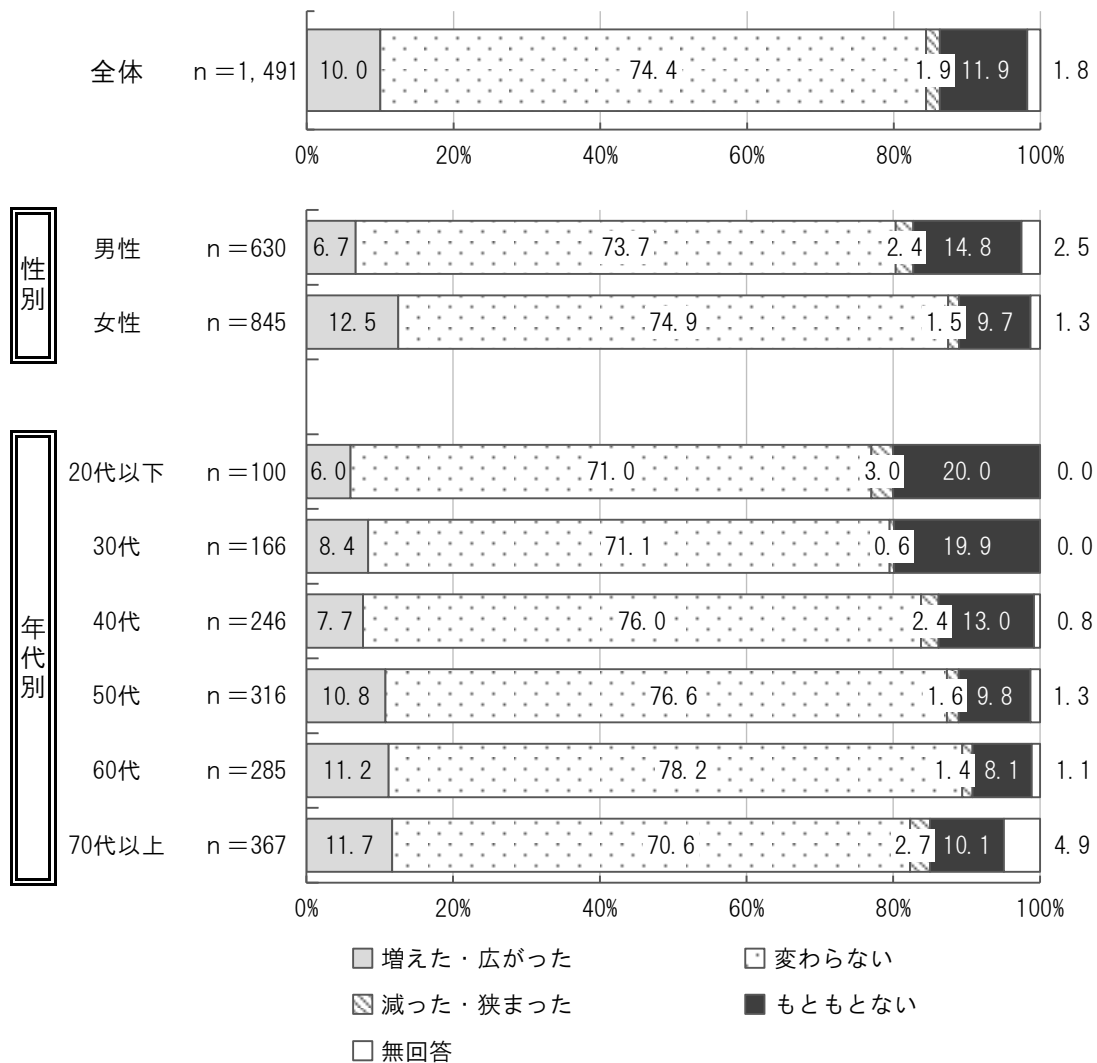


「おいしさや楽しさなど食を通じた精神的な豊かさ」は、「変わらない」が76.3%と最も多く、次いで「増えた・広がった」が9.4%、「もともとない」が7.2%となっている。

性別で見ると、男性において「もともとない」が10.8%と女性より多くなっている。

年代別では、20代以下において「変わらない」が67.0%とほかの年代と比べて少なくなっている。また、年代が下がるごとに「増えた・広がった」が多くなっている。

7 地場産物の購入

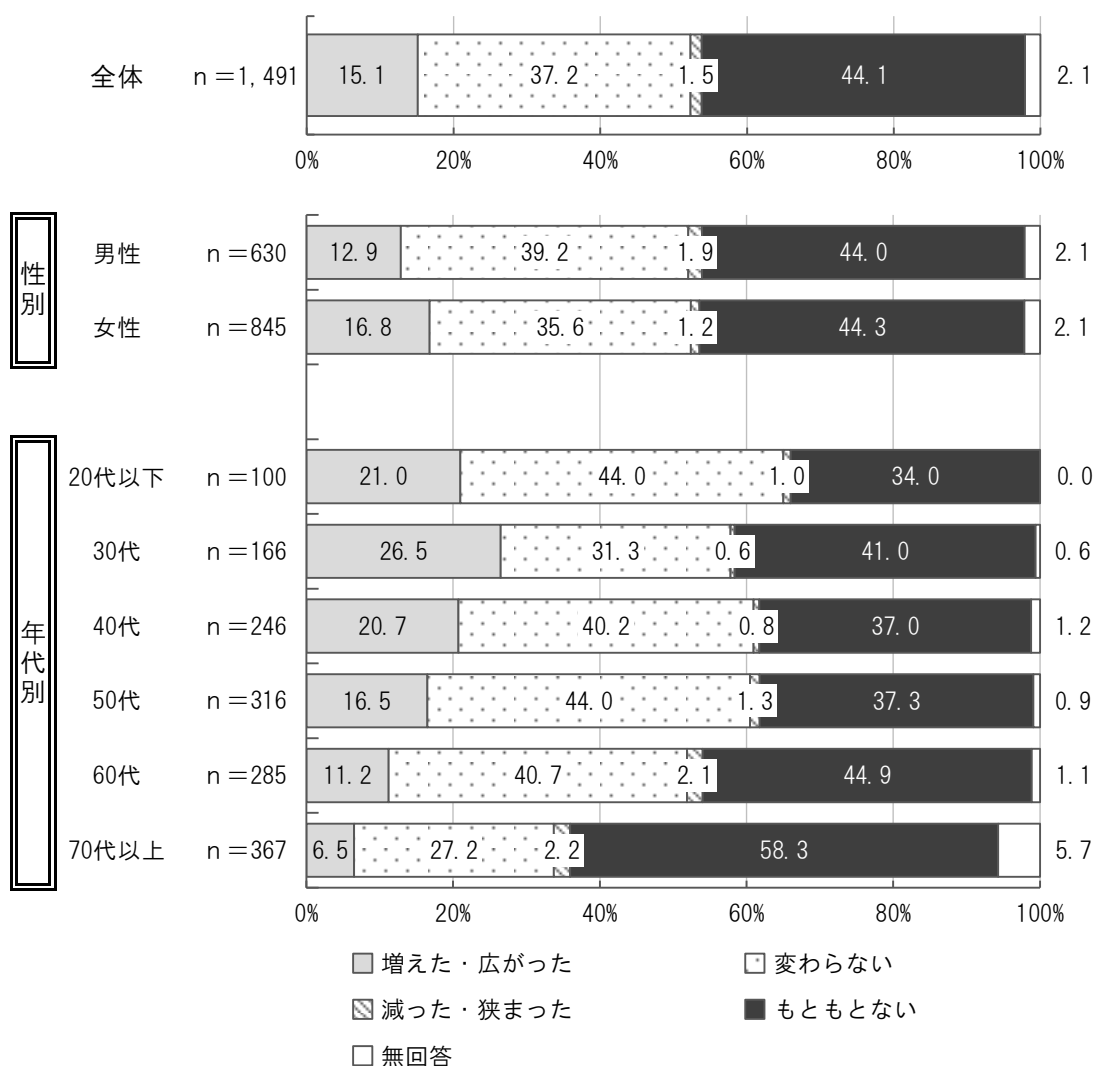


「地場産物の購入」は、「変わらない」が74.4%と最も多く、次いで「もともとない」が11.9%、「増えた・広がった」が10.0%となっている。

性別で見ると、男性において「もともとない」が14.8%と女性より多くなっている。女性においては「増えた・広がった」が12.5%と男性より多くなっている。

年代別では、年代が上がるごとに「増えた・広がった」が、年代が下がるごとに「もともとない」がおおむね多くなっている。

## 8 通販（オンライン）を利用した食品購入

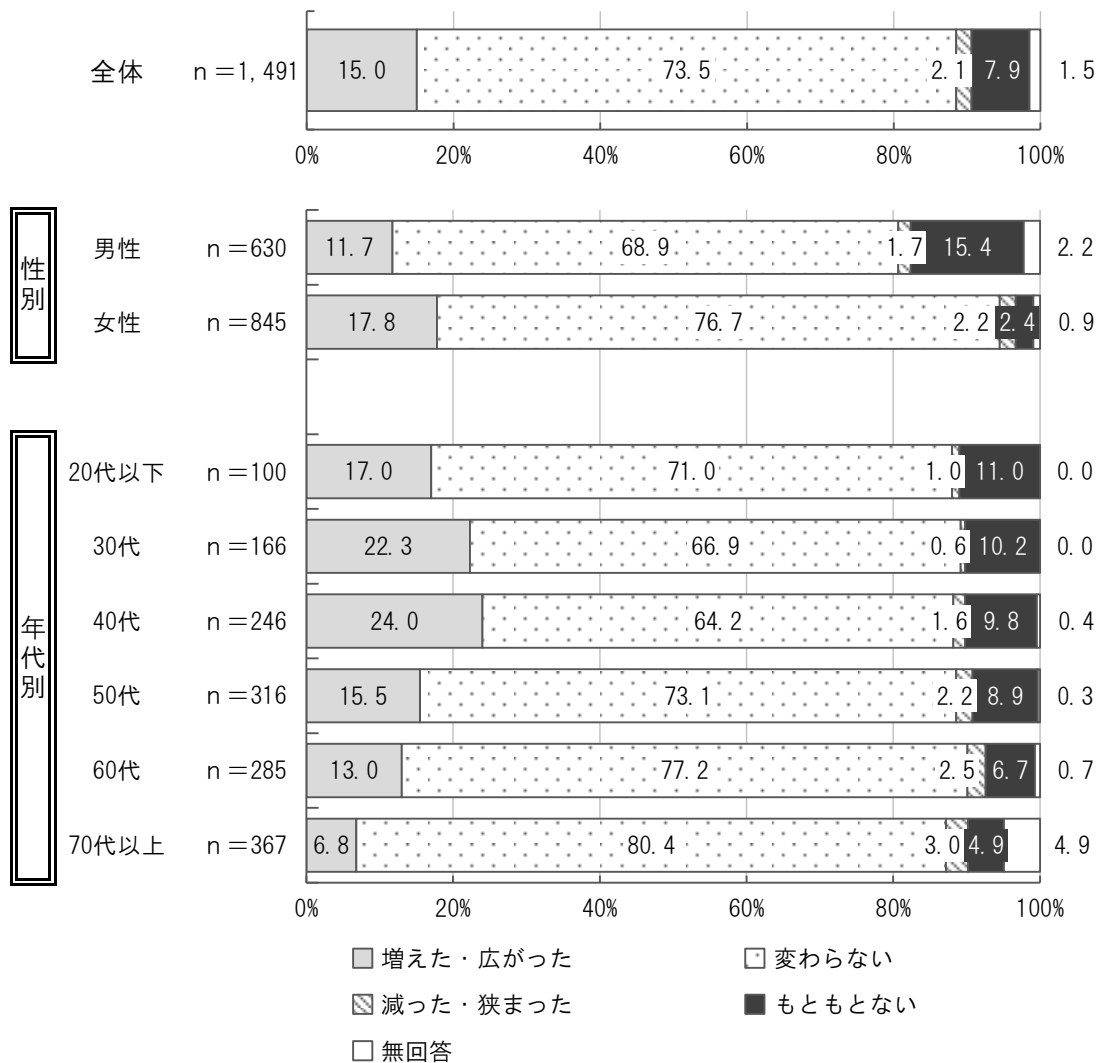


「通販（オンライン）を利用した食品購入」は、「もともとない」が44.1%と最も多く、次いで「変わらない」が37.2%、「増えた・広がった」が15.1%となっている。

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年代別では、30代において「増えた・広がった」が26.5%とほかの年代と比べて多くなっている。70代以上においては「もともとない」が58.3%と多く、6割近くとなっている。

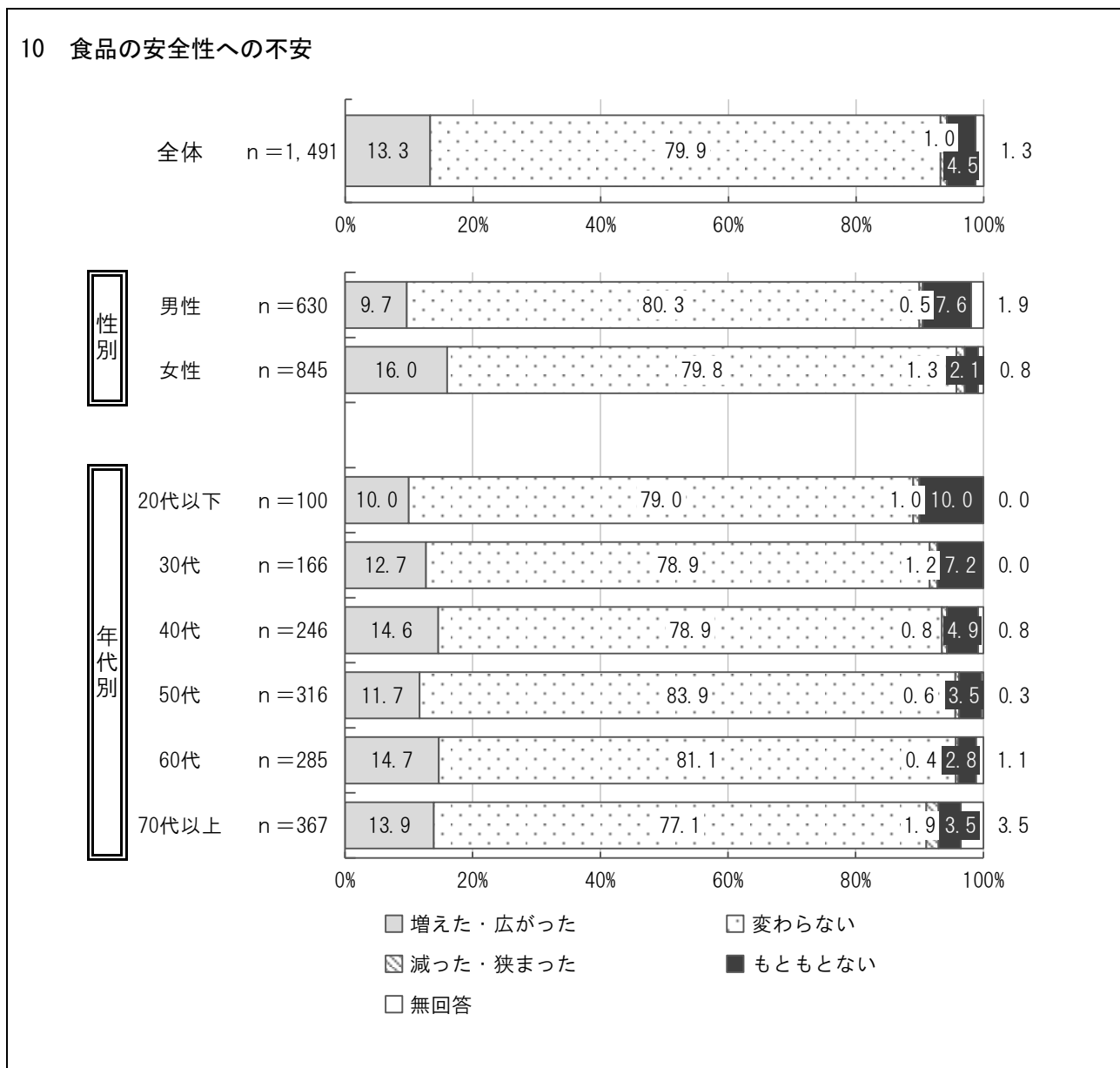
9 食事作りに要する時間や労力



「食事作りに要する時間や労力」は、「変わらない」が 73.5%と最も多く、次いで「増えた・広がった」が 15.0%、「もともとない」が 7.9%となっている。

性別で見ると、男性において「もともとない」が 15.4%と女性より多くなっている。女性においては「増えた・広がった」「変わらない」が男性より多くなっている。

年代別では、30代と40代において「増えた・広がった」が多く、2割を超えている。70代以上においては「増えた・広がった」が 6.8%とほかの年代と比べて少なくなっている。

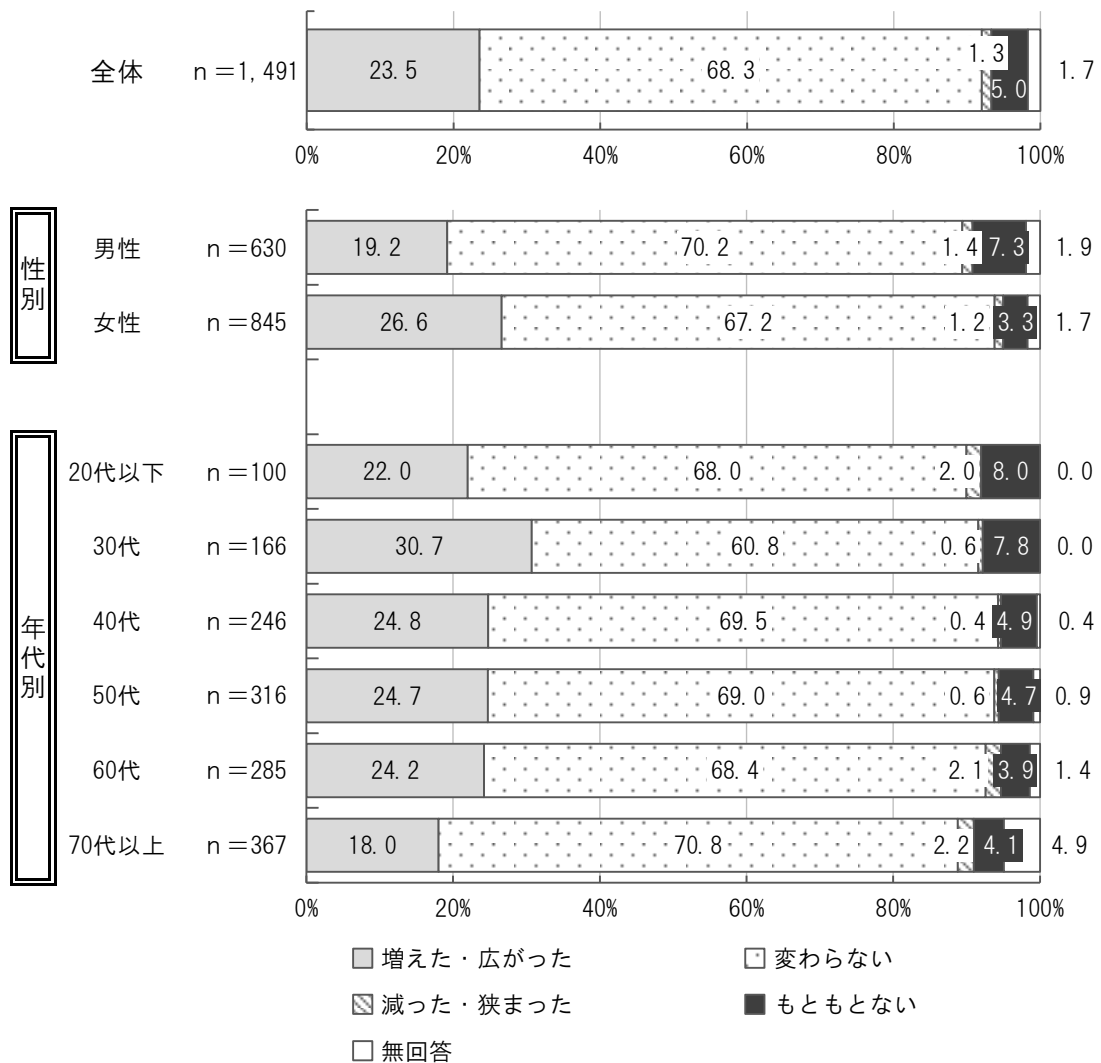


「食品の安全性への不安」は、「変わらない」が79.9%と最も多く、次いで「増えた・広がった」が13.3%、「もともとない」が4.5%となっている。

性別で見ると、男性において「もともとない」が7.6%と女性より多くなっている。女性においては「増えた・広がった」が16.0%と男性より多くなっている。

年代別では、大きな差異は見られない。

### 11 安定的な食料供給への不安

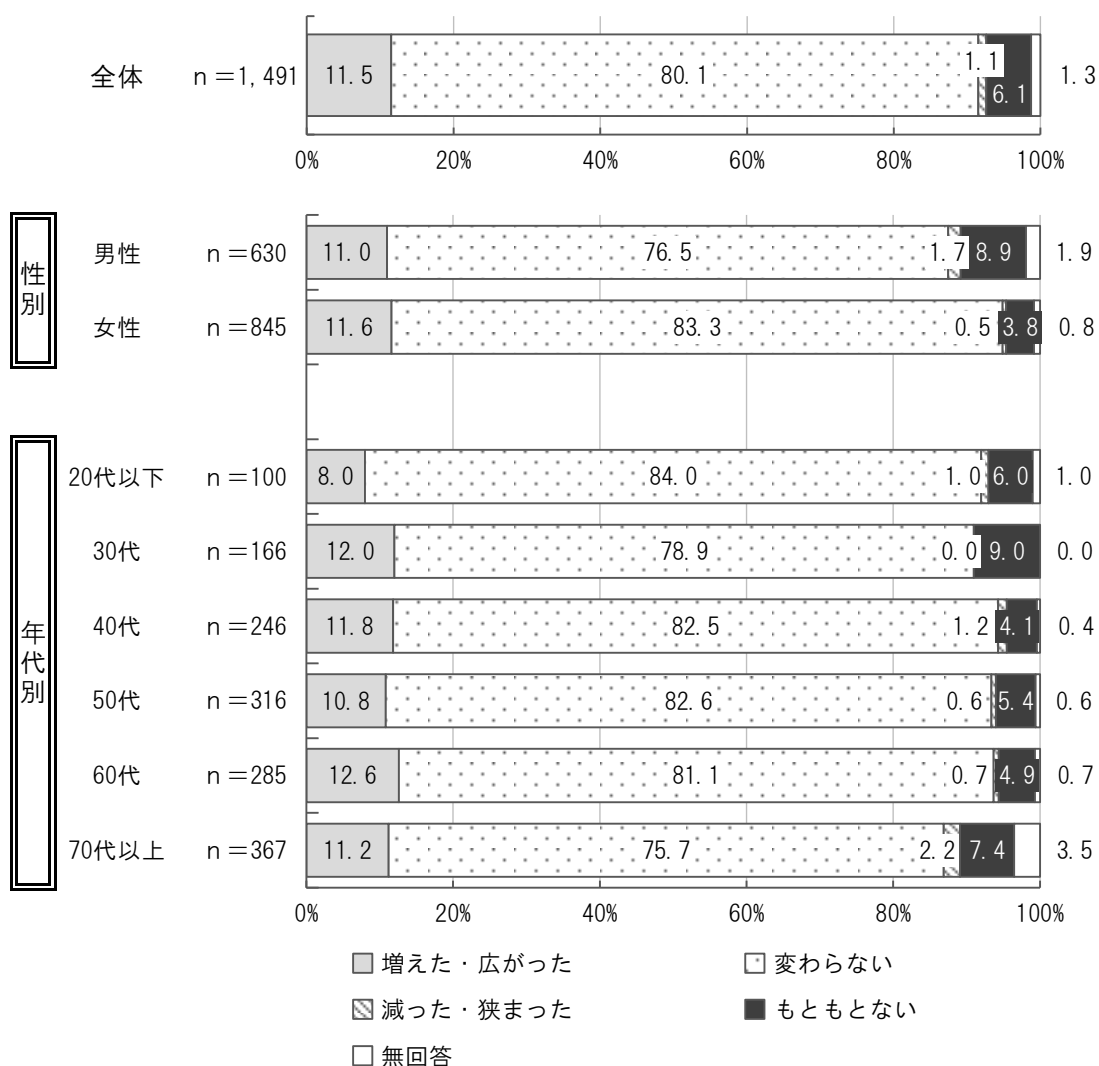


「安定的な食料供給への不安」は、「変わらない」が 68.3%と最も多く、次いで「増えた・広がった」が 23.5%、「もともとない」が 5.0%となっている。

性別で見ると、女性において「増えた・広がった」が 26.6%と男性より多くなっている。

年代別では、30代において「増えた・広がった」が 30.7%とほかの年代と比べて多く、3割を超えている。

## 12 食に関する情報の入手

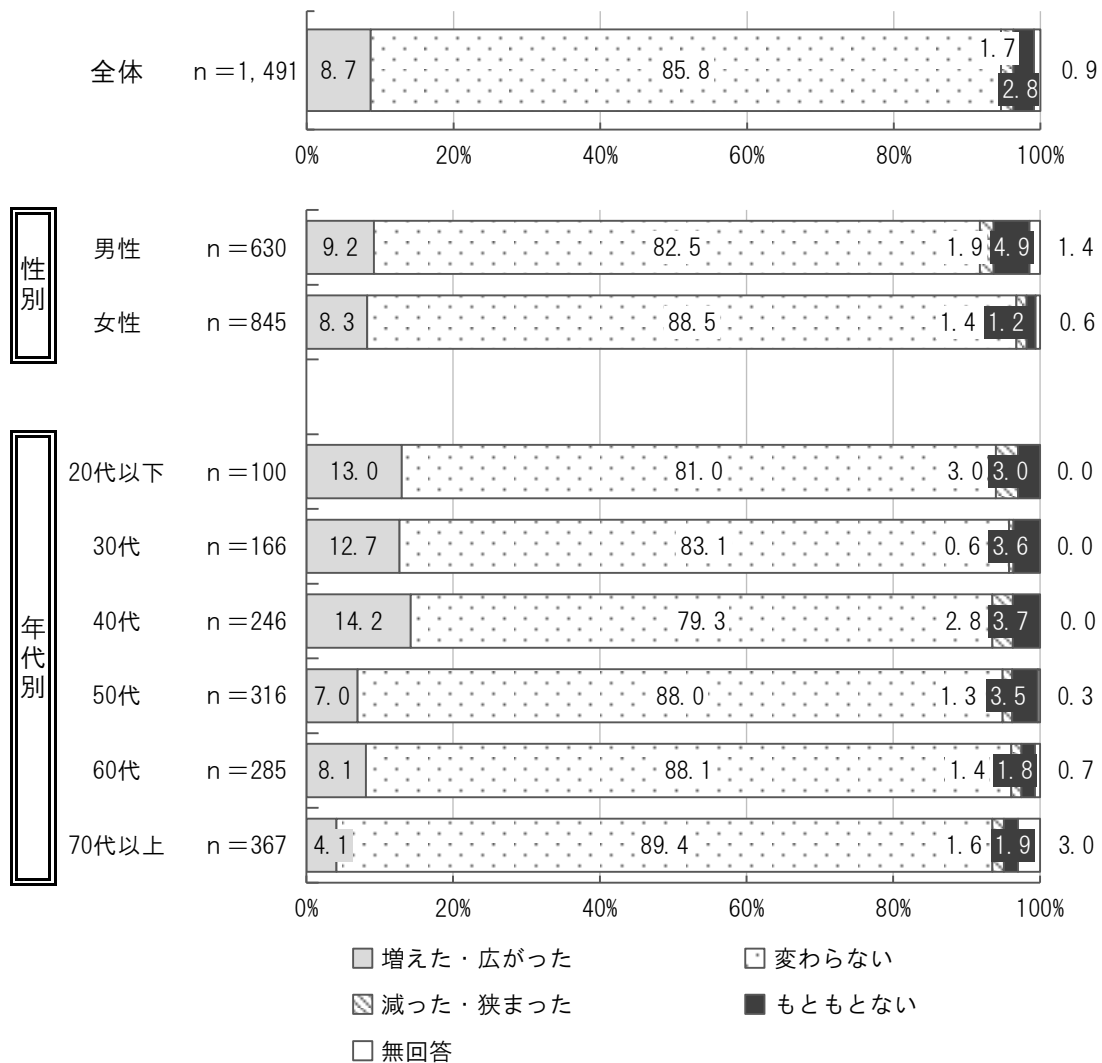


「食に関する情報の入手」は、「変わらない」が80.1%と最も多く、次いで「増えた・広がった」が11.5%、「もともとない」が6.1%となっている。

性別で見ると、男性において「もともとない」が8.9%と女性より多くなっている。女性においては「変わらない」が83.3%と男性より多くなっている。

年代別では、大きな差異は見られない。

### 13 規則正しい食生活リズム



「規則正しい食生活リズム」は、「変わらない」が 85.8%と最も多く、次いで「増えた・広がった」が 8.7%、「もともとない」が 2.8%となっている。

性別で見ると、女性において「変わらない」が 88.5%と男性より多くなっている。

年代別では、大きな差異は見られない。